

# 事項一五 露蒙協約關係一件

附 蒙 藏 条 約 關 係

三一九 一月七日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
桂兼任外務大臣宛

露支關係ニ関スル露国政府機關紙「ロシヤ」

ノ論說抄訳報告ノ件

公第三号

(二月二十七日接受)

大正二年一月七日

在露臨時代理大使 田 付 七 太(印)

外務大臣公爵 桂太郎殿

露支關係ニ関シ露国政府機關新聞「ロシヤ」カ本年一月六日ノ紙上ニ論述スル所ハ蒙古問題ニ対スル露支交渉ノ一般ヲ知ルニ足ルヘクト存セラレ候ニ付左記ノ通抄訳及報告候

敬具

近時ニ於ケル支那諸新聞紙ノ露国ニ対スル論調ヲ見ルニ露国ノ對蒙政策ヲ目シテ露国ハ支那共和国ノ内政ニ干渉スルモノナリトシテ論難頗ル囂々タリ露国タルモノ此ノ当ラザルノ非難ニ對シ豈一言ノ弁解ナカルベケムヤ

ト強ヒムトハ

新通商条約締結談判ハ荏苒何等ノ決著ヲ見ルコトナク露国政府ハ遂ニ旧条約ノ効力ヲ十年間延期スヘキコトヲ宣言スルノ已ムナキニ至レリ茲ニ於テカ支那民論ハ新ニ喧囂ヲ極メタリ而シテ支那及蒙古ニ於ケル其ノ後ノ出来事ハ遂ニ蒙古問題ヲ惹起シ該問題ノ解決ハ露国政府ノ無頓著ナル能ハザル所ナリ

露国カ蒙古ノ自治ヲ承認シタル件ニ関シテハ其ノ發議カ蒙古側ヨリ出デタルコトヲ注意スルヲ要ス蒙古諸王ハ蒙古ト善隣ノ關係ヲ有スル露国ニ保護ヲ依頼シ来レリ露国ハ蒙古ノ政治的及行政的自治ノ原則ニ基キ宣言シタル独立ヲ既成事實ト認ムヘキ旨ヲ答ヘタリ因テ支那政府ハ蒙古問題ニ関スル露国ノ外交手段ヲ批難スルノ理由ヲ有セス加之露国政府ハ蒙古ノ自治承認ト同時ニ本問題ニ関シ北京政府ト談判ヲ開始スルコトニ同意スヘシトノ声明ヲ為シタリ  
吾人ハ支那当局及其ノ御用新聞カ極東ニ於テ平和主義ヲ執ル露国ト親交關係ヲ維持スルハ結局支那ノ利益タルヘキコトヲ了解スルニ至ラムコトヲ期待スルモノナリ

清国擾乱ノ勃發以來露国ハ内乱不干渉ノ主義ヲ確守シ列国ト共ニ徐ニ大勢ノ推移ヲ傍觀シタリ若シ夫レ蒙古問題ニ関シ露国ノ執リタル措置ニ至リテハ自ら理由ナクムハアラス清帝国内存在ヲ失ハサリシ時ニ於テスラ蒙古事件ハ支那内政事件ニ非サリキ蒙古殊ニ外蒙古ハ政治上及經濟上夙ニ獨立ノ存在ヲ有シタルモ只滿朝トノ關係上支那ノ他ノ部分ト結合シタリ故ニ滿朝ノ滅亡ト共ニ此ノ結合關係モ亦断絶シタルモノト為ササルヘカラス

右結合關係ノ現存シタル間支那官憲カ從來蒙古地方ニ於ケル露国ノ經濟上ノ利益ヲ無視スルノ態度ニ出デタルニ拘ラス露国ハ何等蒙古ニ於ケル支那ノ主權ヲ害スルノ措置ヲ執リタルコトナカリキ蒙古ニ於ケル露国臣民ノ自由商業權ヲ保障スル一八八一年ノ露清条約改訂談判ノ成行ハ之ヲ証シテ余リアリ革命ノ勃發ニ至ルマテ露国政府ハ支那人ニ不利益ナル該条約改訂ニ同意ヲ表シ居タリ  
然ルニ何ソ図ラム支那諸新聞カ露国ニ蒙古併合ノ野心アリ

三三〇 一月二十一日

在中国伊集院公使ヨリ  
桂兼任外務大臣宛(電報)

露蒙問題ノ成行ニ関スル袁世凱及趙秉鈞ノ談

話並露国提議及中国對案ノ大要報告ノ件

第六八号

本官一月十八日袁世凱訪問ノ際露蒙問題ノ成行ヲ尋ネタルニ袁ハ根本主義一致セサル為容易ニ解決ノ運ニ至ラス殊ニ蒙古ニ對スル中国ノ領土權ヲ確認セシムル一段ニ至リテハ露国ノ言分曖昧ニシテ頗ル困難ヲ感シツ、アリ  
但シ支那ハ飽迄和平ノ態度ヲ以テ之ニ當リ決シテ決裂ヲ来スカ如キコトハ為サ、ル方針ナリト語ラレタルニ付一月十九日更ニ詳細ノ成行ヲ突止メシムル為高尾ヲ趙秉鈞ノ許ニ遣ハシタルニ趙モ前同様ノ事ヲ語リタル後最近ノ成行ハ一週間前ニ露国側ヨリ再度提議アリタルニ對シ支那ヨリ對案ヲ露国公使ニ交付シタル儘トナリ居レリト云ヘルニ付高尾ハ右露国提議ト共ニ支那ノ對案ヲ内示セラレタシト求メタル結果一月二十日趙ヨリ双方ノ覺書ノ内容ハ大要左ノ意味ナリト内報シ来レリ

露国提議

(一) 露国ハ蒙古ガ中国ト連結スル關係上ヨリ生スル權利ヲ承認スヘシ(原文要領ヲ得ス)

(二) 中国ハ外蒙古ガ従来有スル所ノ国家行政制度竝蒙古人ガ其領域内ニ在リテ有スル治安防禦ノ責任及軍備警察組織権ヲ承諾スヘク且蒙古人ニ非サレハ領域内ニ殖民セサル旨ヲモ認ムヘシ

(三) 露国ハ領事館衛兵以外ハ予メ中国ニ知照セス派兵セサルコト及殖民ヲ行ヒ特別ノ制度ヲ設ケテ露国ヲ代表セシムルノ措置ヲ執ラサルコトヲ承諾ス

(四) 中国ハ外蒙古ニ於ケル政權実施ニ関シテハ和平弁法ヲ用キル旨ヲ希望シ且露国ノ調停ヲ願フ旨ヲ声明スヘシ

(五) 今後蒙古ガ露国ト政治ニ関シ又ハ國際行為ニ付協定ヲ為ス場合モ中国ノ認可ヲ受ケサルモノハ無効トス但シ通商問題ニ付テハ外蒙古ノ自由トス

支那政府ノ対案

(一) 露国ハ蒙古ガ中国ノ完全ナル領土ノ一部分タルコトヲ承認スヘシ

(二) 中国ハ外蒙古ガ従来有スル所ノ地方自治制度ヲ変更セサルコト竝蒙古人ニ非サレハ境内ニ殖民セサルコトヲ承認

三二一 一月二十一日 在英國小池臨時代理大使ヨリ 桂兼任外務大臣宛

西藏ヲ英露共同保護ノ下ニ置クトノ新聞報道

ニ関スル英國下院ニ於ケル質問答報告ノ件

公第一四号

(二月十日接受)

大正二年一月二十一日

在英

臨時代理大使 小池 張 造

外務大臣公爵 桂太郎殿

西藏ノ独立庫倫ニ於テ宣言セラレシヤ將又庫倫ニ於テ西藏ノ使節ハ西藏ヲ英露ノ共同保護ノ下ニ置クカ為蒙古政府ト協約ヲ締結シ且露国ト協議スルノ権能ヲ与ヘラレタリトノ声明ヲナセシヤ否ヤニ付一月二十日英國下院ニ於テ一議員ヨリ質問シタルニ対シ外務次官「アクランド」氏ハ本員ハ新聞紙上ニ右ノ記事ヲ見タリ本員ハ何等カノ協約カ庫倫ニ於テ調印セラレタルモノト了解ス西藏ノ使節カ庫倫ニテ如何ナルコトヲ声明シタルヤハ之ヲ知ラスト雖西藏ヲ英露共同保護ノ下ニ置クノ問題ハ英國政府ニ於テ未嘗テ討究及考慮シタルコトナシ

ス

(一) 露国ハ領事館以外ニ派兵竝殖民セサルコト及協約ノ規定以外ニ露国ヲ代表スヘキ特別ノ制度ヲ設ケサルコトヲ承諾ス

(二) 中国ハ外蒙古政權施行ニ関シテハ和平手段ヲ用キルコトヲ希望ス又露国ハ庫倫呼図克圖ノ任意獨立ヲ調停取消サシムヘシ

(三) 若シ外蒙古ガ露国ト商務問題ヲ商定シタルトキハ其取極ハ中国ノ許可ヲ経サレハ無効トス

以上ハ趙秉鈞ニ於テ原文ノ内示ヲ憚リ大要ノミヲ知ラセ越シタル次第ナルヲ以テ要領ヲ得難キ箇所モ鈔カラサレトモ御參考迄ニ電報ス尚右ニ依リ注意スヘキ点ハ従来交渉書類ニハ総テ蒙古ト記シタルガ今回ハ往復共ニ特ニ外蒙古トシテ記シ其範圍ヲ限リタル一事ナリ依之觀之露国ニ於テモ問題ノ範圍ヲ外蒙古ニノミ局限スルコトニ同意シタルモノト思考ス次ニ露国公使ハ一月二十日午後本件ニ付外交部ヲ訪問セル由ナルニ付同公使ヲ訪ヒ模様ヲ尋ネタルニ依然不得要領ニシテ何等進捗ヲ見スト云ヘリ

ト答弁セリ

右記事ヲ掲載セル新聞切抜相添へ此段報告申進候 敬具

註 タイムス紙切抜省略

三二二 一月二十五日 在露国田付臨時代理大使ヨリ 桂兼任外務大臣宛

蒙古使節ノ露都ニ於ケル動靜及使命ニ関スル

件

公第二一号

(二月十二日接受)

大正二年一月二十五日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣公爵 桂太郎殿

今回庫倫政府ヨリ露都ニ派遣セラレタル使節一行ノ行動ニ関シテハ御訓電ノ趣モ有之義ニ付爾来注意ヲ加ヘ居リ候処同使節ハ別記日誌ノ如ク当地滞在中首相及外務、大蔵、商工、陸軍ノ各大臣ト数次ノ会見ヲ遂ケ一月二十三日ツアルスコエ、セロ離宮ニ於テ皇帝ニ謁見シ活仏ノ親書ヲ始メ活仏朝廷ヨリノ贈物ナル蒙古産鞍馬八頭、玉座ニ使用スヘキ大小椅子各一個其他貴重ナル蒙古製品数点ヲ捧呈シ了了テ

式部長官ノ接待ニテ茶菓ノ饗応ヲ受ケ即日当地ニ帰着致候  
当地ノ各新聞ハ蒙古使節ノ来露ニ関シ特ニ著シキ注意ヲ喚  
起シタルノ模様モナク唯タ日々ノ紙上ニ於テ其動靜ヲ記載  
スル位ニ過キス從テ斯ノ方面ヨリハ十分信憑スヘキ情報ヲ  
得ルコト固ヨリ困難ニ候得共兎ニ角此等ニ材料ヲ取り且ツ  
二三探聞スル所ニ拠リ同行ノ使命及重ナル目的ニ就キ左  
ニ記述可致候

正使罕達多爾濟親王ノ談話ナルモノニ拠リ推考スルニ彼ノ  
帶ヘル使命及一行ノ目的トスル所ハ要スルニ(一)蒙古獨  
立問題ニ関スル露國ノ斡旋ニ對シ謝意ヲ表シ尚ホ将来ノ保  
護ニ就キ依頼スルコト(二)蒙古ノ境界劃定(三)國際的  
獨立ノ承認(四)經濟問題ニ関スル打合等ニ歸着スルモノ  
ノ如クニ候就中(第一)点ハ其ノ主ナル使命ナルコト云フ  
マデモナク即チ使節ハ蒙古力清國ノ革命ニ際シテ漢族ノ羈  
絆ヲ脱シ活仏ヲ擁シテ獨立ヲ宣言シタル前後ヨリ今日ニ至  
ルマテ露國力直接間接ニ蒙古ニ向テ援助ヲ与ヘタル好意ニ  
對シ活仏及其政府ヲ代表シテ露皇ノ政府及露國民ニ感謝ノ  
意ヲ表シタルモノニ有之而シテ同使節ハ蒙古力将来支那側  
ヨリ迫害ヲ受タル場合ニ於テ露國ハ終始今日ノ態度ヲ以テ

倫ニ隸屬セサルコト又内蒙古ノ他ノ諸盟ハ現時支那ニ隸屬  
シ内蒙古トハ直接的關係ヲ有セサルヲ以テ之ヲ除外スルコ  
ト伊犁地方ハ将来蒙古ニ併合セラルヘキモノニシテ近頃同  
地方索特那木盟ヨリ併合申込ノ使節アリタルコト尤モ亞爾  
泰地方ハ目下未定ノ状態ニアリ又庫々諾爾(青海)ハ西藏  
ニ併合セラルヘシ云々ノ意見ヲ附加致居候(第三)國際的  
獨立ノ承認ト云フハ露國ヲ介シテ他ノ列強ヲシテ蒙古ノ獨  
立ヲ承認セシムルノ意味ニ有之ニ関シテ使節ノ言フトコ  
ロハ蒙古ノ獨立ハ客年十一月三日露蒙間ニ締結セル庫倫協  
約ニテ確定シ蒙古ハ全然支那ヨリ分離シタルモノナレハ吾  
人ハ飽クマテ蒙古ノ國家ヲ保護スルノ覺悟ナリ露國外相ニ  
於テモ蒙古ハ最早支那ノ別隕ニ屬セスト明言シタルモ列國  
ヲシテ蒙古ノ完全ナル獨立ヲ承認セシムルコトニ関シテハ  
外相ハ蒙古力國家の勢力ヲ充實シ文化ノ發達ヲ致シタル曉  
ニ於テ始メテ之ヲ為シ得ヘキモ今ハ尚ホ其時機ニ達セス要  
スルニ這ハ時ノ問題ナリトノ意見ヲ漏ラサレタリト雖モ露  
國力現ニ「コロストーウエツ」氏ヲ庫倫ニ駐在セシメ置ク  
コトニモアレハ蒙古側ヨリモ其全權公使ヲ露都ニ駐在セシ  
ムルノ必要アリ(尤モ本件蒙古ノ代表者ヲ露都ニ常駐セシ

蒙古ニ對シ援助ヲ与フルコトヲ悃請シ且ツ蒙古ノ自衛上蒙  
古人ヲ以テ軍隊ヲ編成スルハ最大急務ナルモノニハ精良ナ  
ル武器ト教官トヲ要シ其他警察ノ組織ニ付テモ指導者ヲ要  
スルヲ以テ是等ニ對シテハ露國政府ニ於テ更ニ十分ノ幫助  
ヲ与ヘラレタキ旨依頼シタル模様ニ有之候尚ホ最近ノ新聞  
電報ニ拠レハ庫倫ニハ近頃新式速射銃六千挺露國ヨリ到着  
シ軍隊ニ配賦セラレ現在露國ワシリエフ大尉及下士拾名ハ  
庫倫ニ在リテ蒙古軍隊ノ基礎タルヘキ騎兵四箇中隊ノ教練  
ニ從事中ノ趣ニ候(第二)ノ使命タル蒙古國ノ國境劃定ニ  
就テ使節ノ言フ所ニ拠レハ蒙古ノ支那ニ對スル歴史の境界  
ハ則チ長城ニシテ其西北全部ハ蒙古ノ版圖ナリト雖モ漢族  
ハ漸次蒙古内地ニ移住蕃殖シ且ツ其行政ヲ擴張シタルヲ以  
テ現時ノ状態ヨリスレハ所謂蒙古ナルモノハ科布多、呼倫  
貝爾、錫林郭爾ノ三地方即チ喀爾喀部ノミトナレリ而シテ  
是等地方各盟ヨリハ既ニ久シキ以前ヨリ庫倫朝廷ニ歸順ノ  
意ヲ表シ来レルモ呼倫貝爾及錫林郭爾兩地方ノ併合問題ノ  
可否ニ就テハ露國皇帝ニ於テ未タ何等ノ確答ヲ与ヘス云々  
ト語リ更ニ將來ニ於ケル蒙古ノ版圖トシテ科布多部ニ帕勒  
塔公ノ私領地ヲ併合スルノ必要ナルコト但シ同公ハ目下庫

ムルコトハ露國ニ於テ承諾セサリシ趣露國当局ヨリ聞及  
候)兎ニ角我蒙古ハ一意先ツ露國トノ交誼ヲ厚フシ露國ノ  
保護ノ下ニ仏教徒トシテ最モ望マシキ平和的發達ヲ遂ケン  
ト欲スルモノナリトノコトニ有之候而シテ(第四)ノ經濟  
問題ハ畢竟平和的發展ニ資セントスルモノニ外ナラス其第  
一着手トシテハ恰克圖庫倫間ニ鐵道ヲ布設スルコト(露國  
当局者カ嘗テ本官ニ語ル所ニ拠レハ大藏大臣ハ露國力刻下  
經濟上頗ル多事ナルニ鑑ミ本鐵道ヲ以テ不急ノ事業ナリト  
シ強硬ニ反對シ西伯利鐵道ノ一駅ヨリ恰克圖迄鐵道布設ノ  
件丈ケハ此程漸ク同大臣ノ同意ヲ得タルモ是レトテ何時頃  
成效スヘキヤ覺束ナキ次第ニテ庫倫迄延長ノ如キハ到底近  
キ將來ニ實現セラル、コト無カルヘシト云ヘリ)庫倫ヲ中  
心トシテ烏里雅蘇台其他樞要ノ地点ニ通スル道路ヲ開鑿ス  
ルコト又全蒙古ニ電信ヲ架設スルコト(本件ニ就キ曾テ露  
國当局者ノ語リタル所ニ拠レハ歐洲線ハ丁抹会社ノ独占ニ  
係リ内地ノ線ハ支那ノ独占ニ係ル但シ露國ニ拳匪ノ乱後漸  
ク一線丈ケ架設ノ特權ヲ有スルニ過キストノコトナリ)ニ  
シテ是等ハ外相ニ於テ助力ヲ与フヘキ旨口約シタル趣ニ有  
之候次ニ蒙古銀行又ハ露蒙銀行設置案及露蒙通商ノ發展策

アリ其中前者ハ単ニ蒙古側ノ希望ニ止マラス蒙古ノ商工業ニ關係ヲ有スル露国実業家ニ於テモ同シク特種金融機關ノ設置ヲ希望シ現ニ「イルクーツク」商業會議所ヨリハ莫斯科ノ商業會議所ニ對シテ露蒙銀行設置ニ関スル請願運動方ヲ依頼シ来リタリトノコトニ有之使節ハ本問題ニ就テハ商工大臣ト交渉スル所アリシヤニ候得共其成行ハ尚ホ不明ニ有之候(本件銀行問題ニ付テハ更ニ質問スル積)露蒙間ノ通商發展策ニ就テ使節ハ同シク商工大臣ト商議シタルヤニテ使節ノ言ニ依レハ現時外蒙古各盟旗ニ於ケル商業ハ支那人ノ壟斷スル所ナレハ各種ノ貨物ハ悉ク支那産ニ係リ露国ノ商業ハ殆ント言フニ足ルヘキモノナシ然ルニ蒙古政府ハ支那ニ對シテハ經濟的ニモ独立スルノ必要ヲ認ムルヲ以テ支那商品ヲ蒙古市場ヨリ驅逐センカ為メ之ニ對シテ重税ヲ賦課シ一方協約附屬議定書ニ依リテ無税輸入ヲ保障セラル、露国商品ノ普及ヲ容易ナラシメントスル方針ナリトノコトニ有之候右ハ固ヨリ露国側ニ於テ異議ノ有ルヘキ筈ナケレハ商工大臣モ之ニ對シテ同意ヲ表シタルコトト被察候而シテ以上ノ使命外ニ在リテハ既ニ電報ニ及置候通軍隊ノ編成警察ノ組織其他行政費用ニ充ツル為メ露国ヨリ

右御参考迄及報告候 敬具

遣露蒙古使節ニ関スル日誌

- 一、十一月二十五日使節一行庫倫出發
- 一、同月二十九日一行恰克圖通過
- 一、一月二日一行イルクーツク着一晝夜滞在、總督ト会见 蒙古物産陳列所ノ設置、恰克圖庫倫鐵道布設ノ件ニ付意見ヲ交換ス
- 一、一月九日使節一行十六名露都着
- 一、同月十五日露国外相ヲ訪問シ外相夫妻ヨリ茶菓ノ饗アリ但シ此会见ハ非公式ナリ
- 一、同月十六日首相ト会见(公式)
- 一、同月十七日外相及外務省各局長ト公式会见
- 一、同月十八日商工大臣及大藏大臣ト会见セル模様アリ
- 一、同月二十日商工大臣ト会见
- 一、同月二十三日ツアルスコエ、セロ離宮ニ於テ皇帝ニ謁見活仏ノ親書捧呈
- 一、同月二十四日陸相ト会见
- 一、同月二十五日參謀本部長ト会见

二百萬留借款ノ用務モアリ右借款ハ使節ノ庫倫出發前大體ノ交渉ハ既ニ遂ケ置キタルモノ、如ク庫倫大喇嘛(内務大臣)カ「ノーヲエ、ウレーミヤ」新聞通信員ニ語リシ中ニモ該借款ノコトニモ言及シ其金額ニテ不足ヲ感スル場合ニハ更ニ引續キ第二第三ノ借款ヲ露国ニ申込ムヘシ云々ト有之候去レハ使節ハ借款ニ関スル条件ノ細目ニ就キ取極メヲ為スモノニ可有之候要スルニ今回入露ノ蒙古使節ハ庫倫政府ニ取りテ最モ重大ナル幾多ノ使命ヲ帯ヒ来レルモノト謂フヲ得ヘシ而シテ使節一行ノ人物ニ就キ觀察スルニ正使罕遠多爾濟親王ハ親露派ノ尤ナルモノ顧問兼副使タル「シエルスン、ダイツイン」公ハ在北京露国公使クルペンスキー氏ヨリ露蒙ノ国交ヲ阻碍スルモノトシテ庫倫退去ヲ要求セラレタル内務大臣大喇嘛ノ一派ニ属シ曾テ蒙支間ニ和解ヲ為スヘシト主張シタルモノニシテ暗ニ罕達王ノ極端ナル親露の傾向ヲ抑制セントスル目附役ノ覩有之候其他呼倫貝爾地方(現時其一部ハ黑竜江省ニ属ス)ノ代表者カ一行ニ加ハリシハ同地方ヲ以テ蒙古ニ合併セントスル意見ヲ表明シ露国ヲシテ之ニ對シ承諾ヲ与ヘシメント期待セルモノト察セラレ候

三二三 二月六日

加藤外務大臣ヨリ 總理、陸軍、海軍各大臣、參謀總長、海軍令部長、朝鮮總督及関東都督宛

露蒙協約及附屬議定書並露国政府ノ宣言書各

訳文送付ノ件

- 桂總理大臣(機密送第一一号)
  - 木越陸軍大臣(機密送第一二号)
  - 齋藤海軍大臣(機密送第一三号)
  - 長谷川參謀總長(機密送第一二号)
  - 伊集院海軍軍令部長(機密送第一三号)
  - 寺内朝鮮總督(機密送第九号)
  - 福島関東都督(機密送第五号)
- 各 通

客年十一月三日庫倫ニ於テ締結セラレタル露蒙協約、同協約附屬議定書並露国政府ノ宣言書各訳文別紙写ノ通作成致候ニ付御参考迄右茲ニ及御送付候也

(別紙)

露蒙協約譯文(露国政府ヨリ在露帝國大使ニ送付セル公文ニ依ル)

協 約

蒙古人カ其ノ國土ノ民族の歴史の體制ヲ維持セムカ爲一致 宣明シタル希望ニ因リ支那ノ軍隊及官憲ハ蒙地ヨリ撤退セ

サルヘカラサルニ至リ哲布尊丹巴呼圖克圖ハ蒙古人民ノ君主トシテ擁立セラレ蒙古ト支那トノ從來ノ關係茲ニ斷絶セリ

今ヤ上記ノ事實及從來常ニ露西亞國人民ト蒙古人民トノ間ニ存シタル相互ノ友誼ニ鑑ミ且露蒙ノ相互通商ヲ律スル規制ヲ明確ニ決定スルノ必要ヲ認メ之カ爲露西亞帝國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケタル「コンセイエ、デタ、アクチエール、イワン、コロストヴニツ」竝蒙古人民ノ君主、蒙古政府及蒙古諸王ヨリ正當ノ委任ヲ受ケタル蒙古總理大臣萬教護持三音諾顏汗那木囊蘇倫、内務大臣沁蘇朱克圖親王喇嘛「ツイレンチメッド」、外務大臣額爾德呢ダイチン親王杭達多爾濟(汗待遇)、陸軍大臣額爾德呢達賴郡王棍布蘇倫、大藏大臣土謝圖郡王察克都爾札布及司法大臣額爾德呢郡王那木薩賚ハ左ノ通協定セリ

第一條

露西亞帝國政府ハ蒙古ヲシテ其ノ設定シタル自主制ヲ保持セシメ且自國軍隊ヲ備ヘ其ノ版圖内ニ支那軍隊ノ駐屯及支那人ノ殖民ヲ許ササルノ權利ヲ保持セシムル爲蒙古ニ援助ヲ與フヘシ

議定書

露蒙協約附屬議定書譯文  
(露西亞政府ヨリ在露帝國大使館ニ送付セル  
露文ニ依リ同大使館ニ於テ作成シタル和  
譯ニ基キ更ニ在本邦私圖大使館内々入  
手シタル私譯ヲ参照シテ作成セリ)

露西亞帝國政府ノ全權委員タル「コンセイエ、デタ、アクチエール、イワン、コロストヴニツ」ト蒙古君主、蒙古政府及蒙古諸王ノ全權委員タル總理大臣萬教護持三音諾顏汗那木囊蘇倫、内務大臣沁蘇朱克圖親王喇嘛「ツイレンチメッド」、外務大臣額爾德呢ダイチン親王杭達多爾濟(汗待遇)、陸軍大臣額爾德呢達賴郡王棍布蘇倫、大藏大臣土謝圖郡王察克都爾札布及司法大臣額爾德呢郡王那木薩賚トノ間ニ本日調印セラレタル露蒙協約第二條ノ規定ニ依リ前記各全權委員ハ蒙古ニ於ケル露國臣民ノ權利及特典(其ノ一部ハ既ニ之ヲ享有セリ)竝露國ニ於ケル蒙古人民ノ權利及特典ニ關シ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

露西亞國臣民ハ従前ノ如ク蒙古各地ニ自由ニ居住及移轉シ各種ノ商業、工業及其ノ他ノ業務ニ從事シ又露西亞國、蒙古、支那又ハ外國ノ個人、商店及公私ノ施設ト各種ノ契約ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第二條

蒙古君主及蒙古政府ハ従前ノ如ク其ノ版圖内ニ於テ露西亞國ノ臣民及商業ニ對シ附屬議定書ニ列記セル權利及特典ノ享有ヲ認許スヘシ蒙古ニ於テ露西亞國臣民ノ享有スヘキ權利ヨリモ優越ナル權利ヲ他ノ外國臣民ニ許與セサルモノトス

第三條

蒙古政府カ支那又ハ其ノ他ノ外國ト別個ノ條約ヲ締結スルノ必要ヲ認メタル場合ト雖露西亞國政府ノ同意ヲ得ルニ非レハ如何ナル場合ニ於テモ右新條約ヲ以テ本協約及附屬議定書ノ條項ニ違背シ又ハ之ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第四條

本協約ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施ス  
右證據トシテ各全權委員ハ二通ヲ作成シタル本協約ノ露西亞文ト蒙古文トヲ對照シ其ノ一致セルヲ認メ署名調印ノ上交換ヲ了セリ  
千九百十二年十月二十一日(露曆)即蒙曆共戴第二年秋ノ末月二十四日庫倫ニ於テ作ル

各全權委員署名調印

第二條

露西亞國臣民ハ従前ノ如ク何時タリトモ露西亞國、蒙古、支那其ノ他各國ノ生産又ハ製造ニ係ル各種物品ヲ無税ニテ輸入及輸出シ又何等ノ租税、手數料又ハ課金ヲモ納付スルコトナクシテ自由ニ商業ニ従事スルノ權利ヲ有ス但露支共同事業及露西亞國臣民ニシテ自己ノ所有ニアラサル商品ノ所有主タルコトヲ詐稱シタル者ニ對シテハ此ノ規定ノ效力ヲ及ホササルモノトス

第三條

露西亞國ノ金融業者ハ蒙古ニ其ノ支店ヲ開設シ個人又ハ施設及團體ト各種ノ金融取引ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第四條

露西亞國臣民ハ現金又ハ物物交換ノ方法ニ由リ賣買ヲ爲スコトヲ得又信用取引ヲ爲スコトヲ得ルモ各旗及蒙古國庫ハ個人ノ負債ニ對シ責任ヲ負ハサルヘシ

第五條

蒙古官憲ハ蒙古人又ハ支那人カ露西亞國臣民ト各種ノ商取引ヲ爲シ又其ノ個人的雇人トナリ或ハ其ノ經營ニ係ル商業上ノ使用人トナルコトニ對シ障礙ヲ加ヘサルヘシ

蒙古ニ於テハ如何ナル公私ノ團體施設及個人ニ對シテモ商工業上ノ獨占權ヲ與フルコトヲ得ス但團體及個人ニシテ本協約締結前既ニ蒙古政府ヨリ右獨占權ヲ得タルモノニ對シテハ約定期限ノ終了スルニ至ル迄其ノ權利及特典ヲ保有セシムルモノトス

第六條

露西亞國臣民ハ蒙古ノ都市及各旗何レノ處ニ於テモ各種商工業上ノ建物竝家屋、店舗及倉庫等ノ建設ノ爲ニ必要ナル地所ヲ期限附ニテ借受ケ又ハ其ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ有ス露西亞國臣民ハ又耕作ノ目的ヲ以テ空地ヲ借受クルノ權利ヲ有ス尤モ此等ノ地所ハ前記目的ノ爲ノミニ所有シ又ハ借受クルコトヲ得ルモ投機ノ目的ニ供スルヲ得ス此等ノ地所ハ蒙古ノ現行法ニ基キ且蒙古政府トノ協議ニ依リ各處ニ於テ提供セラルヘキモ聖地及牧場ハ此ノ限ニ在ラス

第七條

露西亞國臣民ハ鑛業、林業、漁業及其ノ他ノ事業ニ關シ蒙古政府ト協定ヲ爲スコトヲ得

第八條

露西亞國政府ハ蒙古政府ト協議ノ上其ノ必要ト認ムル蒙古サルコトトシ且蒙古政府ヨリ其ノ都度許可證ノ交付ヲ受クヘシ領事及一般露西亞國官吏ハ其ノ旅行ノ爲賃錢ヲ支拂ヒテ同機關ヲ使用スルコトヲ得蒙古ノ官設驛站使用ノ權利ハ一人タル露西亞國民ニモ亦之ヲ享有セシム但此ノ場合ニ於ケル驛站ノ使用料ハ蒙古政府ト協議決定スヘシ

第十二條

露西亞國臣民ハ蒙古内地ヨリ露西亞國領土ニ流ルル河川及其ノ支流ニ於テ商船ヲ泛ヘ沿岸地方ノ人民ト商業ヲ爲スノ權利ヲ有ス露西亞國政府ハ此等河川ニ於ケル航運ノ改良及必要ナル標識ノ設置其ノ他ニ關シ蒙古政府ニ幫助ヲ與フヘク蒙古官憲ハ本議定書第六條ノ規定ニ依リ此等河川ニ沿ヒ船舶ノ繫留場、埠頭及倉庫ノ設置竝薪材貯藏場等ニ必要ナル土地ヲ提供スベシ

第十三條

露西亞國臣民ハ貨物及家畜輸送ノ爲總テノ水陸路ヲ使用スルノ權利ヲ有ス且蒙古官憲ト協議ノ上自費ヲ以テ橋梁渡場等ヲ設置シ通行者ヨリ料金ヲ徵收スルノ權利ヲ有ス

第十四條

露西亞國臣民ノ家畜ハ其ノ輸送ノ途次休養ノ爲隨處ニ停留

各地ニ領事官ヲ任命スルノ權利ヲ有ス又蒙古政府ハ相互ノ協商ニ依リテ必要ト認メラレタル露國國境各地ニ其ノ代表者ヲ置クコトヲ得

第九條

露西亞國領事館所在地其ノ他露西亞國ノ商業上樞要ナル地方ニ於テハ露西亞國領事ト蒙古政府トノ協議ニ依リ露西亞國臣民ノ居住及各種職業ノ爲特別居留地ヲ設定スヘシ右居留地ハ露西亞國領事ノ管理ノ下又領事ノ駐在セサル地ニ在リテハ露西亞國商人組合ノ組長管理ノ下ニ置クモノトス

第十條

露西亞國ハ蒙古政府ト協議ノ上露西亞國臣民ノ爲蒙古ニ於ケル各地間竝蒙古ト露西亞國ノ國境地間ニ信書ノ發送及物品輸送ノ爲露西亞國臣民ノ費用ヲ以テ郵便機關ヲ設クルノ權利ヲ留保ス而シテ驛站其ノ他必要ナル建物ヲ建築スル場合ニハ本議定書第六條ノ規定ニ依ルモノトス

第十一條

蒙古ニ於ケル露西亞國領事ハ公文書ノ發送及傳書使ノ派遣其ノ他公用上必要ノ場合ニハ蒙古ノ郵便機關ヲ使用スルコトヲ得但無料ニテ一個月馬百頭及駱駝三拾頭以上ヲ使用セ

スルコトヲ得若シ長時日ニ亘リ停留ヲ必要トスル場合ニハ地方官憲ハ家畜輸送路ノ附近及家畜貿易上樞要ノ地ニ於テ牧場トシテ十分ナル地區ヲ貸與スヘシ但三個月以上右牧場ヲ使用スル場合ニハ使用料ヲ支拂フモノトス

第十五條

從來國境地方ノ露西亞國住民カ蒙古境内ニ於テ草刈、狩獵及漁撈ヲ爲シ來リタル特權ハ今後共何等變更ナク持續セラ

第十六條

一方露西亞國ノ臣民若ハ施設ト他方蒙古人又ハ支那人トノ間ノ契約事項ハ口頭又ハ文書ヲ以テ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ當事者ハ其ノ契約ヲ蒙古地方官憲ニ提示シ證明ヲ請フコトヲ得若シ該官憲カ其證明ヲ爲スニ故障アリト認メタルトキハ直ニ之ヲ露西亞國領事ニ照會シ領事ト協議ノ上解決ヲ與フヘキモノトス不動産ニ關スル契約事項ハ特ニ文書ニ認メ當該蒙古官憲及露西亞國領事ニ届出テ其ノ證明及認可ヲ得ヘシ天產物開採ノ權利ニ關スル書類ハ蒙古政府ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

口頭又ハ文書ニ依ル契約事項ニ關シ爭論ヲ生シタル場合ニ

ハ契約當事者雙方ヨリ選ヒタル仲裁者ニ依リテ和解スルコトヲ得若シ此ノ方法ニ依リテ雙方ノ一致ヲ得サル場合ニハ混合裁判委員ニ依リ判決セラルヘキモノトス  
混合裁判委員ハ常設及臨時ノ二種トシ常設ノモノハ露西亞國領事ノ駐在地ニ設ケ領事若ハ其ノ代理者及蒙古ノ相當官等ノ代表者ヨリ成立ス臨時設置ノモノハ前記ノ土地以外ニ於テ事件ノ發生ニ應シテ設ケ露西亞國領事ノ代理者及被告ノ所屬シ若ハ居住スル旗ノ首長タル王公ヨリ成立ス混合裁判委員ハ鑑定人トシテ露西亞國臣民、蒙古人又ハ支那人中ヨリ適當ナル者ヲ任命スルコトヲ得、混合裁判委員ノ判決ハ露西亞國臣民ニ對シテハ露西亞國領事ニ依リ又蒙古人及支那人ニ對シテハ被告ノ所屬シ若ハ居住スル旗ノ王公ニ依リテ遲滯ナク執行セラルヘシ

第十七條

本議定書ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施ス  
右證據トシテ各全權委員ハ露蒙兩文ヲ以テ竝記シタル本議定書ニ通テ照合シ各通ニ署名調印ノ上交換ヲ了セリ  
千九百十二年十月二十一日(露曆)即蒙曆共戴第二年秋ノ末月二十四日庫倫ニ於テ作ル

庫倫政府内務大臣及内閣副議長海拉爾及哈爾

竇ニ向ケ出発ノ件

第八号

庫倫発新聞電報ニ依レハ庫倫政府内務大臣及内閣副議長ハ呼倫貝爾政府及内蒙古諸王ト面談ノ要務ヲ帯ビ海拉爾及哈爾竇ニ向ケ出発セリト云フ右事實ナリトセバ支那側ノ蒙古征伐経画云々ニ関聯シテ對抗策ヲ講スル為ニアラサルカト思ハル尚最近 Martunoff 中将ノ内話ニ依レバ烏泰王ハ庫倫ニ於テ蒙古陸軍總司令官ノ地位ニ在ル趣ナリ時節柄御参考ノ一端迄ニ電報ス

三二五 二月八日

在浦潮野村總領事代理ヨリ  
加藤外務大臣宛

露蒙關係新聞記事訳報ノ件

公第四二号

(二月十八日接受)

大正二年二月八日

在浦潮斯德

總領事代理 野村基信(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

露蒙關係ニ関シテハ在露大使館及其他ヨリ夫々報告有之事

イー、コロストヴェツツ(署名調印)

蒙古總理大臣 三音諾顏汗  
内務大臣 泌蘇朱克圖親王喇嘛  
外務大臣 額爾德呢達賴親王 蒙古語ニテ署名  
陸軍大臣 額爾德呢達賴郡王  
大藏大臣 土謝圖郡王  
司法大臣 額爾德呢郡王

(秘) 露曆千九百十二年十月二十一日(十一月三日)付

以テ「コロストヴェツツ」ヨリ蒙古政府ニ送リタル

宣言書譯文(露國政府ヨリ在露帝國大使ニ内密トシテ送付セル仏譯ニ依ル)

本日露蒙兩政府間ニ調印シタル協約及議定書中「外蒙古」ナル文字ニ代フルニ「蒙古」ナル文字ヲ以テスルコトニ同意スルニ當リ本官ハ自主權ニ付蒙古政府ニ與ヘタル保障カ喀爾喀ノ地域以外何レノ地方ニ迄及フヘキヤヲ決定スルノ權利ヲ帝國政府ニ於テ留保スルコトヲ宣言スルノ光榮ヲ有ス

三二四 二月八日 在哈爾濱本多總領事ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

ト存候処別紙遣露蒙古特使ノ談話及之ニ對スル露國政府ノ回答並ニ之ニ關係ヲ有スル事項等当地新聞ノ掲載セルモノ茲ニ訳出御參考迄ニ供貴覽候 敬具

(一)蒙古特使ノ談話

(二月廿三日(二月五日)ダリョーカヤ、オクライナ)

蒙古特使「チンワン、ハンドードルジ」公ハ在露都本社記者ニ語リテ曰ク  
一行訪露ノ目的ハ第一露國皇帝並ニ貴國民ニ我國建立ノ第一歩ニ於テ与ヘラレタル援助ニ對シ蒙古人ノ謝意ヲ表センカ為メ、第二露國トノ親善ナル關係ヲ永ク鞏固ニセンカ為メナリ即チ吾人ハ将来若シ支那カ我國ニ對シ抗敵行為ヲ現ハストキハ露國カ蒙古ヲ棄テ置カサランコトヲ希望ス我國ハ軍隊組織ノ為メ露國教官及軍器トヲ要ス我國ハ先ツ「コブド」及辺疆ノ防備ヲ要スルカ故ニ貴國外務大臣ニ願フ所アリタルカ之レ特ニ余等一行主要ノ目的タリ  
尚ホ貴國当局ト懇談ヲ遂ケタキ重要問題アリ

第一國境問題ニシテ歴史上ヨリ云ヘハ蒙古國ハ支那万里長城ヨリ西北一帶ノ地方ニシテ之等ハ今尚蒙古ニ屬シ居ルモノナリ、然ルニ年久ヲ経ルニ從ヒ支那人ハ右地方到处ニ移

住セルカ故ニ「ハルハ」ナルモノニ聯合セル蒙古国ノ中ニハ科布多区全部「フルンバイル」区全部及「シリソゴル」盟ヲ含ムモノト認メテ可ナリ

内蒙古其他諸盟ニ至テハ現ニ支那人ノ圧抑ヲ受ケ居ルモノニシテ我国ニ直接關係ヲ有セス然レト伊犁地方ニ至テハ終ニハ我邦ニ合併セラルヘキモノト信ス

第二蒙古国独立問題ナルカ吾人ハ「ウルガ」協約締結ニ際シ十月廿一日ニ依リテ作製セラレタル文書ニ依リ蒙古ハ支那ヨリ全然分離独立セルコトヲ承認セラレタルモノト解シ固ク之ヲ主張スヘシ本問題ニ関シ貴国外務大臣ハ余等一行ト協議ノ席ニ於テ露国ハ既ニ我国ヲ支那ノ屬藩ニ非ス、一國トシテ承認セルコトヲ余ニ対シ声明シ尚ホ蒙古カ独立國トシテ列國ノ承認ヲ得ヘキノ問題ニ関シテハ蒙古ノ基礎鞏固トナリ国民文化ノ進歩セル曉ニハ自然ニ解決セラルヘキ旨ヲ語ラレタリ

我国ハ自國ノ国民教育並ニ商工業ノ發達ヲ計ラサルヘカラス、尚ウルガ、キヤフタ間鉄道ノ速設「ウリヤスタイ」及其他ノ辺疆ニ至ル通商交路ノ築設及全蒙古ニ電信架設ヲ要ス是等ノ諸点ニ関シ「サゾーノフ」氏ハ露国政府ハ十分ナ

蒙古特使ノ必要トセル程度ノモノニ非ス支那ノ攻撃ニ対シ蒙古ノ防禦問題ニ関シテハ露国政府ハ目下蒙古ノ独立ニ直接危險ヲ及ホスノ惧ナシトノ見地ニ立ツモノナリ云々

(三) 露国資本家ト蒙古銀行(同上)

「イルクーツク」資本家「モスキチーノフ」及「エフェロフ」ハ庫倫ニ蒙古国立銀行設立ニ関シ活仏ヨリ招聘ヲ受ケタルカ同人ハ又貨幣鑄造紙幣發行權ヲモ受クヘシ銀行ハ蒙古政府ニ貸出ヲナシ之ニ対シ六分乃至七分ノ利子ヲ受ケ營業ハ露国帝国銀行支店ニ積置ケル基本資金ニ依リ保証セラレヘク蒙古政府モ又保証ヲナスヘク利子及借款支払ノ保証トシテ蒙古政府ハ金銅塩等ノ鉱山物採掘ノ「コンセツション」ヲ与フルノ契約ヲナセリ尚ホ蒙古政府トノ契約ヲナセル個人事業ノ総益金中一定ノ額ヲ割キ蒙古政府ノ債務補填ノ為メニ新設銀行ニ入ル、ノ条件ヲモ付ス同時ニ活仏ハ法律ヲ以テ蒙古国内ニ於テ実物交換ノ商業ヲ廢シ貨幣ヲ以テスヘキコトトスヘシ云々

(四) 蒙古ニ銀行設置ニ関スル露国政府ノ態度

露国上院議員「ザブーシエフ」氏ハ「ユフォローフ」及「モスクビチン」両氏ノ受ケタル蒙古銀行設置特許ニ関シ

ル援助ヲ与フヘシト約セラレタリ余ハ「ココフツォーフ」氏ニ対シ我国ニ於ケル銀行設置及財政顧問ノ派遣ヲ請ヘリ總シテ余等ハ我国ニ於ケル財政ノ整理及露蒙通商關係ノ發達ニ主力ヲ注グノ決心ナリ

現今露国商人ハ我国内深く入ルヲ許シアルモ猶ホ露国商店一モナキ「ツエツェン」汗「シリソゴル」地方等アルニ非ズヤ云々

(二) 蒙古ノ請願ニ対スル回答

(二月六日ダリョーカヤ、オクライナ所載)

確ナル筋ヨリ得タル報道ニ依レハ露国外務省ハ蒙古特使ヨリ外務大臣ニ致セル請願事項ニ就キ審議セル由ナルカ露国政府ハ主義トシテハ蒙古ノ請願ニ善意ヲ以テ対スルモ其請願全部ヲ満足セシムルヲ得ストセリ

露国外務省ノ意見ニテハ本問題解決ノ基礎ハ露蒙條約ノ趣旨ニ拠ルヘキモノニシテ蒙古ノ願意ヲ納レ為メニ該條約ノ範圍ヲ變更スヘキモノニ非スト

露蒙兩國ノ使館ヲ彼得堡及蒙古ニ夫々常置スルノ必要如何ニ関シテハ露国外務省ハ之ヲ拒絶スルニ決シ、蒙古人ニ露国武器ヲ供給スルノ件ハ多分実行セラルヘシ但シ其範圍ハ

「ココフツォーフ」氏ト談話セルガ、首相ハ此特許ニ対シテハ重キヲ置カザルガ如キモ之ト同時ニ政府ハ蒙古ニ露国商業金融機關ノ設立ヲ最も重要ナルモノト認メ「キヤフタ」ニ露国国立銀行ノ支店蒙古内ニ露重銀行及西比利銀行ノ支店設置ニ援助ヲ与フヘキ予定ナリト

(五) 露蒙協約ノ解釈ニ関シ露国外務省代表者意見ノ相違

(一月廿六日(二月八日)ダリョーカヤ、オクライナ) 在庫倫露国総領事「リュバ」氏及商務官「ボロバン」氏ハ今回彼得堡ニ召喚セラレタルガ其原因ハ露蒙協約ノ実行ニ関シ兩者間ニ意見ノ相違アリテ今將ニ發達セントスル露蒙通商ニ少ナカラサル障害ヲ与フルヲ以テ此際之レカ決定ヲ要スルニ付外務省商務兩省間協議ヲ開ク為メ召喚セラレタルモノナリト云フ

右疑義ヲ生シタル条項ハ締結ノ際露国外務省側ノ發議ニテ規定セル第五条「蒙古ニ於テ如何ナル官私ノ会社若シクハ個人ニモ商工業上ノ専有權ヲ与フルコト無カルヘシ」トノ条文ノ解釈ニシテ商務省側ハ広義ノ解釈ヲ採リ協約中明瞭ナラサル点ハ露国人ノ利益ニ解釈シ第五条ノ制限ハ露国



人ニ対スルモノニ非スシテ唯外国人ニ限ルモノトセリ、然ルニ総領事「リュバ」氏ハ字義通りニ頗ル狹義ニ解釈シ外人ノミナラス露国人ニモ適用スヘキモノナリトノ意見ヲ抱持セリト

(六) 科布多ニ露国領事館設置ノ件

(二月三十日(二月十二日)ダリョーカヤ、オクライナ) 外務大臣「サゾーノフ」氏ハ西蒙古科布多ニ露国領事館設置ニ関スル緊急法案ヲ議會ニ提出セルカ該法案説明書ニハ新露蒙協約ニ関聯シ露国ハ蒙古官憲ヲ其地ニ於テ直接ニ指導スルノ機関ヲ組織スルヲ必要トシ之ニ依テ現今新政ノ初メニ当リ蒙古ニ於ケル諸般ノ制度ヲ鞏固ニシ新協約ノ保障セル最モ重大ナル露国ノ利害ニ損害ヲ及ホスカ如キコト無カラシメムト欲スルヲ以テ同領事館ノ任務ハ極メテ重大ナルト共ニ蒙古人ニ対シ充分ノ威敵ヲ保ツ為メ蒙古ノ中心タル科布多ニ領事館ヲ設置セサルヘカラサル旨ヲ記述セリト

三二六 二月十日 在露国田付臨時代理大使ヨリ加藤外務大臣宛

蒙古使節ノ動靜ニ関スル新聞報道ニ付報告ノ件

無之無論外務省当局ヨリ出デタル報道ト存居候処其後新聞ニハ前記露蒙間交渉ノ内容ハ絶対秘密ニ附セラレ兩当事者以外之ヲ知ルモノ無キヲ以テ右關係記事ハ全然誤聞ナリトノ正誤文掲載被致候尚又目下支那カ征蒙ノ目的ヲ以テ着々準備ヲ整ヘツ、アルニ依リ蒙古使節ハ当地滞在中ヲ幸ヒ右ニ関シ状ヲ具シテ更ニ露国ニ訴ヘ依テ以テ露国ノ兵力的保護ヲ求メタルトコロアリトノ報新聞ニ伝ヘラレタルニ由リ一日「カザコフ」氏ニ就キ其真相ヲ相質シ候処同氏ハ右ハ無論無根ニシテ所謂新聞報道ナルモノニ過キズ尤モ支那カ内外蒙古境上ニ於テ外蒙古人ヲ追フテ奪掠ヲ擅ニシタルカノ報道ニハ接シ居ルモ露国ハ之レ丈ケニテハ敢テ動クモノニアラズ若シ支那軍ニシテ深ク外蒙古ニ侵入シ庫倫ヲ突クカ如キ事ニ出ヅレハ露国ハ無論之ヲ坐視スル能ハザルガ仮シ此事アリトスルモ早クモ本春雪融後ノ事ナルヘク目下ノ処露国ハ何等関知スルトコロナシト申居候

蒙古借款ニ関スル新聞記事ニ拠レハ借款締結ニ必要ナル文書類庫倫ヨリ使節手許ニ到着シタルヲ以テ同使節ハ露国トノ間ニ之レカ取極メヲ為シタリトノコトニテ借款全額二百万留中四拾万留ハ既ニ庫倫ニ送附セラレ又其一部(額不明)

大正二年二月十日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

当地滞在中ナル蒙古使節ノ動靜ニ関シテハ一月二十五日公第二一号ヲ以テ及報告置候処其後当地新聞紙ノ所報ニ依レハ一月三十日同使節ハ「サゾーノフ」外相ヲ訪ヒ露蒙間ニ尚ホ未決ノマ、残存シ居ル諸問題ニ関シ書面ヲ以テ回答ヲ求メタルトコロ本月四日露国外務省ハ之ニ対シ同シク文書ヲ以テ回答ヲ与ヘ候当地新聞紙ノ記載スル所ニ拠レハ使節ヨリ提起ノ問題ハ第一兵器供給ノ件第二露蒙公使館相互設置ノ件第三支那討伐隊蒙古侵入ニ際シ露国側ヨリ援助供与ノ件等ニシテ露国政府ハ第一ニ関シテハ蒙古軍隊ノ必要ニ応シ兵器ヲ供給スヘシトノ承諾ヲ与ヘタルモ第二ニ関シテハ時機尚ホ早シトナシ第三ニ関シテハ露蒙協約第一条ノ約束アレハ今更之ヲ重複スルノ必要ヲ認メス云々トノ回答ヲ与ヘタル趣ニ有之候右ハ外務當局者「カザコフ」氏カ本件ニ関シ兼テ本官ニ語ル所(公第三一号参照ノコト)ト大差

(二月二十五日接受)

ハ直接使節ニ交附セラレ残金ハ露都ニ保管シ置キ必要ニ応シテ交附セラル、趣ニ有之候二百万留借款ノコトハ往電第一一号ニテ疾ク御承知ノコト、存候

伝フル所ニ拠レハ使節一行ハ目下既ニ公ノ使命ヲ果タシテ日帰蒙ノ管ナリシ処二月五日罕達親王ハ庫倫活仏ヨリ電報ヲ以テ来三月六日挙行セラルヘキ「ロマノフ」家三百年記念祝典ニ特使トシテ参列スヘキ命令ヲ受ケタル趣ニテ同親王ハ三四ノ随行員ト共ニ尚ホ当地ニ滞ニスルコト、相成リ候尤モ此ノ滞在中ハ過般來着手セル歐露商工業界ノ研究ニ從事シ莫斯科「オデッサ」其他各地ヲ視察スルヤニ有之候又過般西藏達賴喇嘛ノ使者トシテ庫倫ニ於テ蒙藏条約ヲ締結シタル「ドルヂェフ」ハ二月五日露都ニ到着シ蒙古使節トモ会见シタルガ右兩者ノ間ニハ何等公ノ交渉無之「ドルヂェフ」入露ノ目的ニ就テ同人ノ語ル所ニ拠レハ同人ハ露国ヲシテ其蒙古ニ対スルト同様ニ西藏ノ独立自治ヲ認メシムルコトヲ斡旋スルト同時ニ西藏問題ニ対スル露国社会ノ意向ヲ觀察セント欲スルモノニシテ達賴喇嘛ヨリ其筋ニ宛テタル教書ヲ携帶シ居レリトノコトニ有之候尚同人ハ露国ニ国籍ヲ有スル「ブリヤート」人ニシテ露国ニ於テ

教育ヲ受ケ露蔵間ノ問題ニ就キ從來斡旋スルトコロ少カラズ当地ニ於テハ知名ノ人物ニ候当国外務当局者ノ語ルトコロニ拠レハ同人ノ入京ハ露国外務省ト予メ打合杯アリタルモノニ無之即チ外務省トハ全ク没交渉ノ由ニ有之候尤モ同人ハ殆ント毎年ノ如ク入京シ同人自身露国人トシテ外務省ト内密ノ干係アルコトハ確實ナレハ彼ノ行動力如何ニ發展スヘキヤハ之ヲ將來ニ徵スル外無之モ外務省当局者ノ口吻ニ依レバ余リ重大視スヘキモノニアラサル様被存候  
右御参考迄及報告候 敬具

三二七 二月十三日

在哈爾濱本多總領事ヨリ  
加藤外務大臣宛

庫倫政府特使ノ海拉爾及哈爾濱ニ向ケ出発ノ

目的ニ関スル件

機密第一三号

(二月二十一日接受)

大正二年二月十三日

在哈爾濱

總領事 本多熊太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

庫倫政府内務大臣一行カ呼倫貝爾政府及内蒙古諸王ト面談

日本国トノ關係ニ付キ親シク日本政府ト商議センカ為メ日本ニ渡航セントスルニアリ乍去初ヨリ此事実ヲ公ニスルトキハ諸方面ニ不都合ノ影響ヲ及スヲ以テ態ト海拉爾政府ト協議ノ用向アリ其序ニテ哈爾濱見物ヲスル次第ナルヤニ仮托シタル訳ナル処實際ノ目的ハ右ノ通ニテ直チニ浦潮ヨリ日本ニ直行センカ夫レトモ哈爾濱ヨリ日本總領事ノ斡旋ノ下ニ滿鮮經由ノ途ヲ採ルヘキ乎此点ニ関シ先ツ日本總領事ノ助言ヲ得度一行ノ進退ハ右ニ対スル本官ノ回答次第ニテ決セラルヘキ都合ナリ  
トノコトニ有之候ニ付本官ハ該日本人ニ向テ本官ノ応答トシテ左ノ趣旨ヲ兩大臣ニ伝致スヘキ旨ヲ命シ即夜(十日夜)ノ西行列車ニテ帰往致サセ候即チ

蒙古種族中ノ貴胄ニシテ兼テ庫倫政府ノ元勳タル達喇嘛等ヨリ此種ノ来示ニ接スルハ蒙古人種カ国家肇造ノ初期ニ於テ先ツ日本及日本民族ナルモノニ念到セラレタルニ由ルヘク全ク同種且善隣ノ關係ニ基ク友情ノ自然的發露トシテ本官一個トシテハ欣幸トスル所ナリ唯夫レ蒙古建国ノ大業ハ漸ク其端ヲ啓キタルノミニシテ而カモ之カ成就ハ支露兩國トノ關係ニ俟ツモノ多ク現ニ庫倫政府ハ該

ノ要件ヲ帯ヒ海拉爾及哈爾濱ヘ向ケ出発シタリトノ件ハ曩ニ新聞電報ニテ伝ヘラレタル儘本月七日付往電第八号ヲ以テ本官一応ノ所見ト共ニ及申報置候処該使節ノ目的ハ意外ニモ庫倫政府ト帝國政府トノ間ニ何等カノ關係ヲ着ケントスルニアリト信セラルヘキ事實相起リ申候

右使節ノ顔振レハ予テ庫倫政府部門大立者ノ一人トシテ知ラレ現ニ露蒙協約署名者ノ一人タル内務大臣慶蘇克圖親王チンヌククト達喇嘛車林奇默特及總理衙門副大臣賓圖親王棍楚克蘇隆チンツンノ二名ニシテ本月七日後貝加爾州「ウエルフネウーヂンスク」ヨリ汽車ニ搭乘当方面ニ向ヒタリトノコトハ當時露字新聞紙上ニ伝ヘラレタリシカ一行ハ二月九日海拉爾駐着直チニ予テ呼倫貝爾政府總管勝福方ニ出入シ居レル同地在留某日本人(本官モ一応ノ面識アルモノニテ年来蒙古人間ニ医薬ヲ業トスルモノ)ヲ招キ之ニ旨ヲ含メ密ニ本官ニ遣ハシ候右日本人ノ云フ処ニ拠レハ当日夕方勝福方ヨリ急ニ招命アリ直チニ參向シタルニ今シモ到着シタルバカリナル前記兩大臣ト勝福列座ニテ敵ニ左右ヲ屏ケ兩大臣ヨリ大要下ノ如ク談話アリ即チ

同大臣等今回出向ノ目的ハ活仏政府ノ命ニ依リ蒙古国ト

兩國ト折衝中ニシテ殊ニ露国ニ対シテハ最近公然ノ使節ヲ特派シ彼此協商中ノ行掛リニアルニモ拘ハラス其使節カ未タ帰国ノ途ニモ上ラサル此際更ニ日本国ニ密使ヲ差遣スルカ如キハ徒ラニ各方面ニ誤解ト煩累ヲ及スノミニテ就中第一ニ之カ弊累ヲ受クルモノハ庫倫政府自身タラサルヘカラス斯ノ如キハ本官カ個人トシテ窃ニ庫倫政府当局ノ為メ取ラサル所ナリ蓋シ所謂蒙古国ニシテ愈々建国ノ大業ヲ成就シタル上ハ無論ニ其隣邦トノ間ニ玉帛往来ノ關係ヲ結フヲ得ヘク其時機ノ来リタルトキハ日本國代表者タル本官ハ喜テ蒙古ノ名門タリ且ツ政府ノ有力者タル達喇嘛ト一タビ相見テ久仰ノ情ヲ慰センコトヲ望ムモ今日ノ時機ニ於テハ達喇嘛ノ来旨ニ対シ乍遺憾何等答酬スル所アルヲ得サルノミナラス其日本行云々ノ企図ノ如キ蒙古自身ノ為メニモ之ヲ諫止セサルヘカラス而シテ是亦同種善隣ノ誼ニ基ク一片ノ氷心ニモ出ヅル次第ナリ先是達喇嘛等旅行ノ件公表セラルト同時ニ一行ハ当地ニ於テ本官ト会見シ日蒙通商条約ヲ商議スル筈ナリトノコト同シク庫倫電報トシテ露字新聞紙上ニ伝ヘラレタル義ニ有之今トナリテ考フレハ同一行庫倫出發ノ當時既ニ其使命ノ

日本国ニ關係スル処アリトノコト丈ケハ外間ニ漏聞シ居リタルコトナルヘキ乎蓋シ庫倫ニ於テハ親露主義大官等ノ露都出使以來一種ノ反動政府部内ニ起リ居ルコトナルヘク現ニ北京政府ニ向テモ何等カノ特使出テタリトスラ伝ヘラルルヲ見テモ活仏政府ノ内情動搖ノ一端ヲ見ルヘク殊ニ先頃來「イルクーツク」ニ於テ同地總督司會ノ下ニ蒙古經營會議開催中ニテ(本件ハ別ニ報告ス)「コロストヴエツ」竝ニ「ヒードロヴォー」大佐等庫倫ニ於ケル露国側ノ立役者ハ何レモ之ニ参会ノ為メ數週來不在ニ有之是等露国側ノ監視ノ弛緩ハ忽チ政府部内ノ有力者ヲシテ日本ニ出使(達喇嘛ノ本官ニ齊ラセル名刺ニハ蒙古国欽使資圖親王ノ分ハ同副使トアリ)ト云フカ如キ空想実行ヲ思立タシメルコトニモ可有之歟ト被存候

右様ノ次第ニテ本件使節ハ前記本官応答ノ結果多分海拉爾ヨリ引返スコトナルヘキカ元來這般無智ノ半開人種相手ノ蒙古經營モ露国ニ取リテハ随分厄介ナルコトナルヘク彼等使節ノ帰庫後乃至「イルクーツク」會議終了「コロストヴエツ」等ノ帰庫後ハ庫倫政府ニ対スル露国ノ圧力ハ一層緊迫ヲ加フルコトアリトモ敢テ怖ムニ足ラサル所ト被存候右

興安嶺ト額爾格訥河ノ中間ニ在スル黒竜江省ノ西部一帯ノ地方ニシテ開放地タル海拉爾及滿洲里ノ兩市ヲモ包含スルモノニ有之若シ之ヲ庫倫政府ノ下ニ外蒙古(喀爾喀)ニ併合セシムルニ於テハ露蒙協約ノ明文上滿洲里税関ハ勿論同地方ニ於ケル支那諸官衙ハ一切之ヲ撤去セシメサルヘカラサルニ至リ露国ニ取リテハ対支那外交上益々紛擾ヲ重ヌルコト、ナルト同時ニ直接滿洲問題ニ触ル、モノナレハ事頗ル重大ニシテ仮令巴爾喀特族(呼倫貝爾地方ノ蒙古人)及喀爾喀族カ其合同ヲ希望スルコト切ナリトスルモ露国政府ニ於テハ此等四圍ノ事情ニ顧ミ目下直ニ之ヲ許容スルカ如キ無謀ノ挙ニ出ツヘカラサルハ言フマデモ無キ歟ト思惟被致候新聞紙ノ伝フル所ニ拠レハ成徳ハ露都ヨリ庫倫ニ直訪シ活仏朝廷ニ併合問題不成功ノ模様ヲ報告シ其ヨリ直ニ海拉爾ニ帰還シ呼倫貝爾ノ頭領「シニフ」ニ復命スヘシトノコトニ有之候

尚ホ又本月十四日莫斯科ヘ向ケ当地ヲ出發スルニ際シ正使罕達親王カ「ノーウヲエ、ウレーミヤ」記者ノ問ニ対シ答ヘタル所ナリトテ同紙掲載ノ記事ハ蒙古ノ重要問題ニ対スル露国ノ態度ヲ窺フ上ニ多少參考トモ可相成ニ付其要領左

御參考ノ一端マテ及報告置候 敬具  
追テ本文写在北京伊集院公使ヘ送付済

三二八 二月十五日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
加藤外務大臣宛

蒙古使節ノ動靜ニ関スル件 (三月四日接受)  
公第三四号

大正二年二月十五日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

蒙古使節ノ一行ハ当地ニ於テ二ツニ分レ呼倫貝爾地方ノ代表者蒙古交渉総理成徳及遠木沁蘇倫ハ本月十三日ヲ以テ露都ヲ辞シ帰国ノ途ニ上リ又正使罕達親王及其隨員ハ同十四日莫斯科ニ向ケ出發致候呼倫貝爾代表者ハ一月二十五日付公第二一号末段ヲ以テ申進置候通呼倫貝爾地方ヲ以テ喀爾喀ニ合併セント欲シ庫倫使節ノ一行ニ加ハリ共ニ当地ニ於テ運動ヲ試ミ露当局者ヲシテ右合併ニ承諾ヲ与ヘシメント期待シタルモ露国政府ノ許容スルコトコロトナラス頗ル不満足ノ状態ニテ退京シタル由ニ有之候元來呼倫貝爾地方ハ大

ニ摘記致候(以下問ハ記者答ハ罕達親王)

問、蒙古ノ支那ニ対スル關係如何即チ蒙古ハ独立国ナリヤ

又ハ庫倫協約面ノ通単ニ自治權ヲ有スルノミナリヤ

答、「オートノミー」ハ自治ニ外ナラス蒙古ハ露国ト条約ヲ締結スルニ当リ此事ヲ露国ニ声明シタリ蒙古自ラ蒙古ヲ統治スル以上蒙古ハ独立国ニ外ナラス

問、蒙古国ノ境界如何

答、露国政府ハ単ニ喀爾喀部ト科布多部ヲ合併スルコトヲ承認シタルニ過キサルモ然カモ同政府ハ一般ニ外蒙古各部ヲ悉ク結合スルコトニ同意也

問、内蒙古トノ關係如何

答、本問題ハ未タ解決セス吾人ハ内蒙古六盟カ既ニ蒙古国ノ内ニ含マレタルモノト認メ居レリ露国政府ハ露蒙協約ノ明文ニ「蒙古」ナル国名ヲ使用シ「喀爾喀」又ハ「科布多」ノ名称ヲ用キサルモ今日直ニ内蒙古ヲ以テ蒙古国ノ一部ト認ムルコトハ困難ナリト吾人ニ言明シタリ吾人ハ先ツ自己ヲ鞏固ニスルヲ必要トナス尤モ露国ハ間接ノ方法ヲ以テ内蒙古ニ援助ヲ与フルモノト信ス要之若シ支那軍カ内蒙古諸王ニ對抗シ来リタル場合ニハ吾人ハ此等

諸王ノ領地ヲ保護スヘキ也

問、呼倫貝爾地方問題ノ解決如何

答、本問題モ亦同シク解決ノ運ニ至ラス

問、支那税関ハ依然滿洲里駅ニ存置セラル、ヤ

答、本問題モ未解決也

問、閣下ハ北京ニテ且下行ハレツ、アル露国公使ト支那政

府トノ談判ニ就キ如何ナル意見ヲ有セラル、ヤ

答、此事ハ吾人ニ關係ナシ露国ハ蒙古ヲ独立国ト認ムルヲ

以テ此談判ニ於テ多分支那ヲシテ独立承認ヲ為サシムル

ニ至ルヘント信ス

問、蒙古ハ彼得堡ニ公使館ヲ置クヤ

答、未定ナリ

問、蒙古ニ於ケル銀行設置ノ事如何

答、未詳也

問、露国ニ於テ起セル二百万留借款ノ支途如何

答、予ハ大蔵大臣ニアラサレハ之ヲ詳ニセス該資金ハ庫倫

ニ於テ支出セラルヘシ

問、右借款以前尚ホ外債ノ必要アリヤ

答、二百万留借款消費ノ場合ニハ更ニ外債募集ノ外致方無

カルヘシ

問、蒙藏条約ニ対スル感想如何

答、本条約ハ正当ナル考慮ヨリ出デタルモノナレハ真面目

ノ基礎ヲ有ス是レ大ニ可也

尚ホ<sup>レ</sup>達親王ハ当地滞在中当国駐在各大使訪問ノ拳ニ出デ

当大使館ヘモ訳官ヲ遣ハシ正副両使ノ名刺ヲ通シ日ヲ期シ

テ大使ト公式面会ノ義ヲ申込ミタルモ本官ハ他大使館ノ振

合ニ鑑ミ体ヨク面会ヲ辞リ置キ候新聞紙ノ伝フル処ニ抛レ

ハ当地駐在大使中独リ独乙大使ノミ同使節ヲ引見シタルヤ

ノ模様ナルモ其他ノ大使ハ総テ体ヨク面会ヲ謝絶シタル由

ニ有之候同使節ノ此挙ニ出デタルハ依テ以テ蒙古ノ独立ヲ

大国ノ間ニ承認セシメントスルノ一端ニ資セントスルノ下

心ナリシヤニ伝フルモノモ有之タル次第ニテ或ハ其レガ為

メ歴訪ノ目的ヲ達シ得サリシヤトモ被察候右御含マテ申添

候 敬具

三二九 二月十九日 在哈爾濱本多總領事ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

庫倫政府特使海拉爾ヨリ引返シノ件

第一五号

ニ関スル本国政府宛報道中ニ加ヘ置キタシトノコトニ付本  
官ハ之レニ同意ヲ与ヘ置ケリ御含迄電報ス

三三一 二月二十八日 在哈爾濱本多總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

庫倫特使ノ再度ノ日本行希望ニ対シ庫倫帰還

方勸告シタル旨報告ノ件

第二四号

往電第二三三号ホルワト將軍ト会见帰館セル後恰モ機密第一  
三三号拙信所報ノ使者再ビ庫倫特使ノ依頼ニ依リ来着其来意  
ハ(曩キニ本官ヨリ応答ノ趣旨ハ特使ニ於テモ充分了解)

此上ハ本官ノ坦懐且ツ懇篤ナル注意ニ從ヒ庫倫ニ引返スノ  
外ナキヲ了得セルモ手続上一応庫倫政府ニ打電シ右ノ次第  
ヲ具シテ今後ノ進退ニ付訓令ヲ仰キタル所庫倫ヨリハ日本

ヘノ使節派遣トシテ折角此処迄運ビナガラ中途ニ於テ引返  
スハ何分不本意千万ニ付何トカシテ日本總領事ノ贊助ニ依  
リ日本行ノ素志ヲ果ス様致スベシトノ回電アリタリ就テハ

本官ニ於テ特使一行ノ立場ヲ憫ミ今一度再考シ與レ度一行  
渡日ノ目的ハ蒙古独立ノ承認並ニ右独立ニ関スル日本ノ意  
向(就中内外蒙古ノ關係ニ付)ヲ確メントスルニアリ此際

所謂庫倫特使ノ件ニ就テハ先方ヨリ来意並ニ之レニ対シ本  
官ノ執リタル態度ハ此際露国側ニ内報致シ置ク方機宜ニ適  
スト認メタルニ付二月二十五日 Horvato 將軍ヲ訪問シ機  
密第一三三号拙信ノ次第並ニ其後ノ成行ニ付本官ノ承知セル  
所ヲ兩人間交誼上ノ談話トシテ申聞ケタル処同將軍ハ本官  
ノ好意並ニ本問題ニ対シ本官ノ執リタル態度ニ付非常ニ感  
謝ノ意ヲ表シ夫レヨリ本件特使ニ関シ露国側ノ消息措置振  
リ並ニ同將軍ノ得タル諜報及判断等詳細談話後(其要領ハ  
別ニ電報ス)本件来談ノ次第ハ本官ニ於テ異存ナクバ本件

三三〇 二月二十七日 在長春本多總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)  
庫倫特使ノ件ニ関シ本多總領事「ホルワット」  
將軍ニ内談ノ件

第一一号

哈爾濱ヨリ左ノ通

第二三号

日本行ノ事到底行ハルベクモアラズトナラバ切メテハ右等ノ点ニ関スル日本政府ノ意向ヲ本官ヨリ開示セラルル様何等カ本官ノ配慮ヲ得度シトノコトニ付本官ハ(此際ノ場合幾度右様ノ来示アリトモ何等前回応答ノ趣旨ヲ變更スル能ハザルノミナラズ右ハ實際本官一片ノ赤心ニ出デタル好意的忠告ヲモ含ミ居ル義ニ付此点ハ特使ニ於テ篤ト諒トセラルベク尚ホ特使ニ於テ右本官ノ忠告ニモ拘ラズ今尚斷然婦途ニ上ラザル為メ中外ノ耳目ハ既ニ大ニ特使ノ身辺ニ集注シツツアリ事態甚妙ナラザルノミナラズ或ハ何等不慮ノ危険スラ無之ヲ保セズ旁々以テ本官ハ重ネテ特使ニ対スル好意ヲ表センガ為メ茲ニ改メテ一日モ速ニ旅装ヲ整ヘ庫倫ニ引返ヘシノ義ヲ勸告スル)旨達喇嘛ニ傳達方右使者ニ申含メ当夜ノ列車ニテ海拉爾ヘ引返サシメタリ右使者ノ談ニ依レバ特使一行樞機首腦ハ副使ト称スル賓圖王ナル者ノ如ク隨員九名ノ過半モ同王ノ手下ラシキ内蒙古人ナリト云フ前電及本電北京公使ヘ通報済

註 本電長春經由

三三三 二月二十八日 在長春木都領事ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

庫倫特使ニ関スル「ホルワット」將軍ノ措置 振並諜報及判断等ニ付同將軍談話ノ件

第一三三号

在哈爾濱本多總領事ヨリ左ノ通り

第二五号

往電第二三三号「ホルワット」將軍談話ノ要領左ノ如シ

達喇嘛一行庫倫発ノ際国境事務官「ヒドロウオ」大佐ヨリ自分ヘ(ホルワット將軍)電報ノ次第アリ一行ノ目的ニ付テモ略ホ消息ヲ得タルニ依リ夫々手配致シ置ケル処二月九日一行海拉爾着ノ報アリタルニ付自分ハ直チニ交渉局長 Daniel ヲ同地ニ派シ一行ニ就キ其使命ヲ問糺サシメタルニ達喇嘛等ハ日本政府ト商議ヲ希望ヲ以テ日本国ニ渡航ノ目的ナリトノコトニ付「ダニエル」ハ自分ノ旨ニ依リ日露現在ノ關係ニ於テ日本政府ハ此場合此種ノ使節ヲ受付クルカ如キコト断シテ之レ無カルヘキ所以ヲ懇々説明シ一行ニシテ本件ニ付日本国總領事ノ意見ヲ抑クトモ其答ハ全然右ト同一ナルヘシト説キ庫倫ヘ引返シヲ勸メタルニ一行ハ兎ニ角庫倫政府ヘ請訓ノ上ノコトトシタシトノコトナリシ故「ダニエル」ハ夫レモ一応尤ナルガ兎ニ角日本国ニ向フ

ヘキ庫倫特使(露国政府同意ニ基カザル)トシテハ東清鐵道長官ニ於テ何等便宜ヲ与フルコト出来ザル旨申聞ケ一先ツ帰哈シタル処之ト前後シテ一行ヨリ庫倫ヘ發電越エテ数日庫倫ヨリ来電アリ其後更ニ一行ヨリ庫倫ヘ發電シ居レリ(何レモ暗号ナリ)惟フニ貴總領事及我方ノ応答振トヲ電報ノ上今後ノ進退ニ付打合せ中ナラン今貴總領事ヨリ詳細ノ談話ヲ承リ達喇嘛一行ニ対スル貴我双方ノ勸告全然同一ノ趣旨ニ出テタルヲ見満足ニ堪ヘス

然ルニ段々探査ノ結果自分ノ判断ヲ以テスルニ今回ノ事ハ全ク袁世凱ノ細工ニテ庫倫政府撥廻ハシ策ノ一発現ナラサルカト思考ス自分ノ見ル所ニ依レハ一行ノ副使タル賓圖王自身モ袁世凱ノ間諜ナリ同人ハ御承知ノ通り科爾沁左翼前旗王ニテ自分モ従来面識アリ仲々ノ才物ナルカ同人ハ昨年夏外蒙古宣慰使トシテ庫倫ニ遣ハサレタリ然ルニ庫倫側ニ対シテハ同人ハ右ハ袁世凱ヲ欺ク為ノ名義ニ止マリ実ハ自分ノ真意ハ内外蒙古統一ニ在リト称シ巧ミニ庫倫側ノ信用ヲ得遂ニ政府大臣ノ一人トモナリタルモノナリ此事実ハ支

那側ニ於テ承知セサル筈ナシ即チ袁世凱ニ裏切りシタル次第ナルニモ拘ラス我方ニテ同王ノ旗ニ人ヲ派シ探偵セル所

ニ依レハ彼カ家族モ財産モ依然トシテ支那側ヨリ何等迫害ヲ受ケ居ラスト云フ右ハ同人ノ素性ヲ觀破スヘキ何ヨリノ証拠ナリ現ニ今回ノ場合ニテモ同人ハ事實一行ノ首腦トナリ居ル由ニテ且内外蒙古統一ニテ新國家ヲ組織スルニ付テハ日本国トノ間ニ協商ヲ調フルコト必要ニテ今回達喇嘛一行ノ使命モ之カ為メナリト申居ル由ナリ一行ノ行動ニ対シテハ我方ニテ十分ナル秘密監視ノ方法ヲ尽シ居ルニ付今後ノ消息ハ尚隨時御話致スヘシ云々

三三三 二月二十八日 在哈爾濱本多總領事ヨリ 牧野外務大臣宛

北滿ニ於ケル露国増兵ノ風説ニ関スル件

附屬書 二月二十八日附本多總領事ヨリ在奉天落合總領

事宛公領機密第四九号写

同右件

機密第一四号

(三月七日接受)

大正二年二月廿八日

在哈爾賓

總領事 本多熊太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ付落合奉天總領事へ別紙ノ通り申進置候ニ付御含マ

テ右写差進候 敬具

(附屬書)

(写)

公領機密第四九号

大正二年二月二十八日

在哈爾賓

總領事 本多熊太郎

在奉天

總領事 落合謙太郎殿

北滿ニ於ケル露国増兵ノ風説ニ関スル件

露国ハ現在滿州里、哈爾賓及東清鐵道沿線各地ニ於テ屢次

自由増兵ヲ行ヒ右ニ関スル支那側ノ照会等ハ露国領事ノ願  
ミル所トナラス云々ノ趣ヲ以テ張都督ニ於テ吉江兩都督ト  
連名ニテ中央政府ニ電請ノ次第アリタリトノ件貴館密偵ヨ  
リ報告ノ次第本月二十日付機密領第一五号貴信御通報ノ趣  
関悉致候然ルニ北滿ニ於ケル露国増兵云々ノ風説ハ客年来  
屢々支那新聞等ニ喧伝セラレタル所ナルモ今日マデノ処実  
際何等事案ノ根拠ナキ流言ニ止リ候事ハ本官ノ確知スル所  
ニ有之右貴信來報ノ内容ノ如キ亦時節柄支那人一流ノ訛伝  
ニ属スルコト本官ニ於テハ何等疑問ノ余地ナキ義ニ有之候  
へ共恰モ他用ヲ以テ護境軍団長「マルトイノフ」將軍ト会  
見ノ機會モアリタルニ付為念同將軍ニ向ヒ「某方面ニ於ケ  
ル我官憲ハ北滿ニ於ケル露国増兵云々ノ情報ヲ得タリトテ  
本官ニ問合せ來レリ」ト述べ「本官ニ於テ果シテ断然之ヲ  
否認シ得ベキヤ否ヤ腹藏ナキ御教示ヲ仰キ度シ」ト云へ  
ルニ將軍ハ「貴官ハ断然右ノ虚説ヲ否認セラレ差支ナシ  
Vous pouvez démentir d'une manière catégorique et  
absolute」ト述べ「實ハ予ノ素懐ヨリ云へバ不幸ニシテ未  
タ右様増兵実行ノ時機ニ達シ居ラサルナリ」ト例ノ打開キ  
タル態度ニテ附言セラレタル次第ニ有之尚其翌日哈爾賓道

大正二年三月四日

関東都督府陸軍參謀部

賓圖王ノ日本訪問ヲ希望スルニ至レル顛末

台李家整訪問ノ機ヲ以テ更ニ所謂増兵問題ニ付何等露国側  
ト交渉ノ有無問合せ候処道台ハ「滿洲ノ領域内ニ於テハ露  
国ハ昨年来實際一回モ増兵シ居ラス從テ又増兵云々等ノ件  
ニ付自分ニ於テ何等抗議又ハ談判等致シタルコトナシ」ト  
断言致候右マ將軍及李道台ノ答話ハ實際本官ノ耳目ニ入レ  
ル現在ノ事案ニ照シ当然ノ義ニ有之要スルニ今後ハイザ知  
ラス唯今マデノ処ニテハ露国ノ北滿増兵云々ノ情報ハ事案  
無根ノ説トシテ本官ニ於テ全然之ヲ否認スルノ外ナキ次第  
ニ候間向後貴館密偵御使用上御参考ノ一端マデ腹藏ナク右  
申進候 敬具

三三四 三月四日 福田関東都督府參謀長ヨリ  
松井外務次官宛

庫倫特使ノ使命ニ関スル諜報報告ノ件

関都參謀第四〇号

(二月十日接受)

大正二年三月四日

関東都督府陸軍參謀長 福田雅太郎(印)

外務次官 松井慶四郎殿

諜第四一〇号一部及報告候也

諜第四一〇号

一五 露蒙協約關係一件 三三四

海拉爾日本料理店主宮里好磨ノ言ニ依レハ庫倫總理衙門副  
大臣賓圖王親王棍楚克蘇隆及内務大臣慶蘇克圖親王車林奇  
默特等ノ一行二月九日海拉爾ニ到着直ニ蒙古衙門ニ入り一  
般人ノ面会ヲ謝絶シ居レルカ特ニ勝福ヲ通シテ前記宮里ヲ  
請シ自分等ハ日本ニ赴キタキ希望ヲ有シ日本代表者ニ面会  
シタキカ故ニ在哈爾賓日本總領事ニ其ノ旨ヲ伝ヘ尽力ヲ仰  
キタシト請ヒ為ニ宮里ハ哈爾賓ニ急行シ總領事ヲ訪問セシ  
カ總領事ハ露国ニ対シ表面上其ノ請ヲ容ルルコト能ハサル  
モ彼哈爾賓ニ來リタル序ヲ以テ訪問スルナラハ喜ンテ会见  
スヘント告ケタリト

然ルニ二月二十八日右宮里ハ突然長春ニ來リ我駐在將校ヲ  
訪問シ來訪ノ顛末ヲ左ノ如ク語レリ

賓圖王ハ本多總領事ノ第一回ノ意見即チ公式ニ会见スル  
ヲ得サルモ哈爾賓ニ來リ個人トシテノ訪問ヲ受クルコト  
ハ歡迎スヘントノ挨拶ニ対シテ失望シ一時庫倫ニ歸ルヘ  
ク決心セシ模様ナリシカ其ノ後庫倫政府ト電報交換ノ結

果其ノ決心ヲ翻セシモノノ如ク自分ハ自己ノ使命ヲ果スニ就テ深く決スル所アレハ一行ヲ殘シ単独ニテ日本ニ赴カント欲ス唯道途ノ危難覚束ナキカ故ニ沿道ノ保護ヲ仰キタシトテ再ヒ宮里ヲ介シテ總領事ニ会见セシメシニ総領事ハ王ノ日本行ヲ見合セル方可ナラント答ヘタル由ニテ宮里ハ既ニ前後二回ノ往復ニテ王ノ決心モ亦牢乎タルモノアレハ此ノ儘引返スハ物足りヌ心地ストテ当地ニ出テ来レルモノナリト

宮里ノ言ニ依レハ王ハ公然庫倫政府ノ使命ヲ以テ旅行ノ途ニ上リシモノナル旨ヲ明言シ又宮里カ第一回哈爾濱ニ出テタル不在中露國東清鐵道長官代理ハ哈爾濱ヨリ海拉爾ニ至リ賓圖王ニ会见シ今回ノ日本行ハ氣候ト風土ト凡テ異ナルモノアレハ寧ロ今暫ク出発ヲ見合セラレタル方宜シカラントノ好意的(?) 勧告ヲ与ヘシ由ナリ

賓圖王ノ使命ニ就テハ来タ確然明瞭ナラスト雖宮里ニ洩セシ所ニ拠レハ日本政府当局者ニ会见シテ蒙古独立ニ関スル意見ヲ聴キ若シ日本政府ニシテ蒙古独立ニ同意ナラハ追テ其ノ承認ヲ求メ若シ又別ニ意見アラハ教ヲ乞ヒ之ニ從ヒテ更ニ画策セント欲スト云ヒ猶ホ目下庫倫政府ハ露國ヨリ借

保護アル故王ノ疑懼スル如キ危険ハナカルヘント告ケ彼ノ進退ニ一任スルコト、セリ從テ彼ノ進退ニ依リテ累ヲ政府ニ及ホスカ如キコトハ万々之レナカルヘク爾後必然起ルヘキ彼ノ行動ニ関スル新聞ノ報道ノ如キモ日本ノ態度如何ニ依リ寧ロ善用シ得ヘキモノト信ス

猶ホ彼賓圖王ハ曩ニ衰ノ使命ヲ帶ヒ所謂外蒙宣撫使トシテ庫倫ニ赴キシコトハ今猶ホ人耳ニ新ナル所ニシテ彼カ現ニ庫倫政府ノ一大臣トシテ今回ノ行動ヲ執リツ、アルハ一見不可思議ノコトニ屬シ或ハ彼カ巧ニ蒙古政府ヲ籠蓋シテ民國ニ忠ヲ尽サントスル謀計ニ非サルナキカヲ疑フ余地ナキヲ必シ難シト雖醜テ考フレハ彼亦蒙古人カ漢族ト伍シテ對等ノ地位ヲ占メ得ヘカラサルヲ知ラサル愚者ニ非ス人種宗教風俗等ヲ全然除外シテ単ニ利己的見地ノミヨリ判断スルモ彼カ蒙古政府ノ大臣トシテ頭位ヲ保ツヲ得策トスルヤ明カナリ故ニ彼ノ蒙古宣撫使トシテ庫倫ニ赴キタル事實ヲ認ムルト共ニ慧眼ナル彼ハ早クモ活仏政府ニ依ルノ得策ナルヲ看破シ今ヤ純然タル庫倫政府ノ幕僚ト化シ去レルモノト見ルヲ至当ナリト考フ

款モアリ又条約ニ依リテ其種ノ利權ヲ讓与シ居レトモ未タ蒙古ノ致命傷タルヘキ特權ヲ露國ニ讓与シ居ラス然レトモ目下ノ成行ニ任セハ其ノ結果ハ頗ル不安ナルモノアリ且ツ自分ハ内蒙古ニ對シテモ若干ノ抱負ヲ有スル故旁々日本政府當局者ニ会见シタキ希望ナリト述ヘタリト

右ニ依リ判断スレハ彼ノ真意ノ在ル所ハ猶ホ捕提シ易カラスト雖彼賓圖王ハ若年ナカラ一通リ世情ニ通スル才物ナレハ現時ノ狀勢ヲ以テ推移セハ近ク蒙古ハ露國ノ有ニ歸スヘク然ル時ハ蒙古独立カ無名無実トナリ唯露國ノ利益ヲ増進スルニ止マルヲ看破シ之ヲ抵制センカ為先ツ日本政府ノ意向ヲ伺ヒ若シ日本政府カ蒙古独立ニ贊意アラハ其ノ承認ヲ求メ蒙古ヲ國際上ノ獨立國ニ導カントスル下心ニ出テタルモノナラサルカ

要スルニ彼ノ日本訪問ハ露國ノ好マサル所タルヤ勿論ナルヘク支那モ亦之ヲ喜ハサルヤ論ナシ

然レトモ全然彼レノ南下ヲ拒否スルノ謂レナキヲ以テ自由行動ヲ採ラシムル為駐在將校ノ伺出ニ依リ同官ニ意嚮ヲ伝

ヘ本部領事ニ協議セシメ其ノ結果宮里個人ノ意見トシテ日本領土ハ勿論南滿鐵道沿線ハ一般旅客ニ對シテ日本警察ノ

機密第八六号

在清國

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

過般他用ヲ以テ趙總理ニ面談セル高尾書記官ハ露蒙問題其後ノ經過ニ関シ質問シタルニ趙總理ハ本件交渉ハ目下協約附屬議定書ノ内容ニ移リ居リ根本主義ニ関シテハ商議行惱ノ姿ニテ進捗ヲ見スト答ヘタル由ナルカ三月八日他用ニテ露國公使本使ヲ訪問ノ際本使ヨリ本件ニ言及シタルニ同公使ハ本件ハ引続キ陸外交総長ト交渉ヲ重テ居ル処過般陸総長ヨリ議定書ノ文言ニ変更ヲ加フルノ希望ヲ申出デタルニ付提出アリテ可然ト答ヘ置キタル処其後支那側ヨリノ提案ニヨレハ議定書中ニアル蒙古ナル文字ニ代フルニ支那ナル文字ヲ以テセリ斯クノ如キハ字句ノ修正ト雖其實本議定書ヲ以テ全然露支間ノ取極メタラシムルモノニ他ナラス即チ

根本主義ニ干係スルモノナレハ斯カル根本的変更ハ到底露  
国政府ノ首肯スル所ニアラサルヲ以テ右申出ハ之ヲ本國政  
府ニ取次クノ由ナキ旨ヲ答ヘタルニ陸総長ハ今尚頻リニ之  
カ取次ヲ哀願シツアル由ニ候

尚其節露国公使ハ本使ニ向ヒ目下支那ハ頻リニ内蒙古方面  
ニ派兵ヲ行ヒ其數約八ヶ師團ニ亘レル由(勿論完全ナル師  
團兵員ヲ具備スルモノニハ非ルヘキモ)ヲ語リ多少懸念ノ  
様子ニテ本使ノ之ニ対スル意見ヲ求ムル様見受ケラレ候ニ  
付本使ハ之ニ答ヘテ縱令右派兵ハ事實ナリトスルモ支那刻  
下ノ情態ニ於テ疲弊セル兵力ノ果シテ何事ヲカ為シ得ヘキ  
將又縱令蒙境ニ近接スルトスルモ支那軍ヨリ進ンテ自動的  
ノ行動ニ出ヅルガ如キコトハ万々之レ無カルヘシト答ヘタ  
ルニ露国公使ハ自分モ右ハ支那人一流ノ体面ヲ維持セント  
スル示威運動ニ過ギズ中央ノ責任アル当局者ニ於テハ恐ラ  
ク干戈ニ訴フルノ考ハナカルヘキモ追々春暖ノ候ニ際シ進  
軍其度ヲ進ムル時ハ自然出先ノ將士ニシテ随分不謹慎ナル  
行動ニ出デ遂ニ衝突ヲ来スマモ計ラレストテ少カラス意ニ  
介シ居ルモノノ如ク見受ケラレ候

本使ハ更ニ語ヲ次キ近頃聞ク処ノ風説ニヨレハ蒙古兵四千

説ニ関聯シ帝國ノ對露關係ニ関シ杞憂ヲ抱クモノアラハソ  
ハ大ナル誤ナリ況ンヤ支那人ノ親交タル所謂風向キ次第ニ  
シテ自己ノ都合如何ニヨリテハ那辺ニ秋波ヲ送ルヤ測リ難  
キハ從來ノ經驗ニ徴シ推斷ニ難カラサル処ニシテ先年排日  
熱ノ熾ナルニ際シ親米熱ノ昂上シタルカ如キハ顯著ナル証  
左ト見ルヘシ今回ノ親日説亦支那一流ノ一時的風潮ニ過キ  
ス之カ為メ日露ノ關係ニ何等影響ヲ及ホスコトアルヘシト  
ハ本使ノ想到シ能ハサル所ナリ云々ト述ヘ置キ候  
右露蒙問題其後ノ成行報告旁御参考迄ニ此段申進候 敬具

三三六 三月十四日 牧野外務大臣ヨリ  
在哈爾濱本多総領事宛(電報)

北滿ヘノ支那兵増派ニ対スル露国側ノ危惧ニ

関シ問合ノ件

第七号

貴電第二六号ニ関シ昨秋以来支那政府カ洮南府附近ノ兵備  
ニ留意セルハ烏泰ノ反乱ニ鑑ミ辺疆ノ守備ヲ慮レルニ外ナ  
ラサルベク又過般黑竜江省ニ増兵セルハ貴官等ノ切ナル警  
告ニ従ヒ馬賊討伐ノ目的ニ出デタル次第ニシテ而モ其兵數  
ハ吉林ヨリ派遣セル六百ノ外ハ從來對蒙守備ノ任ニアリタ

一五 露蒙協約關係一件 三三六 三三七

庫倫ヨリ「ダलगンガ」(達爾崗崖)地方ニ向ヒ南下シツ  
ツアリテ露国將校其中ニ在リトノコトナリト語りタルニ露  
国公使ハ一概ニ之ヲ打消シタルニ付本使ハ之ニ對シサモア  
ルヘシ実ハ先般在滿ノ某日本領事ヨリ露国ノ蒙古方面ニ於  
ケル増兵云々ノ情報ヲ支那人ヨリ得タルニ付真否ハ別問題  
トシテ為念在哈爾濱帝國總領事ニ転報シタル由ナル処同総  
領事ハ一方露国官憲ニ問合スト同時ニ他方支那道台ニ就キ  
確カメ兩者ヨリ均シク事實無根ノ確言ヲ得タル旨報告ニ接  
セル由本使ヘ報告アリタル趣ヲ申聞ケタルニ露国公使ハ道  
台ニ於テモ右ノ事實ヲ打消シタリト聞キ安心且ツ満足ノ様  
子ニ見受ケラレ候

次ニ本使ハ話頭ヲ転シ近来坊間日支親交説ヲ喧伝スルモノ  
多シト語り出デタルニ露国公使ハ自分ハ之ニ對シ深ク注意  
ヲ払ヒツツアリト答ヘタルニ付本使ハ自分ニ於テモ此等論  
説ニ對シテ常ニ注意シツツアルカ懐フニ帝國政府ノ露支関  
係ニ對スル方針ハ日支親交ノ程度如何ニヨリ何等変ズルモ  
ノニアラス帝國政府ハ常ニ露支兩國ノ關係ニ對シ厳正中立  
ノ態度ヲ維持シ居リ而シテ此態度ハ即チ露国ニ Moral  
Support ヲ与ヘツツアルモノト思料ス若シ今回ノ日支親交

ル同省兵ヲ振向ケタルニ止マリ革命動乱發生後更ニ軍隊増  
設ノ形跡ナキカ如シ尤モ最近同省ニ於テ民團兵ノ組織、馬  
隊部隊ノ新募集並從來ノ新軍一旅團ニ更ニ一旅團ヲ増シ一  
個師團組織ノ計劃アルモ何レモ殆ト計劃タルニ止マリ何時  
其充實ヲ見ルヘキヤ覺束ナキ模様ナリ而シテ右等ノ計劃ハ  
北滿ニ於ケル馬賊ヲ討伐シ治安ヲ維持スルト共ニ其余力ヲ  
以テ南滿ノ軍隊ト共ニ蒙古ノ反乱ニ備ヘントスルヲ目的ト  
シ之ヲ以テ露国ノ北滿ニ於ケル位地ヲ脅カサントスルノ目  
的ニ出デタルモノト認ムルハ穩当ヲ欠クカ如ク之カ為東清  
鉄道ニ累ヲ及ホスノ虞アリトノ説ノ如キハ甚ダ首肯シ難キ  
ガ如シ要スルニ露国ノ觀察ハ事實ヲ稍々過大視スルニ基ク  
カ或ハ何等他ニ目的アルニアラスヤト思考セラルルニ付再  
応御考慮ノ上貴見回電アリタシ

三三七 三月十四日 在莫斯科川上總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛

露支關係ニ関スル新聞記事送付ノ件

附記

三月十三日附「ゴロース、モスクウイ」紙掲載  
記事和訳文

露支關係ニ関スル露国外務省亞細亞局長談



大正二年三月十四日

在莫斯科

總領事 川上俊彦(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本月十三日發刊「ゴロロス、モスクウイ」紙ハ別紙切抜ノ通り露清兩國刻下ノ關係ニ関シ同紙記者ノ問ニ對スル露国外務省亞細亞局長ノ談話ヲ掲載致居候處該談話中支那ノ征蒙軍カ蒙古ノ境内ニ侵入スル場合ニハ露國ハ條約上蒙古ヲ支持スルノ義務アルヲ以テ到底武裝的衝突ヲ免カレサルヘシト断言シ更ニ蒙古ニ関スル日露協約ノ存在及兩國ノ關係ニ談及セル処有之候ニ付右御參考ノ為メ切抜差進候間御査閱相成度此段申進候 敬具

註 別紙露文切抜ヲ省略シ當時右別紙ニ基キ外務外省ニ於テ作成シタル和訳文ヲ左ニ附記ス

(附記)

三月十三日附「ゴロロス、モスクウイ」紙掲

載記事 and 訳文

露支關係ニ関スル露国外務省亞細亞局長談

果トシテハ日本人ガ幾多ノ讓歩ヲ得タルコトニ外ナラサルナリト

西蒙問題ハ如何及露國保護ノ下ニ蒙西同盟ヲ締結シタリトノ風説ハ果シテ信ナルヤトノ問ニ對シ「カザコフ」氏答テ曰ク

蒙古及西藏ノ同盟云々ニ付テハ未タ論及スルノ時機ニアラズ蓋シ蒙古及西藏ハ露國及英國ガ承認シタルガ為メ存在スルモノニシテ未タ純然タル獨立國ニアラザレバナリ且露國ト英國トノ間ニハ西藏問題ニ関シテ協商スル所アリ西藏ヲ特ニ露國若クハ英國ノ保護ノ下ニ置クコトヲ避ケタルナリト

三三八 三月十五日

牧野外務大臣ヨリ 在露國本野大使宛(電報)

北滿ニ於ケル支那兵増派ノ真相ニ関シ通報ノ件

第三七号

往電第二八号ニ関シ二月廿八日事實問題ニ付本多及齊々哈爾領事代理ノ意見ヲ徵シタルニ三月二日日本多ヨリ支那ノ増兵數ハ暫ク措キ銳意其ノ増加ニ腐心シツ、アルコト丈ハ明確ニシテ而モ増兵沙汰ノ動機ハ煎ジ詰ムレハ蒙古問題ト云

一五 露蒙協約關係一件 三三八

「ゴロロス、モスクウイ」新聞記者ト露国外務省亞細亞局長「カザコフ」氏トノ談話

支那ガ蒙古及露國ノ国境ニ向テ進軍ノ準備ヲ為シツ、アルノ風説ハ果シテ信ナルヤトノ質問ニ對シ「カザコフ」氏ハ其報道ハ全ク事實ニ適合セルモノナリト答ヘタリ且曰ク支那ガ蒙古征伐ノ為メ蒙古ノ国境ニ兵力ヲ吸收シツ、アルハ確實ニシテ尚ホ支那ハ露軍ノ襲撃ニ對シ防禦ヲ為スノ準備アルナリ、若シ支那ノ征蒙軍ガ蒙古ノ境内ニ侵入スル場合ニハ露國ハ條約上蒙古ヲ支持スルノ義務アルヲ以テ到底武裝的衝突ハ免カレザルベシト然レトモ「カザコフ」氏ハ公然宣戰ヲ布告スル迄ノ大事ニハ及バザルベシト云ヘリ

日本ト葛藤ヲ生スルノ憂ナキヤトノ記者ノ問ニ對シ「カザコフ」氏ハ日本トハ親善ノ關係ヲ有スルガ故ニ葛藤ノ憂ハ万々勿ルベシト答ヘタリ且曰ク極東ニ関シテハ露國ト日本トノ勢力ヲ判然区劃スル協約モアリ輓近ニ至リ本問題ニ関シ何等格別ノ變更ヲ来タシタルカ如ク思慮スルノ根拠ナキナリ、孫逸仙ノ旅行ハ世間ニ喋々スルガ如キ何等重大ナル政治上ノ意義ヲ有スルモノニハアラズ、旅行ノ單純ナル結

フ外ナク且同問題ニ付テハ外面ニ現ハレタル支那側ノ言動如何ニモ挑発的ニシテ露國側ノ神經モ余程刺戟セラレ居ル際ナレハ支那側ニ於テ此ノ方面ニ於ケル軍事計劃ニ相当ノ調節ヲ加フルノ要アリト思考スル旨回電アリタルニ付三月十四日重テ本多ニ別電第三八号ノ通訓令シ置ケリ右ト行進ニ齊々哈爾領事代理ヨリ黑龍江省都督ハ大要左ノ通同官ニ内話シタル旨電報アリ

在北京露國公使ハ黑龍江増兵ニ對スル抗議ヲ外交部ニ提出シタル趣該部ヨリ來電アリタルモ黑龍江省ニ於ケル兵數ハ事實僅ニ七千ニシテ一万何千ト云フ多數ヲ有セス若シ果シテ斯ル多數ヲ有スルトセハ今回馬賊討伐ノ為吉林兵ヲ借受クヘキ必要ナシ察スルニ露西亞側ニ於テハ民團兵迄ヲ加算シタルモノナルヘキモ夫トテ右ノ如ク多數ニ達セス要スルニ本件ハ当地露國領事カ事實ヲ調査セス針小棒大ノ報告ヲナシタルニ起因スルモノナルヘシ云々

右別電ト共ニ各大使ニ郵報アリタシ

註 別電第三八号ハ前掲三月十四日發本多總領事宛往電第七号全文ナリ

四五三

三三九 三月十八日 牧野外務大臣ヨリ  
在中國伊集院公使宛(電報)

露蒙協約ニ関シ急速解決ノ為支那側ノ意見及

見込等聞糺方訓令ノ件

第一二七号

露蒙協約ニ関シテハ昨年機密第一二〇号ヲ以テ御意見申出  
ノ次第モアリタル処本問題ノ成行如何ハ支那領土保全及東  
亞大局維持ノ点ヨリ見テ頗ル重要ナル關係ヲ有シ独リ支那  
ノ為ノミナラズ帝國ノ利害上成ルベク速ニ適當ノ解決ヲ圖  
ルノ必要アリト思考セラル然レドモ日露ノ關係及支那ノ現  
狀ニ鑑ミ帝國政府ノ本件ニ関与スルハ事頗ル「デリケート」  
ナルカ故支那自ラ適當ノ解決ヲ遂クルヲ我ニ於テハ切望ス  
ル所ナルモ其希望ヲ達セラルルヤ否ヤニ付テハ甚ダ憂慮ス  
ル次第ニシテ又一方正式国会モ速カラズ召集セラルルニ至  
ラバ或ハ本件ニ関シ物論沸騰ノ結果解決上一層困難ヲ生ズ  
ル廣有之而シテ本問題ノ關係前陳ノ如ク重大ナルニ顧ミ且  
其懸案ニ属スル間ハ御承知ノ通り種々他ノ問題ニ影響ヲ及  
ボスガ故帝國政府ハ本問題ヲ成ルベク早く事情ノ許ス限り  
双方ノ讓歩ニ依リテ結了スル方法ヲ見出スコトニ付考慮止

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

昨十七日水野書記官他用ニテ「ドクトル、モリソン」ヲ訪  
問中袁世凱ノ幕僚蔡廷幹「モリソン」ヲ來訪シ別室ニテ三  
月十一日接在露都支那公使ヨリノ密電英訳ヲ交付シ回訓方  
ニ関シ「モリソン」ノ意見ヲ求メ度旨袁總統ノ旨ヲ伝ヘテ  
退出致候由ニテ「モリソン」ハ極秘トシテ全文同書記官ニ  
示シタルニ其大要ハ左ノ如クナリシ由ニ有之候

「本月八日發貴電了承外務大臣ト面会ヲ頻リニ求メタル  
モ先方多忙ニテ未タ其意ヲ得ス極東部長ニ会见シ蒙古ニ  
對スル露國ノ供給(何ノ供給ナリヤ明記ナシ蓋シ武器ナ  
ランカ)ニ関シ抗議申入レタル処其答弁ハ蒙古ノ委員ノ  
云フ所ト同様ニシテ(是ヨリ先キ在露支那公使ハ露都滯  
在中ノ蒙古委員ニ對シ一応ノ抗議ヲ申込ミタルモノナル  
ベシ)却ツテ支那カ内蒙古ニ兵力ヲ集中シ攻勢ヲ採ルハ  
不都合ナリト語リタルニ付自分ハ支那ハ攻勢ヲ採ルニア  
ラス只タ自衛ノ手段ヲ講スルノミナリ露國ノ遣リ方ハ支  
露兩國友誼ノ精神ニ反スト論駁シタルニ同部長ハ斯ル不  
快ナル問題ヲ繰返ササル可ラサルハ凡テ露蒙干係ニ関シ  
支那側ニ於テ露國ト妥協セサルニ起因スルモノニシテ形

マサル所ニ有之此際或ハ第三者ノ居中斡旋ニ依リ双方ノ意  
志ヲ疏通セシメ解決ヲ早ムルコトモ一策トシテ考ヘラルル  
モ之ニハ重大ナル責任伴ヒ且極メテ困難ナル事情纏綿スベ  
キニ付確乎タル見込立ツニ非ザレバ着手シ難キヲ以テ果シ  
テ此方法ノ用ユベキ余地アルヤ否ヤニ関シ尚研究ヲ重不度  
從テ其參考トシテ貴官ハ袁世凱又ハ趙秉鈞ニ就キ貴電第六  
八号以後ノ本問題ノ經過ヲ詳細聞糺シ前記第三者ノ居中斡  
旋云々ノ件ハ先方ニ洩ラサズ全ク貴官ノ御含ニ止メ其余ノ  
趣旨ヲ貴官限りノ意見トシテ我憂慮ノ誠意ヲ披瀝シ本問題  
ノ解決ニ関スル先方結局ノ意見及見込ヲ腹藏ナク吐露セシ  
ムル様致サレタシ尚右ニ付貴官御意見モ併セテ御来示アリ  
タシ

三四〇 三月十八日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露蒙問題ニ付露支間交涉ニ関スル件

機密第一一四号 (三月廿七日接受)

大正二年三月十八日

在清國

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

勢ハ常ニ変化シ居レハ險惡ヨリ危殆ニ移ルコトモアルハ  
シ(Situation is constantly changing and may go from  
bad to worse.)トテ終ニ「露國ハ先ツ支那ニ協議セス  
シテ蒙古ニ軍隊ヲ派遣セサルコトヲ約シ置タルカ將來ニ  
於テハ勝手ニ軍隊ヲ派遣スルコトアルヘシ」ト放言セリ  
右ノ次第ニ付此際何トカ秘密ニ手段ヲ講セラレ度何分ノ  
義電訓ヲ乞フ

「モリソン」モ実ハ袁世凱ノ諮詢ニ對シテ何ト復申スヘキ  
ヤ名案モナキニ當惑シ居リタル由ニ有之候

右何等御參考迄ニ申進候尤モ本件ハ顧問トシテノ「モリソ  
ン」ノ地位信用ニモ差響ク義ニ付本人希望通り出所ハ敵ニ  
秘密ニ御取扱相成省外へ御移牒ノ節ハ「モリソン」ノ氏名  
ハ御削除相成候様致希望候 敬具

追テ英國公使ト「モリソン」トノ關係ハ近来殊ニ円満  
ナラス「モリソン」ハ第三者ニ對シ常ニ英公使ノ無能  
ヲ嘲罵シ居ル有様ニテ露蒙干係等ニ就テ如上ノ報導ノ  
如キハ決シテ英國公使館ニハ与ヘ居ラサル模様ニ有之  
候是又何等御參考ニ可相成ト申添候

三四一 三月十九日

在哈爾濱本多總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

北滿方面へノ支那増兵ト露國側ノ對抗策ニ関

シ報告ノ件

第三〇号

貴電第七号ニ関シ「ホルワト」將軍等ノ密談等ニ抛リテ考フルニ露國政府カ支那ニ對シテ為セル抗議ハ全ク支那側ノ對蒙計畫ヲ阻止センカ為又ハ右計畫實現ノ場合ニ執ルヘキ露國ノ軍事の措置弁護ノ素地ヲ作り置ク為ナルヘク右計畫ノ一ハ庫倫征伐ニシテ其二ハ呼倫貝爾恢復ナリ「ホルワト」將軍ノ見込ニ抛レハ庫倫征伐ハ人氣問題故衰モ大統領選挙ヲ目前ニ控フル際之ニ反對スルコトヲ躊躇シ居ルモ其不可能ノ挙タルハ衰ハ十分了解シ居リ又呼倫貝爾恢復ニ至テハ衰ハ露國カ外交上ノ声援以外実力の保護ヲ呼倫貝爾ニ与ヘサルヘシト見込ミ居ル上ニ昨秋烏泰討伐成功ノ經驗モアリ旁衰モ政府部内ノ議ニ從ヒ春季到来ト共ニ事実トナルヘシトノコトナリ然ルニ呼倫貝爾恢復ニ関シテハ別電第三二二号ノ通露國政府ハ断然之ヲ許ササルコトニ廟議一定シ居レル処支那側ノ内幕前記ノ通ナルヲ確ムルニ至リタル為露國政

府ハ茲ニ右對抗策トシテ呼倫貝爾即興安嶺以西ノ地ニ對シ露國自ラ相當軍事上ノ措置ヲ執ルノ要アルヘキヲ予期シ予メ地步ヲ制スルト同時ニ一面成ルヘク支那側ノ計畫ヲ阻止セン為先黒竜江省ニ於ケル支那軍隊ノ増設ヲ引懸トシ支那政府ニ對シ庄迫ヲ試ントシタルモノナルヘシ故ニ事件ノ骨子ハ其実呼倫貝爾問題ニシテ露國ハ現ニ滿洲里ヲ去ル我十里程ノ「ダウライ」(Dauria) 駅ニ軍隊集中ヲ初メツツアル模様ナリ

尚「ホルワト」將軍ノ言ニ抛レハ黒竜江省ニ於ケル支那軍現在ノ兵力ハ約一万四千ニシテ其内一万ハ昨年九月以来ノ増設ニ係リ戰時動員一万九千トナル趣(コハ民兵団兵ヲ算入シ居ラズ又吉林派遣ノ馬賊討伐援助隊ヲ含マズ)ニテ右ハ露國大使ヨリ閣下ヘ内話ノ數ト符合スルヲ見レハ当方面ノ施設特ニ今回ノ事ハ露國政府ニ於テ同將軍ノ稟報ニ抛ルモノナルコト疑ナシト思考ス

註 本多總領事發牧野外務大臣宛來電第三〇号原文ハ相当長文ノモノナルガ右ニ掲ゲタルハ実ハ當時政務局ニ於テ執務上ノ便宜ノ為作成シタル右來電ノ要領ナリ

三四二 三月十九日

在哈爾濱本多總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

庫倫使節ノ引返シニ際シ露國当局ノ方懷柔策

ヲ試ミタル件

第三一号

往電第二九号ニ関聯シテ某露國大官ノ私話ニ依ルニ達喇嘛ノ一行庫倫ヘ引返シニ付露國皇帝ノ思召ニ依リ当地露國軍隊ヨリ砲四門彈藥四千發ヲ土産トシテ贈与スルコト、ナリ將校附添ヒ一行ト共ニ庫倫ニ齎ラスヘシト云ヘリ一行ノ滿洲里滞在ハ右待受ケノ為メナルモノノ如シ滿洲里發ノ確報アリ次第「ホルワト」將軍ヨリ本官ニ内報ノ等ナルカ多分一兩日前出發シタル管賓國王モ無論其内ニアリト云ヘリ諸般ノ消息ヲ綜合スルニ露國側ニテハ達喇嘛ニ對シ懷柔策トシテ右様ノ手段ニ依リ此際多少面目ヲ同人ニ施サシメ且賓國王ニ對シテモ相當買収策ヲ施シ却テ衰世凱ノ画策ノ裏ヲ搔キタルモノナルヘク(同王ハ中々ノ擦枯ラシニシテ且貧乏人ナリトハ「ホルワト」將軍ノ毎時本官ニ話セル所ニシテ且將軍ハ先年同人当地ニ來レル際旅費トシテ數百円金ヲ惠ミタルコトアリト迄附言シタリ)而シテ是等遣リ口ハ一

ニ「ホルワト」將軍ノ計ラヒニ出テタルモノト観測セラル

註 本電長春領事館經由

三四三 三月二十四日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支交渉ハ尙進行中ニ付第三國調停ノ時機ニ

アラザル旨回報ノ件

第三二四号

貴電第一二七号ニ関シテハ行懸上趙秉鈞ニ確カムルコト然ルヘクト存シタル処本使ハ數日前同官ト会见シタルヲ以テ不取敢高尾書記官ニ内意ヲ含メ往訪セシメタルニ趙ハ左記ノ要領ヲ語レル趣ナリ

其後露國ハ支那ニ於テ露蒙條約附属議定書ノ商議ニ応スルナラハ外蒙古カ支那ノ領土タルコトヲ承認スヘシト提議シタルニ對シ支那政府ハ右ノ商議ニ応シ新タニ支露間ノ條約トシテ之ヲ締結スルコトニ同意スヘキニ付領土承認以外ニ庫倫政府獨立取消方ニモ直ニ同意セラレタシト求メタルニ露國ハ若シ新條約ノ満足ノ結果ヲ見ルニ於テハ之ニ同意スヘシト答ヘタルヲ以テ(以上ハ主トシテ口頭ヲ以テノ了解ナリ)支那政府ハ引續キ新條約案ノ研究

提議ノ準備中ナリ之ヲ交渉ノ現状ナリトス但シ右ニ依リ  
幸ニシテ協議纏マルトモ結局国会開設ノ後議會ノ協賛ヲ  
経ルニ非サレハ決定シ難キ次第ニ付解決迄ニハ尚渺カラ  
サル時日ヲ要スルコトナラン

蓋シ支那政府ニ於テハ務メテ破裂ニ至ラシムルカ如キコ  
トナク領土保全ノ目的サヘ達スルナラハ新条約ガ如キ事  
実行ハレ難キ簡条ヲ除クノ外ハ出来得ル限り之ヲ讓歩シ  
和平ニ解決セシムル積ナリ云々

右ハ往電第二三一号露国公使ノ内話ト照合ハセ本件交渉ハ  
遲緩ナカラ多少進行ヲ為シツ、アルモノ、如ク差当リ行詰  
リ居ルモノトハ見受ケラレス從テ今日ノ所他国ノ調停ヲ要  
スルカ如キ時機ニハ達シ居ラスト思考セラル尚ハ在哈爾濱領  
事ヘ心得ノ為別電第二三五号ノ通電命シ置ケリ

三四四 三月二十四日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

支那兵ノ北滿集中ニ対スル露国政府ノ態度ニ  
關スル件

機密送第八号

(四月十一日接受)

大正二年三月二十四日

ニアラスヤ且支那兵増加ト共ニ脱隊兵數モ増加スヘク從テ  
滿洲ニ於ケル秩序ハ弥攪乱セラルルヲ以テ之ニ対シテハ何  
トカ相当ノ処置ヲ執ラサルヘカラスト思考ス元來支那政府  
ハ日露戰爭以後兎角露国ノ兵力ヲ蔑視シ彼レ何事ヲカ能ク  
為シ得ムヤトノ概念ヲ懷抱スルモノノ如ク事事ニ露国ニ反  
抗シ来レリ露国ナルモノ一朝武力ニ訴ヘテ支那ト雌雄ヲ決  
シ紛議ヲ解決スルマテニ至ラハ何ソ支那ヲ畏ルルモノナラ  
ムヤ然レトモ未ダ右ノ如キ最後ノ手段ヲ執ルニ至ラサル間  
ニ万事ニ就キ露国ニ対シ反抗ノ態度ニ出テラルルハ独リ不  
愉快ナルノミナラス又其ノ煩ニ堪ヘス如此情態ハ早晚之ヲ  
一掃シ去ルノ手段ヲ講セサルヘカラサルニ至ルヤモ計リ難  
シトテ甚憤懣強硬ノ態度ニ見エタルニ反シ今回ハ右支那兵  
集中ハ単ニ馬賊討伐ノ為ナルヘシトテ寧ろ冷静ノ態度ニ見  
エタルハ頗ル奇異ニ感セラレ候尚同課長ハ語ヲ継キテ当初  
支那カ兵ヲ滿洲ニ集中スルニ当リテヤ巴爾幹事件ノ勃発セ  
ルアリ支那政府ハ密ニ以為露国ハ必然起ルヘキ歐洲諸国間  
ノ戰爭ニ忙殺セラレテ極東ヲ顧ミルノ違ナカルヘシ此ノ機  
ニ乘シテ兵力ヲ以テ露国ヲ圧シ支那年来ノ希望ヲ達スルニ  
若クハナシト然ルニ今ヤ巴爾幹半島問題ハ歐洲全体ノ危機

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

錦朝鉄道問題ニ関スル打合ノ為三月二十二日露国外務省極  
東課長「コザコフ」氏ト会谈ノ際滿洲ニ於ケル支那兵集中  
問題ニ談及シ露国ハ之ニ対シ如何ナル措置ヲ執ラムトスル  
モノナルヤヲ質問致候処同課長ハ之ニ対シ風説ニ依レハ目  
下北滿洲ニ在ル支那兵ノ數ハ約一万六千ナリトコトナル  
モ正確ノ數ハ之ヲ知ルニ由ナシ露国ハ目下ノ処之ニ対シ前  
ニ何等確タル措置ヲ執リ居ラスト雖只後貝加爾地方並沿黒  
龍江管区駐屯軍ニ命令シ一令ノ下ニ出動シ得ル様準備ヲ整  
ヘシメアルハ事實ナリ尚露国政府ノ得タル情報ニ依レハ張  
家口ヨリ北滿ニ亘リ集中セラレツツアル支那兵ノ數ハ約四  
万ニ達スルカ如シ云々ト述ヘ候

極東課長カ數月前本官ト会见本件ニ言及シタル際ニハ支那  
兵北滿ニ集中ストノ情報ニ接シ甚危懼ニ堪ヘストノ意ヲ洩  
シ候ニ付本官ハ之ニ対シ右ハ単ニ馬賊討伐ノ為ニシテ別ニ  
他意アルニハアラサルヘシト述ヘタル処同課長ハ若シ支那  
兵集中カ馬賊討伐ノ為ナリトセハ其ノ兵數余リニ夥多ナル

ヲ惹起スルモノニアラサルコト明白トナリタルヲ以テ支那  
ノ計画ハ一頓挫ヲ来シタルニハ非スヤト想像セラルル節ナ  
キニアラス現ニ十年間露支間ノ懸案タリシ牛莊及吉林等ニ  
於ケル露支人間訴訟事件ニ露国領事ノ參加問題ニ関シ支那  
政府ハ絶対ニ右參加ニ反対シ之カ為露国政府ハUltimum  
ヲ発シタルニ拘ラス支那政府ハ頑トシテ露国ノ要求ニ応セ  
サリシカ數日前支那政府ハ俄ニ右露国領事ノ訴訟事件參加  
ヲ承諾シ来リタルカ如キ其ノ動機ノ何レニアルヤヲ知ルニ  
苦ムト雖畢竟前記ノ關係ヨリ支那カ屈讓シタルニアラスヤ  
トモ想像セラル云々ト述ヘ從前ヨリハ甚葉觀シ居ルモノノ  
様見受ケラレ候尚又同課長ハ滿洲ニ於ケル支那民團兵ノコ  
トモ之ヲ承知シ居リ今後滿洲ニ於ケル支那軍隊ノ増加ハ一  
ニ右民團兵ヲ正規兵ニ改ムルニアリト言ヒ居リ候

右御参考迄及報告候 敬具

三四五 三月二十五日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露蒙問題ニ関シ支那政府ハ平和的解決ヲ希望

シ居ル件

第二三五号

本多へ(三月二十四日第七号)

露蒙問題ニ関シ貴地方面ノ情況殊ニ露国側ノ態度ニ付テハ  
隨時貴電ニヨリ承知致居ル所支那官憲諸般ノ情報ヲ綜合ス  
ルニ支那政府ニ於テハ飽迄平和的手段ニ依リテ之ヲ解決セン  
ト欲シ引続キ露国トノ間ニテ遅緩ナカラ多少進行ヲ見ツ、  
アル模様ナレハ蒙古側ヨリ攻勢ニ出テサル以上ハ支那ノ露  
国ニ対シテハ勿論蒙古ニ向ヒテモ兵力ヲ用ユルカ如キコト  
ハアル間敷ト思考セラル貴説ノ如ク貴地方面露国官憲ノ神  
經少シク過敏ナルヤノ嫌アリ御参考迄

(三月廿四日午後四時十分發電)

三四六 三月二十六日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛(電報)

露国側ニ対スル挑発的行動ヲ回避スル様支那

当局者ニ勸告方訓令ノ件

第一四九号

露国側ハ北滿ニ於ケル支那ノ軍事的施設ニ関シ大ニ神經過  
敏トナリ種々想像ヲ逞クシテ場合ニ依リテハ對抗手段ヲ執  
ル底意ニテ既ニ夫々準備シ居ルヤニモ見受ケラル、次第ハ  
在哈爾濱總領事及在露代理大使ノ電報ニ依リ御承知ノ通ナ

ルガ支那政府ニ於テ秩序維持又ハ自衛ノ目的ヲ以テ北滿及  
蒙古方面ニ必要ノ措置ヲ為スコトハ我ニ於テ之ヲ諒トスル  
次第ナルモ今ヤ露国ニ於テ對蒙關係ニ関スル支那ノ態度ヲ  
銳意注視シ殊ニ露国出先官憲ハ稍事ヲ好ムノ嫌アルヲ以テ  
苟モ露国側ヨリ挑発的ト看ラレ易キカ如キ行動ハ其動機如  
何ヲ問ハズ此際努メテ之ヲ避クルコト得策ナルベキ旨適當  
ノ機会ヲ以テ支那当局者ニ勸告セラル、様致タシ貴電第二  
三五号ノ次第アルモ為念申進ス

三四七 三月二十八日 牧野外務大臣ヨリ  
在英国小池臨時代理大使外在欧各大  
使及各臨時代理大使宛

露蒙協約ニ関スル露支間交渉最近ノ經過通報

ノ件

在英 小池臨時代理大使(機密送第三三三三号)  
在米 珍田大使(機密送第二二八号)  
在独 杉村大使(機密送第三一三一号)  
在仏 石井大使(機密送第三一三一号)  
在露 田付臨時代理大使(機密送第三四四号)  
在埃 西臨時代理大使(機密送第二二八号)  
在伊 篠野臨時代理大使(機密送第二二八号)

各通

本件ニ関スル伊集院公使來電第六八号彙ニ及転報置候処本  
問題其後ノ成行ハ大様別紙ノ通りニ有之候ニ付為御参考右  
茲ニ及御送付候間御査閲相成度此段申進候 敬具  
(別紙)

露蒙協約ニ関スル露支間交渉最近ノ經過

露蒙協約ニ関スル在北京露国公使ト陸外交総長トノ間ノ交  
渉ハ其後根本主義ニ関シテハ商議行惱ノ姿ニテ為メニ交渉  
ハ同協約附属議定書ノ内容ニ移リタル趣ノ処三月八日在北  
京露国公使ノ伊集院公使ニ語ル所ニ抛レバ過般陸総長ハ露  
国公使ニ対シ右議定書文言中ノ「蒙古」ナル文字ヲ「支那」  
ナル文字ニ改メ度旨申出テタル処露国公使ハ之ヲ以テ露蒙  
間ノ議定書ヲ変シテ露支間ノ取極トナサントスルモノトナ  
シ斯カル根本主義ニ対スル變更ハ到底露国政府ノ容ル、能  
ハサル所ナリトテ之ヲ本国政府ニ取次グコトヲ拒絶シタル  
趣ナルガ三月十九日同露国公使ハ伊集院公使ニ対シ目下支  
那ニ於テハ目睫ノ間ニ国会ノ開会ヲ控ヘ大問題ノ解決ハ総

テ其議決ニ俟タントスル折柄トテ本件モ亦国会召集後ニ非  
ザレバ何等決定出来ザルベキ旨内話シタリ尚最近趙秉鈞ガ  
高尾書記官ニ内話スル処ニ抛レハ其後露国ハ支那政府ニ対

一五 露蒙協約關係一件 三四八

シ支那ニシテ露蒙協約附属議定書ニ関スル商議ニ応スルニ  
於テハ露国ハ外蒙古ガ支那ノ領土タルコトヲ承認スヘシト  
提議シタルニ対シ支那政府ハ支那ハ右商議ニ応スヘキヲ以  
テ露国ハ前記支那ノ領土主權承認ノ外庫倫政府獨立取消方  
ニモ直チニ同意センコトヲ要求シタルニ露国ハ若シ蒙古問  
題ニ関スル露支間ノ新条約ニシテ満足ノ結果ヲ見ルニ於テ  
ハ右要求ニ同意スヘキ旨回答シ支那政府ハ爾來引続キ新条  
約案ニ付キ研究ヲ重ネ之カ提出ノ準備ヲナシツ、アリ尤モ  
幸ニシテ右ニ依リ協議纏マルトスルモ該条約ハ結局国会開  
設ノ後其協賛ヲ経ザレバ決定シ難キ次第ナルヲ以テ全然本  
件ノ解決ヲ見ルニ至ルハ尚尠カラサル時日ヲ要スヘキモ支  
那政府ニ於テハ領土保全ノ目的ヲサヘ達シ得ルナラバ出来  
得ル限り譲歩シテ和平ニ解決ヲナス覚悟ナル趣ナリ要スル  
ニ本件交渉ハ目下遅緩ナカラモ多少ノ進行ヲ為シツ、アル  
モノ、如シ

三四八 三月二十八日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露蒙問題ニ関連シ露国ハ日支借款交渉説ヲ懸

念シ居ル件

附記 三月三十一日牧野外務大臣発田付臨時代理大使

宛往電第五二号

日支借款交渉ノ事実ナキ件

第三〇号

三月廿八日「コザコフ」ニ面会ノ節同氏ハ近頃新聞通信ニ依レハ滿州ニ於ケル支那官憲ハ滿州鉞山ヲ抵当トシ日本國ヨリ五百万兩借款ノ交渉中ナリトノコトナルカ果シテ事実ナルヤト問ヒタルニ付本官ハ毫モ之ヲ知ラスト答ヘ置キタルモ露國カ滿蒙關係ヨリ支那ニ軍用金ノ注入セラル、コトヲ頗ル懸念シ居ル事情ニ鑑ミ若シ右様ノ事実アリトスレハ差支ナキ限り其真相ヲ露國ニ告知シ置クハ無益ニアラサルヘシト存セラル、ニ付御差支ナキ限り何分ノ御回示アリタシ

(附記)

三月三十一日牧野外務大臣発田付臨時代理大

使宛往電

日支借款交渉ノ事実ナキ件

第五二号

貴電第三〇号ノ如キ事実ナシ尙滿蒙ニ関スル支那ノ行動ニ付テハ露國側報道ノ何等為ニスル所アルニ依ルモノカ往々

ments chinois en Manchourie, dans la région avoisinant le chemin de fer russe. En constatant depuis l'automne passée l'accroissement ininterrompu des troupes régulières chinoises, l'envoi successif de transports d'armes et de munitions et tout l'ensemble des mesures militaires prises par la Chine, le Gouvernement Russe n'a pu méconnaître le danger que cette situation présentait pour la ligne de communication avec l'Extrême-Orient et s'est vu obligé de faire des représentations sérieuses à Pékin. Le Gouvernement Chinois a été notamment prévenu en Février 1913 que si le nombre des troupes chinoises dans la zone du chemin de fer était encore augmenté, des mesures effectives seraient prises par la Russie pour la protection éventuelle du chemin de fer de l'Est-Chinois et des résidents russes, habitant dans cette région.

Cependant d'après les dernières informations qui viennent de parvenir à l'Ambassade, les représentations faites à Pékin n'ont pas eu de résultats satisfaisants et les Chinois se sont bornés à donner au Ministre de Russie des réponses évasives niant même des faits clairement établis.

Or, le nombre des troupes chinoises en Manchourie

一五 露蒙協約關係一件 三四〇

誇大ニ失スル傾アルニ付御合アリタシ

三四九 三月二十九日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露國ト事端ヲ生ゼザル様支那側ニ警告ノ件

第二四八号

貴電第一四九号御内訓ノ件ハ三月廿八日趙秉鈞ニ面会ノ序ヲ以テ露國側ノ態度ニ付差支ナキ範圍ヲ説明シ此際出先官憲ニ於テ苟クモ露國ニ辭柄ヲ与ヘ事端ヲ惹起スルカ如キ行動ヲ敵ニ慎ムヘキ旨警告シタルニ趙秉鈞ハ深ク我方ノ好意ヲ謝シ早速政府ヨリ夫レ夫レ訓電ヲ発スヘキ旨ヲ答ヘタリ

三五〇 三月二十九日 在本邦露國大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

北滿ニ於ケル支那軍増派ニ関スル日本政府ノ

態度ニ付照会ノ件

AIDE MEMOIRE CONFIDENTIEL.

L'Ambassadeur de Russie, conformément aux instructions reçues de St.Petersbourg, a tenu le Gouvernement Japonais au courant des démarches faites par le Ministre de Russie à Pékin au sujet des arme-

qui n'était que de 4 divisions avant la révolutions a déjà atteint actuellement 6½ et doit être prochainement augmenté jusqu'à 8 divisions. Les troupes nouvelles sont concentrées principalement dans la région de la ligne ouest du chemin de fer. Ainsi dans les environs de Kharbine et le long du Soungari près de 5.000 de troupes chinoises se trouvent présentement casernées avec des réserves importantes à peu de distance, sans parler de la concentration qui se produit au sud de Changchun, 10.000 hommes étant déjà réunis à Tcheng-<sup>(部 蒙 東)</sup>lia-tung. Pour citer un autre exemple il suffit de mentionner qu'en outre des 3.000 hommes se trouvant à Tsitsihar plus de 3.000 ont été amenés à Fou-lia-er-di <sup>(富 錦 縣 界)</sup> et à Ta-wei-chi.

La situation actuelle a cela de grave qu'une attaque imprévue de ces troupes suffirait à interrompre le fonctionnement du chemin de fer reliant l'Extrême-Orient et l'Europe pour une période dont on ne saurait prévoir la durée.

En présence de cet état de choses le Gouvernement de Russie aimerait à connaître quelle attitude le Gouvernement Japonais croirait nécessaire de prendre en vue des armements croissant de la Chine en Manchourie

四六三

Septentrionale. Pour sa part le Cabinet de St. Pétersbourg ne voit pas d'autre issue que de s'entendre avec la Chine pour fixer d'un commun accord avec elle le nombre et la dislocation des troupes chinoises dans la région susmentionnée ainsi que cela était prévu par la Convention Russo-Chinoise de 1902. En cas de refus de la part du Gouvernement de Pékin la Russie se verrait obligée de renforcer le nombre des gardes russes auxquelles est confiée la sûreté du chemin de fer en question.

Tokio, le 16/29 Mars 1913.

(3月31日接受)

三五一 三月二十九日 牧野外務大臣ヨリ  
在中國伊集院公使宛(電報)

北滿へノ支那兵増派ニ関シ露国大使我政府ノ

意見ヲ訊ヌタルニ付支那責任当局ニ対スル措

置方訓令ノ件

第一五七号

落合宛往電第二三三号ニ関シ

在本邦露国大使三月二十九日来訪本件ニ付テハ未ダ日本政府ノ意見ヲ聞クヲ得ザル処今般本国外務大臣ヨリ来電アリ

頗ル重大問題ト認メ居リ近頃哈爾濱ヨリ帰リタル大使館參事官ノ説明ニテ自分モ委細ノ狀況ヲ審ニシタルカ支那ハ齊々哈爾濱哈爾濱間ニ曩ニ四師團ノ兵ヲ配置セシカ今ハ六師團半ニ及ビ此後八師團ニ達スベシトノ事ニシテ支那兵數ノ制限ニ関スル露清間取極ノ數ヲ超過セリ露国ハ本件ニ付屢々北京政府ニ抗議シタルモ容易ニ要領ヲ得ズ結局地方官憲ニ訓令シタリトノコトナルモ未ダ其実効ヲ見ズ鐵道線路ノ内外ニ於テ兩國兵相睥合ノ姿ナリ斯クテ人心恟々ノ結果通商上ニモ影響シ居レルガ一朝東清鐵道ノ交通上ニ危害ヲ蒙ラシカ南滿鐵道ハ聯絡上忽チ影響ヲ受クルヲ以テ本問題ニ対シテハ日露共通ノ利害アルニ付北京政府ニ向ツテ共ニ抗議スル道モアルベシ要スルニ露国政府ハ今日ノ儘ニ放棄シ置ク事ハ到底堪ヘ能ハサルトコロナレハ若シ支那ニ於テ改ムル事ナクハ何等カノ手段ヲ取ルノ止ムヲ得サルニ至ルベシ「サゾノフ」ノ電文ヲ視ルモ現狀ヲ以テ容易ナラサル形勢ト認メ居ル事歴然ナルニ付日本政府ノ所見モ承知シタリト述ベタリ

(記註外編)

本大臣ハ同大使ノ問ニ対シ現下ノ狀勢ニ於テ袁世凱ガ兵力ヲ以テ該方面ニ何等積極的行動ヲ執ルノ意圖アルベシトノ

認メ難キ様思ハル、カ尚北京日本公使ニ於テ追々入手ノ情報モアルベキニ因リ其所見ヲ問合スベキ旨答ヘ置ケリ  
本件ニ付テハ貴電二三三三号及二三三六号ノ次第モアリタルガ兎モ角露西亜本國政府及北滿露国官憲ハ頗ル事体ヲ重大視シ居ル模様ニ付往電第一四九号ノ趣旨ヲ体セラレ袁世凱趙

秉鈞又ハ陸徵祥ノ如キ充分責任アル方面ニ就キ差支ナキ程

度ニ於テ露西亜側憂慮ノ狀況ヲ内話シ第一北滿殊ニ齊々哈

爾、哈爾濱間ニ於テ近頃増兵シタルヤ否ヤ又現在ノ兵數及

駐在地点第二露国抗議ノ内容及之ニ対シテ支那側ノ執リタ

ル措置ヲ確メラレタシ尚帝國政府ニ於テハ支那カ現下最モ

無事ヲ必要トスルノ際何等誤解ノ為ニ北滿方面ニ於テ露国ノ

行動ヲ惹起シ事端ヲ生ズルガ如キハ極メテ隣邦ノ為取ラザ

ル所ト認ムルヲ以テ成ルベクハ此際責任アル支那当局者ヲ

シテ誠意ヲ以テ貴官ニ対シ該方面ニ於テ支那ガ兵力ヲ以テ

露国ノ利益ヲ侵スノ虞アルカ如キ積極的行動ニ出ヅルノ意

圖ナキコトヲ言明保証シ之ヲ帝國政府ヨリ露国政府ニ伝ヘ

テ其安心ヲ求ムル様貴官ニ依頼セシムルヲ得バ至極好都合

ト存ズルニ付出来得ベクハ右様御配慮相成リタシ

又大使ノ言ヘル支那兵數ニ関スル露清取極トハ落合電在

齊々哈爾濱領事代理來電第二号ニアル如ク一九〇二年ノ滿洲還附協約第三条ニ基クモノナルベク察セラル、処右協約ノ効力ハ別問題トシ第三条ニ基キテ露清間ニ兵數ノ取極成立シタル次第ナルヤ此点モ併セテ御問合アリタシ  
(欄外註記)  
「第二回協約秘密ノ分第五条参照」(日本外交文書第四十三卷第一冊六七文書附記一)

三五二 三月三十一日

牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛

北滿支那兵増加問題ニ関シ在本邦露国大使館

參事官「シエキイヌ」氏談話ノ件

機密送第三七号

在本邦露国大使館參事官「シエキイヌ」氏先般來滿洲地方旅行中ナリシ処此程帰京シ他用ニテ三月二十八日来省阿部政務局長ト会谈ノ節自ら進ンデ右旅行ニ談及シタルガ其際ノ口振ニ拠レバ同官今次ノ滿洲旅行ハ畢竟北滿支那兵増加問題ニ付哈爾濱露国官憲ノ情報ニ関シ事情視察ノタメナリシモノ、如ク同問題ニ関シ同官ハ阿部局長ニ対シ今回ハ北ハ哈爾濱迄赴キタルガ自分ノ觀ル所ニテハ支那ハ奉天以北ニ

ハ余程増兵ヲ行ヒ居リ而モ其兵質、軍器共ニ整一ノモノト認メラル而シテ目下哈爾濱ニ駐在スル露軍ノ數ハ四千七百名ナルガ同地周囲ニアル支那兵ノ數ハ已ニ約一万ニ達シ居リ此外北林司(北団林子ノ誤カ)ニ於ケル Reserveノ支那兵ヲ合スレバ哈爾濱周囲地方一帶ニ派遣セラレ居ル支那兵ノ總數ハ前記哈爾濱駐屯露兵數ノ約三倍ニモ相当ス、一朝有事ノ際右兵數ノ支那軍哈爾濱ヲ攻囲センカ露軍ハ二三日ハ確ニ同地ヲ防守スルコトヲ得ンモ長キニ亘リテ同地ヲ固守シ得ルヤハ頗ル疑問タルハ有力ナル在哈爾濱露國軍事官憲ノ確言スル所ナリ(右ハ元在北京露國公使館附武官ニテ「セキーマ」氏往訪當時哈爾濱ニ於ケル露兵隊長タル某ノ云フ所ヲ指スモノナリ)

然ルニ最近ノ人口調査ニ拠レバ哈爾濱ノ全人口(伝家甸ヲ除ク)ハ約八万二千ニシテ其半以上ハ外國人ナルガ故ニ万一ノ場合此等外國人ノ保護方ニ付テモ露國側ハ頻リニ苦慮シツ、アリト述ベタルニ付阿部局長ハ然ラバ支那兵ガ鐵道線路ヲ侵シタル如キ最近ノ事實ニテモ有之次第ナルヤヲ反問シタルニ同參事官ハ右ニ答ヘ別ニサル事實ハ無之モ何分支那兵ハ何時馬賊ト變ズルヤモ測ラレズシテ殆ト兩者ノ区

示ノ次第アリタルニ付折角多少責任アル情報ヲ得ルニ尽力中ナルガ本官今日迄得タル趙總理等ノ話シ振ニテハ四箇師團ノ兵モ如何ニト思ハルルガ貴國滿洲武官等ノ得タル情報ナルモノハ何レノ筋ヨリ得タルモノナルヤト尋ネタルニ自分トシテハ北京ヨリ多少供給シ居ルモ公使館附武官專ヲ其任ニ當リ居リ同時ニ滿洲駐屯軍ニ於テ之ヲ蒐集シツ、アリ而シテ是迄陸外交總長ハ常ニ口頭ヲ以テ甚シキ増兵無シト答ヘツ、アリシガ去ル金曜日(?)始メテ書キ物ニテ決シテ著シキ増兵ハ為シ居ラズ併シ蒙古兵來襲ノ説頻リナルヲ以テ之レニ對シ準備ヲナシ居レリトノコトヲ告白シ來レリト次ニ本使ハ千九百二年ノ第三条ノ取極メニ付別ニ露支間ニ何等詳細ノ取極メアリタル次第ナリヤト尋ネタルニ同公使ハ右ハ其後何等協定シタルモノナク其儘ニナリ居ルニ付駐兵制限ハナキ姿ナリ依テ露國政府ハ此際右協定ヲ為スノ必要アルベシト思考シ居ルモ未ダ支那ニ對シテ右ノ事ヲ提議スベシトノ訓令ナキニ付何等交渉ヲ為サズ終リニ本使モ折角支那増兵ノ事ハ取調中ニ付何等要領ヲ得タル時ハ内報スベシト約シ置ケリ実ハ貴電第一五七号中御訓示ノ支那側ヨリ責任アル兵數等及露國へ日本ヲ經テ保障ノ件ハ本使ノ

別付カザル故甚憂慮ニ堪ヘザル所ナルガ露國ガ増兵ヲ為スニハ兵舍設備等ノ問題モアルヲ以テ相当考量ヲ要スル次第ナリ東清鐵道全線(即チ滿洲里「ボグラニーチナヤ」間及哈爾濱、寬城子間ヲ併セ)ノ延長ハ千七百二十二「キロメートル」ナル処日露講和條約ニ拠リ東清鐵道沿線ニ配置シ得ル鐵道守備兵ノ最大數ハ「キロメートル」毎二十五人ナルガ故ニ右全線ニ配置シ得ル露兵總數ノ最大限ハ二万六千計トナル次第ナレトモ露國ハ未ダ右最大限迄派兵ヲ行ヒ居ラズ云々ト語リタル趣ニ有之右ハ本件ニ關スル露國側ノ意嚮ヲ窺フ上ニ參考トモ可相成ニ付此段及通報候 敬具

註 右ハ在中國伊集院公使、在哈爾濱本多總領事、在奉天落合總領事、在齊々哈爾吉原事務代理ニモ夫々通報セラレタリ  
三五三 三月三十一日 在中國伊集院公使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

北滿増兵ノ情報等ニ關シ露國大使ト会谈ノ件 第二五〇号

三月三十一日露國公使來訪貴電第一五七号閣下ト露國大使ト御会谈ノ模様ハ同大使ヨリ電報アリタリトテ其内容ヲ語リシ時ニ本使ノ意見如何ニトノ事ニ付本使モ閣下ヨリ御電

思付トシテ趙總理ニ三月三十日高尾ヲシテ「サツヂェスト」セシメタルニ同人ハ頗ル賛成ノ意味ニテ大總統へモ相談シ回答スベシトノ事ナリ或ハ一兩日中ニハ何等カ沙汰アルベキカト存ゼラル

三五四 四月二日 牧野外務大臣ヨリ 在露國田付臨時代理大使宛(電報)

北滿中國軍増兵ニ關シ在本邦露國大使來談ノ

件 第五五号 往電第二八号ニ関シ三月廿九日在本邦露國大使來訪本件ニ付未タ帝國政府ノ意見ヲ聞クヲ得サルモ重テ本國政府ヨリ訓令アリタル趣ヲ以テ更ニ申出ノ次第アリタル処其後同日付ヲ以テ之ヲ覺書ニ認メ送付シ來リタルガ其要点左ノ如シ

露國政府ハ本年二月特ニ支那政府ニ對シ北滿増兵ニ付警告ヲ試ミタルモ未タ満足ナル効果ナシ然ルニ革命以前四師團ニ過キサリシ在滿支那軍隊ハ今ヤ六師團半トナリ不遠八師團ニ達セムトシ此等新増兵ハ主トシテ哈爾濱以西ニ集中シ例ヘバ哈爾濱附近及松花江沿岸五千(五、〇〇〇) 鄭家屯一万(一〇、〇〇〇) 齊々哈爾三千(三、〇〇〇) 富拉爾



齊及大寶廳三千(三、〇〇〇)等ノ兵アリ露国政府ハ右北滿増兵ニ付日本政府ニ於テ如何ナル態度ヲ執ルヲ必要ト認メラル、ヤ承知シタシ露国政府ニ於テハ之ニ処スルノ途ハ千九百二年ノ露清条約ノ例ニ依リ支那トノ間ニ北滿ニ於ケル支那軍隊数及其配置ヲ協定スルノ外ナシト思料ス若シ支那ニ於テ之ヲ拒絶セバ露国ハ東清鐵道守備兵ヲ増スノ不得止ニ至ルヘシ云々

本大臣ハ前記露国大使ト会谈ノ際現下ノ状勢ニ於テ袁世凱カ兵力ヲ以テ該方面ニ何等積極的行動ヲ執ルノ意図アルベシトハ認メ難キ様思ハルルモ尚在北京公使ニ於テ追々入手ノ情報モアルベキニ依リ其所見ヲ問合スベキ旨答ヘ置キタリ  
右往電第二八号通り転報アリタシ

三五五 四月四日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国ノ北滿増兵ニ関スル日本政府ノ意見至急開示ヲ得タキ旨露国外務省極東課長ヨリ申出ノ件

第三三号

三五六 四月五日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国ハ北滿ニ於テ露国ト難ヲ構フル意思無キ旨日本ヲ通シ露国ヘ声明スルコトニ中国政府賛同ノ件

第二五五号

貴電第一五七号御回訓ノ件ニ関シテハ往電第二五〇号末段ノ手續ヲ執リタル結果三月三十一日趙總理ヨリ委細陸外交総長ト打合済ナル旨内報ニ接シタルヲ以テ本使ハ四月二日陸総長ヲ訪問シ御来示ノ趣旨ニ基キ篤ト警告ヲ与ヘタルニ陸ハ本件ニ付テハ三月三十一日趙總理ヨリ特ニ私宅ニ招カレ貴官ヨリ内密ニ申越サレタル主意ヲ詳細伝ヘラレ右ノ趣ハ既ニ袁總統ヘモ報告シ同意ヲ得タリトノ旨ヲ内話セラレタルニ付自分ハ直ニ國務院ニ赴キ閣僚ト議リタルニ何レモ深ク貴官ノ御好意ヲ謝シ速ニ貴国ヲ通シ露国ヘ声明ノ手續ヲ執ルヘシトノ説ニ一致シタリ而シテ齊々哈爾ヨリ哈爾濱一帶ニ於ケル現在ノ兵数及駐在地点ニ付テハ陸軍部ニテ之ヲ調査シ自分ノ手許ニ送り越スヘク打合せ置キタルニ付接到ノ上ハ直ニ送付致スヘシ右ノ次第ニ付テハ支那政府ハ断

貴電第五五号ニ関シ極東課長ハ外務大臣ノ命ニ依リ四月四日日本官ニ来省ヲ求メタル上一応貴電ノ趣ヲ略説シタル後目下外務大臣ハ本件至急処置方ニ付陸軍大臣ヨリ迫ラル、所アリテ一日モ速カニ之カ処分ヲ急キ居ル次第ナルニ付日本国政府ニ於テモ速カニ其意見ヲ開示セラル、様本官ヨリ本国政府ヘ電請シ呉ル、様懇請スル所アリタリ陸軍大臣カ左程取急カル、理由ニ関スル本官ノ質問ニ対シ同課長ハ左ノ如ク答ヘタリ曰ク支那ハ先ツ兵力ヲ以テ呼倫貝爾ヲ威圧シ後更ニ進シテ蒙古ヲ脅カサントスルモノ、如シ露国ハ支那カ滿洲ニ於テ干戈ヲ動かカスコトヲ阻止スルニ在リ蓋シ目下滿洲ニ於ケル支那ノ兵力ハ有力ニシテ露国鐵道守備隊ハ到底之ニ匹敵スヘカラス而シテ支那ノ作戰計画ハ開戦ノ晝直チニ露国カ呼倫貝爾ニ対シ援兵ヲ派遣セシコトヲ恐レ何時ニテモ東清鐵道ヲ破壊セントスルモノニシテ之ニ対スル露国鐵道守備隊ハ何時ニテモ支那兵ノ為ニ撃破セラルヘキ状態ニ在レハナリト事ノ真相ハ之ヲ確メ難キモ露国カ日露協約ノ精神ニ則リ我政府ト協調ヲ保ツ誠意ニ鑑ミ日本国政府ノ本件ニ関スル御意見至急御回示相成ルコトヲ得ハ露国モ之ヲ徳トスヘキコト、存セラル何分ノ義御電訓ヲ請フ

シテ露国ト難ヲ構フルカ如キ意志毛頭無之旨茲ニ言明保障スヘキニ付貴国政府ヘ転達ノ上露国側ヘ伝ヘラル、様配慮ヲ煩ハシタシト申出タリ依テ本使ハ右ハ貴国政府ノ依頼トシテ露国政府ヘ伝フル手續ヲ執リ差支ナカルヘキヤト念ヲ押シタルニ陸ハ差支ナキ旨ヲ明白ニ答ヘ続テ北滿ニ於ケル支那側ノ態度ニ付テハ露国公使ヨリモ屢質問ヲ受ケ其都度断シテ懸念ニ及ハザル旨ヲ言明シツ、アルニ拘ハラス露国ハ飽ク迄之ヲ疑ヒ故意ニ辞柄ヲ藉ラントシツ、アルガ如キ嫌アルハ真ニ遺憾ナリ

此時ニ当リ第三者タル貴国政府ヲ通シ保障手續ヲ取り得ルカ如キハ最モ事宜ニ適セルモノト信ス元来自分カ再ヒ外交総長ニ任セラレタル動機ハ袁總統ニ於テ支露交渉行惱ミニ際シ多年露国ニ在住シ同国ノ事情ニ通シ居レル自分ヲシテ和平解決ノ衝ニ当ラシメントノ趣旨ニ外ナラサリシ次第ニテ此辺ノ消息ハ露国公使ニ於テモ篤ト承知シ居ラルル筈ナリト云ヘルニ付本使ハ露国公使ニ於テハ決シテ貴官ヲ信セサルニアラス本使ニ対シテハ屢々危機一髪ノ下ニアルヲ伝フルニ当リ自分モ(露国公使)爾カアルヘシト信シ居レルカ何分北滿方面ヨリノ情報ハ之ト反対ノ事実ヲ伝ヘ来リ殊

一五 露蒙協約關係一件 三五七

ニ出先ノ軍隊ニ於テハ咄嗟如何ナル態度ニ出テ来ルヤモ計リ難キニ付中央ニ於テ如何ナル説明ヲ与ヘラルルトモ事實安心出来サル次第ナリト云ヒ居ル旨ヲ告ケ露国公使ノ憂フル所ハ本使ニ於テモ至極同感ニシテ今後トモ出先軍隊ヲ嚴重ニ戒飭シ事端ヲ醸サ、ル様措置セラルルコト急務ナルヲ反覆切言シ置ケリ右ノ次第ニ付兵数及駐屯地ノ明細表入手次第直ニ電報スヘキ筈ナリシ所陸軍部ノ取調ニ時ヲ費シ漸ク本日送附致シ来リタルニ付右ハ別電第二五六号ヲ以テ電報ス

尚前記会見当日陸総長ノ談ニ露蒙交渉ハ引続キ好調ニ進ミツツアリ從ヒテ此際日本国政府ノ好意ニ依リ露国ニ安心ヲ与フルヲ得ハ一層好結果ヲ得ルナラント云ヒ其後趙秉鈞ノ談ニ依ルモ協約ノ基礎タル四ヶ条ノ主義大体一致ヲ見ルニ至ルヘク附屬協約十七ヶ条ノ商議モ都合好ク進ミ得ル見込ナリト云ヘリ  
御参考迄申進ス

註 別電第二五六号ハ省略ス同電報ハ外交部ヨリ送り越サレタル明細表ヲ報告シタルモノナリ右明細表ハ二種ニ分タレ其ノ第一表ハ駐屯地名ヲ表示シ第二表ハ兵数(總計一萬一千

執ルヲ必要ト認メラル、ヤ承知シタシ露国政府ニ於テハ之ニ処スルノ途ハ千九百二年ノ露清条約ノ例ニ依リ支那トノ間ニ北滿ニ於ケル支那軍隊数及其配置ヲ協定スルノ外ナシト思料ス若シ支那ニ於テ之ヲ拒絶セハ露国ハ東清鐵道守備兵ヲ増スノ不得止ニ至ル可シ云々

三五八 四月八日 牧野外務大臣ヨリ  
在中、露、英、独、仏、奥、伊、米各国  
大公使宛

中国ノ北滿増兵ニ関スル在本邦露国大使ノ覚  
書ヲ送付ノ件

在北京伊集院公使(機密送第九六号)  
在露田付臨時代理大使(機密送第四八号)  
在英小池臨時代理大使(機密送第四四号)  
在独杉村大使(機密送第四〇号)  
在仏石井大使(機密送第三八号)  
在奥秋月大使(機密送第三八号)  
在伊篠野臨時代理大使(機密送第三七号)  
在米珍田大使(機密送第三八号)

本件ニ関シ三月二十九日附在本邦露国大使覚書ノ要領ハ  
(北京宛)ハ(往電第六八号)  
(在露宛)ハ(往電第五五号)ヲ以テ申進置候処右覚書全文写  
(其他ハ)ハ(在露大使宛往電第五五号)

一五 露蒙協約關係一件 三五八 三五九

八百三十一名ヲ表示セリ

四七〇

三五七 四月七日

牧野外務大臣ヨリ

在齊々哈爾吉原領事館事務代理宛

中国ノ北滿増兵ニ関シ露国政府ヨリ日本政府  
ノ意見問合アリタル件

機密送第二一号

本件ニ関シ二月二十四日在本邦露国大使來訪之次第ハ在奉天總領事宛第二三号往電ヲ以テ御承知ノ通ニ有之候処三月二十九日同大使來訪本件ニ付未タ帝國政府ノ意見ヲ聞クヲ得サルモ重ネテ本国政府ヨリ訓令アリタル趣ヲ以テ更ニ申出ノ次第有之其後同日附ヲ以テ之ヲ覚書ニ認メ送附シ来リ候其ノ要領左ノ通ニ有之候間御含迄及通報候也

露国政府ハ本年二月特ニ支那政府ニ対シ北滿増兵ニ付警告ヲ試ミタルモ未タ満足ナル効果ナシ然ルニ革命以前四師團ニ過キサリシ在滿支那軍隊ハ今ヤ六師團半トナリ不遠八師團ニ達セムトシ是等新増兵ハ主トシテ哈爾濱以西ニ集中シ例ヘハ哈爾濱附近及松花江沿岸五千、鄭家屯一万、齊々哈爾三千、富拉爾齊及大賚廳三千等ノ兵アリ露国政府ハ右北滿増兵ニ付日本政府ニ於テ如何ナル態度ヲ

一通茲ニ及御送付候間御査閲相成度此段申進候 敬具

註 該覚書ハ前掲(三五〇文書)ニ付省略ス

三五九 四月九日

牧野外務大臣ヨリ  
在本邦露国大使宛

中国政府ハ露国ト北滿ニ於テ事ヲ構フル意思  
無キ旨ノ同政府ノ保障駁達ノ件

The Imperial Government have carefully considered the confidential aide-memoire of His Excellency the Russian Ambassador dated the 29th March respecting the subject of the Chinese military activities in Northern Manchuria.

Previous to this on February 24th the Russian Ambassador in his confidential memorandum to Baron Makino stated that according to the information received by the Russian Government the Chinese authorities had taken steps during last autumn and winter for the organization of new military detachments in Northern Manchuria and that the Russian Government deemed it necessary to warn the Chinese Government that if the increase of their troops in the said region should not be stopped, Russia shall be obliged to make such

四七一

counter-move as may be necessary for the protection of the Eastern Chinese Railway and of the Russian residents in the said railway zone. The information then in possession of the Imperial Government showed that during last year the revolt of Hurumpir which was followed by that of Wutai, Prince of a banner of Inner Mongolia, caused certain activities of Chinese troops in Northern Manchuria and that shortly ago this year when Northern Manchuria suffered from the unruly "houng-houtze" brigands the Chinese authorities, in response to the call of the Japanese, Russian and British Consuls-General in Harbin, again moved their troops which apparently had done much of late in pacifying the afflicted region. Lacking however any further information on the subject, the Imperial Government were endeavoring to obtain as far as possible exact facts on the situation, when they had the honor of receiving the second memorandum from the Russian Ambassador. The Imperial Government, in view of the serious nature of the subject, having considered it advisable to approach the Chinese Government at once, instructed Mr. Ijain at Peking to ascertain directly of the Chinese Government the actual facts about the

disposition of the Chinese troops in Northern Manchuria. According to the reply which the Wai-chiao-pu gave Mr. Ijain on the authority of the Luchunpu, total number of officers and men in various stations within Amur province from Tsitsihar in the west to Changchun and within Kirin province from Changchun to Ninguta in the east are respectively 5,163 and 5,361, thus making the entire force of the Chinese troops from the west to the east in the said region including both the National (Lu-chun) and Provincial troops (Hsun-fang-tui) not more than 11,832. In this connection the Foreign Minister Mr. Lu further assured Mr. Ijain that the Chinese Government have not the slightest intention to create cause of trouble to the Russian Government and requested him to ask the Imperial Government to transmit this assurance to the Russian Government.

In thanking the Russian Government for asking an expression of their view on the subject, the Imperial Government have now the honor, in compliance with the request of the Chinese Government, to transmit the above assurance to the Russian Government. It may be added in this connection that the Imperial Govern-

ment cannot take the responsibility for this assurance of the Chinese Government nor have means of verifying the figures given above, but they will not fail to communicate with the Russian Government if they receive any further information bearing on this subject.

註 右覚書ハ牧野外務大臣ヨリ四月九日露国大使ニ手交セラレタリ

三六〇 四月九日 牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使及在中國伊集院  
公使宛(電報)

中国ノ北滿増兵ニ関スル露國ノ申出ニ対シ回

答ノ件

第五九号(田付宛)  
第一九四号(伊集院宛)

往電第五五号(田付)  
第一五七号(伊集院) ニ關シ帝國政府ノ回答ヲ覚書ニ  
認メ四月九日在本邦露国大使ニ手交シ(該覚書ニハ先ツ帝  
国政府ハ三月二十九日付露国大使覚書ニ対シ篤ト考慮ヲ加  
ヘタル旨ヲ述べタル後溯リテ二月二十四日同大使申出ノ次  
第ヲ略記シ次に別電第六〇号(田付)  
第六〇号(伊集院) ノ通認メタリ)

右覚書末段保証ノ義ハ帝國政府ニ於テ支那政府ノ為露国政  
府ニ対シ責任ヲ負フコトヲ得サルハ勿論ナルモ支那政府ニ

一五 露蒙協約關係一件 三六〇 三六一

於テ帝國政府ニ向テ右露国政府ニ取次方依頼シタル以上支  
那政府ニ於テ固ヨリ十分責任ヲ負ハサルベカラサル次第ニ  
シテ其責任ノ重大ナルコトハ當時在北京帝國公使ヨリ支那  
当局ニ注意シタルコトノ察セラルノ旨ヲ附言シタルニ露国  
大使ハ帝國政府ノ回答ニ謝意ヲ表シ露国政府ニ伝達スベシ  
ト述べタリ

(田付ハ) 右往電第五五号通り転報アリタシ

註 別電ハ前掲英文覚書ノ第一節及第二節ノ前段 Previous  
Russian residents in the said railway Zone. 迄  
ヲ略シ The information then 以下全文ナリ省略ス

三六一 四月十日 牧野外務大臣ヨリ  
在奉天落合總領事及在哈爾濱本多總領事  
宛

中国ノ北滿増兵ニ関スル露國ノ申出ニ対シ回

答ノ件

機密送第六二号  
(在奉天落合總領事宛)

機密送第二七号

(在哈爾濱本多總領事宛)

本件ニ関スル三月廿九日付在本邦露国大使ノ覚書写ハ四月

四七三

八日付機密送第五七号(但シ本多総領事へハ機密送第二二号)ヲ以テ及御送付置候処右ニ対シ本月九日別紙写ノ通同大使へ回答致候間委細右ニテ御了知相成度此段申進候也

註 別紙四月九日付露国大使宛回答書(英文)写前出ニ付省略ス

三六二 四月十日 牧野外務大臣ヨリ 在齊々哈爾吉原領事館事務代理宛

中国ノ北滿増兵ニ関スル露国ノ申出ニ対シ回

答ノ件

機密送第二二号

本件ニ関シ三月二十九日在本邦露国大使申出ノ大要ハ四月七日付機密送第二二号ヲ以テ及御通報置候処右ニ対シ本月九日別紙写ノ通露国大使ニ回答致候間委細ハ右ニテ御了知相成度此段申進候也

註 別紙トシテ四月九日露国大使へ手交ノ回答(英文)ノ原案邦文ヲ添附セリ省略ス

三六三 四月十五日 在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛

北滿洲支那増兵ニ対スル露国ノ関心及支那承

認問題ニ関シ外務省極東課長ト会談ノ件

機密往第一一号 (四月二十九日接受)

大正二年四月十五日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

近来支那政府カ北滿州地方ニ増兵ヲ計リツ、アルコトハ少カラス露国政府ノ神經ヲ刺撃シツ、アルハ既ニ御承知ノ通りニ有之其結果曩ニ在本邦露国大使ヨリ本件ニ関シ本邦政府ノ意嚮問合ヲ見ルニ至リ之ニ対シテハ貴電第五九号所載ノ覚書ノ通り在本邦露国大使へ御回答ノ次第モ有之候ニ付数日前他用ヲ兼ね且往電第三三三号ノ關係モ有之旁当国外務省極東課長「コザコフ」氏ト会見本邦政府ノ回答ニ対スル同氏ノ所見ヲ叩キ候処同氏ハ之ニ答ヘテ今回在本邦露国大使ヲシテ為サシメタル本件問合ニ関シ今後支那カ続々滿洲ニ増兵スル場合ニ於テ之ニ対シテ将来執ルルヘキ日本政府ノ態度ヲ知ルヲ得タリシナラハ誠ニ満足スル処ナリシモ今回ノ御回答ノ趣旨ハ支那政府ヨリモ屢々露国ニ保障シタル処ニシテ遺憾ナカラ露国ハ之ニヨリ未タ意ヲ安スルヲ得ス

トナシ居ルコトハ英国政府ヨリ露国ニ交付セル同国政府ノ覚書ニ明記シアルモ露国ハ敢テ如此声明ヲ為シタルコトナク只タ今日マテハ支那政府承認問題ト蒙古問題トハ別々ニ処置シ来レルナリト述ヘ居候

右御参考迄申進候 敬具

三六四 四月十五日 在露国田付臨時代理大使宛(電報)

北滿ノ支那増兵ニ関スル露国ノ憂慮ニ鑑ミ我

方ノ对支措置振露国当局者ニ説明方訓令ノ件

第六三号

貴電第三三三号末段ニ関シ帝国政府ノ回答ハ往電第五九号及第六〇号ヲ以テ御承知ノ通ナルガ在奉天総領事竝青木少將等ノ調査ノ結果ハ露国側ノ憂慮スルガ如キ増兵ノ事実ナキコトニ一致シ居リ尚多少増兵セリトスルモ主トシテ南滿州方面ナルヲ以テ此關係ヨリ云ヘハ之ヲ憂フヘキハ露国側ヨリモ寧ロ日本側ナルヘキ筈ナル処支那ノ内情ニ顧ミレハ此際他国ト難ヲ構フルガ如キ余裕アルベシトハ認メラレズ乍去帝国政府ニ於テハ露国側ノ憂慮ニ鑑ミ支那側ヲシテ保証ヲ与フルコト、ナサシメタルノミナラズ從來伊集院公使ヲ

ト述ヘタルニ付本官ハ然ラハ本件ニ付露国ハ如何ナル措置ニ出テラルヘキヤト尋ネタルニ同課長ハ露国政府ノ得タル確カナル情報ニ依レハ今ヤ支那ハ奉天ヨリ一ヶ師團ノ兵ヲ北滿州ニ派遣セントスル計画アルカ如クナルカ若果シテ本計画ノ実行ヲ見ルカ如キコトアラハ由々敷大事ナルヲ以テ露国ハ到底之ヲ看過スルコト能ハス仍テ在北京露国公使ヲシテ支那政府ニ対シ其計畫中止方ニ関シ抗議セシメツ、アリ若支那ニシテ我抗議ヲ聴カサル場合ニハ更ニ之ニ対シ露国ノ執ルヘキ態度ニ付キ考慮ヲ加フル積リニテ目下支那政府ノ回答ヲ待チツ、アリト答ヘ候本官ハ更ニ全体北滿州ニ於ケル支那ノ兵力ニ付テハ露国側ノ情報ハ或ハ稍々事実ヲ誇大セル嫌ナキニアラスヤト反問シタルニ同課長ハ露国政府ハ各方面ニ特派シアル官憲ヨリ情報ヲ得ルヲ以テ其確實ナルコトハ之ヲ疑ハスト雖モ軍人側ノ情報カ時ニ多少神經過敏的ナルハ免ル、能ハスト云ヘリ次ニ本官ハ会谈ノ序ヲ以テ英国カ西藏問題ノ先決ヲ以テ支那政府承認ノ条件トナシタリトノ噂アルモ露国モ之ト同様ニ蒙古問題ノ解決ヲ以テ支那政府承認ノ条件トサル、内意アルニアラスヤト尋ネタルニ同課長ハ英国カ西藏問題ヲ以テ支那政府承認ノ条件

シテ再三支那政府ニ向テ出先官憲及軍隊ニ戒飭ヲ与フル様注意セシメタルニ付貴官ハ適當ノ機会ニ露国当局者ニ我カ誠意ノ在ル所ヲ諒解セシムル様御配慮相成度シ尚ホ四月十日在本邦露国大使來訪露国外務大臣ヨリノ内報ニヨレハ露国側ニテ入手シタル東清鐵道沿線ニ於ケル支那兵力ハ哈爾濱以西即チ齊々哈爾濱都訥及洮南府ノ北部地方計一萬一千百十九(一一、一一九)哈爾濱以東即チ呼蘭城阿什河寧古塔及琿春地方計九千三百二十七(九、三二七)ナル旨竝在北京露国公使ノ報道ニ依レハ奉天省ヨリ黑龍江省ニ向ケ一師團ノ兵移動中ナル趣ヲ語リタルガ右一師團移動ノ如キハ落合ノ回報ニヨレバ其事實ナキモノ、如シ御參考迄申添ユ

三六五 四月十八日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

日本ハ露支間ノ調停ニ立ツ意思ナキ旨英國公使ニ談話ノ件

第三一六号

四月十八日他用ヲ以テ英國公使ニ面会ノ節日本國カ蒙古ニ関シ露支間ニ立チテ居中調停シ居ルヤニ仄聞シタル旨申出テタルニ付本使ハ英國側ニ對シ強テ秘スルハ却テ面白カラ決テ凶ルノ可ナルコトヲ屢々注意シ來レルガ故支那側ニ於テ帝國政府ノ趣旨ヲ誤解スヘキ筈ナシト充分説明シ置ケリ就テハ右御含ノ上必要ニ応シ露国当局ニ適當ノ説明ヲ与ヘラレタシ

尚本大臣一己ノ感想トシテ外蒙古問題ノ如キハ支那ノ面目ノ立ツ方法ヲ発見セハ解決必スシモ困難ナラサルヘシト述ヘシニ大使ハ露国ハ支那ノ宗主權ヲ認ムルコト、セルモ尚解決困難ナリト語リシニ因リ本大臣ハ例ヘハ宗主權ト主權トノ中間ニ於テ調和ノ途ヲ得ハ可ナランカト思ハル、旨附言シ置ケリ御參考迄申添ユ  
右英仏ニ転電シ其他各大使ヘ郵報アレ

三六七 四月二十一日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古問題ヲ繞ル中露宣戰ノ謠言取締ニ関スル  
黑龍江都督及大總統間ノ往復電報新聞掲載ノ件

公第一三四号

(五月五日接受)

大正二年四月二十一日

在清国

一五 露蒙協約關係一件 三六七

スト思考シ大体ノ成行ヲ語り支那ノ申出ヲ単ニ露国政府ニ取次キタルニ止マリ何等責任ヲ執ル訳ニアラス又露支兩國間ニ居中調停ノ勞ヲ取ル如キハ時期ニアラサルニ付帝國政府ハ勿論斯ノ如キヲ有セスト述ヘ置キタリ御含迄

三六六 四月二十一日

牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

中国新政府承認ニ関スル日本ノ對列強提議ハ  
露蒙問題ノ解決ヲ阻害セザル旨在本邦露国大使ヘ説明ノ件

第六七号

在英臨時代理大使宛拙電第六七及六八号ニ関シ四月廿一日在本邦露国大使ヲ招キ本件列強ヘノ提議ハ露国政府ニ對シテハ貴官ヨリ申入ル、様電訓シタルモ不取敢大使ノ參考迄内報スル旨ヲ述ヘ右六八号ノ英文写ヲ手交セリ  
大使ハ日本ヨリ此提議アリタルコトヲ支那ニ於テ知ラハ蒙古問題ノ如キニ付益々露国ニ對シテ強硬トナリ解決ニ一層困難ヲ生スルノ虞アルヘシト述ヘシニ付本大臣ハ否右様ノ憂アルヘキ筈ナシ伊集院公使ハ從來支那当局ニ對シ外蒙古問題ニ付露国ト妥協スルノ必要ナルコト及成ルヘク速ニ解

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本日ノ民国日報(元中国日報)ニ哈爾濱駐在黒龍江省交涉局總辦李鴻謨方三月二十八日蒙古問題ニ関シ同地東清鐵道總辦「ホルワット」トノ間ニシタル問答始末ヲ黒龍江都督ニ報告シ同都督ヨリ大總統ニ転電シタルモノ及ビ之ニ對スル訓電ヲ掲載致候処右談話ハ主トシテ「ホルワット」ヨリ征蒙ニ関スル支那新聞ノ記事取締方ヲ要求スルト共ニ黒龍江省ニ於ケル動兵ニ関スル苦情ヲ陳ベタルモノナルガ同時ニ同人ト「マルチノフ」トノ間ニ於ケル黒龍江省占領論ニ對スル異議、蒙古ヲ以テ露支ノ中間地帯トスル説、露国ハ第三者ノ調停ニヨリテハ讓歩スベシトノ見込等露国側内情ニ関スル機密事項ニ涉ルモノ多ク其ノ真意如何ハ兎ニ角露国平和派要路ノ所説トシテ參考ニ資スルニ足ルモノニ有之右電文モ略ホ確實ナルモノト被認候ニ付全文反訳ノ上送附致候ニ付御査閲相成度此段報告申進候 敬具

中露宣戰謠言ニ関スル黒龍江都督宋小濂ヨリ大總統ヘノ電報

在哈爾濱黒龍江交涉局總辦李鴻謨ヨリ左ノ如キ報告ニ接セ

リ

三月二十八日鐵路公司總辦「ホルワット」氏ニ面会シテ談該公司ノ石炭税未納ノ事ニ及ビシニ

「ホルワット」氏曰ク、税金ハ公司ニテ決シテ納付セズト云フニ非ズ惟ダ該金ヲ納付スルトキハ直ニ銃砲購費用ニ供セラルベク且下中露宣戰ノ謠言ノ喧伝サル、場合中國ニ於テ銃砲ヲ増加スルハ露國ニ取リテハ不利ナルヲ恐ルレバ也

答ヘテ曰ク、宣戰ノ謠言ニ関シテハ已ニ都督ヨリ之ヲ嚴禁セリ又書面ヲ以テ其ノ旨貴國黑龍江總督ニ通知シ且ツ決シテ宣戰ノ拳無キコトヲ保証シタリ都督ハ現狀維持ヲ主トスルモノナレバ是レ当然ノコトナルベシ若シ仮リニ宣戰ノ準備アリトスルモ其ノ費用ハ巨額ヲ要シ僅カニ數万ノ石炭税ノミニテハ何ノ用ヲモ為ザルベシ且ツ黑龍江省ニテ此ノ税金ヲ得テ軍器ヲ購買増加スルモ其ノ購フトコロ幾何モナカルベク果シテ斯クノ如キ軍備ヲ以テ能ク戰爭ヲ為シ得ベキヤ

「ホ」氏曰ク、余ハ貴總辦ノ言ヲ深ク信ズ余モ亦タ現狀維持ヲ主トスルモノナリ前キニ「マルチノフ」主戰論ヲ

ヲ弁ズルモ何人モ之ヲ信ゼザルヲ如何トモスルナシ

答ヘテ曰ク、吉林、黑龍江兩省ニ於ケル軍隊ノ布置ハ或ハ交代或ハ匪徒討伐ノ為メニシテ其ノ原因一ナラザルモ決シテ露國ト宣戰スル準備ノタメニ非ズ吉林軍ノ負傷兵ノ黑龍江省ニ至レルハ行賞ニ関スル傷状姓名等ヲ調査スル為メナリ若シ戰備ノ為メナラバ豈此等ノ負傷兵ヲ用フルノ理アラシヤ且ツ僅々四十人ナリ假令負傷セズトスルモ一面ニモ当ルニ足ラズ貴總辦冷靜ニ之ヲ思考アラバ必ズ釈然タルモノアラシ

「ホ」氏曰ク、貴君ノ言フ所一応尤モナリ思フニ中露ノ邦交ハ別ニ何等ノ惡念アルニアラズ宣戰ノ謠言ノ生ズル所以ハ單ニ庫倫問題ノ為メノミ未開ノ蒙人及瘠苦ノ蒙地ハ中國ニ屬スルモ露國ニ屬スルモ何等國力ニ關係アルニ非ズ然ルニ中國ガ全力ヲ挙ゲテ之ヲ争フハ畢竟無用ノ事ナリ

答ヘテ曰ク、然レドモ蒙古ハ中國ノ領土タリ蒙人ノ外國ニ帰服スルハ即チ叛逆ナレバ中國ニ於テ之ヲ度外視スルコト能ハズ露蒙協約ハ締結ニ先ツテ之ヲ中國ニ交渉セズ実ニ公法ニ背クモノナリ

主張シテ余ト意見合ハズ露都ニ帰りテ後余ヲ懦弱無能ト詆レリ然レドモ余ハ尚ホ非戰論ヲ持シテ平和維持ヲ主張シ各方面ニ対シ主戰説ノ不可ナルヲ論争シ且ツ中國ノ為メニ其ノ宣戰ノ意ナキコトヲモ証明シツ、アリ惟ダ中國ノ各報紙ハ主戰ヲ鼓吹スルニ余力ヲ遺サズ而シテ近日黑龍江ニ於ケル軍隊分布ノ状態ヲ見ルニ將ニ宣戰セントスルノ勢アリ余ノ聞ク所ヲ以テスレバ其ノ中一隊ハ黑龍江省ノ草地ヲ出發シテ北、呼倫方面ニ向ヒ一隊ハ綏化ヲ出發シ一隊ハ洮南ニ赴ケル如シ吉林省ニ於テモ琿春地方ノ如キハ前キニ兵隊ヲ駐屯セシメザリシニ近頃一隊ヲ派遣シ又綏化ニ於テ匪徒ヲ討伐セル吉林軍ハ負傷者四十余名ヲ出ダシ一旦綏化ヨリ吉林ニ送還セラレタルニ更ニ引キ還シテ黑龍江省ニ入り来リタルアリ又露曆三月十日ニ支那兵四百余名昂々馱ヲ距ル六露里ノ地ヲ北ヨリ南ニ鉄道ヲ横ギリタリコノ鉄道横斷進行ノ事ニ関シテハ未ダ何等露國役員ト協商セズ故ニ論者ハ是レ皆露國ト宣戰ノ形勢アルモノナリト謂フ余ハ極力平和ヲ主張スト雖政府及ペテルブルグ、哈爾濱各地ノ政治家軍人等ハ之レニ反對シ余ハ實ニ之ニ対スルノ辭無キニ苦シム假令詞ヲ設ケテ之

「ホ」氏曰ク、露國ニ於テハ協約既ニ定マレルノミナラズ又之ヲ保護セザルベカラザル位置ニアリ然レドモ鄙見ヲ以テ中國ノ為メニ計レバ仍ホ平和ニ解決スルニ如カズ試ニ問フ中國ノ兵力財力ハ如何、余當國ニアルコト多年貴國ノ実情ハ深ク承知スルトコロナリ要スルニ國交關係ハ輕拳妄動ヲ許サズ前キニ「マルチノフ」曾ツテ名ヲ黑龍江匪徒討伐ニ籍リテ直ニ綏化ヲ占領シ更ニ進ンデ省城ヲ占領センコトヲ建議シタルモ自分ハ黑龍江省ヲ占領スルモ尚ホ國際上ノ解決困難ナレバトテ力メテ其ノ議ヲ駁シタリ是レ亦タ敢テ輕拳妄動セザルノ意ナリ然ルニ中國ニ於テ征蒙論ノ喧伝サル、ハ露國ト戰端ヲ開カントスルモノナルベキモ何等ノ勝算アルヤヲ知ラズ國勢ヲ以テ比較スレバ中國ハ戰ヘバ必ズ敗レン敗ルレバ必ズ分割ノ禍起ラン貴君ト余トハ相識多年ナレバ余ハ決シテ空言ヲ以テ恫嚇スルニ非ズ實ニ中國ノ為メニ計リテ開戰ノ不利ナルヲ信ズルモノナリ

答ヘテ曰ク、甘ンジテ領土ヲ外國ニ讓ルハ國家ノ大辱ナリ

「ホ」氏曰ク、蒙古ハ已ニ獨立セリ將來ノ平和解決ノ法

ハ中露兩國共ニ蒙古ヲ度外ニ置キ之ヲ以テ兩國ノ中間地帯ト為スニ如カズ

答ヘテ曰ク、朝鮮ハ已ニ前者ノ鑑ナリ中国ハ再ビ人ノ愚弄ヲ受クル能ハズ惟ダ平和解決ノコトハ何人モ之ヲ希望スルトコロナリ都督モ亦此ノ意ヲ主持シツ、アリ

「ホ」氏曰ク、中国ニ果シテ平和ヲ希望スルノ意アラバ再ビ宣戦ノ状態ヲ呈セシムベカラズ各新聞紙ノ記事ニ対シテモ宜シク取締ルトコロアルベシ然ラザレバ露国ヲシテ同時ニ宣戦ノ準備ヲナサシメ遂ニ宣戦ノ事実ヲ醸成スルニ至ルベシ

答ヘテ曰ク、露国側ニ於テモ亦タ宣戦ノ状態ヲ發現セシムルコトナク又新聞紙ヲモ取締ラレタシ

「ホ」氏曰ク、中国若シ平和ヲ希望スル実地アラバ余ハ露国政府及駐北京露国公使ニ報告シテ平和解決ノタメニ調停ノ勞ヲ取ラシムベシ

答ヘテ曰ク、平和解決ハ一方面ノミノコトニ非ズ露国ヨリ先キニ讓歩スレバ即チ調停シ易シ

「ホ」氏曰ク、露国ハ騎虎ノ勢止ムベカラザルノ状態ニアリ但ダ第三者ノ出デ、調停スルモノアレバ務メテ讓歩

軍事情態ハ業已ニ李鴻章ニ電告シ誠実ニ「ホルワット」氏ニ告知セシムル様取計ヲヒタレバ同氏モ定メテ釈然タルモノアルベキモ尚ホ内務部ヲシテ各省ニ通令シテ各報紙ノ軍事外交ニ関スル記事ヲ取締ラシメ同時ニ外交部ヨリ露国公使ニ其ノ旨切実ニ声明シテ誤解ナカラシメンコトヲ取り計ラハレタク現ニ本省綏海一帶匪徒擾乱ノ善後処分ヲ要スルコトアルニツキ本都督ハ該地方巡視ノ名義ヲ以テ哈爾濱ニ赴キ「ホルワット」氏ト面談シテ意見ノ疎通ヲ計ルベク右哈爾濱交涉局ニ電報スルト共ニ此段報告ニ及ブモノナリ云々

四月五日 宋小濂

前電ニ対シ國務院ヨリ宋都督ヘノ返電、

五日發電報ノ件閱悉内務部ヨリ各省ニ通電セシメ新聞社ヲ取締リ軍事外交ニ関スル記事ヲ登載スルコトヲ禁ゼシメ同時ニ外交部ヨリ露公使ニ対シテモ切実ニ声言セシムルトコロアリタリ「ホルワット」氏ハ中露交渉ニ対シテ平和ヲ主トスルモノナレバ貴都督ハ哈爾濱往訪ノ際中国ハ決シテ戰意ナケレバ誤解ナカラシムコトヲ乞フ旨ヲ告ゲテ以テ感情ノ融和ヲ期セラル、コト緊要ナリ右大總統ノ命ニ依リ返電ス

スペイン且ツ露国下院ハ宣戦ノ拳ニ賛成セズ此ノ趣都督ニ報告シテ平和ヲ維持セラル、様力アリタシ云々

査スルニ黒竜江省軍隊ノ呼倫及洮南ニ向フテ出發シタル等ノ事實ハ更ニ無之緩化ニ赴ケル兵モ全ク匪徒討伐ノ為メニシテ何等ノ國際的關係アルニアラズ吉林軍匪徒討伐ノ為メニ負傷セルモノ八十余人ニ過ギズシテ四十余人黒竜江省ニ引キ還シタルコト無シ昂々駈附近通過ノ軍隊モ巡防交代ノ兵ニシテ毎次出發スルモノ一人或ハ四人ニ過ギズ四百余人ノ多数ニ及ビタルコト無シ且ツ常例ノコトニシテ特ニ宣戦ノ為メト推測サル、理無シ近來露人常ニ人ヲ各所ニ派シテ偵察ニ從事セシメ無頼ノ中国人往々ニシテ其ノ利益ヲ貪リ謠言ヲ作りテ聽聞ヲ聳動センコトヲ図ルモノアリ以上ノ各項ハ想フニ皆露探中国人ノ誤報セルモノナルベシ

「ホルワット」總辦ハ元來平和ヲ主トシ其ノ談話ハ誠意ニ出ヅ現ニ国内浮囂ノ士極力征蒙ヲ鼓吹シ各報紙亦其ノ事ヲ特筆大書シツ、アリ或ハ某人ヲ征庫司令官ト為ストカ或ハ某軍某所ヲ進發セントカ風声鶴唳拳国狂セルガ如ク恰モ真ニ宣戦ノ事アルガ如シ若シ外人之ニ口実ヲ設ケテ兵ヲ進メバ必ズ大局ヲ誤リ黒竜江省ハ其ノ衝ニ当ルニ至ラン本省ノ

四月八日 國務院

三六八 四月二十二日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛(電報)

中国新政府承認ニ際シ外蒙古等中国領域ノ明示問題起ル可能性ノ有無ニ付在本邦露国大使ト談話ノ件

第二一六号

往電第二一五号ニ関シ

露国大使ハ尚支那政府ハ承認ノ際列国ヲシテ支那領土ノ疆域ヲ明カニ認メシムルコトヲ希望スルガ如キコトナキヤト尋ネタルニ付本大臣ハ右様ノコトハ有之間敷承認ノ文句ハ列国ノ決スル所ナレハ支那ヨリ仮令希望アルトモ省ミルニ及ハサルヘシト述ヘ置ケリ御參考迄ニ追報ス  
察スルニ大使ハ外蒙古問題ヲ懸念スルモノナルヘキモ支那側ニ於テ果シテ大使ノ尋ネタルガ如キ意嚮アリト認メラル、事實アリヤ心当リノ節ハ回報アリタシ

註 伊集院公使宛往電第二一五号ハ前出在露代理大使宛第六七号ノ転電ナリ

三六九 四月二十二日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉ハ蒙古独立取消問題ニ

於テ意見未ダ一致セザル件

第三二八号

四月二十二日日本官他用ヲ以テ陸外交総長ト会見ノ序ニ露蒙協約其後ノ成行ヲ尋ネタルニ陸ハ既ニ大難ニ於テ協議纏マリタルモ庫倫独立取消ノ一条ニ付未ダ露国ノ同意ヲ得ルニ至ラス但シ露国政府ニ於テハ支那政府ト条約締結ノ結果トシテ事實上取消サレタルコト、ナル訳ナリト云ヒ居ルモ支那側ヨリセハ若シ独立取消ヲ承認スルトノ文字ヲ明白ニ条約中ニ存セシムルニアラサレハ輿論ノ沸騰ヲ制止スルニ由ナク如何ナル騒動ヲ惹起スルヤモ計リ難キニ付是非トモ露国ヲシテ承諾セシメタキ希望ニシテ折角回答ヲ待チツ、アリ此点サヘ決定セハ直チニ全部解決スル管ナリト云ヘリ右ハ当国目下ノ状況ニ鑑ミ至極尤モノ義ト存セラル、ニ付何等好機會ノ折夫レトナク露国当局ヘ御勸告ノ義相叶ヒナハ支那ノ為好都合ナラン

側ニ通知スル積リ更ニ無之ニ付蒙古問題ニ影響スヘシトノ懸念ハ杞憂ニ過キスト思料スル旨ヲ述ヘタルニ同公使モ同感ニシテ斯ル懸念ハナカルヘシト云ヘリ尚本使ハ貴電第二一六号露国大使ノ懸念ニ関シ承認ノ方式条件等ハ在北京外国公使ノ間ニ議定シ支那政府ニ通知スレバ然ルベキナレハ境界問題等ヲ支那側ヨリ提起スヘキ機會ナク又支那当局者ニ於テモ斯ル考ハ懐キ居ラサルヘシト述ヘタルニ露国公使ハ之ニモ同感ニシテ境界問題ノ提起ハ承認ニ関スル支那ノ地位ヲ自ラ困難ニスルノミニテ何等利益ナキニ付支那政府ヨリ提起スルカ如キコトハ思ヒモ寄ラズト述ベ本使ハ右懸念ハ多分露国大使ガ我外務大臣ト会谈中当座ノ思付キニテ申出ラレタルニ外ナラサルベシト答置ケリ御参考迄

三七一 四月二十四日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

中国ノ北滿増兵問題ニ関スル露支間ノ交渉ニ

付露国外務省極東課長ノ談話報告ノ件

機密往第一二号

大正二年四月二十四日

在露

一五 露蒙協約關係一件 三七一

(五月十一日接受)

三七〇 四月二十四日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉ノ現状及中国新政府承認ノ我提案ガ右交渉ヲ阻害スル虞ナキコトニ

付在北京露国公使ト意見交換ノ件

第三三七号

四月二十四日他用ヲ以テ露国公使ト会谈ノ際蒙古問題ニ関スル露支交渉ノ現状ヲ尋ネタルニ同公使ノ答ニ依レハ交渉ハ順当ニ進ミツツアルモ尚二三ノ点ニ於テ折合ハサルモノアリ陸総長ハ大体ニ於テ露国側ノ意志ヲ了解シ居リ國務院ノ同僚トモ相談ノ上決定スヘシト云居ルモ未ダ決定ニ至ラストノコトニ付本使ハ国会成立セバ其協賛ヲ求ムルノ必要ヲ生スベク容易ニ纏マラサルヘキニ付此際相当ノ処ニテ支那ノ面目モ立テ交渉ヲ纏ムルコト利益ナランカト私見ヲ述ヘタルニ同公使ハ自分モ同様ノ考ヲ有シ折角其方針ニテ交渉シ居ル次第ナリト云ヘリ依テ本使ハ貴電第二一五号露国大使懸念ノ次第ヲ語り日本国政府ハ此場合承認ニ関シ日本国ガ列強ニ為シタル提議ヲ支那側ニ知ラシムルノ必要ヲ認メズ又今後トテモ承認ニ関シ列強間意見交換ノ内情ヲ支那

臨時代理大使 田 付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ極東課長「カザコフ」氏ト会谈ノ要領ハ本年四月十五日附機密往第一一号ヲ以テ及御報告置候処其後貴電第六三号接到シタルニ付更ニ「カザコフ」氏ヲ訪問シテ御來電ノ趣旨ヲ説明シ同時ニ其後本件ニ関スル露清兩國交渉ノ成行ヲ相尋ネ候処「カザコフ」氏ハ答ヘテ曰ク過日御話セシ奉天ヨリ一師団送兵ノ件ハ其後事實無根ナルコトヲ確知シタリ然レトモ露国ハ北滿洲ニ於ケル支那ノ兵力ニ関シテハ現今並ニ將來ニ向テ甚タ不安ノ念ニ堪ヘサルモノアルニ依リ北滿洲各地ニ於ケル支那兵ノ情態ヲ实地視察スル案ヲ立テ露清兩國士官ヲシテ相携ヘテ各地ヲ巡視セシメンコトヲ支那政府ニ提議セリ同政府ニシテ右提案ニ同意シ兩國士官巡視ノ結果支那兵數カ果シテ支那政府ノ公言スル通りナラハ則チ可ナルモ若支那政府ニ於テ事實ヲ隱蔽セル形迹アルカ又ハ兩國士官ノ巡視ヲ肯ンセサル如キコトアラハ支那政府ノ誠意ハ充分之ヲ疑フニ足ルカ故ニ露国ハ更ニ進ンテ積極的措置ヲ執ラサルヘカラサルニ至ルヘク其措置トシテ目下考察中ニ属スルモノハ一九〇二年ノ滿洲ニ於ケル兵



力ニ関スル露清間ノ協約ニ関シ更ニ協議ヲ重ネンコトヲ計ルニアリ素ト同協約ニ依リ露清兩國ハ滿洲ニ於ケル露国駐屯兵数ノ最大数ヲ協定スル管ナリシモ偶日露戦争ノ起リタルカ為メ右ハ遂ニ其儘トナリ今日ニ至リタル次第ナルカ露国ハ先右協約ニ立戻リ兵数ノ協定ヲ為スカ又ハ若支那政府之ヲ聴カスンハ支那兵ニ對抗スル丈ケノ兵力ヲ増加スルカノ二途其一ニ出テサルヘカラスヤト考フ兎モ角陸軍側ノ意嚮ニテハ現今ノ状態ニテハ到底鉄道線路ノ安固ヲ保チ難シトスルニ一致セリ尤モ露清兩國士官ノ巡視ノコトハ露国政府ノ案トシテ正式ニ提議セシメタルニアラスシテ在北京露国公使「クルペンスキー」氏ノ思付トシテ支那政府ニ内話セシメタルモノナルモ今日ニ至ル迄未タ何等ノ回答ヲ得スト

右前回ノ統報トシテ御参考迄申進候 敬具

三七二 四月二十五日 牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉ノ状況及右交渉ハ中国  
政府承認問題ト関連セザルベキコトニ付在本  
邦及中国露国大公使トノ会談通報ノ件

伊集院公使ニ対シ露蒙協約問題交渉ハ已ニ大体ニ於テ協議纏マリタルモ条約中ニ庫倫独立取消承認ノ一条ヲ入ル、コトニ付未タ露国ノ同意ヲ得ルニ至ラス尤モ露国政府ニ於テハ支那政府ト条約締結ノ結果事実上右独立取消トナル訳ナリト称シ居レリト内話シタリ

在英大使ニ電報シ他ノ各大使ニ郵報アリタシ

三七三 四月二十五日 牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

北満ノ支那増兵ニ関スル我方ノ対支措置振至  
急露国当局者ニ説明方ノ件

第七二号  
往電第六三号ニ関シ

北満支那増兵問題ニ付貴官ハ帝國政府ノ誠意配慮シタル次第ヲ露国当局者ニ諒解セシムルノ措置ヲ執ラレタルヤ若シ未ダナラバ成ルベク早キ機会ニ右取計アリタク尚往電第六〇号(註)露国大使ヘノ回答写モ為念先方ヘ示サレタシ

註 牧野外務大臣宛田付臨時代理大使宛往電第六〇号ニ付テハ  
三六〇文書ノ註及三五九文書参照

第七一号  
往電第六七号会谈ノ節露国大使ハ支那政府ハ承認ノ際列国ヲシテ支那領土ノ疆域ヲ明ラカニ認メシムルコトヲ希望スルガ如キコトナキヤト尋ネタルニ付本大臣ハ右様ノコトハ有之間敷承認ノ文句ハ列国ノ決スル所ナレハ支那ヨリ仮令希望アルトモ省ミルニ及ハサルヘシト述ヘ置キタル処四月二十四日在北京露国公使ハ伊集院公使ノ問ニ対シ露蒙協約問題ニ関スル露支交渉ハ順当ニ進ミツ、アルモ尚二三ノ点ニ於テ折合付カサル旨ヲ答ヘタルニ付伊集院公使ハ往電第六七号在本邦露国大使懸念ノ次第ヲ語り日本国政府ハ承認ニ関スル提議並列強間意見交換ノ内情ヲ支那側ニ通知スル積ナキニ付蒙古問題ニ影響スル管ナキ旨ヲ述ヘ又本電冒頭露国大使ノ懸念ニ関シ承認ノ方式条件等ハ在北京公使間ニ於テ議定シ支那政府ニ通告スレハ足ルヘキ故境界問題等ヲ支那側ヨリ提起スヘキ機会ナク又支那当局者ニ於テモ斯ル考ハ懐キ居ラサルヘシト述ヘタルニ露国公使モ全然同公使ノ説ニ同感ヲ表シ且境界問題ノ提起ハ承認ニ関スル支那ノ地位ヲ自ら困難ニスルノミニ付支那側ヨリ之ヲ提起スルカ如キハ思ヒモ寄ラズト語レリ尚四月二十二日陸外交総長モ

三七四 四月二十八日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国ノ北満増兵問題ニ関シ我方ノ好意的斡旋  
ニ付「コザコフ」ニ説明ノ件

第三九号

貴電第六三号ノ趣ハ外務当局者ニ申入置其結果ハ四月二十四日機密第一二号拙信ヲ以テ報告シ置キタル通りナリ然ルニ今回貴電第七二号接到シタルニ付四月廿八日「コザコフ」氏ニ面会ノ序ヲ以テ我政府ノ好意的斡旋ニ付重テ説明ヲ与ヘタルニ同氏ハ我政府ノ好意ハ之ヲ感謝ス然レトモ支那ハ不相變増兵ノ実ヲ挙ケンコトヲ努メ現ニ民兵ヲ正兵ニ組変ヘントセリ是露国ノ不安ヲ感スル所ナリト云ヘリ貴電第六〇号ノ全部ハ露国当局者既ニ入手シ居リシニヨリ内示ヲ見合セタリ委細公信ニテ申進スヘシ

三七五 四月二十九日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国政府承認ニ関スル日本ノ提議及蒙古ニ関  
スル蒙支交渉ニ付「コザコフ」氏ト会谈ノ件

第四〇号

四月廿八日「コザコフ」氏ニ面会ノ序ヲ以テ承認問題ニ関シ露国ノ回答ニ付何等聞クコトヲ得ヘキヤト尋ネタルニ同氏ハ未タ英仏ヨリ回電ナシト云ヘルニ依リ我方ノ情報ニ依レハ英仏政府ハ既ニ露国ニ回答ヲ与ヘタル管ナリト詰リシニ同氏或ハ手紙ニテ大使ヨリ通報シ来ルヤモ知レス孰レニセヨ二三日中ニ回報ナキトキハ更ニ電報ニテ催促スヘシト云ヘリ依テ本官ハ今回ノ日本ノ提議ニ付種々談話ヲ交換シタル結果同氏ハ遂ニ今回ノ提議ガ直ニ承認ヲ決行セントスルモノニ在リトスレハ露国ハ容易ニ同意スル能ハサルモ日本ノ提議ニ依レハ承認ヲ与フル迄ニハ尚幾許ノ余裕ヲ存スルモノト思ハル、ヲ以テ露国力其提議ニ同意ヲ与フルハ察スルニ不可能ニアラサル様思ハルト述ヘタル後談ハ更ニ蒙古問題ニ関スル露支間ノ交渉ノ現状ニ及ヒ氏ハ左ノ如ク語レリ

目下蒙古問題ノ解決ヲ遅延セシムルモノ二点アリ其第一点露国ハ蒙古古支那領土ノ一部ヲ為スコトハ敢テ之ヲ争ハス但シ露国ハ常ニ相對シテ交渉シ得ル蒙古中央権主体（オトリテ、サントラル）ヲ認ムルコトヲ必要トストノ主張ニ對シ在露国支那代表者ハ支那ハ從來ノ如ク各部落ノ王ヲ独天総領事青木少将等調査ノ結果ハ露国側ノ憂慮スル如キ増兵ノ事実ナキコトニ一致シ居リ且支那ノ内情モ此際他國ト難ヲ構フルヲ許スヘシトハ認メラレザルモ帝國政府ハ露国ノ憂慮ニ鑑ミ支那側ヲシテ保証ヲ与フルコト、ナサシメタルノミナラス從來伊集院公使ヲシテ再三支那政府ニ向テ出先官憲及軍隊ニ戒飭ヲ与フル様注意セシメタル次第ヲ露国当局者ニ告ガ我カ誠意ノ在ル所ヲ諒解セシムル様配慮方電訓シタルニ今般同官ヨリ露国当局者ハ我カ政府ノ好意ハ感謝スルモ支那ハ不相變増兵ニ努メ現ニ民兵ヲ正兵ニ改メントセリ是露国ノ不安ヲ感スル所ナリト述ヘタル趣電報アリタリ

三七七 四月三十日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

中国ノ北滿増兵問題ニ関シ露国外務省極東課

長トノ会谈ニ付補足報告ノ件

機密往第一三三号

(五月十六日接受)

大正二年四月三十日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

一五 露蒙協約關係一件 三七七

立セシメテ中央権主体ノ存立ヲ欲セサルモノトナセリ然ルニ近頃ニ至リ支那中央政府ハ却テ露国希望通りノ意見ナル旨ヲ確メ得タレハ此点ハ大抵落著ヲ見ルニ至ルヘシ第二点外蒙古境界問題ニ付テ露国外蒙古ハ地図ニ示ス如ク無論喀爾喀科布多地方一帯地域ハ其内ニ含マル、モノトセルニ反シ支那ハ初メ単ニ庫倫丈ケニ止マルト云ヒ後庫倫ヲ中央トシテ外蒙古ヲ東西ニ平分シ其東部ノミ外蒙古ニ属スルモノト主張セリ此点ハ今尚懸案中ニテ容易ニ決定ヲ見ルニ至ラスト同氏ハ尚語ヲ統テ露国カ支那ニ承認ヲ与フルニ付テハ之ト交換的ニ蒙古問題ニ関シ無論一ノ協定ヲ得タキ考ナリ而シテ露国ノ求ムル所ハ支那ヨリ蒙古ヲ分割セントスルニアラスシテ既ニ締結セラレタル露蒙協約ノ細則ヲ蒙古ト協定スルコトヲ支那ニ於テ承認センコトヲ望ムニ在リト

三七六 四月三十日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛(電報)

中国ノ北滿増兵問題ニ付我方ノ措置ヲ露国当

局ニ説明シタル付

第二三七号

往電第一九四号ニ関シ四月十五日在露代理大使ニ對シ在奉

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

北滿洲ニ於ケル清兵増加ノ件ニ付キ曩ニ在本邦露国大使ヘ御回答ノ趣貴電第五九号ヲ以テ御回示ノ次第有之其當時直ニ露国外務省当局者ニ会谈ヲ試ミ其結果ハ四月十五日附機密往第一一号ヲ以テ御報告致シ置キタル通ニ有之候処其後貴電六三号接到ニ付更ニ「カザコフ」氏ニ面会シ貴電ノ趣ヲ同氏ニ通シ其結果ハ本月二十四日附機密往第一二号ヲ以テ前回ノ続報トシテ御報告致置候通ニ有之候然ルニ今回貴電第七二号接到ニ付四月二十八日更ニ「カザコフ」氏ニ面会ノ序ヲ以テ我政府ノ好意ニ付重ネテ説明ヲ与ヘタルニ(貴電第六〇号全文ハ已ニ当国外務省ニ到達致居タルニ付原文大約内示方見合セ候)同氏ハ我政府ノ好意ハ之ヲ感謝ス然レトモ支那ハ不相變増兵ノ実ヲ挙ケムコトヲ力メ現ニ民兵ヲ正兵ニ改編セントセリ是露国ノ不安ニ感スル所ナリト云ヒ其語氣ヨリ察スルニ露国ハ本件ニ関スル我回答ニ對シテハ余リ満足シ居ラサルカ如ク相見エ候右ハ前記機密往第一一号ニ於テモ已ニ御承知可相成通ニ有之候仍テ本官ハ本官限リノ意見トシテ已ニ如此本邦政府ノ好意アリ露国政府ニ於テ此好意ヲ利用シテ更ニ何等支那政府ニ對シ求メム

ト希望セラル、所ノモノアリトスレハ本邦政府ハ喜ンテ仲介ノ勞ヲ執ルモノナラント信スルモ兎モ角先ツ本官ノ参考迄ニ何等聞クコトヲ得ヘキヤト尋ネシニ同氏ハ若右様ノ希望アル場合ニハ必ス御話可致ト答ヘタルマテニ有之候

本件ニ関シ是迄屢「カザコフ」氏ト会谈ヲ遂ケタル結果ヨリ得タル感想ニ依レハ露国ハ兎角北滿ニ増兵セムトスルノ底意ヲ有シ其目的ヲ達センヲメ終始好機ヲ待チ居ルモノ、如ク想像被致候而テ其主動者ハ無論陸軍側ニアルモノ、如クニ被察候左レハ露国カ北滿ニ増兵スルヲ妨止セントセハ支那ヲシテ事實増兵セシメサルニ若クハナシ蓋シ此ニ依リ露国カ自己ニ便利ナルヘキ口実ヲ失ヘハナリ乍併滿洲ニ於ケル將來ノ大勢上干係国カ早晚増兵ヲ余儀ナクセラル、ノ日来ルコトナシトモ断言シ難キモノアリトスレハ今日ヨリ日露相互間ニ意思ノ疏通ヲ計リ置キ以テ他日ニ備フルコト亦一策カトモ被思候右往電第三九号ノ説明旁此段申進候

敬具

三七八 五月十五日 在中国伊集院公使ヨリ 牧野外務大臣宛

中国ノ北滿増兵問題ニ関シ在北京露国公使ト

ナラント思料スル旨提言シタル処陸総長ハ本問題ニ関シテハ陸軍総長ノ意見ヲ徵スル必要アル旨答ヘタル儘其後何等ノ沙汰無之ニ付先日一応催促ニ及ビタルニ陸総長ハ陸軍総長段祺瑞ニ於テ異存アルニ付此際協定難致旨返答致シタルニヨリ自分(露公使)ハ其異存ハ如何ナル趣意ナルヤヲ質問シタルモ外交総長ハ何等答ヲ与ヘサルニ付自分ハ更ニ陸氏ニ対シ何等ノ理由ヲ具セズ只支那ノ陸軍総長ニ異存アリトノミニテハ本国政府ニテモ不快ヲ感ズベシト警告シタル処陸氏ハ重ネテ段総長ト相談可致旨申述ヘタルカ爾來今日迄何等消息ニ接セズ云々右何等御参考迄及報告候 敬具

三七九 五月十六日 在中国伊集院公使ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古問題ニ関スル露支交渉不進展ノ事情ニ付

在北京露国公使談話ノ件

機密第一八五号 (五月二十六日接受)

大正二年五月十六日

在清国

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

一五 露蒙協約關係一件 三七九 三八〇

陸外交総長トノ交渉ニ付同公使ヨリ内話ノ件

機密第一八三号 (五月二十三日接受)

大正二年五月十五日

在清国

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

去ル三月三十一日露国公使ト談話ノ節本使ハ千九百二年取極第三条ニ関シ露支間ニ何等詳細ノ協定アリタル次第ナリヤヲ相尋候処同公使ハ右ニ就テハ其後何等協定シタルモノナク其儘ニナリ居ルニ付駐兵制限ハ實際ニ無之姿ナリ依テ露国政府ハ此際右様ノ協定ヲ為スノ必要アルベシト思考シ居ルモ未ダ支那側ニ対シ右ノ提議ヲナスベシトノ訓令ニ接シ居ラザルニ付自分トシテハ今日迄何等交渉ヲ開キ居ラザル由相答ヘ候趣ハ三月三十一日發往電第二五〇号ヲ以テ報告ニ及ビ置キ候処本月十三日本使他用ニテ露国公使ヲ訪問ノ節話次蒙古問題ニ及ビタルニ付其後ノ成行相尋候処同公使ノ語ル所ニヨレバ北清駐兵ニ関スル協定ニ就テハ別ニ本国政府ノ訓令ヲ受ケタル次第ニアラザレドモ數週前陸外交総長ニ対シ自分一己ノ考トシテ何トカ協定致置ク方便宜

本件ニ関スル新聞記事ハ昨十五日附公第一七四号拙信ヲ以テ報告ニ及ビ置候処是ヨリ先キ露支交渉結了セル処英字新聞ニ相見エ候ニ付本使ハ露国公使ト談話ノ節新聞記事ノ実否及本件ニ関スル最近ノ交渉ノ發展相尋候処同公使ノ答フル所ニヨレバ引続キ陸外交総長ト交渉ヲ重ネ居ルモ未ダ要領ヲ得ズ昨今寧口跡戻リセルヤノ気味アリ内報ニヨレバ支那側ニテハ一面ニ於テ蒙古王公ノ懐柔ニカムルト共ニ他面ニ於テハ彼等ニ対シ露国ハ外蒙古ノ獨立取消ヲ承諾シタルト申聞ケ今ニ於テ反正セザレバ立場ヲ失フニ至ル可シト勸説シ其他利祿恫嚇有ユル手段ヲ以テ蒙古人ヲ籠絡シツ、アリテ此手段ノ成功ニ嚮望シテ露国トノ交渉ヲ真面目ニ進捗スルノ誠意ナキヤニ察セラルルハ困ツタモノナリト嘆息致居リ候ニ付本使ハ其義或ハ然ラン併シ蒙古人ノ去就ニヨリテ露国ノ対蒙政策ニ変化ヲ来ス訳ニモ有之間敷ト相述候処同公使モ勿論然リト兩人相顧ミテ哄笑致候様ノ次第ニ有之候

右一応及報告候 敬具

三八〇 五月二十二日

牧野外務大臣ヨリ 在中国伊集院公使及在露国田付臨時代理大使宛(電報)

一五 露蒙協約關係一件 三八一 三八二 三八三

露支間ニ蒙古ニ関スル協約成立ノ風説ニ付実

否確メ方訓令ノ件

第二七五号(中国)

第八六号(露国)

新聞電報ニ抛レハ露蒙協約ニ関スル露支間ノ交渉進捗シタル趣ニテ自治範圍ノ境界モ已ニ確定シタリト伝ヘラレ又露支間ニ新協約成立シ露国ハ其勢域ニ属スル蒙古全部ニ亘リ利権ヲ獲得セシノミナラス右協約ノ効力ハ我勢域ニ属スル内蒙古ノ一部ニモ及フコト、成リ居ルヤノ情報モアリ就テハ露支間交渉其後ノ模様御確メノ上電報アリ度シ

三八一 五月二十三日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉未ダ進捗シ居ラサル旨

回電ノ件

第四三六号

貴電第二七五号ニ関シ五月十五日附第一七四号公信五月十六日附機密第一八五号拙信報告ノ通未タ確定シタルコトナシ尚五月二十一日会见ノ際加藤男爵ノ問ニ対スル袁世凱ノ答ニテモ左迄進捗シ居ルモノトハ思ハレス其節男爵ヨリ蒙古

露国当局者ハ田付ニ対シ交渉ハ支那ノ讓歩ニ因リ大分進捗シタルモ同電ノ如キ事実ハ無之旨及ヒ露国ハ如何ナル形式ニ於テモ決シテ日露協約ヲ無視シテ日本国ノ勢域ヲ侵スモノニアラサル旨ヲ語レリ

三八四 五月二十七日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支交渉進行ノ状況ニ付陸外交總長及露国公

使ノ談報告ノ件

第四四〇号

五月二十七日陸徵祥ト面会ノ序ヲ以テ蒙古ニ関スル露国トノ交渉ノ模様ヲ尋ネタルニ陸ハ大体ニ於テ話合ハ纏リ居リ十日間位ニ決了シタキ考ナルニ付兩三日中ニ陸、海軍兩総長、參議衆議兩院正副議長ヲ集メ実情ヲ打明ケ同意ヲ求ムル積ナルカ此際何トカ纏メ置カサレハ露国ハ更ニ新条件ヲ持出スヘク益々支那ニ不利ナルヘキコトヲ説明セハ彼等モ多分同意スヘク若シ不同意ナラハ自分ハ辭職ノ外ナシト語レリ同日露国公使來訪ノ節本使ヨリ同様ノ問ヲ起シタルニ同公使ハ交渉未タ決著セサルコト及若シ何時迄モ片付カサレハ露国ハ新ナル基礎ニ於テ談判ヲ為直スノ外ナシト申居

一五 露蒙協約關係一件 三八四 三八五

四九〇

ニ関スル露国トノ交渉ヲ速ニ纏メサレハ其關係漸次東部ニ及ハンコトヲ我官民ニ於テ懸念シ居ル旨注意サレタルニ袁モ其意ヲ諒シ成ルヘク妥協ヲ努ムヘシト云ヘリ

三八二 五月二十四日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協約ハ未ダ成立セス又日本ノ勢域ヲ侵スコトナキ旨露国当局者談話ノ件

第四九号

貴電第八六号ニ関シ外務当局者ノ語ル所ニ依レハ露蒙協約ニ関スル露支間ノ交渉ハ支那ノ讓歩ニ因リ大分進捗シタルハ事実ナルモ自治範圍境界劃定及露支間新協約ノ成立等ハ總テ之ヲ否認シ又露国ハ如何ナル形式ニ於テモ決シテ日露協約ヲ無視シテ日本国ノ勢域ヲ侵スモノニアラスト云ヘリ

三八三 五月二十六日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛(電報)

露支交渉進行状況ニ関スル田付代理大使ノ報

告通報ノ件

第二八二号

往電第二七五号ニ関シ

タリ但シ陸モ露国公使モ交渉ノ内容ヲ示スコトハ避ケ居タリ

三八五 五月二十八日

牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉進行ノ状況ニ付陸外交總長及在北京露国公使ノ談話通報ノ件

第九八号

五月二十一日袁世凱ハ加藤高明男ト会谈ノ際露蒙協約問題ニ関シテハ成ルヘク露国トノ妥協ニ努ムヘキ旨ヲ述ヘタルカ五月二十七日陸徵祥ハ伊集院公使ニ対シ本件交渉ハ已ニ大体話合纏マリ居リ十日間位ニ決了シ度考ニ付兩三日中ニ海陸兩総長及兩院正副議長ノ同意ヲ求ムル積ナルカ此際事ヲ纏メサレハ露国ハ更ニ新条件ヲ持出シ益々支那ニ不利ナルヘキヲ説明セハ多分同意ヲ得ヘク不同意ナラハ自分ハ辭職ノ外ナシト語り同日露国公使モ伊集院公使ニ対シ交渉未タ決著セサルコト及何時迄モ片付カサレハ露国ハ新ナル基礎ニ於テ談判ヲ仕直ス外ナキ旨ヲ述ヘタル趣ナリ

各大使ニ郵報アリタシ

四九一

三八六 五月三十一日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国衆議院秘密会ニ於ケル蒙古ニ関スル露支

協定案審議ノ模様報告ノ件

第四四七号

五月三十日支那政府カ衆議院秘密会ニ提出シタル蒙古ニ関スル露支協定案ハ別電<sup>(電)</sup>ノ通ナルカ右秘密會議ニ於テハ政府側ト重ニ国民党議員トノ間ニ押シ問答アリ国民党ハ斯ノ如キ協定書ハ失地喪權ノ甚シキモノニテ之ヲ承諾セハ列国殊ニ日本ハ東蒙古ニ於テ均勢論ニヨリ如何ナル要求ヲ提出スルニ至ルヤモ難計ニ付断シテ協賛ヲ与フヘカラスト主張シ東部蒙古選出議員ノ如キハ外蒙古土人ニノミ自治練兵ノ權ヲ与フルハ不公平ナリ若シ東蒙古土人カ同様ノ權ヲ求ムレハ政府ハ之ヲ与フルノ覚悟アリヤト脅喝肉薄シタルモ政府側ハ之レ既ニ確定的ノモノニシテ露国ニ取リテハ最後ノ讓歩ナレハ中国若シ之ヲ承諾シ速ニ調印スルニアラサレハ露国ハ更ニ苛酷ノ条件ヲ提出スヘキニ付此際枉ゲテ協賛ヲ望ム旨繰返シタルモ国民党議員ハ頑トシテ応セス進歩党議員ハ概シテ沈黙ヲ守リ唯条件ヲ更ニ緩和スルノ余地ナキヤト

衆議院ハ進歩党多数ニ付結局通過スベキモ參議院ハ御承知ノ通国民党多数ナレバ通過余程困難ナルベク察セラル

三八八 六月二日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

中国国会ニ附議セラレタル蒙古ニ関スル露支

協約案ノ性質等ニ付在北京露国公使ノ談報告

ノ件

第四五五号

蒙古ニ関スル露支協約案ヲ衆議院ニ提出スルニ付テハ露国側ト何等交渉ナク且右ノ協約案ハ単ニ支那側ノ希望ニシテ露国公使ノ同意シタルモノニアラス全ク宋教仁事件及借款反対等国内輿論ノ注意ヲ外交問題ニ転セシムルノ政策ニ過キサル旨過日來当地ニ風評アリ既ニ新聞電報ニテ本邦ニモ伝ハリ居ルヘキ処六月二日露国公使ハ本使ノ問ニ対シ六箇条全部ヲ正確ナリトハ云フ能ハサルモ露支間ニ協定ノ基礎トシテ或了解ニ到着シタルニハ相違ナキコトヲ答ヘ国会ノ議ニ附スルコトニ関シテハ当初之ヲ避ケタキ考ナリシモ現狀ニテハ到底国会ニ諮ラサル能ハサル事情ナリトノ支那側意向ニ付之ニ同意シタリト明言セリ尚同公使ノ言ニ依レハ

一五 露蒙協約關係一件 三八八 三八九

質問シタルニ過キサル由ニテ結局政府側ハ斯クテハ露国公使ト交渉困難ナリトテ議院ノ再考ヲ求メ五月三十一日再議スルコト、シテ散会セシ由ナリ(本電大連經由)

註 別電第四四八号省略ス該電報ヲ以テ報告セラレタル露支協定案和訳文(漢文原文ヨリ翻訳セラレタルモノ)ハ其ノ趣旨ニ於テ後掲四〇三文書ノ別電一ト同一ナリ尚漢文テキストニ付テハ三九二文書附屬書參看

三八七 六月一日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協定案ハ衆議院ヲ通過スベ

キモ參議院通過困難ナルベキ旨報告ノ件

第四五三三号

往電第四四七号ニ関シ蒙古ニ関スル露支協定ハ衆議院特別委員会(二十一名中純然タル国民党七名)ニ附託セラレ五月三十日三十一日ノ兩日ニ亘ル委員会ノ結果進歩党多数ヲ占メ居ル為大體ニ於テ賛成ニ決シタルモ何分原案ノ文句ニ不明ノ箇所多キニ付(政府ニテハ仏文ノ直訳ナリト説明シタル由)陸総長ヨリ更ニ露国公使ニ協議シ説明書ヲ附シテ再ビ院議ニ附スルコトヲ求ムルニ決シ其趣政府ニ通牒シタル由ナリ

五月三十一日陸外交総長同公使ヲ訪ヒ議會ヲ切抜ケルコトノ却々困難ナル模様ヲ告ケ重要ナラサル辭句ノ修正ヲ申出タルニ付本國政府ヘ電報シ置キタルガ多分異存ナカルヘク陸ハ六月七日ニハ衆議院ノ議ヲ纏メ得ヘント内話セリ根本的要点ニ付テハ支那側ヨリ如何ニ申出ツルトモ決シテ讓歩セサル積ナリ云々

三八九 六月三日 牧野外務大臣ヨリ  
在露國田付臨時代理大使宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協定案ノ中国国会提出及其

審議狀況通報ノ件

第一〇四号

五月卅日支那政府ハ衆議院秘密会ニ別電第一〇三号蒙古ニ関スル露支協定案ヲ提出シタルカ三十日三十一日ノ兩日ニ亘ル委員会ニ於テハ進歩党多数ヲ占メ居ル為大體ニ於テ賛成ニ決シタルモ何分原案ノ文句ニ不明ノ箇所多キニ付更ニ露国公使ニ協議シ説明書ヲ附シテ再ヒ院議ニ附スルコトヲ求ムルニ決シ其趣政府ニ通牒シタル由ナリ衆議院ハ進歩党多数ニ付キ結局通過スヘキモ參議院ハ国民党多数ナレハ通過余程困難ナルヘキ模様ナリ

右ニ関シ六月二日露国公使ハ伊集院公使ノ問ニ対シ六箇条全部ヲ正確ナリトハ云フ能ハサルモ露支間ニ協定ノ基礎トシテ或了解ニ到着シタルニハ相違ナク国会ノ議ニ附スルコトニ関シテハ当初之ヲ避ケタキ考ナリシモ現状ニテハ到底国会ニ諮ラサル能ハサル事情ナリトノ支那側意向ニ付之ニ同意シタル旨並ニ五月三十一日陸外交総長ヨリ重要ナラサル辞句ノ修正ヲ申出タルニ付本國政府ヘ電報シ置キタルカ多分異存ナカルヘク尤モ根本的要点ニ付テハ支那側ヨリ如何ニ申出ツルトモ決シテ譲歩セサル積ナル旨内話シタリ本電及別電在英大使ニ転電シ他大使ニ郵報アリ度シ

註 別電ハ前出五月三十一日伊集院公使來電第四四八号ヲ殆ト其儘電報セルモノナリ省略ス

三九〇 六月七日 牧野外務大臣ヨリ 在露国田付臨時代理大使宛(電報)

衆議院ニ於ケル蒙古ニ関スル露支協定案審議ノ其後ノ狀況通報ノ件

第一〇六号

往電第一〇四号ニ関シ在支公使來電要領

蒙古問題ニ関シ大總統ヨリ衆議院ニ附議シタル通告原文並

第四六二号

蒙古問題ニ関スル昨日ノ衆議院秘密會議ハ国民党依然不同意ヲ唱ヘ進歩党中ニモ反対ノ分子多ク(蒙古議員ハ固ヨリ東三省殊ニ黑龍江議員ノ如キ呼倫貝爾等地方ノ關係アルニ依リ甚ク激昂シ俄ニ進歩党ヲ脱シテ国民党ニ入党セルモノスラアリ)特別委員会ノ修正案ヲスラ維持スルコト困難ナルニ依リ政府側委員汪榮寶ヨリ先ツ討論ヲ終結シ政府再ヒ露国ト協商シ新ニ協約草案ヲ具シテ更ニ議會ノ協賛ヲ求ムヘキ旨ノ動議ヲ提出シ多數ニテ通過セルカ別ニ院議トシテ不同意ノ理由ヲ説明セル意見書ヲ起草表決シ政府ニ送付スルコトトシタレハ次回ニテハ尚多少ノ波瀾ヲ免レサルヘキカ結局政府ハ露国ト再協議ヲ試ミタルモ交譲ノ余地ナシトシ再ヒ原案ノ通り通過ヲ強ユルニ至ルヘシト国民党側ニテハ觀察シ居レリ

三九二 六月九日 在天津小幡總領事ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古ニ關スル露支協約案寫送付ノ件

附屬書 右露支協約案寫

機密第二二一號

一五 露蒙協約關係一件 三九二

(六月十六日接受)

審査委員会ノ修正案報告原文等本月五日各議員ニ院内限り厳密ニ配付セラレタルカ右ノ内原文六ヶ条ハ前電(往電第一〇三号)ノ通又疑問トナリ居リタル十七ヶ条ハ露蒙協約附屬議定書「プレアンブル」及末文ノ訂約日付ヲ取消シ各条中ノ「蒙古政府」ヲ「蒙古地方官」ト改メアル外第八條後段ヲ削除シアルニ過キズ委員会修正案ハ六ヶ条ニ就テハ條約ノ形式トセスシテ公文公換ニ止ムルコト、蒙古自治軍備並殖民ト通商トノ差別ニ付制限的説明書ヲ附スルコト、十七ヶ条中ノ「蒙古」ノ上ニ「外」ノ字ヲ加フルコト等ニシテ之ヲ以テ最後ノ譲歩トシ尚出来得ヘクンバトノ条件付ニテ二三ノ修正ヲ要求シ居レリ右修正案ハ六月五日衆議院全院ノ秘密會議ニ提出セラレタルカ同案ハ進歩黨委員ノ提議ニ成レルモノナレハ国民党側ノ反対烈シク遂ニ要領ヲ得スシテ散会シタリ

往電第一〇四号同様転報アリタシ

三九一 六月七日 在中国伊集院公使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

衆議院秘密會議ヨリ蒙古ニ關スル露支協約案ヲ政府ニ返戻ノ件

大正二年六月九日

在天津

總領事 小幡 酉 吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

今回成立シタリト伝ヘラル、中俄協約ノ本文六条ハ已ニ新聞紙ニモ登載有之候処今回第五条ニ付属セル付款共全文入手致候真偽ハ固ヨリ不明ニ有之候ヘ共坊間伝フル処ノ密約ナルモノハ或ハ該付款ヲ云フモノカトモ被存候兎ニ角其全文入手之儘写別紙御参考迄及御送付候間御査閱相成度候

敬具

追テ別紙ニ第十七条無之候ヘ共同条ハ単ニ本文ハ蒙俄兩文ヲ以テ記スル旨ノ規定ニ有之候条為念申添候  
本公信ノ次第ハ伊集院公使ヘモ報告致置候

(附屬書)

蒙古ニ關スル露支協約案寫

中俄兩國為免除蒙古現狀所能發生之誤會起見

協定條件如下

(一)俄國承認蒙古為中國領土完全之一部茲特擔任於此領土關係之繼續不謀間斷又此領土關係上生出之中國歷來所有之

種々權利俄國竝擔任尊崇

(二)中國擔任不更動外蒙古歷來所有之地方自治制度竝因外蒙古之蒙古人在其境內有防禦及維持治安之責故許其有組織軍備及警察之專有權並許其有拒絕非蒙古籍人在其境內殖民之權

(三)俄國一方面擔任除領署衛隊外不派兵至外蒙古竝擔任不將外蒙古之土地舉辦殖民又除條約所許之領署外不在彼設置他項官員代表俄國

(四)中國願用和平辦法施用其權於外蒙古茲聲明聽由俄國調處照上列各條之本旨定立中國對待外蒙古辦法之大綱竝使該處中央長官自認有中國所屬部內向有之地方官吏性質

(五)中國政府因重視俄國政府之調處故允在外蒙古地方將下開之商務利益給予俄民(加十七條)

(六)以後俄國如與外蒙古官吏協定關於改動該處之國際條件必須經中俄兩國直接商議竝經中國政府之許可方得有効

#### 第五條之附款

(一)俄國屬下人等照舊享有利權在所有蒙古各地自由居住移動竝經理商務製作及其他各事項且得與各個人各貨行及俄國蒙古中國暨其他各國之公私處所往來協定辦理各事

及其他各事項

(二)俄國政府有權與蒙古地方官協商必須設領事之處設派領事(三)凡有俄國領事之處及有關俄國商務之地均可由俄國領事與蒙古地方官協商設立貿易圈以便俄國屬下人等營業居住之用專歸領事管轄無領事之處則歸俄國各商務公司會社之領事管轄

(四)俄國屬下人等仍可保存其利權得以自行出款於蒙古各地及自蒙古各地至俄國邊界各地設立郵政以便運送郵件貨物此事與蒙古地方官協商辦理許在各地設立郵站以及別項需用房屋均須遵照此第六條所定章程辦理

(五)俄國駐蒙各領事如須轉遞公文遣派信差以及別項公事需用之時可用蒙古台站惟一月所用馬匹不過百隻駱駝不過三十隻可勿給費俄國領事及辦理公事人員亦可由蒙古台站行走償給費用俄國屬下辦理私事之人亦有享用蒙古台站之權惟此項人等應償費用須與蒙古地方官商定

(六)凡自蒙古城內須至俄國境內各河及此該河所受之河流均准俄國屬下之人乘用自由商船往來航行與沿岸居民貿易俄國政府當補助蒙古地方官整理各河航路設置各項需用標識等事惟蒙古官吏當遵照此約第六條所定章程於此各河沿岸撥

(一)俄國屬下人等竝得照舊享有利權無論何時將俄國蒙古中國暨其他各國出售製作各貨運出運入免約出入口各稅竝自由貿易無論何項稅課概免繳納惟俄屬下人等僞稱他人之貨爲己貨時不得援用此條

(二)俄國銀行有權在蒙古開設分行與各個人各處所公司會社辦理各種款目事項

(三)俄國屬下人等可用現錢買賣貨物或互換貨物竝可商明除欠惟蒙古各王旗及蒙古官帑不能擔負私人債款

(四)蒙古官吏不得阻止蒙人華人向俄國屬下人等往來約定辦理各種商業竝不得阻止其爲俄人或俄人所開設商務製作各處所服役蒙古城內無論何種公私公司會社或各處所各個人皆不得有商務製作專賣權其有於未定此約之前已得蒙古地方官允許而有此種專賣權者於定限未滿以前仍可保存其權利

(五)俄國屬下人等得有利權在蒙古所有地內各城鎮各蒙旗約定期限租賃地段或購買地段建造商務製作局廠或修築房屋舖戶貨棧竝租用閑地開墾耕種此種地段或買或租以爲上開各項之用自不得以之作謀利之舉此項地段要須按照蒙古各地現有規則與蒙古地方官妥商撥給其教務牧場地段不在此例(六)俄國屬下人等可與蒙古地方官協商關於享用礦產森林漁業

給停船需用地段以爲建築碼頭貨物棧以及預備柴木之用

(七)俄國屬下人等於運送貨物驅送牲畜有權由水陸各路行走并可商允蒙古官吏由俄人自行出款建築橋梁渡口照准其向經過橋梁渡口之人索取費用

(八)俄人性隻於行路之時可得停息餵養如遇停留多日之時地方官竝須於牲畜經過路徑及有關牲畜買賣地點撥給足用地段以作牧場如用牧場過三月之久即須償費

(九)俄國沿界居民向在蒙地割草漁獵素經相沿成習嗣後仍照舊辦理不得稍有變更

(十)俄國屬下人等及其所關處所與蒙人華人往來約定辦理之事可用口定或立字據其立約之人可將所立契約送至地方官呈驗如地方官見呈驗契約有窒礙之處當從速通知俄國領事官與領事會商將所出誤會公同判決今應特別行定明凡有關於不動產事件務當成立約據送往蒙古該管官吏及俄國領事處呈驗批准如享用天然財賦案此指礦產林業等事而言之契約必須經蒙古地方官批准方可如遇有爭議無論因口定之事或立有字據之件可由兩造推舉中人和平解決如遇不能和解時再由會審委員會判決會審委員會分常設臨時兩項常設會審委員會於俄國領事駐在地設置之以領事或領事代表及蒙古官吏之代表有相

當階級者組織之臨時會審委員會於未設領事之處酌量所出事件之緊要始暫時開之以俄國領事代表及被告居留或所屬蒙旗之蒙王代表組織之會審委員會可招致蒙人華人俄人為會審委員會之鑑定人會審委員會之判決如是關於俄人者由俄領事官從速執行其關於蒙人華人者則由被告所屬或於居留之蒙旗蒙王執行之

三九三 六月二十日 牧野外務大臣ヨリ  
在天津小幡總領事宛

蒙古ニ関スル露支協約案附屬約款ハ露蒙協約

附屬議定書ト大体同一ト認メラル、件

機密送第四二号

六月九日付貴信機密第二一号ヲ以テ露支協約案写御送付有之候処該協約案附屬約款十七ヶ条ナルモノハ二月七日付機密送第六号ヲ以テ及御送付置候露蒙協約附屬議定書ニ僅少ノ訂正ヲ加ヘタルモノト認メラレ候右ハ已ニ比較研究ヲ遂ケラレタル義トハ存候得共貴信中何等記載無之ニ付為念此段申進候也

三九四 六月二十三日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

ネタル磋商条件全部ヲ国会ニ提出シテ秘密會議ニ附シ審査及三読会ノ手續ヲ省略シテ至急議決ノ上同意ヲ得度様國務院ヨリ申請シ来リタルニ付該院ヨリ呈出セル關係書類相添ヘ貴院ヘ及咨送候条可然取計ヒ相成リ度シ云々

附三件

中華民國二年五月二十八日

段祺瑞

衆議院宛

(附屬書二)

支露商訂蒙事協約節要譯文

宣統三年十月露國ハ支那ノ變亂ニ乘ジ遽カニ庫倫ノ獨立ヲ助ケ十一月我(支那政府自ラ云フ以下同様)ニ向ツテ左ノ五ヶ條ヲ要求セリ

一、支那政府ハ露國ガ庫倫ヨリ露國々境ニ至ル鐵道敷設權ヲ有スルコトヲ承認スベシ

二、支那政府ハ蒙古ト締約シテ左ノ數項ヲ聲明スベシ

甲、支那ハ外蒙古ニ駐兵スルコトヲ得ズ

乙、外蒙古ニ殖民スルコトヲ得ズ

丙、蒙古人ニ自治ヲ許ルス但シ辦事大臣ノ管轄ヲ受ケ

シム

中国政府ヨリ衆議院ニ提出ノ蒙古ニ関スル露支協約案關係文書等ノ写送付ノ件

附屬書一 臨時大總統咨文訳文

二 支露商訂蒙事協約節要訳文

三 衆議院特別審査委員會報告訳文

公第二〇二号 (七月三日接受)

大正二年六月廿三日

在清国

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ臨時政府カ衆議院ニ提出シタル露支間ノ協約内容及ヒ之ニ対スル衆議院ノ態度ニ関シテハ迭次報告ニ及置候処今回右臨時政府ノ衆議院ニ提出シタル協約節要及公文書並ニ衆議院特別委員ノ審査報告書共入手致候間原文写及翻訳文共別紙ノ通り進達候間御査閲相成度此段申進候

敬具

註 原文写省略

(附屬書一)

臨時大總統咨文訳文

庫倫問題ニ関シ外交部ト露國公使トノ間ニ切実ニ交渉ヲ重

三、支那ノ治蒙主權ハ改メテ辦事大臣ニ隸セシム但シ支露交渉ハ仍ホ兩國政府間ニ於テ之ヲ協商ス

四、露國ハ領事官ヲシテ蒙古人ノ支那ニ對シ盡スベキ義務ヲ協力擔保セシムベシ

五、支那ガ蒙古ニ於テ改革セントスルコトアルトキハ先ヅ露國ト協商スベシ

右五ヶ條ハ共ニ無理ノ要求ニシテ磋商ノ餘地無キヲ以テ前

外務部ニ於テハ之ヲ擱置シテ應ゼザリシモ民國成立シテ前

政ヲ繼續シテヨリ一面ニハ適當ノ人員ヲ密派シテ庫倫活佛

ニ獨立ヲ取り消シ民國ニ歸附センコトヲ勸告誘導シ一面ニ

ハ蒙古進兵ヲ計畫シ函電交馳恩威並ビ用ヒタリシモ當時露

國人モ亦タ汲々トシテ武力ヲ以テ干涉セントスルノ勢アリ

卒ニ蒙人頑迷ニシテ悟ラズ我ヲ拒ミテ益々露國ニ親シミ元

年十月ニ至リ露國ト左ノ四ヶ條ノ協約ヲ締結セリ

第一條 露國政府ハ蒙古ヲ扶助シテ現存ノ自治ト秩序ト

ヲ維持シ及ビ蒙古ニ國民軍ヲ編成セシメ同時ニ支

那兵隊ノ蒙古領域内ニ入り支那人民ノ蒙古ノ土地

ニ移住スル等ノ權利ヲ承認セズ

第二條 蒙古主及蒙古政府ハ露國人民及露國商事會社ガ



一五 露蒙協約關係一件 三九四

從前ノ如ク蒙古領土内ニ於テ本協約專條内ニ規定セル各權利及特種ノ權利ヲ享有スルコトヲ承認ス其ノ他ノ外國人ハ蒙古ニ於テ露國人ガ該地ニ於テ享有スル權利ヨリ多クノ權利ヲ享有スルコトヲ得ズ

第三條 蒙古政府ガ支那或ハ其他ノ外國ト訂約セントスルトキハ如何ナル性質ノモノタルヲ問ハズ其ノ締結スル所ノ新約ハ露國政府ノ承認ヲ經ズシテ本協約專條内ノ各條件ニ違背シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

第四條 此ノ友誼協約ハ調印ノ日ヨリ實行ス

蒙古ハ我が屬土タリ然ルニ露國ハ擅ニ之ト協約ヲ締結ス公法ヲ蹂躪シ友誼ヲ無視スルコト極マレリ我國ハ外交上ノ處置トシテ直チニ駐京露國公使ニ向ツテ斷ジテ此ノ協約ヲ承認セザルコトヲ聲明セリ時ニ本總長(外交總長陸徵祥)第二二次外交事務ヲ接掌シ政府會議ニ於テ兵力ヲ用ユル能ハザルニ一致シ進ンデ露國ト平和協商ヲナスベキ方針ヲ定メ民國元年十一月以來本總長露國公使ト正式ニ談判ヲ開始スルニ至レリ是レ在京議約ノ始メナリ

二、露國ハ領土ノ完全ヲ保證尊重シ領事館護衛兵ヲ除クノ外ハ預ジメ支那政府ニ通知セズシテ軍隊ヲ派遣スルコトヲ得ズ

三、支那ハ蒙古ガ舊狀ヲ回復セントヲ希望シ露國ノ調停ニヨリ支蒙ノ關係及領土範圍事項竝ニ蒙古ノ自治ニヨリ發生スベキ權利ヲ規定スルニ便ナラシムルコトヲ承認スベキ旨聲明スベシ

四、露國人民及商社會社ガ蒙古ニ於テ享有スルトコロノ各權利ハ本協約附件内ニ列記スベシ(即チ十月二十一日露蒙同意ノ上訂正セル附則各條款)

以上草案中ニ注意スベキ點四アリ一ハ漠然蒙古ト稱シ全蒙ヲ包括セントスルコト二ハ軍隊ヲ派遣シ隱ニ自由行動ノ意アルコト三ハ殖民ノ一項ハ我ヲ禁ジテ彼ニ弛ヤカナルコト四ハ我が兵ヲ用フル事ヲ禁ジテ而モ蒙古ノ獨立ヲ取り消スコトヲ保證セザルコト等ニシテ之ヲ宣統三年十一月要求ノ五ヶ條ニ比較スルニ甚シク擴張セルモノナレバ重ネテ宣統三年十一月五ヶ條ノ議ニ復セントセシモ露國ハ既ニ時機ヲ過ゴシ事情ヲ異ニスルヲ名トシテ堅ク承認セズ交渉開始以來已ニ七ヶ月ヲ經過シ會見スルコト二十餘回露國政府草案

一五 露蒙協約關係一件 三九四

五〇〇

政府ハ露國公使トノ會議ニ對シ三ヶ條ノ方針ヲ立テタリ即チ先ヅ露蒙協約取消ヲ要求スルヲ以テ第一步ト爲シ我ヨリ條款ヲ提議シテ露蒙協約ヲ改メテ支露協約トスルコトヲ以テ第二步ト爲シ露國提議ノ條款ニ對シ之ヲ制限シテ支露協約ト爲スコトヲ第三步ト爲シ十七條ノ商務專條ニ至リテハ其ノ條約ト違背セザル簡條ヲ選ミテ我レヨリ之ヲ許可シシテ主權ヲ收メシムルコトヲ計リタリ本總長ハ此ノ方針ニ依リテ逐層遞進セシモ露國ノ態度強硬ニシテ第一步第二步ニ於テハ我が要求ニ從フコトヲ肯ンゼズ已ムヲ得ズシテ彼ヨリ條款ヲ提出セシムルコトヲ許シタリ第一次ニ提出セル四款左ノ如シ

將來蒙古ノ上國タル支那ト露國トノ蒙古問題ニ對スル誤解ヲ除キ並ニ蒙古ノ自治基礎ヲ確定セン爲メニ茲ニ條件ヲ提出スルコト左ノ如シ

一、支那ハ蒙古歴史上及種屬上ノ行政制度ニ對シテ毫モ之ヲ更動セザルコトヲ保證シ蒙古人民ハ其ノ領土内ニ於テ自ラ防禦及治安保護ノ特權ヲ有スルコト竝ニ軍備及警察ヲ組織スルコトヲ承認シ外國人ノ其ノ境内ニ殖民スルコトヲ許サズ支那人民モ其ノ内ニ含ム

ヲ改ムルコト四回我ニ於テモ之ヲ反駁シテ別ニ提出シタル草案亦タ五六回ニ上リ現ニ最後條件已ニ兩方ニ於テ商議略ボ熟スルヲ得タリ茲ニ右草案全文ヲ左ニ錄シテ以テ參酌ニ備フ

支露兩國ハ蒙古現狀ニ關シ發生スベキ誤解ヲ除クノ目的ヲ以テ條件ヲ協定スルコト左ノ如シ

一、露國ハ蒙古ヲ以テ完全ナル支那領土ノ一部ナルコトヲ承認シ茲ニ此ノ領土關係ノ繼續シテ間斷セラル、コト無キヲ保證シ又此ノ領土關係ヨリ發生セル支那從來ノ種々ノ權利ニ就テモ露國ハ之ヲ保證尊重ス

二、支那ハ外蒙古ノ從來有セル地方自治制度ヲ更改セザルコトヲ保證シ竝ニ外蒙古ノ蒙古人ハ其ノ境内ニ於テ防禦及治安維持ノ責アルニヨリ軍備及警察ヲ組織スル專有權アルコトヲ許シ竝ニ蒙古籍ニ屬セザルモノ、其ノ境内ニ殖民スルコトヲ拒絕スル權アルコトヲ許ス

三、露國ハ一面ニ於テ領事館護衛兵以外兵隊ヲ外蒙古ニ派遣セザルコトヲ保證シ竝ニ外蒙古ノ土地ニ於テ殖民事業ヲ營マズ又條約ニ於テ認メタル領事館以外同地ニ露國ヲ代表スル其ノ他ノ官吏ヲ設置セザルコトヲ保證

五〇一

ス

四、支那ハ平和ノ方法ヲ用ヒ其ノ權力ヲ外蒙古ニ施用セ  
ンコトヲ希望シ茲ニ露國ノ調停ニ依頼シ上列各條ノ趣  
旨ニ照ラシ外蒙古統御方法ノ大綱ヲ定メ竝ニ同地（外  
蒙古）中央長官自身ヲシテ從來支那所屬部内ニ存在セ  
シ地方官吏ノ性質ヲ有スルモノナルコトヲ認メシムル  
コトヲ聲明ス

五、支那政府ハ露國政府ノ調停ヲ重視スルニ因リ外蒙古  
地方ニ於テ左ノ商務利益ヲ露國人民ニ與フルコトヲ承  
諾ス（十七ヶ條條文ヲ挿入ス）

六、今後露國若シ外蒙古官吏ト同地ノ制度ヲ改變スベキ  
國際條件ヲ協定セントスルコトアルトキハ必ズ支露兩  
國政府ノ直接商議ヲ經竝ビニ支那政府ノ許可ヲ經テ始  
メテ有效ナルモノトス

按ズルニ第一款ハ露國ガ中蒙ノ領土及政權ノ關係ヲ承認尊  
重シ前清時代ノ舊狀ニ回復スル所以ニシテ我國ニ於テ毫モ  
損スルトコロ無シ第二款ハ即チ宣統三年要求五款内ノ第二  
節各項ニ於テ支那ガ露國ノ請求ヲ容ル、モノニシテ關係甚  
ダ重大ナレドモ次ニ第三款アリテ之ヲ補救シ尙大ナル流弊

露蒙協約專款

大露帝國政府ノ委任セル議約全權參議官「コロストヴェツ  
ツ」ト蒙古主及執政各蒙古王ノ委任セル議約全權蒙古總理  
大臣萬敦護持主三音諾顏汗南那蘇倫內務大臣沁蘇朱克圖親  
王喇嘛策凌赤蔑得外務大臣兼汗號額爾德尼達沁親王杭達多  
爾濟陸軍大臣額爾德尼達賴郡王貢博蘇倫度支大臣土謝圖那  
王札克都爾札布司法大臣額爾德尼郡王那木薩賚等現ニ本日  
調印セル協約第二款ノ規定ニ據リテ再ビ以下各條ヲ議定セ  
リ條内ニ記載セル所ハ露國人民ガ蒙古ニ於テ既ニ享有セル  
利權及特權ニシテ竝ニ蒙古人民ガ露國ニ於テ享有スル利權  
及特權ヲ規定スルモノトス

第一條

露國國籍ノ人民ハ從前享有ノ權利ニ照ラシ蒙古各地ニ於テ  
自由ニ居住移轉シ竝ニ商工業及其ノ他ノ各事業ヲ經營シ各  
個人各商會及露蒙支其ノ他各國ノ公私團體ト往來シテ各業  
ヲ協定辦理スルコトヲ得

第二條

露國國籍ノ人民ハ從前享有ノ權利ニ照ラシ何時ニテモ露蒙  
支其ノ他各國ノ生産品ヲ輸出入スルニ輸出入税ヲ免除セラ

ヲ致サザルニ似タリ第四款ハ支那ニ於テ庫倫ニ兵ヲ用ヒザ  
ルコトヲ承諾シ而シテ露國ノ調停ニ依頼スルモノナレドモ  
此レ地勢兵力ノ然ラシムルトコロニシテ我ニ於テハ恐ラク  
武力ヲ以テ庫倫ノ獨立ヲ取消スコト能ハザレバ暫我ガ隣國  
ヲ利用スルモ之ヲ非計ト爲スヲ得ズ第五款ノ商務利益ハ露  
國ノ全力ヲ傾注スルトコロニシテ斷ジテ讓步セザルノ勢ア  
リ北蒙ハ地勢遼遠ニシテ我國現時ノ財力ニテハ經營シ能ハ  
ザル所ナレバ姑ラク露國ノ請ヲ容レテ後日別ニ抵制ノ道ヲ  
講ズベシ第六款ニ至リテハ今回露蒙締約ノコトヲ默認スル  
ニ似タルモ事實既ニ此クノ如クナレバ殊更ニ之ヲ掩飾スル  
必要モ無カルベシ且ツ第六款ハ正ニ他日再ビ自由行動ヲ取  
ルコトヲ防止スル所以ナレバ一たび之ヲ許スモ今後此ヲ以  
テ前例ト爲スコトヲ得ザル也

以上六款ハ之ヲ宣統三年十一月ノ條件ニ比較シ多少出入無  
キニ非ザルモ其大端ハ已ニ之ヲ争回セリ現ニ双方協商ノ末  
最早ヤ何等ノ餘地ヲ存セザルニ至リ之ヲ議定スルモ差支ナ  
キヤ否ヤ即チ公決ヲ俟ツ次第ナリトス

附件十七條

レ竝ニ自由貿易ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ如何ナル課税  
捐税ニ拘ラズ凡テ免除セラル、コトヲ得但シ露支合同ノ營  
業及露國國籍ノモノガ他人ノ貨物ヲ自己ノ貨物ト偽稱セル  
トキハ本條ノ適用ヲ受クルコトヲ得ズ

第三條

露國銀行ハ蒙古ニ於テ支店ヲ開設シテ各個人及各商會社  
其ノ他ノ公私團體トノ間ニ業務ヲ營ムコトヲ得

第四條

露國國籍ノ人民ハ貨物ノ現金賣買ヲ爲シ或ハ貨物ノ交換ヲ  
爲シ又ハ掛取引ヲ爲スコトヲ得但シ蒙古各王旗及蒙古官庫  
ハ私人ノ債務ヲ保證スルコトヲ得ズ

第五條

蒙古官吏ハ蒙古人及支那人ガ露國國籍ノ人民ト共ニ各種ノ  
商務ヲ約定辦理スルコトヲ阻止シ又ハ露人ノ下ニ或ハ露人  
ノ開設セル商會社或ハ製作工場等ニ於テ服役スルコトヲ  
阻止スルコトヲ得ズ蒙古域内ニ於テハ凡テノ公私會社商會  
或ハ各團體各個人等ハ何レモ商業製作專賣權ヲ有スルコト  
ヲ得ズ但シ本協約ヲ定メザル以前ニ於テ已ニ蒙古政府ノ此  
ノ種ノ專賣權ニ關スル免許ヲ有スルモノハ一定ノ期限ニ達

セザル間ハ其ノ權利ヲ保有スルコトヲ得ベシ

第六條

露國國籍ノ人民ハ蒙古地域内ノ各城鎮各蒙旗地ニ於テ一定ノ期限ヲ定メテ地所ヲ租借シ或ハ地所ヲ購買シテ商店竝ニ製造工場ヲ建造シ或ハ家屋、店舗、倉庫等ヲ修築シ或ハ荒地ヲ租借シテ開墾耕作スルコトヲ得但シ地所ノ購買租借ハ上記ノ目的ニ限ルモノトシ之ヲ以テ謀利ノ資ト爲スコトヲ得ズ(原註、土地ヲ指買シ轉賣スルガ如キ投機事業ヲ指セル新名詞ナリ)本項ノ地所ハ蒙古各地現行ノ例規ニ照シテ蒙古政府ト協議シテ給付スベシ但シ布教及牧場用地ハ此ノ限りニ非ズ

第七條

露國國籍ノ人民ハ礦業林業漁業權及其ノ他各事項ニ關スル權利ヲ獲得スルコトニ關シテ蒙古政府ト協商スルコトヲ得

第八條

露國政府ハ領事ヲ駐在セシムベキ地ニ領事ヲ派遣スル事ニ關シ蒙古政府ト協商スルノ權アリ蒙古政府モ亦帝國沿界各地ニ於テ蒙古政府代表ヲ駐在セシムベキ地點ニ蒙古政府代表ヲ派遣スルコトニ關シテ協商スルコトヲ得

其ノ費用ヲ支拂フコトヲ要ス露國國籍ニ屬スルモノニシテ私用ヲ營ムモノモ亦驛站ヲ利用スル權利ヲ享有ス但シ此等ノ私人ハ費用ヲ支拂フコトヲ要ス右費用ニ關シテハ須ク蒙古政府ト商定スベシ

第十二條

蒙古域内ヨリ流レテ露國境内ニ至ル各河及其支流ハ共ニ露國國籍人ハ自由ニ商船ヲ往來航行セシメテ沿岸ノ居民ト貿易スルコトヲ得露國政府ハ蒙古政府ヲ補助シテ各河流ノ航路ヲ整理シ必要ナル標識等ヲ設置スベシ蒙古官吏ハ本協約第六條ノ規定ニ據リテ各河沿岸ニ於テ停船ニ要スル地域ヲ供給シテ以テ埠頭倉庫ヲ建築シ竝ニ燃料ヲ預備スル用ニ供スベシ

第十三條

露國國籍人ハ貨物ヲ運送スル爲メニ水陸兩路ヲ往來スルコトヲ得竝ニ蒙古官吏ニ商議シ其ノ允准ヲ得テ露人ヨリ出資シテ橋梁或ハ渡口ヲ建設スルコトヲ得且ツ其ノ橋梁渡口ヲ通過スルモノヨリ通過料又ハ渡水料ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條

露人家畜ヲ逐フテ旅行スルトキハ途中ニ停息飼養スルコト

第九條

露國領事駐在地及露國商業ニ關係アル地ニハ露國領事ヨリ蒙古政府ト協商シテ貿易地帯ヲ設ケテ露國國籍人民ノ營業居住ニ便ナラシメ領事ノ專管ニ歸セシム領事ヲ設置セザル處ニ於テハ露國各商會社商會ノ領袖ヲシテ專管ニ歸セシム

第十條

露國國籍人民ハ從前ノ權利ヲ保有シ自ラ出資シテ蒙古各地及蒙古各地ヨリ露國邊界各地ニ至ル郵便事業ヲ設定シテ郵便物貨物ノ郵送ニ便ナラシムルコトヲ得但シ本件ハ蒙古政府ト協商處理スベク若シ各地ニ於テ郵便局及其ノ他ノ必要家屋ヲ建設セントスルトキハ共ニ本協約第六條ノ規定ニ依リテ處理スベシ

第十一條

露國駐蒙各領事若シ公文書ヲ遞送スル爲メニ配送人ヲ派遣シ及ビ其ノ他ノ公事ニ依リ必要ナル場合ハ蒙古驛站ヲ使用スルコトヲ得但シ一ヶ月間ニ使用スルコロノ馬匹ハ百頭駱駝ハ三十頭以下ナルトキハ費用ヲ支拂フコトヲ要セズ露國領事及ビ其ノ他ノ官吏公吏モ亦蒙古驛站ヲ利用シ得ルモ

ヲ得若シ停留長期ニ亘ルトキハ地方官ハ須ク家畜通過ノ路筋及家畜賣買ノ地點ニ於テ適當ノ地域ヲ支給シテ牧場トナサシムベシ若シ牧場ヲ使用スルコト三ヶ月ヲ超過シタルトキハ相當ノ費用ヲ支拂ハシムベシ

第十五條

露國沿界ノ居民ガ蒙古ノ土地ニ於テ牧草ヲ刈リ又ハ漁業等ニ從事スルコトハ既ニ沿習久シキニ亘ルモノナルニヨリ今後モ仍ホ從前ノ如クセシメ毫モ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十六條

露國國籍人及其ノ開設スルトコロノ商店等ニ於テ蒙古人又ハ支那人ト往來約束其ノ他ノ取引ハ口頭又ハ證書ニヨリ契約スベク其ノ契約人ハ締結セル契約書ヲ地方官ニ呈請シテ驗證ヲ請フコトヲ得ベク若シ地方官ニ於テ其ノ呈出セル契約書ヲ檢查シ不都合ノ點アルトキハ直ニ之ヲ露國領事館ニ通知シテ領事ト會商シ其ノ發生セシ誤解ヲ公同判決スベシ之ニ關シ次ノ如ク明定ス

不動産ニ關スル事件ハ務メテ書面ノ契約ヲ締結セシメ蒙古該管官吏及露國領事館ニ送付シテ檢查批准ヲ請ハシメ自然財源(原註、礦業林業等ニ關スルモノ)ニ關スル契約ハ

必ズ蒙古政府ノ批准ヲ經ベキモノトス若シ爭議アルトキハ口頭又ハ書面ニヨル契約ヲ問ハズ兩造ヨリ仲裁人ヲ推舉シテ和解セシムベク若シ和解スル能ハザルトキハ更ニ會審委員會ニ於テ之ヲ判決スベシ會審委員會ハ常設臨時ノ二種ニ分チ常設會審委員會ハ露國領事駐在地ニ之ヲ設置シ領事或ハ領事代理及蒙古官吏ノ代表者ニシテ相當ノ資格アルモノヲ以テ之ヲ組織ス臨時會審委員會ハ領事官未設ノ地ニ於テ發生セル事件ノ輕重ヲ酌量シテ暫時之ヲ開設スルモノニシテ露國領事代理及被告ノ居留シ又ハ所屬セル蒙旗ノ蒙古王代理ヲ以テ之ヲ組織スルモノトス會審委員會ハ蒙古人支那人及露國人ヲ出廷セシメ會審委員會ノ監定人ト爲スコトヲ得會審委員會ノ判決ハ露國人ニ關スルモノナルトキハ露國領事官ヨリ直ニ之ヲ執行シ蒙古人或ハ支那人ニ關スルモノナルトキハ被告ノ所屬シ又ハ居留セル蒙旗ノ蒙古王ヨリ之ヲ執行ス

第十七條

此ノ專條ハ調印ノ日ヨリ實行ス兩方全權ハ本協約ノ露蒙兩文ヲ列記シ二通ヲ繕寫シ比較對照シテ錯誤ナキヲ認メ記名調印シテ互ニ之ヲ交換シテ證據ト爲スモノナリ

遇條例第二款ニ所謂各蒙古王公原有ノ管轄權ハ凡テ從前ノ儘タルコト

乙、軍事及警察ヲ組織スル專有權ニ關シテハ軍備及警察ハ第一款ノ規定ニ依リ當然前清ノ舊例ノ如ク中國政府ノ節制ニ歸セシムベキコトヲ聲明スルコト

丙、蒙古籍以外ノ各國人ノ其ノ境内ニ殖民スルコトヲ拒絕スルコトニ關シテハ但シ第五款ニ指ストコロノ商務利益ノ如キハ當然殖民ノ限ニ非ザルコトヲ聲明スルコト

四、條件第三款 原文ノマ、同意スルコト

五、條件第四款 中央ノ二字ヲ刪除シ餘ハ原文ノマ、同意スルコト

六、條件第五款 正文ハ原文ノマ、同意スルコト、附件中「蒙古地方」ノ字ノ上ニ皆「外」ノ一字ヲ加ヘ又第十七條ハ刪除スルコト

七、條件第六款 原文ノマ、同意スルコト

右各項議決後以上ハ最後ノ讓步條件ナレドモ若シ尙更ニ修正スルコトヲ得バ左ノ如ク修正スルコト若シ萬々緒ニ就キ難キトキハ仍ホ前項ノ議決ヲ以テ標準ト爲スコトヲ議決シ

露曆一千九百二十二年十月二十一日

公舉蒙古主ノ治世第二年九月二十四日庫倫ニ於テ調印ス

(本文中「蒙古政府」トアルハ凡テ蒙古地方官ト訂正サレタルモノト御承知ヲ乞フ原文參照)

(附屬書三)

衆議院特別審查委員會報告譯文

五月三十日政府ノ提出シタル支露兩國外蒙古問題協定條件ニ對シ同意ヲ請求シ來レル議案ニ關シ議長ヨリ委員二十一人ヲ指定シテ審査セシメタルニツキ五月三十日三十一日六月二日三日ニ於テ迭次審查會ヲ開キ同時ニ外交總長ノ出席説明ヲ請ヒタル上多數ヲ以テ決定セルトコロ左ノ如シ

一、本條件ハ條約ノ形式ヲ以テ締結セズ支露兩國政府ヨリ公文ヲ交換スルコトスルコト但シ本項ノ公文ハ其ノ實質條約ト同ジキコトヲ認メ仍ホ須ラク國會ノ同意ヲ經ベキコト

二、條件第一款 原文ノマ、同意スルコト

三、條件第二款 原文ノマ、同意スルコト但シ須ラク左ノ如キ説明書ヲ附スベキコト

甲、從來ノ地方自治制度ヲ更動セザルコト即チ蒙古待

タリ

一、第三款 專有權ノ下ニ但シ書キヲ加フルコト即チ「但シ組織方法及其ノ經費ハ須ラク支那政府ノ認可ヲ經ベキモノトス」

二、第六款「關於改動該處制度」ノ九字ヲ刪除スルコト

三、附件第八條「領事ヲ派遣ス」ノ下ニ「但シ須ラク中國政府ノ認可ヲ經ベシ」ト加フルコト

右報告ス

中華民國二年六月三日 特別審查委員會提出

三九五 六月二十七日 在中國伊集院公使ヨリ 牧野外務大臣宛

露支間蒙古協約案急遂承認ヲ建言セル熱河都

統熊希齡ノ密電ニ關スル件

公第二一二号 (七月七日接受)

大正二年六月廿七日

在清國

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

露蒙協約發生以來支那民国ノ輿論面策露支兩國間交渉ノ次

第協定案ヲ衆議院ニ提出シテ協賛ヲ求メタル成行等ハ  
 隨時報告ノ通りナル処全体露蒙協約發生以來民國輿論反對  
 ハ激昂猛烈ヲ極ムルニ不拘民国自身ノ立場ト力量ニ顧レハ  
 民国人ハ此際如何ニ焦慮激昂スレハトテ到底干戈ニ訴ヘテ  
 本問題最後ノ主張ヲ徹底スルノ力量成算ナキハ已ムナキノ  
 情態ニシテ民国有識者ノ夙ニ觀念自覚スル所ナリ孫逸仙カ  
 在北京中物論ヲ惹起セル辺境放棄論袁臨時總統カ本問題發  
 生後各省都督ノ意見ヲ徵スル為メ發シタル密電等ニ因リ其  
 全貌ヲ察知スルニ足ルモノアリ然ルニ陸外交總長カ露公使  
 ト二十余回ノ折衝交渉ヲ經テ協定シタル露支間ノ蒙古協約  
 ヲ衆議院ニ於テ修正ヲ加ヘタル内容ノ次第ハ公第二〇二号  
 信ヲ以テ詳細報告ノ通りニ有之陸總長及ヒ梁士詒等ハ衆議  
 院修正ノ旨ニ從ヒ再ヒ露公使ト交渉ヲ重ネタルモ該協約中  
 單ニ蒙古トアルヲ外蒙古ト改修スル事ハ略ボ露公使ノ承諾  
 ヲ得タルカ如キモ所謂外蒙古ノ範圍ニ於テハ双方ノ主張尚  
 徑庭アルモノ、如ク伝ヘラレ陸總長ハ六月二十日ノ衆議院  
 秘密會ニテ再交渉ノ成行ヲ報告シ重ネテ交渉ノ余地ナキヲ  
 述ヘタルモ衆議院ハ頑トシテ原修正案ヲ維持シ陸總長カ帰  
 途露公使館ニ至リ重ネテ交渉ス可キヲ決議シタリト伝ヘラ

際條約ヲ訂立シ得ストアリ此レ均シク外交上補救スル所  
 アリト云フ可ク外蒙古ニ不駐兵、不移民、不設官ト云フ  
 三端ハ表面ヨリセハ制限セラル、所アルカ如キモ實ハ則  
 チ蒙古優待條件中ニ此三端ヲ含有シアリテ若シ蒙古人ハ  
 條件ヲ楯トシテ我ヲ相繼スルアレバ我レノ固ヨリ反汗ス  
 ル能ハサル所

ナリトテ暗ニ該協約ヲ弁護シ更ニ語ヲ進メテ而カモ此協約  
 タル国体上損スル所アルカ如キモ国体今日ノ危弱止ムヲ得  
 サル所歐米各國革命ノ歴史ニ顧ミルモ革命一回毎ニ幾分領  
 土縮削セラル、アルハ自ラ止ムヲ得サル処今日ノ民国ニシ  
 テ此協定ヲ得ル寧ロ幸トス可シ希齡ハ躬辺寄ニ膺リ国防ノ  
 責任アレハ軍人トシテ開戦ヲ公言スルハ応ニ尽ス可キ天職  
 ナレトモ時勢危迫岌々日ヲ終フ可カラサルノ状アリ身ハ前  
 敵ニ臨ミ方ニ痛苦ヲ知ル請フ其詳ヲ陳セント提言シテ項ヲ  
 分ツテ蒙古ノ実情ヲ云ヘリ曰ク

一内蒙王公ハ共和ヲ贊成スルモ所轄各旗ハ土地瘠苦ニ宗教  
 ヲ迷信シ共和ノ真理ヤ優待條件ノ何物タルヲ知ラス一タ  
 ビ煽動スルモノアレハ群起附和ス現ニ熱河境内ノ各武弁  
 ハ漠蒙ノ馬賊ト勾結シテ患ヲ為ス所在皆然リ各蒙古王公

ル、モ一方蒙古方面ニ於ケル状態ニ因レハ内蒙内侵ノ警報  
 伝ハリ内蒙古危急ノ惡耗頻々タリ現熱河都統熊希齡(國務  
 總理ノ候補ト月且セラレ目下上京中ト伝フ)カ露支間ノ蒙  
 古協約ノ速ニ決定セサル可カラサル実情ニ関シ六月九日ヲ  
 以テ大總統國務院參眾兩議院各省都督ニ宛テタル密電トシ  
 テ上海ノ時報ニ掲載セラル、処ハ輿論ノ如何ニ喧囂激昂シ  
 テ虚勢ヲ張ルニ不拘外蒙討伐ノ困難ハ勿論内蒙防備サヘ頗  
 ル容易ナラサルノ内情ヲ察知スルヲ得可ク孫逸仙辺境放棄  
 論袁總統ノ密電ナルモノト共ニ民国ノ對蒙古虚実ヲ知ルニ  
 足ル可キモノアルヲ以テ大要左ニ摘訳致候

熊希齡ノ密電ハ先ツ露国カ對蒙古要求ヲ提出シタル際政府  
 当局者ノ一味之ヲ延擱シテ顧ミス遂ニ露蒙間直接ノ締約ヲ  
 見ルニ至レルハ是レ抑モ九州ノ鉄此大錯ヲ鑄ル外交ノ失敗  
 誤リ遅延ニ在リト断シ希齡熱河ニ出鎮シ三月到任以來中央  
 ニ電詢シテ露国ト交渉ノ成行困難ヲ知レリ蓋シ露国ノ條約  
 決定セサル限リ内蒙ノ布置防備サヘ着手ノ由ナキ也ト云ヒ  
 更ニ露支協約内容ヲ評論シテ云フ

露ハ已ニ内蒙ノ我領土タルヲ認メ我カ長官及護衛隊ヲ設  
 置シ我原有主權ノ執行ヲ認メ又露国ハ内蒙ニ駐兵セス固  
 ハ其掠劫ニ苦ミ我兵力及ハス散シテ流寇トナリ聚ツテハ  
 大部隊ノ掠奪ヲ為ス加フルニ庫倫ノ独立取消サ、ル限リ  
 蒙人附和ノ希望絶ニス迷信除キカタク一日トシテ無事ナ  
 ル能ハス經棚滂江ノ兩役誤ツテ匪計ニ陥リテ我軍利ヲ失  
 ヒ蒙古人ノ輕ンスル所トナル況ンヤ内偵ニヨレハ露人暗  
 ニ之ヲ指揮スト聞ク蒙人体魄ノ強猛ヲ以テシテ戰術訓練  
 ヲ教習セハ我民国永遠無窮ノ巨患ナリ蒙情ノ慮ル可キモ  
 ノナリ

一軍備上ヨリ論セハ熱河ハ開魯界守ヲ失セルヨリ速カニ設  
 防ス可キニ財政ニ制限セラレ戒備ヲ欠ク軍資ヲ以テ云ヘ  
 ハ熱河ノ財庫洗フカ如キモ籌防益々緊ニ商業益々滯リ収  
 稅愈々減少ス湖南北京ニ電報救済ヲ求ムレハ自願違ナ  
 シト云ヒ中央政府ニ請ヘハ借款ノ制限アリテ蒙古ノ防備  
 ニ供スル能ハスト云ヒ八月以後墜潰ノ虞アルヲ免レカタ  
 シ

軍隊ヲ以テ云ヘハ熱河ノ主軍六千ヲ踰エスシテ僅ニ内匪  
 ノ防弭ニ足ルノミ新募ノ各軍ハ用ヲ成サス前敵ノ布置ハ  
 専ラ奉天毅軍直隸三省ノ客軍ニ恃ムモ且ツ奉天禮泉ノ警  
 報アリシヨリ兩淮軍ノ派遣ヲ請ヒ中央ノ允許ヲ得シニ南

北問題發生ニヨリ江省ノ扣留スル所トナレリ  
軍需ヲ以テ云ヘハ銃砲彈藥食料ノ蓄蓄ナク帳棚鍋灶之シ  
ク隨營ノ車輛ヲ欠ク一々之ヲ設備セントスルモ財ナク且  
ツ咄嗟弁シカタシ

天時地理ヲ以テ之ヲ云ヘハ沙漠ノ横阻ハ蒙人ノ利トスル  
所氷雪嚴寒ハ其慣ル、所ナリ近ク聞ク蒙匪ハ到ル処焚掠  
シ井ヲ塞キ數百里中水草欠乏シ我軍遠剿シカタシ夫レ北  
方ノ各軍ヲ以テスルモ尚天時地理ノ限ル所アリ南軍征蒙  
ノ言恐ク画餅ニ帰セン是レ軍備ノ慮ル可キモノ也

以上ノ兩端独リ熱河ノミニアラス蒙辺各省モ亦然ラサル  
ナシ然モ是尚ホ蒙匪ニ対シテ云フナリ若シ露人ト開戦  
スト云ハ、我全国五十師團ヲ挙ゲ尽ク北方ニ調フモ軍需  
ノ不足交通ノ不便戦方勝チガタキ兆アリ況ンヤ民国初メ  
テ立ツ万々輕々シク動キカタシ

云々ト云ヒ軫ジテ日清戦後日本カ三国ノ干渉ニ遇ヒ遼東半  
島ヲ還附シ管胆臥薪一戦ニシテ露国ニ勝テルノ事迹ヲ追懐  
シ參衆議院カ須ラク彼此ノ虚実強弱ヲ明カニシ時勢ノ緩急  
輕重ヲ察シ此際宜シク政府協定ノ蒙古協約ヲ隱忍承認シ上  
下一心速カニ内憂ヲ釈キテ外患ニ專注スヘキヲ勸告シ又歐

求シ政府ハ同院ノ提出シタル修正案ニ基キ累次露国公使ト  
協商シタルモ前提案以外寸毫モ讓歩ヲ許サマルニ付之ニ処  
スル議會ノ意見ヲ求ムル旨ヲ説明シ同院ハ七月八日之ヲ議  
スルコト、ナリ居タルガ七月八日ノ秘密会ニハ段祺瑞ヲ國  
務院秘書張國淦ヲ外務總長代理トシテ出席シ議員ノ出席總  
數ハ最初四百四十名討論ノ結果採決方法ニ関シ進歩党側ハ  
無記名説国民党側ハ記名説ヲ主張シ無記名説多數ナリシニ  
議員中之ニ不平ナルガ為退席者ヲ生ジ残余ノ四百三十名ニ  
就キ採決シタルニ旗幟鮮明者二百二十九名反對者即国民党  
側二百一名右ニテ本案ハ衆議院ノ関スル限り政府ノ希望通  
リ遂ニ通過シタリ

右ハ共和党政友会員等ガ進歩党ニ警告ヲ与ヘタル結果ナリ  
但シ共和党ハ本問題ヲ別ニシテハ依然国民党ト提携スル積  
リナリト云フ政府ハ前夜來極力議員買収ニ運動スル所アリ  
タルガ如シ

三九七 七月十一日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

支那官憲ノ一露人拘留事件ニ付袁世凱方露國  
ノ要求ヲ承諾ノ件

一五 露蒙協約關係一件 三九七

米各国ハ議院カ国家重要ノ問題ニ際会シ何等疑誤アリ迅速  
決定シ難キ者アレハ政府ノ案卷ヲ詳査シ又ハ实地調査ヲ為  
スノ事例ヲ述ヘ政府及議員ノ注意ヲ促シ最後ニ

武昌戦ヲ起セル時希齡尚京師ニ在リ某親貴告ケテ曰ク革  
命ハ能ク成功スト雖モ將來漢人必ス互ニ相殘殺スルノ時  
アラント去年在<sup>ル</sup>京一外國人ハ語リテ曰ハク支那人民ハ  
實ニ共和成立ノ資格ナシト此兩語ハ最モ我民ノ躬ヲ撫シ  
テ最モ痛心スルニ足ルモノナリ

ト云ヘリ右ハ熊カ政派立脚ノ關係ヨリ国民党側ノ政府反抗  
ヲ緩和セントノ見地ヨリ幾分矯飾シタルノ嫌アルハ勿論ナ  
レトモ實力ヲ以テ内外蒙古ヲ鎮圧シ露支間本問題最後ノ解  
決ヲ為シ能ハサルノ内情ニ至リテハ蓋シ已ムヲ得サルノ実  
情ナル可ク候

右何等御参考迄及報告候 敬具

三九六 七月九日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支条約案中国衆議院通過ノ件

第五一五号

露蒙条約ニ関シ七月七日段祺瑞衆議院ニ出席シ秘密会ヲ要

附記 露支懸案ニ付露國ノ執リタル高圧手段ノ实例

第五一七号

往電第五一六号中支露交渉ノ件ニ関シ袁世凱ハ七月十一日  
坂西ヲ遣シ本使ニ対シ種々ノ事情ハ斯ル小問題ヲ長引カシ  
置クヲ利トセザルニヨリ五千「ルーブル」ノ賠償金ヲ支出  
スルコト、シ露国公使トノ交渉ヲ纏メタルニ付安心アリタ  
キ旨伝言セリ

本件ニ関シ他ノ筋ヨリ当館ニ達シタル情報ヲ綜合スレバ支  
那側ハ露国公使ノ要求全部即

賠償金五千「ルーブル」ノ外

黒竜江都督巡警長其他關係官吏ノ罷免

事件發生地方ノ官憲ガ最寄ノ露國領事ニ謝罪ノ意ヲ表ス  
ルコト

露國郵便物ヲ張家口北ニ於テ開封シタル支那兵ノ嚴罰及  
ビ

右ノ詳細ヲ国境附近ノ新聞ニ発表スルコト

等ヲ承諾シ七月十日從來ノ五件共妥協結了シタル由從ヒテ  
露國兵ハ現状以上進動ハセザル筈ナレトモ露国公使館ニテ  
ハ支那側ニテ妥協条件全部ヲ履行スル迄ハ今回進メタル兵

ヲ引キ揚グルコトヲ見合ハス旨外間ニ声言シ居レリ  
(附記)

露支懸案ニ付露国ノ執リタル高圧手段ノ実例<sup>(註)</sup>  
従来北京又ハ地方ニ於テ露支兩國間ニ懸案タリシ

(一)大正二年六月十三日齊々哈爾ニ於テ露国籍ヲ有スル朝鮮  
籍民新聞記者某カ探偵ノ嫌疑ヲ以テ該地支那警察ニ拘引  
セラレ毆打其他ノ虐待ヲ受ケタルヲ以テ露国領事ヨリ直  
ニ其故ナキノ理由ヲ具シテ釈放ヲ要求セルモ黑竜江都督  
ハ之ニ応セス漸ク二日ヲ経テ釈放ニ及ヒタルコト

(二)右事件ニ引続キ露支国境ニ近キ露領「ポルタフカ」ノ露  
国病院看護手露人「アキメンコ」ナル者カ露領ニ於テ購  
ヒタル牛ヲ国境ニ接近セル支那三岔口ニ至リ之ヲ売却セ  
ントシタルニ該地支那官憲ハ右牛ハ「アキメンコ」ノ盜  
メルモノナリトナシ同人ヲ逮捕シ前後左右寸毫モ身体ヲ  
動かス能ハサル狭隘ナル牢屋ニ拘禁スルコト五日ニ及ヒ  
「アキメンコ」カ二名ノ人質ヲ提供スヘキコトヲ申出ツ  
ルニ依リテ僅カニ彼ヲ釈放スルニ至リタルコト

(三)護照ヲ所持シ且ツ過去十年間張家口外蒙古間ニ家畜營業  
ニ従事セル露国商人カ張家口ニ於テ支那官憲ノ為ニ抑留

セシメントスルカ如キ態度ニ出デタルヲ以テ露国公使ハ本  
国政府ニ電稟ノ結果大正二年七月八日外交部ニ對シ支那政  
府ニ於テ右ニ對シ何等覆牒セサルニ於テハ露国ハ更ニ特殊  
ノ要求ヲナス処アルヘキ旨申出デタリ又一方齊々哈爾ニ於  
テ從來ヨリ交渉案件タリシ前記露国国籍ヲ有スル朝鮮人抑  
留事件等地方問題ニ付同月九日露国領事ハ黑竜江都督宋小  
濂ニ對シ都督參謀長巡警長等ノ退職並其齊々哈爾退去及賠  
償金五千留ノ支払ヲ要求シ同月十日迄ニ満足ナル回答ヲ得  
サルニ於テハ露国ハ自由行動ニ出ヅヘキ旨ヲ附言セリ宋都  
督ハ自己ノ辭職退去ハ承認セルモ參謀長以下ノ免職ハ大總  
統ノ命令ニヨルニアラザレバ如何トモ為シ難キ旨答覆シタ  
ルニ露国領事ハ更ニ都督以下各員ノ十日午後迄ニ退去ヲ強  
要シテ止マス且先是多数ノ露兵(約七千或ハ九千トノ説アリ)  
齊々哈爾方面ニ集中セラレタリ然ルニ支那政府ハ内外  
ノ狀勢ト露蒙問題ニ関スル露支條約ノ成行ニモ顧ミ露国ノ  
要求全部ヲ承認スルコトニ決定シ同月九日其旨露国公使ニ  
通牒シタリ、又齊々哈爾ニ於テ宋都督ハ十日午後一時露国  
ノ要求ノ全部ヲ承認シタリ

註 本調書ハ當時執務參考ノ為政務局第一課ニ於テ作成シタリ

セラレ為ニ本人ノ商業上至大ノ損害ヲ来シタルコト

(四)同年六月廿三日張家口庫倫間ヲ往復スル露国郵便物カ戒  
嚴令施行ノ名ノ下ニ支那官憲ノ為ニ開披セラレタルコト  
等ノ事件一併解決ノ為メ在支露国公使ハ支那政府ニ對シ左  
記ノ通要求セリ

(一)黑竜江都督ノ罷免、參謀長、巡警長其他關係官吏ノ罷  
免及処罰

(二)三岔口關係支那警察官憲ノ罷免及処罰

同地上長官ヨリ前掲「アキメンコ」ノ直屬セル病院長  
並ニ「ポルタフカ」露国地方官ニ謝罪スルコト、延吉  
庁ニ駐在セル露国領事官ニ對シ同地道台ヨリ謝罪スル  
コト

(三)郵囊ヲ開披シタル兵士ヲ嚴罰ニ処スルコト

(四)齊々哈爾ニ於ケル新聞記者逮捕事件ニ對シ二千五百  
留、三岔口事件ニ對シ五百留、張家口家畜商人ノ損失  
ニ對シ二千留合計五千留ノ賠償金ヲ支払フヘキコト

(五)以上ノ詳細ヲ本件關係ノ露支国境附近ノ主要ノ場所ニ  
公示スルコト

然ルニ右ニ對シ支那政府ハ調査ニ籍口シ故意ニ交渉ヲ遷延

三九八 七月十四日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露国政府ハ蒙古問題ニ付中国外交總長ニ對シ

新提案ヲ送リタル旨總統府顧問「モリソン」

水野書記官ニ談話ノ件

別電一 七月十五日伊集院公使宛牧野外務大臣宛第五

二〇号

蒙古ニ関スル露支協約案

二 七月十四日伊集院公使宛牧野外務大臣宛第五

二一号

露国政府ノ新提案

第五一九号

極秘

七月十四日「モリソン」水野ヲ来訪極秘トシテ蒙古ニ関ス  
ル露支協約六ヶ条ハ既ニ衆議院ヲ通過シ參議院モ最早通過  
ノ見込立チタルニ付別電第五二〇号ノ通ニテ袁世凱ハ可成  
速ニ締結ノ決心ニテ駐露支那公使ヘ其旨電報シタルニ同官  
ヨリ露国外務省ニテハ從來交渉済ノ協約ニ満足セス新ナル  
要求ヲナスヘキ底意ニ見ユル由回電アリタルカ露国公使ハ  
七月十三日入院中ノ外交總長ヘ四ヶ条ノ新提案ヲ送り更ニ  
七月十四日袁ニ会見シ同様ノ提案ヲナスト同時ニ從來交渉  
シタル協約案ハ全然廢棄スル旨ヲ言明シタリ袁世凱ハ単ニ

同公使ノ申出ヲ聞取リタルノミノ由ナルカ自分(モリソン)ニ對シ新提案ヲ承諾スル能ハサル旨ヲ告ケ若シ之ヲ承諾スルモ露國ハ調印ノ間際ニ至リ又々新要求ヲナシ遂ニ底止スル所ナカルヘシトテ頗ル当惑ノ姿ニテ何トカ工夫アルマシヤト尋ネタリ袁ノ意中ハ自分ヲシテ英國代理公使ニ相談セシメントスルニアランカト思ハルモ別段効果アル間敷ク且支那ノ利益ナリトモ思量セサルニ付未タ相談セス唯伊集院公使カ本件ノ当初間接ノ尽力ニ鑑ミ何ニカ名案モアラシカト内密ニ相談シタキ希望ナリ此事ハ別ニ袁ノ依頼ヲサレトモ必ス憚フ所ナルヘシ云々ト述ヘタルニ付水野ハ兎ニ角直接本使ニ相談スル方可然旨勸告シタリ本使ハ「モリソン」ニ對シ露支交渉ノ速ニ纏ランコトハ帝國ノ希望スル所ニシテ之カ為好機會ヲラン応分ノ尽力ヲ惜ム所ニアラサルモ露國ノ新提案ヲ充分研究スルヲ要スルニ付先ツ原文承知シタキ旨申置タルニ其後送り越タル原文別電第五二二一号ノ通

(別電1)

七月十五日伊集院公使發牧野外務大臣宛電報

蒙古ニ関スル露支協約案

3. Russia, on its part, undertakes that with the exception of consulate guards, it will not dispatch troops to outer Mongolia, and also undertakes not to carry out colonization des terres labourable de la Mongolie extérieure et à ne se faire pas représenter par d'autres institutions que des consulats admis par le traité.

4. China, desiring to employ l'exercice de son autorité in outer Mongolia in a peaceful manner declares herself disposed to accept les bons offices of Russia in order to establish on the bases ci-dessus énoncées les principes de ses relations avec la Mongolie extérieure, et pour que l'autorité centrale de cette région reconnaisse son caractère historique d'autorité locale de la partie de la Chine.

5. Government of China out of consideration for the bons offices of the Russian Government agree to give to Russian subjects in outer Mongolia commercial privileges to be enumerated below.

(Here set forth seventeen clauses)

6. Hereafter in the case of agreements between Russia and avec les autorités de ce pays relating to changes of important international relationships of that region, it is necessary that China and Russia negotiate

第五二〇号

左ノ協約案英文ノ部ハ漢文原案ヨリ訳シタルモノナレトモ漢文ニテハ意味明瞭ナラサル疑アル部分ハ公文ヲ其儘用キアリ其積ニテ御覽ヲ請フ

China and Russia, with the object of obviating misapprehension which might possibly arise from the present situation in Mongolia, have agreed upon the following stipulations:

1. Russia recognizes Mongolia to be an integral part of territory of China, and hereby explicitly undertakes not to seek to intimidate continuity of its territorial integrity. Russia further undertakes to respect China's rights of every description which heretofore have existed in consequence of this territorial integrity.

2. La Chine s'engage à ne point modifier autonomie locale historique de la Mongolie extérieure et à accorder aux Mongols de la Mongolie extérieure qui sont responsables de défense et du maintien du bon ordre sur le territoire, droit exclusif d'y entretenir leur propre organisation militaire et policière ainsi que le droit de ne pas admettre colonisation de leur pays par d'autres peuples que les sujets Mongols.

direct and only after Chinese Government has given its consent shall they become effective.

註 本電報ハ七月十四日起草ガリシ同日電報北京電報局リ致シ發電方手続ヨリシタスモ同電報局モリシハ實際ハ發電ハ七月十五日午前零時四十五分ナランニ尙本電大體譯出

(別電1)

七月十四日伊集院公使發牧野外務大臣宛電報

露國ハ中國政府リ致スル新提案

No. 521 Confidential.

La Chine reconnaît autonomie de la Mongolie (à l'exclusion de territoires qui font partie de Mongolie intérieure) et les droits qui en découlent pour ce pays. La Russie reconnaît suzeraineté de la Chine sur la Mongolie et les droits qui s'y rattachent. La Chine déclare prête à accepter bons offices de la Russie pour établir ses relations avec le gouvernement mongol en prenant pour base les principes énoncés dans l'accord et le protocole russo-mongol du 21 octobre 1912. Les questions qui ont trait aux intérêts de la Russie et de la Chine dans la Mongolie et qui sont créées par le nouvel état de choses dans ce pays feront l'objet de



pourparlers ultérieurs entre les deux gouvernements.

Juin.

三九九 七月十五日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露国ヨリ新ニ提議セラレタル蒙古ニ関スル露  
支協約案ニ付在中國英国代理公使へ談話ノ件

第五二四号

往電第五一九号ニ関シ七月十五日英国代理公使来訪ノ節本  
使ハ七月十四日参議院ニ於テ政府ヨリ露国公使新提議四ヶ  
条ナルモノヲ朗読シ報告シタルニ参議院ハ曩ニ提出セラレ  
タル六ヶ条サヘモ議決セザルニ付新提案ノ如キ議スル能ハ  
スト拒絶シ六ヶ条ニ付テノミ審査委員ヲ設ケタル旨ヲ語り  
タルニ同官ハ何等聞知スル所ナカリシトテ驚キタル模様ニ  
付本使ハ参議院議員中ニハ四ヶ条ノ新提議ヲ以テ露国公使  
ノ「ブラッフ」ト考フル者アリ或ハ袁世凱ノ苦肉策ト為ス  
者アレドモ若シ露国ニシテ真面目ニ此提議ヲ貫徹セント欲  
スルモノナラハ支那ノ為メニ甚タ憂フヘキ次第ナルニ付英  
国政府ニ報告シ置カル、方可然ト述ヘタル処同官ハ本使ノ  
好意ヲ謝シ早速電報シ尚探索スヘシト云ヘリ其後本使ハ水

第五二九号

往電第五一九号ニ関シ七月十六日露国公使他用ニテ来訪ノ  
節語ル所ニ依レハ露国ハ別ニ新タル要求ヲ為シタルニア  
ラス大体ノ根本主義ハ初ヨリ動カサス唯字句ノ修正ノミハ  
相談ニ応スヘキ旨繰返シ支那側ニ申聞ケ置キタルニ拘ラス  
字句修正ノ名ノ下ニ種々ノ小刀細工ヲ試シ其結果実質ニ変  
更ヲ加ヘントスル傾アリ此儘捨置カハ遂ニ根本主義ニ影響  
スヘキノミナラス為メニ他日紛議ノ種ヲ遺ス虞アルニ付明  
白ニ根本主義ヲ記載シテ提出シタルニ過キスト云ヒ本使カ  
従来六ヶ条サヘ国会両院通過困難ナルヘクト思ハル、ニ付  
今度ノ四ヶ条ニテハ到底国会ノ協賛六ヶ条シカルヘシト云ヘ  
ルニ対シテハ同公使ハ衷ハ最初ヨリ国会杯ニハ余リ顧慮シ  
居ラサル模様ニ付何トカ纏マルナランカト云ヒ居タリ

四〇二 七月十六日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支条約案中国議會ニ於テ否決ニ付為サレタ  
ル露国ノ对中国通告文要領報告ノ件

別電 七月十六日田付臨時代理大使發牧野外務大臣宛  
電報第五九号

一五 露蒙協約關係一件 四〇二

野ヲシテ「モリソン」ニ対シ英国代理公使ニ談話スル方可  
然旨報告セシメ置キタルニ付何レハ「モリソン」ヨリ同官  
ニ談話スルコト、存スレドモ英国政府又ハ英国大使へ御話  
ノコトモアラハ「モリソン」カ本使へ相談シタルコトハ秘  
シ置カレタシ

四〇〇 七月十六日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支条約六ヶ条案中国参議院ニ於テ否決ノ件

第五二八号

七月十六日参議院ハ前日ニ引続キ秘密会ニ於テ蒙古ニ関ス  
ル露支条約六ヶ条ヲ議シ国民党側ノ主張ニヨリ記名投票ヲ  
以テ採決ノ結果出席二百十八名ノ内同意九十九名不同意百  
十四名無効投票五名十五票ノ差ヲ以テ否決シタリ

四〇一 七月十六日 在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支間ノ蒙古協約案ニ関スル露国ノ新提案ニ  
付在中國露国公使来談ノ件

露国政府ヨリ中国政府宛通告文要領

第五八号

露蒙協約ニ関スル露支条約案ヲ支那議會ニ於テ否決シタル  
結果露国側ニ於テハ此上讓歩ノ余地ナシトハ予テ外務当局  
者ノ本官ニ語り居リタル所ナリシガ露国ハ遂ニ七月十三日  
支那駐劄露国公使ヲシテ大要別電第五九号ノ通支那政府ニ  
通告セシメタル旨七月十六日發表セラレタリ

(別電) 七月十六日田付臨時代理大使發牧野外務大臣  
宛電報

露国政府ヨリ中国政府宛通告文要領

第五九号

露国政府ハ蒙古問題ニ関スル談判ヲ開始スルヤ支那政府ニ  
注意スルニ露国政府ハ千九百十二年ノ露蒙協約及同議定書  
ノ精神ヲ基トシ即チ蒙支間ノ法律的關係ヲ存続セシメ蒙古  
ニ完全ナル自治ヲ与ヘ蒙古自己ノ行政機關ト軍隊トヲ有セ  
シメ支那人ノ殖民ヲ禁止スル主義ヲ露支談判ノ基礎トスヘ  
キヲ以テセリ其後露国ハ支那ニ向テ屢々此主義ヲ声明シ且  
ツ露支条約ヲ起草スルニ当リ支那ノ希望ヲ容レテ多大ノ讓

歩ヲナシタルト同時ニ右主義ハ之ヲ変スルコトヲ得サル旨再三注意シタリ然ルニ支那政府ハ露国政府ノ此主張ヲ無視シ右条約案ノ趣旨変更ヲ要求セリ茲ニ於テ露国政府ハ露支談判カ到定満足ナル結果ヲ得ルコト能ハサルヲ認メ之ヲ中止シ本件ニ関シテハ自由行動ヲ取ル可シ然レトモ露国政府ハ本件ニ関シ露支兩國政府見解ノ一致ヲ見ルニ至リタル暁ニハ何時ニテモ再ヒ談判ヲ開始スルニ躊躇セサルヘシ露国政府ノ見解ニ依レハ支那ハ蒙古ノ(内蒙古ヲ除ク)「オートノミー」及ヒ之レヨリ生スル權利ヲ認メ露国ハ蒙古ニ対スル支那ノ宗主権及ヒ之ニ関聯スル權利ヲ認メ又支那ハ千九百十二年十月廿一日ノ露蒙協約ノ原則ヲ認メ蒙古トノ關係議定ノ際露国ノ好意的斡旋ヲ受クルヲ要シ蒙古ニ関シテハ支那ト条約ヲ締結スル迄ハ露蒙協約ヲ適用スヘシ

四〇三 七月十七日

牧野外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

蒙古問題ニ関シ露国ヨリ旧協約案ヲ廢棄シ新

協約案四条ヲ提議ノ件

別 電一 七月十七日牧野外務大臣宛井上大使宛第一二七号

蒙古ニ関スル露支協約案

ニ相談シタキ希望ナリ此事ハ別ニ袁ノ依頼アラサレトモ必ス憚フ所ナルヘシ云々ト述ヘタルニ付水野ハ兎ニ角直接本使ニ相談スル方可然旨勸告シタリ依テ本使ハ「モリソン」ニ対シ露支交渉ノ速ニ纏マランコトハ帝国ノ希望スル所ニシテ之カ為好機會アラハ応分ノ尽力ヲ惜ム所ニアラサルモ露国ノ新提案ヲ充分研究スルヲ要スル旨ヲ告ケ置キタリ

七月十五日英國代理公使來訪ノ節本使ハ七月十四日參議院ニ於テ政府ヨリ露国公使新提議四ヶ条ナルモノヲ朗誦シ報告シタルニ參議院ハ曩ニ提出セラレタル六ヶ条サヘモ議決セサルニ付新提案ノ如キ議スル能ハスト拒絕シ六ヶ条ニ付テノミ審査委員ヲ設ケタル旨ヲ語リタルニ同官ハ何等聞知スル所ナカリシトテ驚キタル模様ニ付本使ハ參議院議員中ニハ四ヶ条ノ新提議ヲ以テ露国公使ノ「ブラッフ」ト考フル者アリ或ハ袁世凱ノ苦肉策トナス者アレトモ若シ露国ニシテ真面目ニ此提議ヲ貫徹セント欲スルモノナラハ支那ノ為メニ甚タ憂フヘキ次第ナルニ付英國政府ニ報告シ置カル、方可然ト述ヘタル処同官ハ本使ノ好意ヲ謝シ早速電報スヘシト云ヘリ前記「モリソン」カ本使ヘ相談シタルコトハ英國側ヘハ秘シ置カレタシ

二 七月十七日牧野外務大臣宛井上大使宛第一二八号

露国側新提案

第一二六号

(極秘)

在支公使來電要領

七月十四日「モリソン」水野ヲ來訪極秘トシテ蒙古ニ関スル露支協約六ヶ条ハ既ニ衆議院ヲ通過シ參議院モ最早通過ノ見込立チタルニ付別電第一二七号ノ通りニテ袁世凱ハ可成速ニ締結ノ決心ニテ駐露支那公使ヘ其旨電報シタルニ露国公使ハ七月十三日新ニ外交総長ヘ別電第一二八号四ヶ条ノ新提案ヲ送り更ニ七月十四日袁ニ会見シ同様ノ提案ヲナスト同時ニ從來交渉シタル協約案ハ全然廢棄スル旨言明シタリ袁世凱ハ単ニ同公使ノ申出ヲ聞取リタルノミノ由ナルカ自分(モリソン)ニ対シスル新提案ヲ承諾スル能ハサル旨ヲ告ケ頗ル当惑ノ姿ニテ何トカ工夫アルマジキヤト尋ネタリ袁ノ意中ハ自分ヲシテ英國代理公使ニ相談セシメントスルニアランカト思ハル、モ別段効果アル間敷ク且支那ノ利益ナリトモ思量セサルニ付未タ相談セス唯伊集院公使カ本件ノ当初間接ノ尽力ニ鑑ミ何ニカ名案モアランカト内密

七月十六日參議院ハ秘密会ニ於テ蒙古ニ関スル露支条約六ヶ条ヲ議シ国民党側ノ主張ニヨリ記名投票ヲ以テ採決ノ結果十五票ノ差ヲ以テ否決シタリ

右別電ト共ニ在露代理大使ニ転電シ他大使ニ郵報アリタシ

(別電一)

七月十七日牧野外務大臣宛井上大使宛電報

蒙古ニ關スル露支協約案

第一二七号

支那及露西亞ハ蒙古ニ於ケル現下ノ事態ヨリ發生シ得ヘキ誤解ヲ除去セムカ爲左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 露西亞ハ蒙古カ支那領土ノ一部タルコトヲ承認

シ其領土保全ノ繼續ニ對シ威嚇ヲ試ミサルヘキコトヲ

茲ニ明約ス露西亞ハ又領土保全上從來存在シタル支那

各般ノ權利ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

第二條 支那ハ外蒙古ノ歴史的地方自主制ヲ變更セサル

ヘク又該地域ノ防衛及秩序維持ノ責任者タル外蒙古蒙

古人ニ對シ其軍事及警察機關ヲ右地域内ニ於テ自ラ保

有スルノ專屬ノ權利並蒙古人以外ノ人民ノ殖民ヲ允サ

サルノ權利ヲ許與スヘキコトヲ約ス

第三條 露西亞ハ領事館護衛兵ヲ除クノ外外蒙古ニ軍隊ヲ派遣セサルコト外蒙古可耕地ニ殖民ヲ行ハサルコト並條約ニ依リ認メラレタル領事館ノ外他ノ施設ノ代表者ヲ設ケサルコトヲ約ス

第四條 支那ハ外蒙古ニ於テ其權力ヲ平和的ニ行使セムコトヲ希望シ上記ノ基礎ヲ以テ外蒙古トノ關係綱要ヲ定メ且外蒙古ノ中央官憲ヲシテ支那領土ノ地方官タル歴史の性質ヲ認メシメムカ爲露西亞ノ周旋ヲ承諾スヘキコトヲ聲明ス

第五條 支那政府ハ露西亞政府ノ周旋ニ酬キンカ爲外蒙古ニ於テ露西亞臣民ニ對シ左ニ列記スル商業上ノ特權ヲ許與スヘキコトヲ約ス

(露蒙協約附屬議定書十七ヶ條全文茲ニ挿入セラル) 第六條 將來露西亞ト外蒙古官憲トノ間ニ外蒙古ノ重要ナル國際關係ニ變更ヲ及ホスヘキ約定ヲ爲ストキハ必ス支那及露西亞間ニ直接交渉ヲナシ支那政府ニ於テ同意ヲ與ヘタル上始メテ有効タルヘキモノトス

(別電二)

七月十七日牧野外務大臣發井上大使宛電報

公第一一三號

(八月一日接受)

大正二年七月十七日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

蒙古問題ニ関スル露支兩國間ノ談判ハ不調トナリ為メニ露国政府ハ在北京自国公使ノ手ヲ經テ右談判ヲ中止シ今後同問題ニ對シテハ自由行動ヲ執ルヘキ旨七月拾三日付ヲ以テ支那政府ニ通告シタル趣同通告全文ト共ニ之ヲ昨拾六日官報其他各新聞紙上ヲ以テ公表シタルニ付テハ不取敢拙電第五九号ヲ以テ通告文大要及御報告置候処右通告全文原訳両文共別紙ノ通り茲ニ及御送附候条委細右ニテ御了承相成度此段申進候 敬具

註 通告文ノ原文(露文)省略

(附屬書)

蒙古ニ関シ露国政府ヨリ北京政府ヘ交付ノ露

支談判中止ノ通告書訳文

七月拾三日在北京露国公使ハ帝國政府ノ名ヲ以テ支那外交総長ニ宛下記内容ノ通告ヲ為セリ

一五 露蒙協約關係一件 四〇四

露國側新提案

第一二八号

一、支那ハ蒙古(内蒙古ヲ構成スル地域ヲ除ク)ノ自主及之ニ基キ蒙古ニ屬スル一切ノ權利ヲ承認ス  
二、露西亞ハ蒙古ニ對スル支那ノ宗主權及之ニ屬スル一切ノ權利ヲ承認ス

三、支那ハ千九百十二年十月二十一日(露曆)ノ露蒙協約及議定書ニ規定セル綱要ヲ基礎トシテ蒙古政府トノ關係ヲ定ムル爲露西亞ノ周旋ヲ承諾スヘキコトヲ聲明ス

四、蒙古ニ於ケル露西亞及支那ノ利害ニ關スル問題並蒙古ニ於ケル新事態ニ依リ發生シタル問題ニ付テハ追テ兩政府間ニ商議ヲ行フヘシ

註 右別電一及二ハ前掲三九八文書ノ別電一及二ノ概譯ナリ

四〇四 七月十七日 在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支談判不調ニ付露国政府ヨリ

北京政府ニ交付シタル談判中止ニ関スル通告

書報告ノ件

附屬書 右通告書ノ訳文

帝國政府ハ蒙古問題ニ関シテ支那政府ト談判スルニ臨ミ一定不変ノ精神ヲ以テ之ニ當リ支那政府カ一九一二年ノ締結ニ係ル露蒙協約及議定書ノ主義トスル支那及蒙古間ニ於ケル法律的關係 (lien juridique) ヲ保持スルコト並ニ蒙古カ既ニ成就シタル民種結合ノ基礎ノ上ニ蒙古ニ与フルニ完全ナル自治殊ニ自己ノ行政機關ト自己ノ軍隊トヲ有シ且ツ其領域内ニ支那人ノ移植ヲ許ササルノ權利ヲ以テスルコトヲ談判ノ基礎トスル旨通告シタリ、其後帝國政府ハ蒙古問題ニ就キ前記ノ主義ヲ遵守スルハ露支兩國間ニ於ケル紛議ノ原因ヲ絶ツ所以ニシテ且ツ露国ハ蒙古ニ對シ前記ノ特權ヲ保障スル義務ヲ有スルモノナルヲ以テ這般ノ主義ヲ無視スルコト能ハサルコトヲ再三言明シタリ

露国政府ハ今次作成セラレタル條約ノ形式ニ関シテハ支那政府ノ希望ヲ容レ為メニ大ナル讓歩ヲナスト同時ニ這般形式ノ變更ハ既ニ確立スル協約ノ本質ヲ左右スルコト能ハサルモノナルコトヲ注意シタリ、然ルニ談判ノ進行ト共ニ露国ハ不幸ニシテ支那政府カ全然吾人ト其見解ヲ異ニスルモノナルコト並ニ條文ノ修正ニ依リ全然別個ノ意味ヲ之ニ挿入セント欲スルモノナルコトヲ信スルニ至リタリ、例セハ

漢語訳文ニ於テ誤解ノ因タルヘシトノ口実ノ下ニ該條約中ヨリ「中央官憲」ノ語ヲ除キ之ニ代ユルニ蒙古ノ高級官衙ナル語ヲ以テセントノ主張ヲ固守シタルカ如キハ其真相ヲ表白スルモノト謂フヘシ、右支那政府ノ主張ノ不条理ナルハ公文ノ標準の意味ニ徴スルモ明ナル所ニシテ是レ畢竟國政府カ辭句ノ修正ノ下ニ呼圖克圖ノ統一權ト蒙古ノ内閣制トヲ撤廢シ旧時ノ如キ個々分離ノ王公制ヲ復活センコトヲ企圖スルモノナルコトハ彼我全權間ニ交換セラレタル説明ニ依リ之ヲ知ルニ難カラサルナリ

支那政府ノ不注意ハ支那ノ輿論ヲシテ全然不正確ニ協約草案ノ真意義ヲ解釈セシメ蒙古ノ上ニ殆ント完全ナル支那ノ主權ヲ復興シ得ルモノト思惟セシムルニ至ラシメタリ、斯ノ如キ誤解ハ議會及新聞紙ニ依テ之ヲ知ルヲ得ヘシ而シテ支那政府ハ自己ノ利益ノ為メ蒙古内地ニハ蒙古人及支那人以外ノモノノ移住ヲ禁止スルコト蒙古軍隊ハ之ヲ支那武官ニ隸屬セシムルコト及其他之ニ類似ノ要求ヲ（此等要求ト反對ノ意味ヲ有スル各條項ハ先キニ已ニ協定セラレタルニ拘ハラス）露国全權ニ知照シ得ヘキモノト思惟シタリ要スルニ蒙古ニ関スル協商ノ如ク其範圍ノ極メテ広大ナル

ヘキモノト思惟セラル、場合ニ於テハ即時再ヒ談判ヲ開始セント欲スルナリ

帝國政府ノ見ル所ニ依レハ叙上ノ目的ニ副フ為ニハ本問題ニ對スル兩國ノ一般の見解ヲ定ムル宣言書ヲ相互ニ交換スルヲ得策トナス而シテ是等宣言ノ基礎の内容ハ略ホ左ニ記スル所ノ如キモノナルヘシ

支那ハ蒙古（内蒙古各州ヲ除ク）ノ自治ト之ヨリ生スル蒙古ノ權利ヲ認ム

露国ハ蒙古ニ對スル支那ノ宗主權ト之ニ關聯スル各種ノ權利ヲ認ム

支那ハ蒙古政府ト其相互の關係ヲ議定スルニ當リ露国ノ好意的斡旋ヲ受クヘキノ意思ヲ表明スヘク而シテ右議定ニ際シ一九二二年十一月三日露蒙協約及議定書ニ現ハレタル主義ヲ之カ基礎トスヘシ

蒙古ニ於ケル露支兩國ノ利益ニ關スル問題及同地方ニ於テ新狀態ノ下ニ發生セル各種問題ハ露支兩國政府間ノ今後審議ノ目的タルヘキモノトス

終ニ臨ミ帝國政府ハ支那トノ間ニ何等協約ノ締結セララル迄全然從來ノ如ク露蒙協約並ニ同協約ヨリ生スル原則ニ拠

モノニ在リテハ兩当事者カ協約ノ精神及意味ヲ一樣ニ了解スル場合ニ於テノミ唯々其目的ヲ達シ得ヘシ何トナレハ若シ協約ノ根本主義ヲ眼中ニ置カス一字一句ノ末ニ拘泥シテ云為スルニ於テハ同一ノ条文モ全然杆格セル帰着ヲ見ルヲ得ヘケレハナリ

斯クテ蒙古問題ニ關シ相互間ニ協議ノ成立セントスルノ時ニ當リ殆ント其各事項ニ亘リテ意見ノ相異甚シキヲ發見シタルハ真ニ憂懼ニ堪ヘス

右ノ事情ノ下ニ於テ將來ニ於ケル紛議ノ除去セラレシコトヲ期待セル協約カ將ニ調印ヲ了セントシタル瞬間ニ於テ相互間意思ノ阻隔ハ益々甚大ナルニ至レリ

是ニ於テカ帝國政府ハ遺憾ナカラ各條文修正ニ關スル支那政府最後ノ提議ヲ拒絕シ彼我談判カ予期ノ結果ヲ齎ラサ、リシコトヲ認メサルヲ得サルニ至リ茲ニ本問題ニ對シ今後自由行動ヲ執ラントス

然リト雖モ帝國政府ハ尚ホ今日ニ於テモ遺般係争問題ヲ友誼的ニ処理スヘキ希望ヲ拒否スルモノニアラサルヲ以テ若シ本問題ノ解決ニ關シ露支兩國ノ見解ニシテ根本ニ於テ一致ヲ見之ニ拠リテ兩國ノ利益カ相互間ニ實際ニ劃立セラル

リ其對蒙關係ヲ定ムヘキモノナルコトヲ表明スルヲ其義務ナリト思惟スルモノ也

四〇五 七月十七日

在本邦露国大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

#### 蒙古ニ關スル露支談判中止ニ付通報ノ件

The Imperial Russian Government, desirous to facilitate the conclusion of an agreement concerning Mongolia with the Chinese Government, tried to meet their wishes in connection with certain articles of the projected agreement. Nevertheless it was always clearly stated from the Russian side that the main points of the said agreement should be strictly maintained. This amicable attitude of the Russian Government has been, however, entirely misinterpreted by the Chinese and the Russian Government could ascertain from the negotiations, as well as from the discussions in Parliament that China intends to make use of certain terms of the agreement in order to give to the latter such interpretation that would be nearly equivalent to the reestablishment of the old state of affairs in Mongolia. Therefore the Russian Government were of the opinion that

in such circumstances the conclusion of this agreement could only render more acute the misunderstandings about the real situation and found it advisable to decline the latest proposals of China of further modifications in the text. Therefore the negotiations were suspended and Russia has declared that she is ready to resume the said negotiations only on the condition of a clear recognition by both sides of the main principles on which ought to be settled the Mongolian question. These principles, in the opinion of the Russian Government, consist in the recognition of China's suzerain rights over Mongolia and of the latter's rights to autonomy as defined by the Russo-Mongolian agreement and the protocol of the 1912. Furthermore China has to accept Russia's assistance in order to establish her relations with Mongolia.

A communication in the above sense has been made to the Chinese Government on July the 13th.

In bringing the above stated facts to the knowledge of the Japanese Government the Russian Government with to add that they have in no way changed their Mongolian program which consists, as it was repeatedly stated, in the maintenance of the legal connection

between China and Mongolia. The Russian Government came only to the conclusion that it is, before all, necessary to make clear the real significance of the new situation created for Mongolia as a result of the modifications occurred in this country: this situation being consciously misrepresented to China by the Chinese Government, in which circumstances the said Government would not be able to fulfill in a straightforward manner the stipulations of the proposed agreement with Russia.

The step actually taken by the Russian Government is intended only to put the whole question on a clear basis and subsequently Russia is sincerely wishing to settle with China in a friendly manner this important matter.

July the 17th 1913.

欄外註記

「七月十八日露国大使ヨリ大臣ニ手交、本書ハ先方ノ希望ニ依リ返展セリ」

(右訳文)

蒙古問題ニ関スル露支協約ニ付大正二年七月十八

日露国大使ヨリ牧野大臣へ手交ノ覚書訳文<sup>(註)</sup>

露国政府ハ七月十三日支那政府ニ対シ上記ノ趣旨ニテ通牒ヲ為セリ

露国政府ハ前陳ノ事実ヲ日本国政府ニ通知スルニ当リ露国政府ガ其対蒙方針即チ屢次宣明セル支蒙法律關係繼續ノ方針ヲ毫モ変更シタルコトナキコトヲ附言セント欲ス露国政府ハ蒙古ニ起リタル變動ノ結果生シタル蒙古新事態ノ真意義ヲ明確ナラシムルコト最モ緊要ナリト認メタルニ過ギズ此新事態ハ支那政府ニ依リ支那側一般ニ対シ故意ニ誤伝セラレタルガ為同政府ハ露支協約案ノ規定ヲ誠実ニ履行スルコトヲ得サルニ至レリ

今次露国政府ノ執リタル措置ハ畢竟本問題ヲ挙ケテ明確ナル基礎ノ上ニ置カントスルニ外ナラサルヲ以テ追テ支那トノ間ニ此重要ナル案件ヲ友好的ニ解決センコトハ露国ノ切望スル所ナリ

註 右和訳文ハ当時日本外務省ニ於テ作成シタリ

四〇六 七月十八日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛(電報)

蒙古ニ関スル露支談判中止ニ付在本邦露国大

使來談ノ件

露国政府ハ蒙古ニ関スル協約ヲ支那政府ト締結スルコトヲ容易ナラシメント欲シ協約案ノ或条項ニ関シ支那政府ノ希望ニ副ハンコトヲ試ミタリ但シ該協約ノ要点ノ堅持セラレザルベカラザルコトハ常ニ露国側ノ明言セシ所ナリ然ルニ露国政府ノ此友好的態度ハ全然支那人ニ誤解セラレ露国政府ガ之ヲ商議ノ経過ト支那国会ニ於ケル討議ノ状況トニ徴スルニ支那ハ協約ノ或条項ヲ利用シテ殆ト蒙古ニ於ケル旧事態ヲ復活スルニ等シキ解釈ヲ該協約ニ下サントスル意思ナルコトヲ確カムルヲ得タリ以是露国政府ハ此際協約ヲ締結スルハ徒ニ事態ノ真相ニ対スル誤解ヲ一層深ナラシムルノ外ナキヲ思ヒ協約本文ニ更ニ修正ヲ加ヘントスル支那最近ノ提議ニ応セサルヲ以テ得策ト認メタリ故ニ露国ハ商議ヲ中止スルト同時ニ蒙古問題解決ノ基礎タル根本義ヲ兩國齎シク明確ニ承認スルコトヲ条件トシテ商議ヲ再開スルヲ辞セサル旨ヲ声明セリ露国政府ノ意見ニ拠レハ是等根本義ハ蒙古ニ対スル支那ノ宗主權ト千九百十二年ノ露蒙協約及議定書ノ定ムル蒙古ノ自主權トヲ認ムルニ在リトス且又支那ハ蒙古トノ關係ヲ定ムル為露国ノ援助ヲ受クヘキモノトス

第三六三号

七月十八日在本邦露国大使来訪露蒙問題ニ関シテ七月十三日露国政府ヨリ支那政府ニ与ヘタル通牒ノ内容ヲ示シタル上露国政府ハ支那政府ノ態度及其議會ニ於ケル説明振等ニ顧ミ同政府ガ在北京露国公使ト陸徵祥トノ間ニ成リタル話合ノ主義ヲ尊重セザルコトヲ認メ且同政府ガ露蒙問題ヲ露支間ニ商議スルニ至リタル事態ノ真相ヲ顧慮セザルコトヲ認メ遂ニ談判ヲ中止シ露国ノ主張ヲ明ニ為シ置クノ必要ヲ見タル次第ナリト説明シ別電三六四号ノ通り附言セリ本大臣ヨリ在北京露国公使ト陸徵祥トノ間ニ成リタル話合ト支那政府カ議會ニ提出シタル協約案トノ相違ニ付質問シタルニ大使ハ右話合ハ未ダ文書ニ認ムルニ至ラザリシニ支那側自カラ文書ニ作リテ露国ニ相談セズ之ヲ議會ニ提出シタル故其間ニ相違ヲ来セリト答ヘシニ付本大臣ハ然ラバ其点ニ関シ支那側ノ注意ヲ惹キシヤト尋ネシニ大使ハ確ト承知セズト述ベタリ次ニ本大臣ヨリ今回ノ通牒後ハ将来如何ニ成行クヤ尋ネタルニ大使ノ考ニテハ從來支那ニ対スル交渉ノ經驗ニ依ルニ到底已ムヲ得ズト諦ムルニ至リタル場合ニハ支那側ハ屈スル例ナルガ故結局已ムヲ得ズト認ムル場合ニ

ハ遂ニ支那ヨリ露国ノ主張ニ同意スルニ至ルベシト思ハル旨答ヘタリ

註 別電三六四号省略ス同電ハ七月十七日附在本邦露国大使ノ覚書(前掲)ノ末段 In bringing the above stated facts 以下末尾ノ this important matter 迄ナリ

四〇七 七月十九日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛

蒙古ニ関スル露支協約案及之ニ代ル露国ノ新提案ノ和訳文送付ノ件

政機密送第一七七号

貴電第五二〇号並第五二一号ヲ以テ夫々御報告有之候露支協約案六ヶ条並新提案四ヶ条今般本省ニテ別紙甲号写及乙号写ノ通訳致候御参考迄右茲ニ及送付候也

註 別紙甲号及乙号ハ七月十七日牧野外相宛在英井上大使宛電報第一二六号ノ別電第一二七号及第一二八号ト同文ニ付省略

四〇八 七月十九日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国伊集院公使宛

蒙古ニ関スル露支談判中止ニ付露国政府ノ对中国政府通告大要及在本邦露国大使ノ覚書写

送付ノ件

政機密送第一七八号

本件ニ関シ貴電第五一九号ヲ以テ御報告ノ次第有之候処今般在露田付代理大使ヨリノ電報ニ依レハ露国政府ハ七月十三日在支同国公使ヲシテ大要別紙甲号写ノ通支那政府ニ通告セシメタル旨七月十六日ヲ以テ公表シタル趣ニ有之又右ニ付七月十八日在本邦露国大使来省本國政府ノ訓令ニヨリ別紙乙号写ノ通覚書ヲ開示致候間右一併茲ニ及御送付候条御査閲相成度此段申進候也

註 別紙甲乙号省略ス甲号ニ付テハ前掲七月十七日田付臨時代理大使発公第一二三号ノ附属書参照又乙号ハ前出七月十七日附露国大使ノ覚書ナリ

四〇九 七月二十四日

在中国伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉ノ行詰リ打開ノ為ノ在支仏国公使ノ斡旋不成功ノ件

第五五九号

往電第五一九号ニ関シ七月十七日「モリソン」来訪本使ノ助言ヲ求メタルニ付本使ハ先ツ仏国公使ニ依頼シテ露国ノ

意向ヲ確メ旁再考ヲ求メシムルコト差詰メ便宜ナルヘシト勸告シ置キタルニ「モリソン」ハ直ニ陸外交総長ヲ病床ニ訪ヒ其通り稟議シ陸ハ袁世凱ノ許可ヲ得テ即日仏国公使ニ依頼シタルニ同公使ハ寧ロ得意ノ模様ニテ之ヲ快諾シ同日露国公使ニ面談シタルモ其結果ナカリシニ付更ニ陸ト相談ノ上再ヒ露国公使ニ面会シ陸ノ意見トシテ六箇条ニ立戻リテ調印スルコトヲ露国ガ承認スルニ於テハ露国ガ所望スル二三事項ヲ説明的ニブレアムブル中ニ記入スルモ妨ケスト迄申込ミタルニ露国公使ハ到底承諾スヘカラスト思考スルモ仏国公使ノ面目ニ対シ一応本國政府ヘ進達スルコトヲ承諾シタルニ付仏国公使モ亦仏國政府ヘ電禀スル所アリタル由同公使ヨリ陸ニ内報アリ爾来支那側ニ於テハ露国側ノ回答ヲ待チ居タルニ七月二十二日露国公使ハ陸ニ対シ七月十三日提出ノ四箇条ヲ基礎トスル外協商スル能ハサル旨本國政府ノ訓電ニ接シタル趣ヲ通知シ且私見トシテ此際四箇条ヲ承諾セサルニ於テハ将来更ニ支那側ニ不利益ナル条件ヲ「イムポーズ」サル、ニ至ルヘキ旨申添タル由ナリ以上ハ「モリソン」ガ七月二十三日水野ニ語りタル所ナルガ同日露国公使モ本使ニ対シ七月二十二日本國政府ヨリ支

那ノ提議ヲ拒絶スヘキ旨回訓ニ接シタルコトヲ述ヘ居タリ  
七月二十三日病氣見舞旁高尾ヲシテ陸ヲ訪問セシメタルニ  
先方ヨリ蒙古問題ニ談及シ其語ル所大体「モリソン」ノ談  
話ト大差ナシ只露国所望事項ヲブレアムブルニ記入スル云  
々ニ付テハ露国要求四箇条ノ意味ヲ別ニ公文ニ認メ交換シ  
置キ協約ノ形式ヲ取ラサル考ナリシ旨ヲ述ヘタル後事態斯  
ノ如ク露国側ハ到底六箇条ヲ承知スル見込絶無トナリ四箇  
条ノ新要求ヲ支那国会ニ提出スルコト亦自分ノ忍フ能ハサ  
ル所ナルニ付辭職ノ上暫時仏国ニ静養スル積ニテ孫寶琦ヲ  
後任トシテ推薦シ袁世凱ノ同意ヲ得タリ尚露国カ六箇条協  
議拒絶ノ趣ハ七月二十三日外交次長ヨリ國務院ニ報告シタ  
ル管ニテ四箇条ヲ承諾スヘキヤ否ヤモ進テ國務院會議ニ上  
ホス都合ナリト語リタル由

註 本電報要領ハ七月二十五日往電第一二六号ヲ以テ在露国田  
付代理大使ヘ電報セラレタリ

四一〇 七月二十五日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支間ノ蒙古問題交渉ノ停頓ニ付我方ノ執ル  
ベキ措置ニ関スル件

使限リニテハ最早讓歩ノ余地ナキモノ、如キニ付此上ハ露  
国政府ヲ直接動かカスノ外途ナカルヘシト思ハル  
英国代理公使「オルストン」ハ呑氣者ニテ本件ニ関シ「モ  
リソン」ノ内報ニ対シテモ余リ「インテレスト」ヲ取ラス  
其後本使ノ問ニ対シテモ本国政府ヨリ一向來報ナシトノミ  
ニテ何等ノ感興ヲモ有セサル模様ナルノミナラス今回支那  
ノ動乱ニ付テモ一向ニ考モノキ様子ニテ当地ニ於テ同官ト  
重大ナル事件ヲ相談スルコトハ不可能ナリ從テ本件ニ関ス  
ル英国政府ノ態度等ハ当地ニテハ一向見当付カサル処此際  
英国側ノ意向態度ヲ測量スルノ必要ハアルヘキヤニ感セラ  
ル、ニ付若シ之ニ御同感ナラハ在日本英国大使ヘ御話アル  
様致度此事ハ予テ感シ居タルカ此序ヲ以テ申進ス

四一一 七月二十五日 在中國伊集院公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支協約案ニ対スル中国々内ノ  
論議及党争ニ付報告ノ件

公第二六七号

(八月十一日接受)

大正二年七月二十五日

在支那

第五六一号

蒙古ニ関スル露支交渉ノ模様ハ別電第五五九号ノ通ナルカ  
「モリソン」ハ初メヨリ袁世凱ノ旨ヲ受ケ日本ノ仲介ヲ求  
ムル底意ヲ有シ居ルモノト察セラレタルモ當時露国ノ新要  
求ハ六ヶ条ノ調印ヲ促ス為メノ手段ナランカト思ハルル節  
モアリ(袁世凱モ国会モ亦而ク考ヘ居タリ)タルニ付先ッ  
露国ノ真意ヲ測量スルノ必要ヲ認ムルノミナラス露国ノ真  
意不明ナル以上ハ我ニ於テ聊カタリトモ口出シスルコトハ  
極メテ危険ニシテ本使ハ努メテ避ケ別電ノ通り助言シ居タ  
ル次第ナルカ事態如斯ナル以上ハ若シ帝國政府ニシテ露支  
兩國間ニ立チテ蒙古問題ノ解決ニ関シ仲介ノ勞ヲ取ルコト  
ヲ利益トセラレ而シテ支那側ニ對シテハ表面日本ノ名ヲ出  
スコト面白カラスト認メラルルニ於テハ從來ノ行懸上「モ  
リソン」ヲ利用シテ袁世凱ヲ動かカス途ハ有之ヘクト云ヒテ  
若シ露国ニシテ六ヶ条ニ満足スルナラハ可成此際調印セシ  
ムルコト可然ト考ヘ居タレトモ七月廿三日露国公使カ本使  
ニ對シ仏国公使ノ手引ニ係ル六個条ニ調印ノコトハ到底行  
ハル間敷考ヘタレトモ折角ノ申出ニ付一応本國政府ヘ電稟  
シタル処果シテ拒絶ノ返電アリタリト語レルニ徴スレハ公

特命全權公使 伊集院彦吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

中畑書記生ノ起草ニ係ル「民国近況概観」一篇進達

(別紙)

民国近況概観 (七月二十五日稿)

一 政府ノ動搖彈劾案ノ續出

(省略)

二 蒙古協約問題

露国カ外蒙古ニ對スル要求ヨリ庫倫喇嘛ノ獨立宣言ニ至リ  
遂ニ露蒙協約成立ヲ見ルニ至リ茲ニ於テカ露支間ノ蒙古協  
約ヲ締結スルノ止ムナキノ勢ヲ馴致セリ其今日ニ至レル所  
以由来ヤ遠ク今日之ヲ袁總統政府ノ失敗ノミニ帰スルハ蓋  
シ酷ナルモノアラン今回露支間ニ締結サレタル協約ハ吟味  
スレハ民国政府者カ自解スル如ク今日民国ノ形勢上且ツハ  
從來ノ行掛リ上已ムヲ得サルニ出タル苦衷ハ諒トセザル可  
カラサルモノアル可ク其内容ニ至ツテモ少クトモ名目上露  
国ヲシテ支那ノ上主權ヲ認メシメ制限アリナガラモ其設官  
派兵ヲモ認容セシメ僅カニ面目ヲ取留メタルノ痕ナキニ非

サルモ之ヲ実況ニ照ラシ仔細ニ觀察スレハ該協約ハ要スルニ外蒙古カ支那ノ藩籬ヲ脱スルノ第一歩タラザルナキハ心アルモノ、潛カニ憂慮スル所也初メ露蒙間協約ノ發表セラ、ヤ全国ノ輿論ハ挙ツテ露国ヲ憤慨シ活仏討ツ可シ協約ハ非認ス可シト絶叫シ甚シキハ露国ト一戦ヲ辞セサル可シト主張セルニ不拘爾來党争ノ軋轢ニ連レ此ノ問題モ徒ラニ党争問題ニ利用セラル、ニ至レリ民間側ハ政府カ苦衷ヲ諒トスルノ情ナキニアラザルモ其最初ノ主張ト政府攻撃ノ材料トシテ飽迄強硬論ヲ持シ又タ政府者ノ民国ノ失権ヲ顧ミス露国ニ対シ速カニ讓歩ノ解決ヲ為スハ力ヲ南方庄迫ニ專ラニセントスルモノナリト推測セラレ其喪心失権ヲ絶叫スルハ已ムヲ得ズトスルモ先キニ筆ヲ揃ヘテ露国ヲ憤慨シタル官僚新聞輿論カ今更本協約ノ締結ヲ非難スルモノヲ指シテ心肝ナキモノナリト罵詈スルニ至リテハ笑止ノ至リナリ政府カ露国側ト幾多ノ折衝ヲ重ネタル協約ハ先ツ衆議院ニ提出シテ之レカ協賛ヲ求メタルモ衆議院ニテハ一再修正ヲ加ヘ更ラニ露国ト交渉ヲ重ネタルニ拘ハラス結局原案ニ一字一句ノ修正ダニナク七月八日ノ衆議院ヲ通過スルノ止ムナキニ至レリ而カモ是レ寧ロ奇シキ兆候ニシテ袁總統カ

アリ質問ノ要点ハ

一支那ハ前清時代ニ於テ各国ニ対シ無条件ニ最惠国條款ヲ締約シ居レリ今支那カ露国ト此条約ヲ締結シ露国ニ種々ノ權利ヲ許与ストセハ各国モ無条件ナル最惠国條款ヲ援イテ要求スル処アル可キハ自ラ意中ノ事タリ其時若シ支那ハ之ヲ拒絶センカ各国ハ此ノ既得條約權利ヲ放棄シ露国ノミ權利ヲ擴張シテ均勢ノ局面ヲ破壊スルヲ肯スルカ若シ之ヲ許可ストセンカ支那ノ權利ニハ限りアルモ列強ノ欲望ニハ窮リナク結局ハ分割ノ兵戈ニ在ラズシテ樽俎ニ在ルニ至ラン政府ノ之ニ対スル方策如何

二此度露国トノ締約ハ庫倫ノ独立ヲ取消サシムル為メニシテ若シ庫倫カ独立ヲ取消サズンハ則チ政府ハ武力ヲ以テ之ヲ取消サシム可シトハ代理總理カ本院ニ出席ノ時議員ノ質問ニ答弁セル所也夫レ我カ政府カ平和辦法ニヨリ且ツ務メテ条約ニ照ラシ露人在蒙古ノ權利ヲ保護ス可シトハ該条約第四条ノ規定ニシテ第五条ニハ又露国ハ外蒙古ヲシテ支那カ該境内ニテ重ネテ官署ヲ重修シ及ヒ員ヲ支那移住民アル各地ニ派遣駐紮スルヲ承認セシムルヲ承諾ストアリ第四条ノ意ヲ味ヘハ所謂平和辦法トハ支那カ蒙

自己ノ政策遂行上否ナ南方庄迫ノ方略上多金ヲ散ジテ議員ヲ買収軟化セシメタル結果ナリト伝稱セラル然ルニ該案更ニ參議院ニ廻付シテ協賛ヲ求メ政府ハ極力運動其通過ニ力メタルニ拘ハラス由來參議院ハ国民党側多數ヲ占メ殊ニ一方江西ニ於テハ南北ノ衝突爆發シ各処響應獨立宣言ノ事アリ七月十五日ノ參議院ハ多數ヲ以テ本案ヲ否決セリ其間露国側トハ黑竜江張家口等ニ於ケル小案件続出シ露国ハ飽迄強硬窮迫ノ態度ニ出テ遂イニ所謂新四要件ヲ特ニ声明スルニ至レル等民国政府側ハ愈困迫ノ地位ニ陥ルニ至レリ而シテ政府向後ノ体度トシテ伝フル所ニヨレハ參議院ニ対シテハ今一応ノ再考慮ヲ求メ尚ホ協賛ヲ与ヘサルニ於テハ政府ハ全責任ヲ以テ該協約ニ正式調印ヲ為シ陸外交總長ハ最後ノ責任ヲ負ヒ処決スル所アル可シト云フ

初メ協約案ノ衆議院討議ニ附セラル、ヤ段國務總理陸外交總長等ハ數次出席シテ答弁説明スル所アリシモ秘密會議ノ事ナレハ其説明答弁ノ内容等ハ外間之ヲ詳知スルニ由ナキモ七月十七日刊行ノ衆議院公報中ニ掲載スル衆議院議員鄒魯等カ提出セル蒙古ニ関シ露支間條約締結後ノ疑義ニ関スル質問案ハ頗ル剴切肯綮ニシテ其關係ノ注目ニ値スルモノ

古ニ武力ヲ用ヒザルノ意ラシク第五条ニモ祇ダ中国向來

蒙古ニ在ル權利ノミヲ規定シテ軍隊ニ及ハサルモノハ前次要求ノ蒙古不派兵ノ精神ヲ貫徹スルモノ也此次締約後庫倫獨立ヲ取消サス若シ支那カ武力ヲ以テ取消ヲ為サシメントセハ段代理總理ノ現時ノ彈藥ハ十分時間ノ用ニモ足ラズトノ報告ハ別問題トシ仮リニ能ク武力ヲ出シ得ルトスルモ露国カ前述第四第五條ノ規定ニ根拠シテ我カ武力ヲ用ユルヲ承諾ス可キヤ否我カ政府カ此條約締結以前サヘモ口ヲ露国ノ干渉ニ藉リ武力ヲ用ユルヲ敢テセズ又武力ヲ用ユル能ハス今ヤ此條約アリ露国ノ根拠ハ愈堅ク我國ノ措詞益窮スル次第ナリ尚ホ武力ヲ用フ可クシテ武力ヲ用ユルヲ敢テセズ武力ヲ用ユル能ハズシテ武力ヲ用ユルヲ敢テセズハ則チ此度ノ協約ハ徒ラニ露国ノ權利ヲ許スノミニテ庫倫ノ獨立ハ依然旧ノ如ケン且ツ恐ル之ニ因ツテ朝鮮ニ於ケルカ如キ日支事件ヲ生出スルコトヲ政府ハ如何ナル方法ニヨリ庫倫ノ獨立ヲ取消サシムルカト云フニ有之右ニ対スル政府ノ答弁ハ恐クハ衆議院公報ノ公布ヲ憚ル処ナル可キハ勿論政府ノ尤モ措置ニ苦シム所ナル可シ由來蒙古問題ヲ以テ袁總統一人ヲ責ムルハ固ヨリ酷



ナリ而カモ国民ノ初メ衰ヲ臨時總統ニ拳ケタルモノ其中外ニ於ケル信望ニ倚頼シ少クトモ外交折衝ニ失敗ナキヲ期待シタルアルハ勿論ナリ然ルニ衰カ就任以來其施設用人(是非ハ別問題トシ)着々トシテ国民ノ輿論ニ反シ既ニ雄才奇略ノ領土問題ヲ維持解決スルノ毅力ナク胸中早ク辺疆放棄ノ膽ヲ固メ剩ヘ之ヲ党争圧服ニ利用シ議員ヲ買取シテ迄モ此不利ナル條約ノ通過ヲ強イタルカ如キ態度ハ少ナカラズ国民ヲ失望セシメタル蓋シ免レザルノ情勢ニ有之

三 江西事變爆發各省獨立宣言

(省略)

四一二 七月二十八日

牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

露国方蒙古ニ関スル露支協約案ヲ廢棄シ四ヶ

条ノ新提案ヲ為シタル内情探索ニ付訓令ノ件

第一二八号

往電第一二〇号ニ関シ

今般露国ガ新ニ四ヶ条ノ提案ヲ為スニ至リタル理由ニ付テハ同電露国大使ノ説明モ不満足ニテ又貴電第五九号「コムミニケ」ニ依ルモ猶首肯シ難キガ如キ処露国政府今回ノ

シ一般ニハ露国外務省ノ「コムミニケ」ヲ以テ正確ノモノトシ外ニ他意アルモノトハ為サ、ルカ如シ本官ノ見ル所モ亦右同様ニテ露国ハ本件ニ関シ五月以來再次警告ヲ与ヘタルニ拘ラス一般ニ支那提案用語ノ意義ハ不明確ニシテ將來誤解ヲ来スヘキ虞アルノミナラス(例ヘハ此点ニ関シ外務当局ノ本官ニ与ヘタル説明ニ依レハ協約草案第一条ニ於テ Suzeraineté ノ文字ヲ避ケ歴史的關係云々ト云ヒ又ハ第二条ニ於テ支那ノ面目ヲ保ツ為單ニ蒙古ハ防衛ノ為自己ノ警察及軍隊ヲ備フトセルニ乗シ蒙古ニ支那軍隊一師団ノ駐屯ヲ提議スル等其他種々ノ点ニ於テ兎角誠意ヲ欠キ明確ノ協約ヲ避ケテ却テ後累ヲ貽ス如キ協約ヲ露国ニ強ヒントセリト云ヘリ)支那議會モ常ニ反抗ノ態度ニ出テ何時結著ヲ見ルヲ得ヘキヤ到底見込立チ難キ実況ニ鑑ミ支那ノ反省ヲ促ス為早晚何等カ的確ノ手段ニ出ツヘキ考案ヲ予テヨリ有シ居タルコトハ明白ナルカ如キモ南清動乱ノ徴アリタル為果シテ其決行ヲ早メタルヤ否ヤハ容易ニ之ヲ明言スルコト能ハス但シ露国カ何時ニテモ四ヶ条ノ提議ヲ基礎トシ相当ノ協約締結ノ意志アルコトハ毫モ昔日ト異ナルナク只協約用語ハ明確ニシテ將來誤解ノ生セザランコトヲ希望スル決

措置ハ其実国内ノ議論若ハ北滿外蒙古方面露国人議論ノ刺戟又ハ庫倫ニ於ケル蒙古人ノ意嚮ニ顧ミタルカ或ハ支那目下ノ時局ヲ利用セントスルガ如キ底意ヨリ出デタルモノニ非ザルヤ貴地ニ於テ内情ヲ探リ得バ貴官御意見ト共ニ電報アリ度シ

註 冒頭援用ノ「往電第一二〇号」ハ前出七月十八日牧野外務大臣發伊集院公使宛第三六三号ト同文ナリ尚右露宛往電第一二八号ハ七月二十八日第三八〇号ヲ以テ在支伊集院公使ヘ転電セラレタリ

四一三 八月二日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露支間ノ蒙古案ニ付露国方四ヶ条ノ新提案ヲ

為シタル事情ニ関シ回電ノ件

第六〇号

貴電第一二八号ニ関シ今日迄ニ探リ得タル情報ニ依レハ貴電通ノ内情アルモノトハ認め難シ尤モ今回談判中止ノ通告カ支那ノ時局ヲ利用シテ為サレタルモノナランカトノ想像説ハ或ル人士間ニハ多少伝ヘラレ居ル様子ナルモ的確ノ証跡ナシ(当地倫敦タイムス通信員「ウキルトン」ノ如キモ右ノ想像説ハ多少有之モ之ヲ確ムルニ途ナシト云ヘリ)而

意甚タ確乎タルモノアリト信セラル

四一四 八月二日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関シ露国外務当局者内話ノ件

機密往第二一号

(八月十八日接受)

大正二年八月二日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

蒙古ニ関スル露支交渉中止ニ関シ露国ノ内情探報方貴電第一二八号ヲ以テ御訓令ノ次第有之之ニ對シテハ本日拙電第六〇号ヲ以テ答申致置候間疾ク御承知ノコトト存候此ノ機ニ際シ本官ハ外務省極東課長「カザコフ」氏ニモ面会ノ上夫レトナク種々談話ヲ交換致候処同氏談話中左ノ一節ハ多少御参考ニモ可相成ト存特ニ茲ニ及御報告候

「カザコフ」氏ハ曰ク露国カ蒙古ニ對シテ有スル希望ハ之ヲ領有シ又ハ之ヲ其ノ保護國ト為サムトスルモノニアラス何トナレハ蒙古ヲ領有シ又ハ之ヲ保護國ト為ストキハ其ノ自然ノ結果トシテ第一ニ兵力ヲ以テ其ノ廣大ナル疆土ヲ防

衛セサルヘカラス然ルニ其ノ領有シ又ハ保護スヘキ国内ノ状態ハ貧弱ニシテ瘠土到底斯ノ如キ兵力保護ニ伴フヘキ莫大ナル勞費ニ酬ユルニ足ラス露国タルモノ何ヲ苦シテカ之ヲ併有スルノ愚ヲナサムヤ露国ノ欲スル所ノモノハ蒙古ヲシテ露支両国ノ緩衝国タラシメムトスルニアルノミト(昨年五月十日附公第五五号参照)

露国力将来ハ知ラス目下ノ処蒙古ヲ併有シ若ハ公然之ヲ其ノ保護国ト為サムトスルカ如キ底意ヲ有シ居ラサルハ当地駐在支那代表者モ之ヲ確認シ居レル所ナリ蒙古ニ関スル諸經費ハ支那ヲシテ之ヲ負担セシメ而カモ蒙古ヲ中間ニ置キ以テ暗ニ露支国境ノ接触ヨリ生スル自然ノ煩累ヲ避ケムトスル策ヲ取ルハ露国為政者ノ案トシテハ敢テ奇トスルニ足ラサル事ト存セラレ候

次ニ「カザコフ」氏ハ更ニ語テ曰ク支那ニ於テ科布多烏里雅蘇台一帶ノ地ヲ以テ将来支那ノ一省内ニ置カムトスル底意アルハ明ナル所ニシテ如斯ハ到底露国ノ承諾スル能ハサル所ナリト(拙電第四〇号後段参照)

左レハ此ノ点ニ就テハ将来露支間ノ折合中中附キ難カルヘキカト被存候

政機密送第二二二号

客月十五日発第五二〇号ヲ以テ貴館ヨリ露支協約案六ヶ条ヲ英仏文混合ニテ電報有之候処電文中了解ニ苦ム点アリタルモ不取敢譚ノ上同月十九日付政機密送第一七七号ヲ以テ及御送付候ニ付已ニ御査閱済ノ義ト存候然ルニ其後貴館ヨリ機密第二五五号ヲ以テ右英仏文混合ノ協約案及新ニ「モリソン」ヨリ入手セル仏文案郵送アリタルニ付兩者ヲ对照研究シタルニ第二条乃至第五条ハ全然符合スルモ第一条及殊ニ第六条ニハ著敷相違アリ英文ノ原タル漢文ト仏文トノ間ニ果シテ斯ル相違アル次第ナリヤ疑敷義ト存シ試ニ六月廿三日付公第二〇二号ヲ以テ送付アルタル衆議院提出案ヲ参照セルニ大体仏文案ト合致シ居リ或ハ貴館ニ於テ漢文ヨリ英訳スル際齟齬ヲ生ジタルニアラズヤト被存候条一応御取調ノ上漢文写添何分ノ儀御回報相成候様致度右申進候也

追而前記政機密送第一七七号ヲ以テ御送付ニ及ヒタル翻譯文ハ當時他館ニモ送付済ナルヲ以テ本信ニ対スル御回報ヲ俟チ夫々訂正方取計ヲ答ニ付其御含ヲ以テ至急御回報相成度為念申添候也

右具報申進候 敬具

四一五 八月六日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国山座公使宛

露支間ノ蒙古問題交渉ニ関スル在露田付代理  
大使ノ電報写送付ノ件

政機密送第二〇五号

本件ニ関シ在露田付代理大使へ訓令ノ次第ハ往電第三八〇号ニテ御承知ノ通りニ有之候処右ニ対シ別紙写<sup>(註)</sup>ノ通り同代理大使ヨリ電報有之候該回電ハ余リ「コンヴィンシング」ニハ無之様被感候へ共不取敢御参考迄ニ及御送附候尚右來電ニ抛レバ露支協約草案第二条ニ関聯シ支那政府ハ蒙古ニ支那軍隊一師団ヲ駐屯ヲ提議シタル趣ノ処果シテ右様ノ提議ヲ為シタルコトアル次第ナルヤ可然御探查ノ上何分ノ義御回報相成度此段申進候也

註 別紙ハ前出田付臨時代理大使來電第六〇号写ナリ

四一六 八月十一日 牧野外務大臣ヨリ  
在中国山座公使宛

露支間蒙古協約案ノ英仏両文テキスト間ノ齟齬ニ関スル件

四一七 八月十六日 在露田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露国政府ニ於テ庫倫ニ外交事務官任命ニ決定  
シタル件

機密往第二三三号 (九月二日接受)

大正二年八月十六日

在露

臨時代理大使 田 付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

露国政府ハ庫倫駐在ノ露国総領事ヲ外交事務官ニ任命スルコトニ決定シタル旨本月十二日ノ新聞紙上ニ掲載セラレ居リ候ニ付八月十六日露国外務省極東課長「ゴザコフ」氏ニ面会ノ節右露国政府ノ決定ハ蒙古ヲ以テ愈支那ヨリ分離独立シタルモノト認メ蒙古ニ関スル支那政府トノ交渉ヲ永久ニ断絶スルコトトシタル結果ナリヤト質問シタル処同氏ハ之ニ答ヘテ曰ク露国政府ハ庫倫ニ外交事務官ヲ置クコトニ決定シタルコトハ事実ナルモ右ハ必スシモ蒙古ヲ以テ支那ヨリ分離独立シタルモノト認メタルカ為ニアラス一國ノ首府ニ大使若ハ公使ヲ派遣シ其屬領地ニ外交事務官ヲ置クノ

例尠カラス「モロッコ」埃及並獨立前ノ巴爾幹諸小邦ニ於ケル外交事務官ノ如キ皆正式外交官ノ外ニ特ニ派遣セラレタルモノナリサレハ蒙古ノ如キ偏陬ノ地ニ外交事務官ヲ駐在セシムルモ支那ノ宗主權問題ニハ何等ノ關係ヲ及ホササルモノト信ス尤モ前記外交事務官ハ是迄ノ總領事ヲ以テ之ニ當ツル次第ニテ其官名モ外交事務官兼總領事ト呼ビ職務上今日マテト何等ノ差異アルニアラス且又目下蒙古ニ関スル露支交渉中止ノ結果露國ハ別ニ支那ノ同意ヲ求ムルマテモナク外交事務官ヲ庫倫ニ駐在セシムルコトニ決シタルモ將來右駐在ニ関シ支那ノ同意ヲ求ムヘキカ又ハ之ヲ全然引上ケシムルカハ一ニ今後締結セラルヘキ蒙古ニ関スル露支條約ノ内容ニ依リ定マル訳ナルモ露國ハ飽迄右外交事務官ノ駐在ハ之ヲ支持スル精神ナリト

右露國外交事務官ノ庫倫駐在ハ廳テ蒙古獨立ノ素地ヲ為スモノナリヤ否ヤハ別問題トシ之ニ對スル支那政府ノ態度如何ハ露國ト同シク支那ニ於テ特殊利益ノ關係アル地方ヲ有セラル、帝國政府ニ於テモ聊カ御參考トモ可相成カト思料致サレ候ニ付前記ノ事情不取敢及報告候 敬具

四一八 八月二十日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露支間ノ蒙古問題交渉中支那ヨリ軍隊一師團

蒙古駐留等ヲ要求セル事案ノ有無ニ関スル件

機密第三〇三號

(九月一日接受)

大正二年八月二十日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ八月六日附政機第二〇五号貴信ヲ以テ在露田付代理大使發第六〇号電信写御送付ニ相成同電ニ抛レハ露支協約草案第二条ニ關聯シ支那政府ハ蒙古ニ支那軍隊一師團ノ駐兵ヲ提議シタル趣ノ效果シテ右様ノ提議ヲナシタルコトアリヤ探查ノ上回報可致旨御訓令ノ趣承悉致候

右ニ関シ先般外交次長曹汝霖ニ對シ病氣引籠中ノ陸外交總長ニ就キ問合ハセ且ツ外交部公文書取調ノ上事案ノ有無確メ方依頼致置候処昨十九日同官來訪右様ノ事案ハ全然無之トノ回答ヲ齎ラシ候

尚先是水野書記官カ「モリソン」ニ糺シタルニ支那政府ハ

ト修正スヘク主張シ露國ノ同意ヲ得タルモノナリト申居候  
右回報申進候也

四一九 八月二十二日

牧野外務大臣ヨリ  
在中国山座公使他宛

露國方蒙古庫倫ニ外交事務官任命ノ件

在中国山座公使(政機密送第二二九号)

在哈爾濱本多總領事(政機密送第六〇号)

在齊々哈爾吉原事務代理(政機密送第四四号)

在奉天井原總領事代理(政機密送第一二八号)

各通

尚七月十三日当地駐割露國公使カ支那政府ニ交付セル通告書中(八月七日附政送第一八一号貴信添付在露田付臨時代理大使來信參照)支那政府ハ自己ノ利益ノ為(一)蒙古内地ニハ蒙古人及支那人以外ノモノノ移住ヲ禁止スルコト(二)蒙古軍隊ハ之ヲ支那武官ニ隸屬セシムルコト及其他之ニ類似ノ要求ヲ露國全權ニ知照シ得ヘキモノト思惟シタリト有之ニ付右ハ果シテ事實ナルヤ否ヤ確カメ方是亦曹次長ニ申入置キタル処昨日次長ノ話ニ第一点即チ外蒙古ニ於ケル支那人ノ移植ハ衆議院ノ修正意見ニ係リ第二点ノ蒙古軍隊ヲシテ支那武官ニ隸屬セシムルノ要求ハ實際支那政府ヨリ提議セルコトアルモ露國ノ拒絶スル所トナリタリトノコトニ候尚序ニ次長ハ露國ヨリハ最初支那カ外蒙古ニ對シ宗主權ヲ有スルコトノミヲ提案シタルモ支那側ヨリ完全ナル領土云々

段及通報候也

四二〇 八月二十七日 在中國山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露支条約ニ関スル衆議院議員ノ質問ニ対スル

外交部ノ答弁振報告ノ件

公第三〇七号 (九月四日接受)

大正二年八月廿七日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

露支兩國ノ外蒙古条約ニ対スル疑義ニ関シ衆議院議員魯魯等ノ質問提出ノ次第ハ公第二六七号民国近況一斑中報告ノ次第モ有之処今回衆議院公報中掲載八月十五日ヲ以テ外交部カ國務院ヲ經テ答弁スル所左ノ如シ

查スルニ最惠国條款ハ向例通商条約中ニ載セテ以テ利益均霑ニ便シ他国ニ偏頗ノ思ナカラシム但立約ノ時若シ未タ制限ヲ加ヘサレハ範圍頗ル広ク外交内政或ハ偶々束縛ヲ受ケ輕シク更動スル能ハス此度露人カ外蒙古ニ関シ得タル種々權利ヲ他国カ此次ノ條款ヲ引用シ外蒙古或ハ其

ノ束縛ヤ之レ患ヘン凡ソ条約ナルモノハ双方面一時ノ公認相待スルノ道也已ニ調印スルモ若シ一方面カ視テ以テ国家生死尊榮問題ト為シ力抗シテ行ハズハ則チ又々未タ能ク徒ラニ空文字ヲ以テ人ノ服従ヲ強ユル能ハス今民国肇造果シテ能ク全国一致同心修正以テ外侮ヲ禦カハ則チ領事裁判權ヨリ各処租界ノ設モ尽ク收回シ得可シ何ソ況ンヤ庫倫ヲヤ患ハ武力ノ不備ニ在ツテ武力ノ施用シ能ハサルニ在ラサル也云々

ト有之要スルニ胸中何等成算ナク徒ラニ自暴自棄ノ言ヲ壯ニシテ当面ノ責任ヲ糊塗スルノミ  
右及報告候也

四二一 九月六日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露国政府在蒙外交事務官任命ノ件

公第一三二二号 (九月二十二日接受)

大正二年九月六日

在露

臨時代理大使 田付 七太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

一五 露蒙協約關係一件 四二一 四二二 四二三

他ノ地方ニテ同等ノ利權ヲ要求スルアルハ事实上其必無ヲ期シカタシ但シ外人ノ我ニ対スルハ全ク彼此ノ勢力如何ニヨル彼ノ苛求ニシテ実力ノ後援アレハ一絶少案件ニ藉ツテ絶大ノ交渉ヲ醸成ス何ソ最惠国條款ニノミ之レ順ラン我国ニシテ能ク内政ヲ修メ捍衛ノ力アラハ十百ノ最惠国條款何ノ傷クル所ナシ外交ノ勝負ハ國中庶政ノ後盾ニ視ル周秦戦国時ノ文字口舌ヲ以テ我國難ヲ紓フス可キニ非ス本部ハ政府機關ノ一部心力ヲ竭尽シテ補救ヲ図ルモ後日ノ利害發生ニ至ツテハ亦タ全国後日ノ国勢如何ニ視ル耳

又タ此度庫倫ノ独立スル我国ハ困難ノ地歩ニ居リ武力ヲ以テ取消サシムル能ハス故ニ露人ノ手ヲ振り締約純ヲ和平ノ弁法ヲ用ユ惟タ此約定後已ニ庫倫カ其自治權利ヲ享クルヲ准シ約ヲ按シテ施行セハ独立ノ事タル自然暗中ニ消滅ス可シ然カモ政治ノ風雲变幻百出彼ノ露人ハ瑕ヲ踏ミ隙ヲ抵シ此約未タ調印セサルニ乘シ方針ヲ改易セリ我國カ条約面ニヨリ武力ヲ施用スル能ハスト云フニ至ツテハ当サニ此疑問アラザル可シ苟クモ我ニ武力アリ庫倫我言ヲ聽カス依然独立シ我ニ向ヒ抗拒セハ我出師名アリ何

露国政府カ在庫倫露国総領事ヲ以テ外交事務官ヲ兼ネシムルコトニ確定シタル義ニ関シテハ客月十六日付機密往第二三号拙信ヲ以テ報告申進メ置候通ニ有之候処同国政府ハ九月二日ヲ以テ前タウリズ駐在総領事ミルレル氏ヲ在蒙古露国総領事ニ任命シ外交事務官及總領事ノ職名ヲ与フルコトト相成候右御参考迄及報告候 敬具

四二二 十月四日 在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関シ露支交渉再開ノ件

第一四二二号

往電第五九号ニ関シ Kozakoff ノ本官ニ語ル所ニ依レバ孫寶琦外務大臣ニ就任以來再ヒ蒙古ニ関スル露支交渉ヲ開始シタル趣ナリ右ハ露国ガ曩ニ交渉中止ノ通告ヲナシタル時声明シタル四点ヲ支那ニ於テ承認セルニ基クモノナルモ右四点ヲ基礎トセル露国案ト支那対案トノ間ニハ不相變甚大ノ間隔アル由ニテ Kozakoff ハ今回開始シタル交渉ノ前途ニ付テモ甚ダ悲觀シ居レリ御参考迄

四二三 十月十五日 在中國山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉情況ニ付路透通信員内報ノ件

第八九九号

路透通信員「ウエアー」ノ水野ニ内報スル所ニ依レハ蒙古ニ関スル露支交渉近來著シク順調ニ抄取り支那政府ハ蒙古ノ完全ナル自主権ヲ認ムルコト、庫倫「コンヴェンション」及「プロトコール」ヲ其儘承認スルコト、露国政府ハ蒙古ニ対スル支那ノ宗主権ヲ認ムルコトノ三件既ニ決定セルモ支那側ハ宗主権ニ代フルニ「蒙古ガ支那ノ領國ノ一部ナルコトノ文句」ヲ用キニコトヲ主張シ居レトモ交渉破裂ヲ賭シテ迄モ争フノ決心ナキニ付結局何トカ纏マルヘク尚協定適用範圍即チ「オートノマス、モンゴリア」ノ境界ニ関シテハ露國側ノ全喀爾喀ト支那側ノ四 aimaks トノ間ニ互譲シ多分五盟位ニテ折合フヘキ見込アレハ予想セサル出来事ナキ限近々数日内ニ協定ハ調印サルヘシト思ハル云々本件ニ関シテハ過般來種々聞込ミタル所モアリ本使ニ於テモ支那側ノ内情探索中ニ付引続キ報告スヘキモ右ノ報告ハ稍ヤ信ヲ措クニ足ルモノト認ムルニ付不取敢電報ス

ケル支那ノ親日傾向殊ニ日本ノ滿蒙鐵道利權獲得（彼ハ或程度迄承知シ居リ至極賛成ナルガ露國ニ取リテハ大打撃ナルヘク頗ル痛快ナリト云ヒ居レリ）ニ原因セルモノニシテ文字ノ上丈ニテハ支那側ノ面目ヲ立ツルノ利ヲ悟リタルガ為ナルヘシト云ヘル由

四二五 十月二十一日 在中国山座公使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ノ「ステータス」ニ付露支間交渉中ノ件

第九〇九号

往電第九〇五号ニ関シ露国政府ハ「インテグラル、パート」ナル文字ニ同意シ難キ旨回訓アリタル趣露国公使ヨリ外交総長ニ告知シタル由ニテ為ニ露支協約ハ未タ締結ノ運ニ至ラサルモ支那側ニテハ宗主権ナル文字ニ立戻リテ交渉セハ露国政府モ同意スヘシト見込ミ居レル由「モリソン」ヨリ水野ヘ内報アリタリ

四二六 十月二十三日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ 長谷川參謀總長宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協約交渉ニ付袁世凱坂西大

佐ニ内談ノ件

一五 露蒙協約關係一件 四二五 四二六 四二七

四二四 十月十七日 在中国山座公使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支交渉進捗ノ狀況ニ付總統府

顧問「モリソン」ノ内報報告ノ件

第九〇五号

蒙古ニ関スル露支交渉ノ近況ニ付テハ十月十七日「モリソン」ノ水野ニ語ル所モ大体往電第八九九号ノ通ナルガ宗主権ノ事ハ未タ孰レノ側ヨリモ提出セス支那側ハ飽ク迄「インテグラル、パート」云々ノ文字ヲ用キニコトヲ主張シ露国公使ハ本国政府へ請訓中ニシテ今日頃返電アル筈或ハ既ニ到着セシヤモ知レザルガ露国政府若シ之ヲ拒絶スルトキハ露支孰レカヨリ「宗主権」案ヲ提出スルコト、ナルヘシ所謂「外蒙古」ノ範圍ハ予テ支那側主張ノ四盟ニ烏梁海ヲ加ヘ西方境界ハ追テ庫倫政府ト阿爾泰喀什喀爾ノ支那官憲トノ間ニ協定スヘク其他ノ問題ハ凡テ今後ノ交渉ニ讓ルコトニ決シタリ

「モリソン」ノ觀察ニテハ今度ノ交渉ニ於テ露國側ハ従前ト異リ friendly disposition ヲ示シ居ルニ付今度コソハ何トカ纏マルヘク而シテ露國ノ態度ノ斯ク変セシハ最近ニ於テ哀曰ク蒙古協約ニ関シ露國ハ頗ニ其ノ締結ヲ急キ殊ニ土匪ヲ教唆シテ蒙古各地ヲ騒ガシ我ヲシテ速ニ露國ノ要求ヲ容ルルノ已ナキニ至ラシメントヲ努メツ、アルモ露国政府ハ爾來我領土権ヲ認ムル上ニ於テ言ヲ左右ニシ成ルヘク之ヲ曖昧ナラシメントシツ、アルヲ以テ苟モ此事ノ確定セサル以上ハ斷シテ其他ヲ議スル能ハスト云フ主義ニテ對峙シツ、アリ然ルニ露国政府モ昨今ハ多少其点ヲ明ニスルニ至リタルヲ以テ本日ノ國務院會議ニテモ其事ヲ議スル次第ナリ要スルニ急クハ我カ為ニ損ナリ又彼カ使嗾ニ係ル蒙古土匪ト雖モ敢テ大事ヲ惹起シ得ル程有力ナルモノニアラス云々トテ敢テ重要視セサルモノノ如シ之ニ反シ彼ハ近時南方ニテ失敗セル革命浪人共ガ統々滿洲ニ入込ミ我邦人ノ之ニ加ハリツ、アル報告ヲ受取ルコト頻ナルニ付心配シ小官ニ其取締法ハナキモノナリヤトノ問ヲ發セシヲ以テ小官ハ苟モ我警察權ノ行ハルル地ナレハ嚴重ニ取締リ得ヘシト答ヘ置ケリ

四二七 十月二十七日 在 牧野外務大臣ヨリ 在中国山座公使宛(電報)

露支交渉ノ実情ニ付中国当局ニ確メ方ノ件

五四一

第五八五号

貴電第九〇九号ニ関シ

新聞電報ニ依レバ蒙古ニ関スル露支交渉ハ最近大ニ進捗シタルヤニ思ハル、ニ付貴官ハ支那当局ニ就キ詳細実情ヲ確メ電報アリタシ

四二八 十月二十七日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関シ露支間ニ協議纏マリタル大体ニ付

露国公使談話ノ件

第九二六号

往電第九〇五号ニ関シ十月二十七日露国公使カ本使ニ語ル所ニ依レハ蒙古ニ関スル露支交渉ハ種々曲折ヲ経テ結局(一)支那ハ外蒙古ノ自主政ヲ認ムルコト(二)露国ハ外蒙古ニ対スル支那ノ宗主権ヲ認ムルコト(三)支那ハ外蒙古ノ内政ニ干渉セサルコト(四)庫倫駐節支那官吏ノ護衛兵ヲ除クノ外外蒙古ニ支那軍隊ヲ駐屯セシメサルコト(五)支那ハ外蒙古ニ殖民セサルコト(六)庫倫駐節支那官吏ノ派出員ヲ置クヘキ地点ハ追テ商定スルコト(七)外蒙古ニ於ケル通商其他ノ關係ハ庫倫「プロトコール」ノ趣意ニテ追テ商定スルコト(此ノ点ハ

第九三二号

往電第九二六号及第九三一一号ニ関シ十月二十八日孫寶琦ノ本使ニ語ル所ヲ綜合スルニ左ノ通

蒙古ニ関スル露支協約五ヶ条要領

露国ハ外蒙古ニ対スル支那ノ宗主権ヲ認メ支那ハ外蒙古自治権ヲ認メ治理文武官吏ヲ派駐セス支那政府ハ庫倫ニ大員ヲ駐節セシメ且必要ニ応シ他ノ地方ニモ其部下ヲ派出シ得ルコト但シ内政ニ関セズ支那政府ハ外蒙古ニ殖民セス露国ハ領事館護衛兵ノ外外蒙古ニ駐屯セサルコトヲ約シ且支那政府ハ露国政府ノ調処ヲ受ケ以上各項ノ大綱ニ依リ千九百十二年十月二十一日ノ露蒙商務専条(プロトコール)ニ依リ支那ト外蒙古トノ關係ヲ明ニスヘキコトヲ声明セルモノナリ

尚右ノ外文書ノ交換ニ依リ(一)露国ハ外蒙古ガ支那領土ノ一部ナルコトヲ認メ(二)外蒙古ノ政治及土地ニ関スル問題ニ付テハ別ニ露国ト協商スヘク外蒙古モ亦之ニ参与スヘキコト(三)外蒙古ノ範圍ハ元ト庫倫、烏里雅蘇台、科布多ノ三所ニ駐在セシ支那官吏ノ管轄セシ地方即チ四盟ノ外科布多、烏梁海ヲ限トスコ布多ト阿爾泰ノ境界ハ追テ商定スヘキコト

一五 露蒙協約關係一件 四三〇

明瞭ヲ欠ク更ニ確ムヘシ) (2) Autonomous Mongoliaノ範圍ハ四盟及科布多タルコト(3)科布多ト阿爾泰トノ境界ハ追テ商定スルコトニ大体協議纏マリタル由ナリ  
尚露国公使ハ本使ノ問ニ対シ露国側ヨリ鉄道ニ関スル權利ヲ要求シ居ラスト明言シタリ

四二九 十月二十八日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露国ハ外蒙古ガ中国領土タルヲ認メタル件

第九三一号

往電第九二六号ニ関シ十月二十七日「モリソン」カ本使ニ語ル所ニ依レハ露国ハ外蒙古ニ対スル支那ノ宗主権ヲ認メタルノミナラス別ニ公文ヲ以テ外蒙古カ支那ノ領土ノ「パート」(「インテグラル」ノ字ヲ用ヒス)タルコトヲ認ムル旨ヲ声明スルコト、ナレル由ナリ本件ニ関シ後刻更ニ電報スル所アルヘシ

四三〇 十月二十八日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協約案ノ内容ニ付孫寶琦外

交総長内談ノ件(一)

(四)支那政府ハ大員ヲ派遣シ(恰克圖ニ)大綱ニ基キ一切ノ細目ハ支露蒙代表者ニ於テ会商スルコト(露支關係ニ付テハ外蒙古代表者立会ヒ支蒙關係ニ付テハ露国代表者立会ヒ露蒙關係ニ付テハ支那代表者ニ立会フコトノ意味ナリ)トシタリ尚談判ノ経過ニ付テ支那ハ飽迄「インテグラル、パート」ノ文字ヲ固執セシモ露国側ノ承諾セサル為遂ニ「インテグラル」ノ字ヲ削ルコトニ同意セシコト前記ノ公文(二)等ノ件ニ付テハ露国ハ露支蒙三国政府間ニ協商スヘシトノ文字ヲ用フルコトヲ主張セシモ斯クテハ外蒙古ヲ獨立國ト認ムル如キ嫌アルニ付之ヲ避ケタル次第ナリト云ヘリ  
本使ハ外蒙古ノ自治権ヲ認メツ、其政治土地ニ関スル問題ヲ露支間ニ協商スルトハ如何ナル意味ナリヤト尋ネタルニ孫総長ハ地方自治ハ之ヲ認ムルモ政治ノ大体ニ付テハ支那政府ノ干渉シ得ル積ナレハ庫倫駐節ノ支那大員ノ之ニ基キテ干渉シ得ヘク又露国外蒙古ニ於ケル鉄道ハ支那ニ相談セス露蒙間ニ随意ニ協定シ得ヘキコトヲ主張シタルモ支那ハ之ヲ承認セス追テ協商ノ際露蒙「プロトコール」中露国郵便ノ事ハアレトモ鉄道電信ノ事ハ規定ナキニ付外蒙古ノ土地ニ関スル問題ト看做シ支那政府ノ承認ヲ要スルモノナル

一五 露蒙協約關係一件 四三一 四三二

コトヲ主張スル積ナリ是等ノ点ハ露国側へハ内々ニ願ヒ度尚本件ハ他国公使ニハ絶対ニ秘密ニ附シ居ルニ付帝國政府ニ於テモ其積ニテ取扱ハレ度ク又協約本文ハ条約ノ形式ヲ用ユル考ナルモ議會ニ提出スル時ハ必ラス反対起ルヘキニ付之ヲ提出セス確定スル積ナリ(孫ハ事面倒ニナレハ自分責ヲ負ヒテ辭職スル迄ノコトナリト附言シタリ)

以上ハ本使方種々質問ノ結果孫ヨリ聞キ得タル所ヲ綜合シタルモノニシテ御承知ノ通頭腦頗ル明敏ナラサル孫ノコト故不得要領ナルハ免カレサル儀ト御承知アリタシ

四三一 十月二十九日 在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支協約案ノ内容ニ付孫寶琦外  
交総長内談ノ件(二)

第九三三号  
往電第九三二号補遺

孫寶琦ハ尚本使ニ対シ露国公使カ頻リニ庫倫「コンヴェンション」ヲ其儘承認センコトヲ迫リタルモ遂ニ之ヲ承認セサリシコトヲ語レリ又本使カ露国公使ヨリ聞キタル所ニテハ四盟ト科布多トノミナリシニ今烏梁海ヲ包含セラレタル

云フ

註 別電第九五三号及第九五四号省略ス後出四三三五文書及同附  
属書一及ニ参照

四三三 十一月五日 在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支宣言書調印ノ日取決定ノ件

第九五六号

往電第九五二号ニ関シ十一月四日曹汝霖ハ宣言書ハ十一月五日調印サルヘキ旨本使ニ内話セリ

四三四 十一月六日 牧野外務大臣ヨリ  
在露国田付臨時代理大使宛(電報)

蒙古ニ関スル露支宣言書調印済ノ旨及其ノ仏

文テキスト電報ノ件

第二六四号

往電第二五三三号ニ関シ露国公使ノ山座公使ニ語ル所ニ由レバ蒙古ニ関スル露支宣言書ハ十一月五日調印ヲ了シタル由尚水野カ「モリソン」ヨリ当分他ニ洩ラサザル約束ニテ内密入手シタル右宣言書仏文ハ別電第二六五号ノ通又右宣言書調印後直ニ交換サルヘキ公文ハ別電第二六六号ノ通御舍

一五 露蒙協約關係一件 四三三 四三四 四三五

五四四

コトヲ聞クハ何故ナリヤト尋ネタルニ対シテハ烏梁海ハ素ト烏里雅蘇台將軍ノ管轄ニ属シタル地方ニテ既ニ四盟ト科布多ヲ外蒙古ノ範圍トスル以上飛地的ニ露国ニ境ヲ接スル烏梁海ノミヲ残ストモ何ノ益モナカルヘク却テ面倒ナレハ遂ニ之ヲ範圍内ニ置クコトニ同意シタル次第ナリト説明シタリ

四三二 十一月四日 在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支宣言書及交換公文ノ仏文テ  
キスト電報ノ件

第九五二号

往電第九三二号及第九三三三号ニ関シ十一月四日水野カ「モリソン」方ニテ同人ノ承諾ヲ得テ写取りタル蒙古ニ関スル露支宣言書ノ(要領)仏文「テキスト」ハ別電第九五三号ノ通又右宣言書ノ調印後直ニ交換サルヘキ公文ノ仏文「テキスト」ハ別電第九五四号ノ通ナルカ右写取ニ際シ水野ハ暫時洩サ、ルコトヲ約束シタル由ナレバ其御舍ヲ以テ御取扱アリタシ

尚同人ノ見込ニテハ宣言書ハ十一月五日調印セラルヘシト

迄

右別電ニ通ト共ニ往電第二四五号ノ通転報アリタシ

註 別電第二六五号ハ山座來電第九五三号全文、第二六六号ハ  
同第九五四号全文

四三五 十一月六日 在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支宣言書及交換公文ノ仏文テ

キスト要領送付ノ件

附屬書一 露支宣言書仏文テキスト要領

二 露支交換公文仏文テキスト要領

機密第三八一号 (十一月十七日接受)

大正二年十一月六日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

十一月五日露国公使ト孫外交総長トノ間ニ調印ヲ了シタル露支宣言並ニ右調印後交換ヲ了シタル公文ハ十一月四日水野參事官カ「モリソン」ヨリ写取ルト共ニ直ニ往電第九五三号及第九五四号ヲ以テ報告申進候処右確認ノ為メ茲ニ同

五四五

電写送付致候間御査閱相成度此段申進候也

(附屬書一)

露文宣言書公文キスト要領

DECLARATION

ARTICLE I.

La Russie reconnaît que la Mongolie Extérieure se trouve sous la Suzeraineté de la Chine.

ARTICLE II.

La Chine reconnaît l'autonomie de la Mongolie Extérieure.

ARTICLE III.

Reconnaissant le droit exclusif des Mongols de la Mongolie Extérieure eux-mêmes de pourvoir à l'administration intérieure de la Mongolie autonome et de régler toutes les questions d'ordre commercial et industriel touchant à ce pays, la Chine s'engage à ne pas intervenir dans ces matières et par conséquent n'enverra pas en Mongolie Extérieure de troupes, n'y entretiendra aucun fonctionnaire civil ou militaire et s'abstiendra de toute colonisation de ce pays. Il est cependant entendu qu'un dignitaire envoyé par le Gouvernement chinois

pourra résider à Ourga accompagné du personnel subalterne nécessaire et d'une escorte. En outre, le Gouvernement chinois pourra, en cas de besoin, entretenir dans certaines localités de la Mongolie Extérieure à définir au cours des pourparlers prévus à l'Article V du présent accord des agents pour la protection des intérêts de ses sujets. La Russie de son côté s'engage à ne pas maintenir de troupes en Mongolie Extérieure à l'exception de gardes consulaires, à n'intervenir dans aucune partie de l'administration de ce pays et à s'abstenir de le coloniser.

ARTICLE IV.

La Chine se déclare prête à accepter les bons offices de la Russie pour établir ses relations avec la Mongolie Extérieure conformément aux principes ci-dessus énoncés et aux stipulations du Protocole commercial Russo-Mongol du 21 Octobre 1912.

ARTICLE V.

Les questions qui ont trait aux intérêts de la Chine et de la Russie dans la Mongolie Extérieure et qui sont créées par le nouvel état de choses dans ce pays feront l'objet de pourparlers ultérieurs.

(附屬書二)

露文交換公文文キスト要領

NOTE

I. La Russie reconnaît que le territoire de la Mongolie Extérieure fait partie du territoire de la Chine.

II. En ce qui concerne les questions d'ordre politique et territorial, le Gouvernement chinois se mettra d'accord avec le Gouvernement de Russie par des négociations auxquelles les autorités de la Mongolie Extérieure prendront part.

III. Les pourparlers prévus à l'Article V de la Déclaration auront lieu entre les trois parties intéressées qui désigneront à cet effet un lieu pour la réunion de leurs délégués.

IV. La Mongolie Extérieure autonome comprendra les régions qui ont été sous la juridiction de l'Amban chinois d'Ourga, du Général-Tartare d'Ouriassoutai et de l'Amban chinois de Kobdo. Vu qu'il n'existe pas de cartes détaillées de la Mongolie et que les limites des divisions administratives de ce pays sont incertaines, il est convenu que les limites exactes de la Mongolie Extérieure ainsi que les délimitations entre le district

de Kobdo et le district de l'Alkai feront l'objet des pourparlers prévus à l'Article V de la Déclaration.

四三六 十一月十日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支宣言書及交換公文送付ノ件

附屬書

露国当局ヨリ田付臨時代理大使ニ手交ノ十一月

十日附書面写

露支宣言書及交換公文内報ノ件

機密往第三二二号

(十一月二十五日接受)

大正二年十一月十日

在露

臨時代理大使 田 付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本年十一月五日調印セラレタル蒙古ニ関スル露支宣言書及右調印ニ際シ交換セラレタル公文ニ関シテハ往電第二二一六号ヲ以テ申進置候次第有之候モ尚為念右両文書内報ノ為露国外務当局者カ本官ニ手交シタル書面写別添ノ通差進候条御査閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書)



露国外務当局ヨリ田付臨時代理大使ニ手交ノ

十一月十日附書面寫

蒙古ニ関スル露支宣言書及交換公文内報ノ件

Monsieur Kroupensky, Ministre de Russie à Pékin, et Monsieur Sun Pao-chi, Ministre des Affaires Etrangères de Chine, ont signé le 23 Octobre/5 Novembre/1913 à Pékin une déclaration dont les clauses sont comme suit :

1/La Russie reconnaît la suzeraineté du Gouvernement Chinois sur la Mongolie Extérieure.

2/La Chine reconnaît l'autonomie de la Mongolie Extérieure.

3/Reconnaissant le droit exclusif des Mongols eux-mêmes de pourvoir à l'administration intérieure de la Mongolie Extérieure autonome, et de régler toutes les questions d'ordre commercial et industriel touchant à ce pays, la Chine s'engage à ne pas intervenir dans ces matières et, par conséquent, n'enverra pas de troupes dans la Mongolie Extérieure, n'y entretiendra aucun fonctionnaire civil ou militaire et s'abstiendra de toute colonisation de ce pays. Il est cependant entendu qu'un dignitaire envoyé par le Gouvernement Chinois pourra

résider à Ourga accompagné du personnel subalterne nécessaire et d'une escorte. En outre le Gouvernement Chinois, en cas de besoin, pourra entretenir dans certaines localités de la Mongolie Extérieure, à définir au cours des pourparlers prévus à l'article V du présent accord des agences pour la protection des intérêts de ses sujets.

La Russie de son côté s'engage à ne pas maintenir de troupes en Mongolie Extérieure à l'exception des gardes consulaires, à n'intervenir dans aucune partie de l'administration de ce pays et à s'abstenir de le coloniser.

4/La Chine se déclare prête à accepter les bons offices de la Russie pour établir ses relations avec la Mongolie Extérieure conformément aux principes ci-dessus énoncés et aux stipulations du Protocole commercial Russo-Mongol du 21 Octobre 1912.

5/Les questions qui ont trait aux intérêts de la Russie et de la Chine dans la Mongolie Extérieure et qui sont créées par le nouvel état de choses dans ce pays feront l'objet de pourparlers ultérieurs.

Un échange de notes séparées a eu lieu en même temps entre Monsieur Kroupensky et Monsieur Sun

Pao-chi, qui contiennent les stipulations suivantes :

'La Russie reconnaît que le territoire de la Mongolie Extérieure fait partie du territoire de la Chine.

La Mongolie Extérieure autonome comprendra les régions qui ont été sous la juridiction de l'Amban Chinois d'Ourga, du Général Tartare d'Oulassoutai et de l'Amban Chinois de Kobdo.

Vu qu'il n'existe pas de cartes détaillées de la Mongolie et que les limites des divisions administratives de ce pays sont incertaines, il est convenu que les limites exactes de la Mongolie Extérieure ainsi que la délimitation entre le district de Kobdo et le district de l'Altai, feront l'objet des pourparlers ultérieurs prévus à l'article V de la déclaration.

Il est entendu que les pourparlers prévus à l'article V de la déclaration auront lieu entre les trois parties intéressées, qui à cet effet désigneront un lieu pour la réunion de leurs délégués.

En ce qui concerne les questions d'ordre politique et territorial touchant à la Mongolie Extérieure le Gouvernement Chinois se mettra d'accord avec la Russie par des négociations auxquelles les autorités de la Mongolie Extérieure prendront part."

Ces deux documents devant être publiés prochainement par les parties contractantes, le Ministère Impérial des Affaires Etrangères a l'honneur de prier l'Ambassade du Japon de considérer sa présente communication comme confidentielle.

St. Pétersbourg, le 28 Octobre 1913.  
(10 November)

à l'Ambassade du Japon.

~~~~~  
四三七 十一月十三日 安藤新潟県知事ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支協約ニ対スル対支聯合会ノ  
意見書新潟県下ニ配付ノ件

高秘発第三九〇号 (十一月十五日接受)

大正二年十一月十三日

新潟県知事 安藤謙介(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

在京本県選出代議士大竹貫一ヨリ今回対支聯合会名ヲ以テ

本月三日付印刷セル露支協約ニ対スル意見附 露蒙協約ニ対スル露  
蒙協約 紙数十頁ヲ県下直江津町商業會議所及県會議員ノ一

部其他ノ送付シタリ

其内容ヲ内査スルニ帝國ハ内蒙古ニ於テ露國ノ外蒙古ニ於ケル勢力ト均衡ヲ保ツニ必要ナル施設ヲ為スノ自由ヲ得ベシト云フニアリ

之レニ対シ受配布者ノ意向ヲ探クルニ只一読シタル迄ニ過キスシテ何等ノ影響等無之頗ル冷靜ニ有之候  
右御参考迄及申報候也

申報先 内務大臣

四三八 十一月十四日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露支間蒙古協約旧案ノ英仏文テキストノ齟齬

ニ付取調方訓令ニ関シ稟申ノ件

機密第三八七号

(十一月二十四日接受)

大正二年十一月十四日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本年七月十七日附機密第二五五号拙信ヲ以テ送附致候英仏文混合ノ露支協約案ト「モリソン」ヨリ入手セル仏文案トノ間ニ相違アル理由ハ「モリソン」へ面会ノ節確カム可キ

第九九九号

往電第九九三号ニ関シ宣言書ハ露支兩國協議ノ上同時ニ發表スヘク公文ハ絶対的ニ秘密ニ附シ置ク筈ナリシ処十一月十二日北京「ガゼット」ニ兩者共全文英訳掲載サレ翌各新聞ニ転載サレタルニ付露國公使ハ外交部へ嚴談スル所アリタル由ナルカ外交部モ如何ニシテ洩レタルヤヲ知ラス而カモ北京「ガゼット」カ「ウエアー」ヨリ得タルコトハ確實ナルノミナラス「ウエアー」ハ十一月七日既ニ倫敦ニ電報シ居ルニ付同人カ何レヨリ入手シタルヤニ関シ目下当地ノ問題トナリ居レリ「モリソン」ハ最モ疑ハレ居ルモ「ウエアー」ハ絶対ニ之ヲ否認シ且ツ「ルシアン、ソー」ヨリ得タリト称シ尚時宜ニ依リテハ其旨發表スヘシト云ヒ居レリ勿論当館ニ於テ「ウエアー」ニ与ヘタルコトハ無之モ右ノ次第二付往電第九五三号第九五四号仏文ハ貴地ニ於テ發表サレサル様致シタシ

四四〇 十一月二十二日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支宣言及文書ノ正文発表ノ件

第一〇二二号

一五 露蒙協約關係一件 四四〇 四四一

旨八月十九日附機密第二九九号拙信ヲ以テ申進置候得共元来此種文書ヲ「モリソン」ヨリ入手セルハ単ニ同人ノ厚意ニヨル次第ニシテ実ヲ言ヘハ支那政府ノ政治顧問タル地位ニ鑑ミ同人カ其職務上管掌ノ秘密ヲ漏スコトハ不謹慎ノ舉動ニ有之ニ付之ニ関シ普通ノ調査報告ニ於ケル如ク我方ヨリ質疑スルコトハ啻ニ先方ヲシテ煩累ヲ感セシムル虞アルノミナラス先方ノ良心ト注意トヲ刺激シ為メニ将来重要ノ「インフォーメーション」ヲ我ニ供スルコトヲ躊躇スルニ至ラシムルコト必定ニ付余程注意ヲ要スル為メ其後適當ノ機会ヲ得ス其儘ニ相成居候処十月二十二日附政機第二九五号貴信ヲ以テ本件御督促ノ上至急「モリソン」ニ聞糺シ回報可致様御訓令有之候得共右申ス通りノ事情モ有之且ツ露支宣言及交換公文モ決定シタル今日トナリテハ別段必要モ無之様被存候ニ付重ネテ御訓令無之限り「モリソン」へ聞糺方見合可申候間左様御承知相成度此段回答申進候也

四三九 十一月十五日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

蒙古ニ関スル露支宣言書及附属公文北京「ガ

ゼット」ニ漏洩掲載ノ件

蒙古ニ関スル露支宣言及文書ノ正文十一月二十二日当地ニ於テ發表セラレタリ露國公使ノ談ニ依レハ彼得堡ニテモ同時ニ發表セララルヘキ筈ナリト

四四一 十一月二十二日

在中国山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支宣言及交換公文兩國政府ヨ

リ発表ニ付報告及其英訳文及漢訳文送付ノ件

附 記 露支宣言及交換公文ノ和訳文

機密第三九九号

(十一月四日接受)

大正二年十一月廿二日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本月五日調印並ニ交換ヲ了シタル露支宣言及公文ハ今廿二日ヲ期シ北京及露都ノ両方面ニ於テ各該國政府ヨリ發表スヘキ事ト相成リ居ル旨ハ最近露國公使ノ本使ニ語レル所ニ有之候処本日發行ノ仏文「ジュルナル、ド、ペカン」ハ右仏文ノ正文ヲ、英文「ペキンデーリーニュース」ハ英訳文ヲ、北京日報以下ノ各漢字新聞ハ各其ノ漢訳文ヲ掲載

致居候右ノ内公文「ジュルナル、ド、ペカン」ニ現ハレタル正文ハ露國公使館ヨリ与ヘタルモノニシテ之ヲ前キニ電報ニ及ヒ置キタルモノト比較スルニ宣言第五項ノ末文 pourparlers ノトニ ultérieurs ノ一字ヲ脱シ居リタル外全然同文ニ有之公文ノ正文ハ露支両方ノ全権委員ノ間ニ交換サレタル儘記名及前後ノ文字ヲ除ケバ全然同一ナル条文ヲ二重ニ発表スルノ形式ヲ取りタルモノニ有之随テ漢字新聞ノ漢訳文モ同様内容同シキニ通ノ公文ヲ掲載致居候次第ニ有之候右漢訳文英訳文ハ夫々別紙切抜及御送附候ヘ共宣言及公文書ノ仏文正文ノ方ハ本省ヘ直接郵送致居候「ジュルナル、ド、ペカン」本月廿二日分ニ就キ御査閲相成候様致度右条約正文発表ニ関スル報告並ニ切抜御送附旁此段申進候也

註 別紙切抜省略

(附記)

外蒙古ニ關スル露支宣言書譯文<sup>(註)</sup>

宣言

露西亞帝國政府ハ外蒙古ニ關シ支那トノ關係ヲ律スル爲其ノ基礎ト爲スヘキ主義ヲ提議シ支那共和國政府ハ右ノ主義

係ヲ確立スル爲メ露西亞ノ周旋ヲ受諾スヘキコトヲ聲明ス

第五條 外蒙古ニ於ケル支那及露西亞ノ利益ニ關スル諸問題ニシテ同地ニ於ケル新事態ノ爲生シタルモノニ關シテハ追テ商議スヘシ

右證據トシテ之カ爲正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ本宣言書ニ署名調印ス

中華民國二年十一月五日即チ千九百十三年十月二十三日  
(十一月五日)北京ニ於テ本書ニ通ヲ作ル

孫 寶 琦印  
クルペンスキー印

外蒙古ニ關スル露支宣言書調印當日孫外交總長ト在支露國公使トノ間ニ交換セル公文譯文<sup>(註)</sup>

外蒙古ニ關スル本日附ノ宣言書ニ署名スルニ當リ之カ爲正當ノ委任ヲ受ケタル下名  
〔支那共和國外務大臣〕  
〔全露西亞國皇帝陛下ノ特命全權公使〕ハ其ノ政府ノ名ニ於テ  
〔全露西亞國皇帝陛下ノ特命全權公使クルペンスキー〕  
〔支那共和國外務大臣孫寶琦閣下ニ左ノ通聲明スルノ光榮ヲ有シ候

ヲ認諾シタルヲ以テ兩國政府ハ左ノ通り協定セリ  
第一條 露西亞ハ外蒙古カ支那ノ宗主權ノ下ニ在ルコトヲ承認ス

第二條 支那ハ外蒙古ノ自治權ヲ承認ス

第三條 支那ハ外蒙古ニ於ケル蒙古人カ自治蒙古ノ内政ヲ自ラ行ヒ且同地ニ關スル商工業上ノ一切ノ問題ヲ自ラ處理スルノ專屬的權利ヲ承認シ此等ノ事項ニ干渉セサルヘキコトヲ約ス故ニ支那ハ外蒙古ニ軍隊ヲ派遣シ文武ノ官吏ヲ駐在セシメ又ハ一切殖民スルコトナカルヘシ但シ支那政府ノ派遣スル一名ノ高官ハ必要ノ屬員及一隊ノ護衛兵ヲ隨ヘテ庫倫ニ駐在スルコトヲ得ヘク且ツ支那政府ハ必要ノ場合ニハ其ノ人民ノ利益ヲ保護スル爲本取極第五條ニ規定スル商議ノ際確定セラルヘキ外蒙古ノ一定ノ地方ニ事務官ヲ駐在セシムルコトヲ得ヘシ又露西亞ニ於テハ領事館護衛兵ヲ除クノ外其ノ軍隊ヲ外蒙古ニ駐屯セシメ同地ノ行政上ノ事項ニ干渉シ又ハ同地ニ殖民スルコトナカルヘキヲ約ス

第四條 支那ハ上記ノ主義及千九百十二年十月二十一日(露曆)ノ露蒙通商議定書ノ規定ニ準據シ外蒙古トノ關

一、露西亞ハ外蒙古ノ地域カ支那領土ノ一部タルコトヲ承認ス

二、政治上及領土上ノ問題ニ關シテハ支那政府ハ商議ニ依リ露西亞政府ト協定ノ上措置スヘク該商議ニハ外蒙古官憲之ニ参加スヘシ

三、宣言書第五條ニ規定スル商議ハ關係三當事者ノ間ニ行ハルヘク之カ爲該當事者ハ其ノ代表委員ノ會合スヘキ地點ヲ指定スヘシ

四、自治外蒙古ハ庫倫辦事大臣、烏里雅蘇臺將軍及科布多參贊大臣ノ管轄ニ屬スル地方ヲ包括ス但シ精密ナル蒙古地圖ナク且ツ同地ニ於ケル行政區劃不確實ナルヲ以テ外蒙古ノ精確ナル疆域竝科布多及阿爾泰間ノ境界ハ宣言書第五條ニ規定スル商議ノ際追テ協定スヘシ

下名ハ茲ニ〔クルペンスキー〕閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

〔孫寶琦〕

敬具

註 右宣言書及交換公文ノ和譯文ハ當時外務本省ニ於テ作成シタリ

四四二 十一月二十三日

在中國山座公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

一五 露蒙協約關係一件 四四三 四四四

蒙古軍ノ張家口近辺來襲ニ対スル中国政府ノ

措置ニ付孫外交総長ニ質問ノ件

第一〇二四号

十一月二十二日孫寶琦ニ面会ノ序ヲ以テ近來蒙古軍ガ張家口ニ間近ク押寄セ来リ勢ヒ猖獗ナル旨ニ談及シ支那政府ハ如何ナル措置ヲ執リ居ルヤヲ問ヒタルニ過般露国政府ト交渉ノ結果庫倫活仏ニ電報シ外蒙古軍ヲ引揚ケシムルコト、ナレリ但シ襲來ノ蒙古軍ハ必スシモ外蒙古ノモノノミニ限ラス内蒙古ノ或者モ亦之ニ与シ居ルニハ困却シ居レリト語ラヒタルニ付本使ハ内外蒙古ノ境界問題未定ナル為右ヲ有利ニ解決スルノ底意ヲ以テ依然侵略的行動ヲ執リ居ルニアラスヤト問ヒ試ミタルニ孫ハ斯ノ如キコト無之ヲ保セサルモ庫倫辦事大臣等ノ管轄区域ハ從來明定シ居リタルニ付右ニ基キ露支蒙間ニ境界確定スル次第ナリト云ヘリ

四四三 十一月二十四日

在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支宣言書及外交文書原文送付

ノ件

公第一九一号

(十一月九日接受)

外務大臣 牧野伸顯殿

今回蒙古問題ニ関シ露支兩國当局者間ニ宣言書ノ調印ヲ了ヘ外交文書ノ交換ヲ見タルニ就キ当地ノノウウツエ、ウレミヤ新聞ハ本月二十三日「蒙古ニ関スル露支協約」ト題スル社説ヲ掲ケ這般露支間ノ協定ヲ以テ露蒙支三国ノ關係カ確立シタルモノトナシ、近來同紙力事毎ニ外務省ヲ論難攻撃シタルニ反シ右問題ノ落着ニハ大ナル満足ヲ表シ外務当局者ノ努力ヲ多トシ其成績ニ対シ激賞致居候而シテ同紙ハ露国ノ對蒙問題カ最早外務省ノ手ヲ放レテ經濟の方面ニ転回シタルモノナレハ今後ノ施設ハ大蔵、商工、交通三省ノ力ニ俟タサルヘカラストナシ蒙古ノ經濟状態ニ言及シテ之レカ改善ヲ計ランニハ露国関税法ノ施行範圍ヲ外蒙古全部ニ及ホスヘシト論結致居候右ハ時節柄多少御参考トモ可相成カト被存候ニ付同論説反訳別紙ノ通り差進候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

蒙古ニ関スル露支協約(十一月二十三日起説)

十一月五日在北京公使クルペンスキー氏ト外交総長孫寶琦氏トノ間ニ蒙古問題ニ関スル宣言書ノ調印ヲ見又宣言書内

一五 露蒙協約關係一件 四四四

五五四

大正二年十一月廿四日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本年十一月五日北京ニ於テ露支兩國代表者間ニ調印交換ヲ了シタル外蒙古ニ関スル宣言書並ニ外交文書仏語訳文写ハ過般外務当局者ヨリ入手ノ儘不取敢及御送附置候処露国政府ハ弥々本月二十二日官報其他各新聞紙上ニ於テ右全文公表致候ニ付官報所載露語原文切抜(仏語訳文共)茲ニ及御送附候間御査閱相成度此段申進候 敬具

註 官報切抜(露文及仏文)省略ス

四四四 十一月二十五日

在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古ニ関スル露支協約ニ関スル新聞論説訳報

ノ件

附屬書 ノーウツエ、ウレミヤ新聞社説訳文

公第一九二号

(十一月十二日接受)

大正二年十一月二十五日

在露臨時代理大使 田付 七 太(印)

容ノ追加説明トシテ兩全權間ニ外交文書ノ交換ヲ見タリ蓋シ國際の關係ハ条約成文ノ如何ニ関スルコト言フ俟タストセハ露蒙支三国ノ關係ハ斯ノ如クシテ確實ニ規定セラレタリト謂フヘキ也

蒙古問題ニ関シ新ニ締結セラレタル露支協定ハ久シキ以前ヨリ紛擾ヲ極メタル外交案件ニシテ実ニ一度ハ兩者ノ間ニ全然衝突ヲ見ントシタリ支那当局者ハ蒙古自治制ノ施設ヲ認ムルヲ肯シセス而カモ蒙古ノ当路者ハ支那共和国ト分離シテ完全ナル独立国ヲ創肇センコトヲ主張シ兩々固ク執リ相讓ラス是ニ於テカ露国ノ外交家ハ其中間ヲ進ミ支那ノ不法ナル要求ト他ノ援助ナクシテ實現スヘカラサル蒙古人ノ希望トヲ調和セント試ミタリ然レトモ由来公平無私ナル仲介者ノ位置ハ常ニ困難ヲ感スルモノニシテ其努力ハ概シテ双方ノ感謝ニ価セス却テ非難ヲ被ムルモノトス而シテ蒙支問題ニ関スル我國ノ位置亦実ニ斯クノ如キモノナリキ

抑々蒙古人カ独立的の國家ヲ形成セントスルハ当然ノ權利ト云フヘシ何トナレハ蒙古ハ清朝ノ下ニ服従シタルモ支那ノ制御ノ下ニ立チシニアラザレハナリ即チ漢人ト蒙人トヲ統御シテ立テル朝廷ノ瓦解ハ兩民種ノ政治的の結合ヲ切斷シタ

五五五

ルモノニシテ蒙古ハ此場合自己ノ欲スル政体ヲ扱フコト其当然ノ權利ナレハ也然リト雖モ國際の關係ニ於テハ当然ノ權利モ實力ノ為メニ圧迫セラレサルヲ得ス支那共和国ハ其内部ノ紛糾ニモ関セス若シ蒙古カ服従ヲ肯シザルニ於テハ絶エズ争鬭ヲ繼續セント威嚇スルニ尚ホ十分ナル實力ヲ有シタリ蒙支關係ノ紛擾ハ一方ニ蒙古ニ於ケル露國ノ利益ヲ迫害シ他方ニ於テ蒙古ノ衰退ヲ促進シツ、殆ント永久のニ繼續セントス是ニ於テ露國ノ外交家ハ蒙古ヲシテ支那ノ宗主權ヲ承認セシムヘキ条件ノ下ニ蒙古ニ對シ援助ヲ与フルコトトナレリ前北京駐在公使コロストウヱツ氏ハ蒙古王公ヲシテ支那共和国ノ宗主權ヲ認ムルノ必要ナル所以ヲ了解セシムヘキ困難ナル使命ヲ帯ヒ露國ノ全權トシテ庫倫ニ特派セラレタリ蒙古政府ハ再ヒ支那ニ服従スルコトハ敢テ露國ノ援助ヲ要セスシテ自ラ之ヲ為スヲ得ヘシトノ見解ヲ有シタルヲ以テコロストウヱツ氏ハ一面蒙古政府ト外交談判ニ從事スルト同時ニ幼稚低脳ナル遊牧人種ニ對シ國法及國際法ノ如何ナルモノナルカヲ了解セシムヘク自ラ教授ノ任ニ当ラサルヘカラサルコト、ナレリ而シテ氏カ不撓不屈ノ努力ハ遂ニ蒙古ノ王公ヲシテ露國政府カ蒙古ニシテ支那

承認シタリ今後外蒙古ハ支那共和国ヨリ何等ノ干渉ヲ受ケスシテ其内治ヲ施行シ得ヘシ而シテ支那ハ蒙古ニ於ケル其利益擁護ノ為ニ何等政治の權能ヲ有セサル特殊ノ駐在官ヲ駐派スルコトヲ得ヘシ加之支那ハ支那本部ヨリ蒙古ニ移民ヲ送ラサルヘク又露蒙協約及議定書ノ効力ハ全然之ヲ認メ將來蒙支間ノ交渉ニ就テハ該議定書ノ條規ニ準セサルヘカラズ別言スレハ支那政府ハ蒙古ニ對スル主權ノ要求ヲ辭退シタルモノナリ

カザコフ氏ノ管掌スル外務省極東課モ亦数年ニ亘レル事業ヲ完成シタリ氏カ勞力ノ結果ハ多大ナリトスヘシ然リト雖モ之ト同時ニ露國ノ保護扶掖ノ任ニ當レル蒙古ノ自治ハ我政府ニ於テ唯タ其富メル地方ノ經濟的及文化的開發ニ對シ積極的施設ヲナスノ場合ノミ實現スルコトヲ得ヘシ然ルニ近時頻々トシテ蒙古ヨリ來ル情報ハ一トシテ經濟界ノ悲境ニ関スルモノニアラサルハナシ夫ノ稅關政策ノ結果ハ蒙古ノ生活狀態ヲ昂騰セシメ露蒙ノ通商關係ハ之レカ為メニ最モ厭フヘキ狀態ノ下ニアルナリ

新國家ノ樹立ニハ多額ノ經費ヲ要ス而シテ之レカ負担ハ貧弱ナル人民ノ上ニ係レリ往時ノ苛政ヨリ脱却セントシテ採

ノ宗主權ヲ承認スル場合ニ於テ唯タ其獨立ニ對シ斡旋ノ勞ヲ取ルモノナルコトヲ悟レシシムルニ至レリ而カモ此ノ間ニ在テ我カ全權カ如何ニ苦心慘憺タリシカハ露蒙協約ノ案文ヲ裂キテ之ヲ地ニ投スルニ至リシ一事ニ徴スルモ察スルニ難カラス蒙古当局者モ此際ニ及ヒ露國カ協約ニ抛リテ何等特殊ノ利益ヲ獲得セントスルモノニアラサルヲ知了シ茲ニ始メテ一九一二年十一月三日協約ノ調印ヲ見タルモノトス

斯ノ如ク我カ外交家カ辛フシテ蒙古ヲシテ支那ノ宗主權ヲ承認セシムルニ成功シタリト雖モ更ニ困難ナル別個ノ問題ノ横ハルアリ即チ支那政府ヲシテ蒙古ノ自治ヲ承認セシムルコト是也クルペンスキエ氏ハコロストウヱツ氏カ庫倫ニ於テ成シタリシ所ノモノヲ更ニ文明的形式ノ下ニ北京ニ於テ繰返サ、ルヘカラサルナリ支那外交家ノ慣用手段タル時日ノ遷延ト手段ノ譎詐極マリナキコトトハ我駐支公使ヲシテ談判ヲ中止シ爾來露國ハ蒙古ニ於テ支那政府ノ要求ヲ度外視シテ其欲スル所ヲナスヘシト声明セシムルニ至レリ而シテ這ノ斷乎タル決心ハ遂ニ昨日發表セラレタル宣言書ノ調印ヲ見ルノ運トナレルモノトス

支那ハ遂ニ蒙古ノ自治權ト之レヨリ生スル總テノ結果トヲ

レル新政ハ偶々蒙古人ニ新シキ苦痛ヲ齎ラシタルノミ彼等ヲ其保護ノ下ニ置キタル効果ハ何等見ルニ足ルモノ無キナリ願フニ露蒙ノ接近ヲ遂ケンニハ蒙古ヲ以テ露國ノ一般關稅法施行ノ範圍内ニ置クヲ必要トナス而シテ這般ノ施設ハ凝滯セル露國ノ商業ヲ活動セシメ蒙古ニ於ケル露國起業者ノ事業經營ヲ容易ナラシメ其發展ヲ速カナラシムルヲ得ヘシ

若シ策ノ茲ニ出テサルニ於テハ條約明文ノ如キハ単ニ結果ナキ官府ノ徒事ニ屬シ完備セル國家の事業ト称スルコトヲ得サル也

今後為スヘキノ事業ハ大藏、商工、交通三省ノ上ニ懸レリ

四四五 十一月二十八日 在中国山座公使ヨリ 牧野外務大臣宛

蒙古ニ關スル露支協約ニ關シ國務院ヨリ各省

宛通電訊文送付ノ件

附屬書 右通電訊文

機密第四〇九号

大正二年十一月廿八日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

(十二月八日接受)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本月五日調印ヲ了シ廿二日双方ニ於テ發表セラレタル露支間蒙古協商成立ノ事情ニ関シ國務院ハ各省ニ對シ本件從來ノ經過、今回協商ノ利害、議定形式ノ不満足ナルコト其他已ムヲ得サルノ事情等ヲ告白シ政府ノ立場ヲ弁護シタル電報ヲ發シタル由ニテ其ノ日附ヲ明ニセサルモ本日一二ノ新聞ニ掲載致居候ニ付為念訳文及御送附候條就テハ御査閱相成候様致度此段報告申進候也

(附屬書)

露支間ノ蒙古協約ニ関スル國務院通電訳文

中露間蒙古ニ関スル交渉ハ前清末年ニ始マリ露國政府ハ中國ニ要求スルニ蒙古ニ殖民駐兵設官セサルノ件ヲ以テ同時ニ庫倫等ノ地方相尋テ獨立セリ民國成立シ南北統一スルニ及ヒ屢々進兵ヲ謀リタレトモ露國ノ阻害ヲ受ケタリ嗣テ露蒙協約調印セラレ訂約ノ各条ハ直チニ中國ノ蒙古ニ對スル從來ノ關係ヲ斷絶セシムルニ至ラシムルモノナルニヨリ即時之ヲ否認スル旨聲明シタリ前外交總長陸徵祥露國公使ト協約取消ノコトヲ開議セシモ先方ハ之ヲ允サス各條款ヲ提出シ苦口磋商セルコト凡ソ二十九次ニ及ヒ始メテ六款ヲ

同境内ニ殖民セサルコトヲ承認セル等露國側統交四條ノ條款ヲ以テ挽回シ得タル点已ニ渺カラサルニ属スルモ今回協商議定ノ形式カ聲明(宣言)文件(文書)ニシテ條約ノ性質ト同シカラサルハ十分ニ満足スルコト能ハサル点ナリトス但シ外蒙獨立シ彼レ既ニ我カ進兵ヲ阻シ庫約成ルヲ告ケテ彼レ更ニ恃ムアリテ恐ル、ナク一年以來蒙匪出沒常ナク辺民騷擾日ニ甚シク若シ速カニ解決セサレハ必ス全局ヲ牽動シ貽害何ソ設想ニ堪ヘン況ンヤ交渉時機稍ヤ縱ニスレハ即チ近キ兩害輕キニ就キテ再誤ヲ致スヲ避ケサル可ラス既ニ外交部ニ於テ十一月五日日本協商ヲ調印交換シ並ヒ二十一日双方ニ於テ之ヲ宣布スルコトヲ約セリ協商ノ條文ハ別ニ之ヲ送附スルコトトシ先ツ此ニ其ノ要旨ヲ電送ス國務院

四四六 十二月五日

在哈爾濱本多總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古問題ノ現状ト其将来ノ趨勢ニ関シ報告ノ

件

機密第五三號

(十二月十一日接受)

大正二年十二月五日

在哈爾濱

一五 露蒙協約關係一件 四四六

議定シ本年六月衆議院ニ交議セルニ遷延七月ニ至リ始メテ之ヲ議決シ參議院ニ移交シタルニ恰モ党争劇烈ナルニ際シ未タ即時ニ解決スルコト能ハサリシ事情アリシカハ露國公使即チ機ニ乘シテ前議ヲ翻ヘシ別ニ條款ヲ提出シ僅カニ中國カ蒙古ノ宗主國タルコトヲ認メ迭次力争シタル領土主權ノ各字面ヲ削除シテ遺スナク繼續商議ノ余地ナキニ至リ陸總長ハ之カ為ニ辭職ノ已ムナキニ至レリ孫寶琦總長ノ後任トナリ始メテ職務ヲ視ルニ際シ蒙匪南犯警報頻リニ來リ殆ト措置ニ窮スルノ状態ニ在リ乃チ一面剿撫兼テ施シ一面露國公使ニ對シ再ヒ前議ヲ提商シ前キニ議定ノ六款及露國公使統交ノ四款ニ就キ折中磋商シ兩回ノ會議ヲ經始メテ漸ク範圍ニ就クニ至リ條件五款並附件四款ヲ議定セリ就中外蒙ヲ中國ノ領土ト為シ中國ハ大員ヲ派シテ庫倫ニ駐紮シ同時ニ專員ヲ派シテ各地ニ分駐セシムルコトトシ及ヒ外蒙ノ政治土地等ニ関スル交渉ハ中國ト露國トノ間ニ之ヲ協商スルコトトシタルハ領土ヲ保持スルハ即チ主權ヲ維持スル為メナルニヨリ而シテ外蒙ノ自治權ヲ承認シタルハ元來前年八月ニ公布シタル蒙古待遇條件第二款ニ許セル所ニ係リ現ニ露國モ亦タ外蒙古ニ軍隊ヲ駐屯セス内政ニ干渉セス並ヒニ

總領事 本多熊太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ別紙ノ通及呈報候間御高閣相仰度此段申進候

敬具

(別紙)

蒙古問題ノ現状ト其ノ将来ノ趨勢

記事要目

- 一、外蒙ニ関スル露支協約ノ結果
- 一、呼倫貝爾ノ現状、露國ノ態度、並ニ帝國ノ利害
- 一、内蒙ニ関スル露國政府ノ態度
- 一、蒙古問題發展ノ三大動力
- (一)蒙古人ノ思潮
- 民族思想ノ發動○庫倫政府ノ全蒙統一理想
- (二)露國辺境官吏ノ態度
- 蒙古ノ變局ト露國辺境官吏ノ關係
- 外蒙経略ニ関スル露國軍人派ノ勢力
- 日露勢域分割ノ結果ト露國軍人ノ感情
- 内蒙ニ對スル庫倫政府ノ活動ト露國側ノ關係
- (三)支那政府ノ對蒙方針

○内蒙保全ニ関スル支那政府ノ焦慮

○右ニ基ク同政府ノ施設ト其結果ノ予想

一、結論

蒙古問題ノ現状ト其ノ将来ノ趨勢

(本報告ノ要旨ハ主トシテ日露勢圏ノ接触点タル蒙古地域ニ於ケル露国現在ノ地歩ヲ明ニシ其帝國ノ利害ニ対スル影響ヲ研査スルニアリ而シテ右露国ノ地位ニシテ外蒙ニ於ケルモノハ露支協約ニ明ナルヲ以テ特ニ贅述ヲ省ケリ)

今回北京ニ於テ調印セラレタル露支協約ノ結果外蒙古ノ地ハ支那政府ノ明認ヲ以テ全然露国ノ保護領ニ帰セリ然レトモ我勢力範圍ニ接邇セル支那北境ノ要地ニシテ外蒙古ト同様ノ状態ニアルモノ別ニ呼倫貝爾アルヲ忘ルヘカラス呼倫貝爾ハ露人ノ所謂巴爾喀ニシテ其疆域ハ黑竜江省西部ヲ縦貫セル興安嶺山脈ニ起リ西方露国境上ニ達シ広袤実ニ全省面積ノ三分一ヲ占メ其東南端ハ洮児河上游ニ於テ直ニ我勢力圏ト接触ス

呼倫貝爾蒙古人ハ客年一月露人援護ノ下ニ地方官憲ヲ境外ニ放逐シテ海拉爾ニ独立政府ヲ樹立シ幾モナク庫倫政府ト

協商シテ之ニ隸屬ノ關係ヲ結ビ爾來確実ニ活仏ヲ元首トスル所謂蒙古国ノ一聯邦ヲ形成シツツアリ今ヤ該地方ニ於ケル支那ノ国権ハ纔カニ滿洲里歐露国鉄道付屬地内ニ残存スル税関ニ其片影ヲ留ムルノミ興安嶺以西ノ地現ニ一人ノ兵丁スラ之アルナク地方居住ノ支那人ハ全然蒙古人ノ政令ニ服從シツツアリ是本官カ面タリ実見セル事實ナリトス

呼倫貝爾ノ独立ハ元哈爾賓駐在護境軍団長「マルトイノフ」中将一個ノ劃策ニ成リ何等露国政府ノ発意ニ基クモノニアラサリシモ爾來時勢ノ推移ト共ニ露国政府ノ意思モ漸次定形ヲ呈シ来リ支那ノ同地方回復ヲ許容セサルコト丈ハ事實上既定ノ廟議トナレリ唯夫レ該地方ハ從來行政上黑竜江省ノ一部ヲ構成シ且ツ滿洲ニ関スル日清協約ニ依リテ外国人ノ居住貿易ニ開放セラレタル海拉爾滿洲里ノ二地ヲ含有スル等國際上ノ關係ニ於テ外蒙古方面トハ遙ニ事情ヲ異ニスル上ニ下文ニ説クカ如ク露国ハ帝國ノ勢圏ト直接接触セル方面ニ於テ早計ノ措置ヲ採ルヲ避ケントスルノ情アルヲ以テ今猶該地方ニ対スル自家ノ真意ヲ表示スルヲ不利トシ曖昧ノ間ニ現下ノ状態持續ヲ図リツ、アル次第ナルモ同時ニ支那ノ同地方討伐ニハ断然反對ヲ言明スルヲ憚ラス既ニ今

割切ニ我利益線ニ接触セル要地アルノ事實ヲ明ニセントスルノ意ニ外ナラス而シテ呼倫貝爾ノ現状ノ我利害ニ対スル影響ニ関シ本官ノ管見ヲ略述セハ凡ソ左ノ如クナリトス

一、海拉爾及滿洲里ニ於ケル露国鉄道付屬地外ニ在ル帝國

臣民ハ(本官ノ知ル所ニテハ現在ノトコロ滿洲里居留民ハ全部付屬地内ニアリ海拉爾居留民ノ大部分ハ付屬地外ノ土人街ニアリ)事実ニ

於テ纔カニ蒙古政庁ノ忍容ニ依リ居住營業ヲ続ケ居ル次

第二シテ(鉄道付屬地内ニ於ケル帝國臣民ノ地位ハ「ポーツマス」講和會議ニ載有セル西國全權ノ聲明ニ依リテ保障セラレ、モノナリ)日

清条約ノ保障セル帝國臣民ノ權利ト我商業ノ利益ハ全然

保護ノ途ナキ現状ニアリ

二、呼倫貝爾現下ノ事態ハ事實上黑竜江省三分一ノ地域ニ

露国ノ保護權ヲ設定セルト異ナラス此意味ニ於テ滿洲現

狀ノ毀損ナリト謂フヘシ

三、呼倫貝爾ニ於ケル露国ノ現地位ハ主トシテ外蒙防護ノ

軍略的必要ニ起見セルモノナル処而モ地勢上利刃ノ如ク

我勢圏ニ突接セル該地方ニ於テ露国力強固ナル軍事上ノ

根拠ヲ占有スルノ一事ハ軍事上彼我ノ均勢ニ影響スル所

大ナルヘキヲ疑ハス

呼倫貝爾以外興安嶺以東ノ蒙古地域ニ於テハ露国ノ勢圏

(哲里木盟中札賚特、杜爾伯特、鄂爾羅斯後旗、蘇鄂公旗ノ各部並ニ札薩克國旗ノ一部ヲ含ム)ハ洮児河ヲ界トシ我勢城

ト接触シ居ル処本官ノ見聞ニ依ルニ露国ハ今日マテノトコ  
 口該方面ニ於テハ全然無為政策ヲ守リ何等積極ノ施設ヲ  
 ナスノ意ナキコト大体疑ナキニ似タリ現ニ昨秋烏泰王ノ反  
 乱ニ際シ當時ノ護境軍団長「マルトイノフ」中將カ洮兒河  
 北岸ニ若干ノ軍隊ヲ派遣シ同王ニ声援ノ拳ニ出テタルニ露  
 国政府ハ直ニ同中將ニ嚴諭シテ右軍隊ヲ引揚ケシメ同時ニ  
 当方面露国官憲ニ対シ内蒙古ノ事態ニハ絶対ニ干渉スヘカ  
 ラサル旨内訓シ来リタルノ事実ニ徴スルモ露国政府意向ノ  
 一端ヲ見ルヘクト信ス蓋シ外蒙古ノ料理ニ忙殺セラレ居ル  
 ノ一方ニ於テ更ニ内蒙古ニ猿臂ヲ伸シ難キノ事情モ幾分  
 アルヘント雖モ本官ノ見ル所ニ依レハ露国中央政府ノ当局  
 ハ我勢域ニ接壤セル内蒙古ノ地域ニ於テ何等特種ノ動機又  
 ハ挑発ナクシテ露国先ツ自ラ進取的ノ施設ヲ為スハ我方ト  
 ノ間ニ誤解ヲ誘致スルノ虞アルノミナラス偶以テ南蒙ニ於  
 ケル帝國ノ活動ヲ激成シ却テ該地域ニ於ケル露国ノ地位ヲ  
 不利ナラシムヘント思料スルニ由ルコト實際ノ真相ナリト  
 愚考ス右露国政府ノ態度ハ興安嶺以西ノ内蒙古地方ニ対シ  
 テモ大体同様ニ有之要スルニ露国政府ハ我勢力範圍ト接壤  
 スル内蒙古ノ地域ニ於テハ概シテ無為ノ政策ヲ把持シ以テ  
 モスレハ民族統一ノ理想トナラントシ其勢力漸次内蒙ニ波  
 及浸潤ノ兆アルハ最モ注意スヘキ現象ナリトス夫ノ全蒙民  
 族渴仰ノ中心タル活仏ノ權下ニ内外蒙古ヲ包括セル一大蒙  
 古国ノ建設ハ実ニ庫倫政府ノ主腦タル蒙人有力者ノ抱負タ  
 ルモノノ如ク昨秋露蒙協約締結ノ當時蒙古側ハ固ク露国保  
 護地域ノ局限ニ反對シ結局露国全權ノ主張ニ曲從シタルモ  
 之カ為メ庫倫ニ於ケル露蒙当局間ノ感情一時融和ヲ欠キタ  
 リトノ消息ニ鑑ミ又本年二月本邦訪問ノ目的ヲ以テ庫倫ヲ  
 出立シ本官ノ勸諭ニ依リ海拉爾ヨリ引還シタル庫倫政府内  
 務大臣達喇嘛ノ使命モ内外蒙古ヲ一団トセル全蒙帝國組織  
 ノ場合ニ内蒙古東南部ニ於ケル帝國トノ關係ニ付予メ我政  
 府ト協商セントノ考ナリシコト今ニ於テ略ホ疑ナキノ事實  
 ニ徴スルモ亦以テ彼等カ思潮ノ一斑ヲ見ルニ足ル蓋シ外蒙  
 現下ノ事態ハ局外者ノ常識觀ヨリスレハ畢竟該地域ヲ挙ケ  
 テ露国ニ併吞セラルルノ第一歩ニ外ナラスト雖モ幼稚ナル  
 蒙古人ノ考ニテハ思フニ成吉思汗以來ノ壯圖トシテ露国出  
 先官吏ノ煽弄ト相俟テ益々抱負ノ大ヲ加ヘ居ルコトナルヘ  
 ク現下南方蒙支境上ニ行ハレツ、アル蒙古軍隊ノ活動ノ如  
 キ乃チ此抱負ノ発現ニ外ナラサルヘク要スルニ全蒙統一理

何等誤解ノ發生ヲ免ルルヲ期シツツアルコト今日マテノ觀  
 測ニ照シ本官ノ疑ハサル所ナリト雖モ之ト同時ニ該方面ニ  
 於ケル事態發展ノ趨勢ト其ノ帝國利益圈ニ牽涉シ又ハ牽涉  
 スルコトアルヘキ影響ニ至テハ露国中央政府ノ方針以外更  
 ニ他ノ各種ノ事情ニ照シ査究スル所ナカルヘカラス本官管  
 見ノ届ク限りニテハ(一)蒙古人ノ思潮(二)露国辺境官吏ノ態度  
 (三)支那政府ノ对蒙方針ノ三者ハ就中其重ナル事項ナリト認  
 ム

一、蒙古人間ノ思潮

蒙古現在ノ変局ハ端ヲ庫倫獨立ニ発シ而シテ庫倫獨立ノ事  
 情ハ素ヨリ一ニシテ足ラスト雖モ其ノ根本ノ動機ハ民族思  
 想ノ発動ニ外ナラス前清末葉ノ政府カ祖宗ノ遺法タル蒙古  
 内治不干渉ノ主義ヲ一變シ急進的統治策ノ励行ニ着手スル  
 ヤ既ニ生存競争上漢族ノ圧迫ニヨリ促進サレツ、アリタル  
 蒙古民族ノ自覚ハ頓ニ激興シ来レル折柄革命動乱ノ勃発ハ  
 予テ敏上ノ趨勢ニ一種ノ注意ヲ払ヒ居リタル露国側ヲシテ  
 端ナク積薪ノ上ニ炬火ヲ投スルノ機会ヲ得セシメ庫倫ノ獨  
 立宣言先ツ行ハレ延テ湖北燎原ノ大火トナリタル次第ニ有  
 之而モ前述蒙民ノ自覚ハ庫倫獨立ノ成功ニ依リ一転シテ動

想ハ内蒙ニ対スル庫倫側勢力展及ノ一大動力トシテ苟モ蒙  
 古ノ事態ニ注意スルモノ、頗ル重視スヘキ事項ナリト思考  
 ス

二、露国辺境官吏ノ態度

露西亜帝國ノ膨張カ辺境駐在官吏ノ功名心ニ基ク自発的動  
 作ニ負フ所多キハ古來史実ノ証明スル所ナルカ蒙古方面現  
 下ノ事態モ其多クハ出先官吏ノ任意行動ノ結果ニシテ必シ  
 モ露国政府ノ予定行動ニアラサルコトハ庫倫及呼倫貝爾獨  
 立當時ノ事情ハ勿論其後ニ於ケル露国政府ノ行動ニ徴シ揣  
 摩ニ難カラス(露国外相「サザノフ」氏カ昨年議會ニ於ケル外交演說中獨立國家  
 ノ意味ヲ述ヘタルニモ拘ハラズ其ノ舌根未だ乾カサル數月ノ後於テ露国政府カ全權使  
 臣ヲ庫倫ニ派シテ蒙古獨立支持ノ條約ヲ締結セシメ而シテ當時右支持ノ範圍ヲ所謂喀爾喀  
 四盟ノ地域ニ局限セシメテ固持シナカラ其後支那トノ談判ニ於テハ右ノ範圍ヲ科布  
 多烏里雅蘇台方面ニマテ擴張シ遂ニ之ヲ貫徹シタルカ如ク露国政府ノ意見カ出先官憲  
 ノ活動ノ發展ト共ニ逐次進)要スルニ蒙古方面ニ於ケル事態ノ發展  
 ニ関シテハ露国辺境官吏ノ態度ト趨向ハ其ノ重ナル動力ノ  
 一ニ居ルコト争フヘカラサルノ事實ニ属スル処本官ガ注視  
 ヲ以テスルニ外蒙古ニ於ケル露国経略ノ主動力ハ「イルク  
 ック」ニ於ケル露国軍憲ト其ノ系統ニ属スル軍人連ナルモ  
 ノノ如ク(露国内規ニ依レハ「イルクツク」以東ニ駐屯スル露国各軍隊ハ北滿駐  
 1ウネル」大將ト指稱ニ属スト云フ該大將ヲ武斷的侵略主義者タルトハ前任北滿護  
 境軍団長「ウルツィノフ」中將ノ親友且ツ保護者トシテ知ラレ同中將失脚ノ當時頗ル之



カ盛盛ニ屬心シタルノ形迹ニ(露国武官中有數ノ蒙古通トシテ名アル  
 微シ略ホ疑ナキ所ナリトス)露国武官中有數ノ蒙古通トシテ名アル  
 恰克圖駐在国境事務官「ヒードロヴォ」大佐ノ如キハ其重  
 ナル立役者タリ是等ノ軍人派ハ概シテ露国中央政府ノ外交  
 当局ト其ノ政見ノ趨向ヲ異ニスルモノナル上ニ下ニ述フル  
 カ如キ特種ノ事情ニモ鑑ミ今後トモ彼等ノ活動カ露支協約  
 所定ノ地域内ニ局限セラルヘシトハ期待スルヲ得ス右特種  
 ノ事情トハ即チ日露勢域ノ分割ニ関スル彼等ノ不滿ニ外ナ  
 ラス極東駐在露国軍人カ概シテ兩國勢域ノ分配ニ不滿ノ感  
 ヲ有セルコトハ本官カ当方面ニ於ケル露国軍人トノ接触ニ  
 ヨリ印象セラレタル所ニシテ現ニ当地護境軍團ノ參謀ニシ  
 テ本官ト多少ノ交際アル一士官ノ如キ或機會ニ於テ私談ノ  
 際本官ニ對シ「ポーツマス」講和談判當時昌圖以北ハ日本  
 軍ノ占領ニ屬シ居ラサリシニモ拘ハラズ「ウィッテ」氏カ  
 長春マテノ鉄道線路ノ讓渡ヲ承諾シタルハ何等理由ナキ不  
 當ノ讓歩ナリトノ論旨ヲ明言シタルコトアリ尚ホ本官ノ印  
 象ニ依レハ日露勢域分割ノ内容ハ露国政府ニ於テ当方面官  
 憲ニハ内示シ居ラサルモノ、如クナルモ(東清鐵道長官「ホルワッ  
 フツォフ」首相ト對シ日露勢域ノ分割線ニ付質問シタルモ明答ヲ得ザリト云ヘリ)我勢圏カ滿洲西方ニ於テハ長  
 春以北洮兒河ノ流域ニ及ヒ其ノ以南ノ蒙古地域ヲ包括シ居

ルコト丈(内蒙古西方ニ於ケル兩國勢域ノ分割線)彼等モ略ホ推知シ  
 居レリ然ルニ該方面蒙古ノ各旗ハ日露戰役前ヨリ露国カ種  
 ヲ勢力扶殖ノ画策ヲ施シタル所ニ係リ滿蒙方面ニ於テハ今  
 猶當時ノ画策ニ參画セル軍人ノ駐屯スルモノ少カラサル上  
 ニ日露講和条約所定ノ鐵道区分ニ對シテスラ遺憾ノ情ナキ  
 能ハサル彼等ノ所見ヲ以テスレハ露国ハ帝国外交ノ致ス所  
 トナリ空シク帝國ニ付与スルニ当年慘憺ノ經營ヲ傾注セル  
 内蒙古ノ地域ヲ以テセルモノニ有之此ノ外交失敗ノ結果ニ  
 對シ成シ得ル限リ補救ノ策ヲ講センコトハ彼等カ自然ノ慾  
 望ト看ルヘク此ノ見地ヨリスルニ於テ前段所述ノ全蒙統一  
 ニ関スル庫倫政府ノ抱負ハ恰モ彼等ニ取リテノ一利器ニ外  
 ナラス從テ内蒙方面ニ對スル外蒙軍ノ活動ノ如キ其ノ実職  
 トシテ露国軍人ノ操縦ニ由ルモノ多キハ蓋シ揣摩ニ難カラ  
 サル所ナリト信ス右蒙古軍隊ノ活動ハ現在ノ処專ラ内蒙古  
 南方露支境上ニ於テセラレツ、アルモノノ如シト雖モ追テ  
 ハ我勢圏タル東南蒙古方面ニ波及シ来ルコトアルヘク況ン  
 ヤ「最近ニ至ルマテ帝國ハ其勢域タル東南蒙古ノ地域ニ於  
 テ何等施設スル所ナク而モ日本ニ對スル該方面蒙古人ノ感  
 情ハ頗ル不良ナリ」トハ当方面露国当局カ探査ノ結果ナル

ト思ハル

三、支那政府ノ對蒙方針

ニ於テ庫倫政府ノ行動ヲ標榜ヲ以テスル東南蒙古ニ對ス  
 ル露国勢力ノ圧迫ハ益々滋長スルコトアルヘシト觀測スル  
 方我方トシテハ安全ノ見地ナルヘシト思考ス此点ニ関聯シ  
 茲ニ付説ヲ要スルハ左ノ一事ナリトス即チ昨秋ニ於ケル烏  
 泰王ノ挙兵ハ全ク露国軍人ノ煽動ニ出テタルモノナルモ露  
 国中央政府カ日本トノ關係ヲ顧重シ(烏泰王ノ領土ハ洮兒河南北岸  
 日露双方ノ勢域ニ跨リ居レリ)  
 右官憲ノ行動ヲ牽制シタル結果烏泰王ハ一敗地ニ塗レ遂ニ  
 身ヲ庫倫ニ寄スルニ至リタル次第ナルカ同王ノ挙兵ニ關係  
 アル露国軍人等ニ於テハ自家ノ面目ヨリ云フモ將タ露国ノ  
 威信ニ関スル彼等ノ觀念ヨリスルモ何等カノ機會ヲ以テ同  
 王ノ為メ支那ニ報仇セントノ情ナキヲ得ス現ニ「マルトイ  
 ノフ」中將ノ如キ曾テ本官ニ對シ「予ハ期望シ且ツ信ス烏  
 泰王ハ結局其領土ヲ回復スルノ機會アルヘキコトヲ」トノ  
 言ヲ為シタルコトアリ同中將ハ其後「コフツォフ」首相  
 ト衝突ノ結果閑散ノ地ニ就ケリト雖モ中將ノ同志タル「イ  
 ルクツク」及庫倫方面ノ軍人等ハ今猶庫倫ニ於テ烏泰王ヲ  
 保護シツ、アリ本官ノ所感ヲ以テスルニ洮兒河流域日露接  
 触点ニ於ケル靜謐維持ノ見地ヨリスレハ烏泰王ハ確ニ一個  
 ノ危険分子タルヲ失ハス其動靜ハ我ノ留意ヲ要スル所ナリ

蒙古ノ現勢ヲ約言スレバ興安嶺以西戈壁沙漠以北外蒙古一  
 帶ノ地ハ露国ノ権域ニ入り内蒙ニ於テハ我勢力範圍ニ屬ス  
 ル東南蒙古ノ一部ヲ除キ概シテ外蒙軍隊ノ侵入ヲ被リ支那  
 政府ハ之カ防守ニ汲々タルノ有様ニアリ思フニ此際支那政  
 府ノ執リツ、アル對蒙方針ハ(一)外蒙侵入軍ニ對スル当面ノ  
 作戰ニ全力ヲ傾注スルト同時ニ(二)東南蒙古ニ對シテハ益々  
 軍事上行政上ノ施設ヲ進メ以テ該地方ノ保持ニ努ムルノ二  
 端ニ出テサルヘシト雖モ右ノ中第一点ニ関シテハ支蒙境上  
 ノ戰況ハ支那ニ利アラズ蒙古軍隊ノ活動ハ既ニ東南蒙古ノ  
 境上ニ及ハントスルノ状アルヲ以テ支那政府ノ神經ハ今ヤ  
 益々第二点ニ集中セラレ居ルヘク從テ該方面防備ノ整頓ト  
 政權ノ拡充ニ関スル支那ノ努力ハ此ノ上トモ益々其歩武ヲ  
 進ムヘク支那ノ立場トシテハ蓋シ当然ノ必要ニ屬スヘキヲ  
 疑ハサルモ抑モ蒙古現下ノ變局ハ日露戰役後支那政府カ銳  
 意勵行セル辺疆政策ニ對スル蒙古人ノ反感ノカ根本ノ動機  
 タルニ於テ(該政策ノ運用ハ(一)漢民ノ移殖(二)軍隊ノ駐屯(三)行政ノ推展(四)邊境ノ  
 テサル外漢民ノ移住ハ蒙民生計ノ厄迫トナリ不規律ナル支那軍ノ駐  
 屯ハ蒙民ノ虐待トナリ行政ノ推展ハ蒙古王族ノ自負心ト財源ヲ害スルノ外更ニ蒙民ニ對  
 スル諷刺奇效トナリトシテ蒙民ノ離反ヲ促進スル所以トアラサルハナン夫ノ烏泰王ヲ

照主トスル哲里木ノ蒙人カ支那革命前既ニ早ク或ハ露人援護ニ依リ或ハ庫倫側ト聯絡ニ依リ支那ノ輿論脫却ニ應心セルカ如キ全ク同方向ニ露地ニ助行ヲラケタル移民突迎政策ノ反動ヲ経タル所アリ) 東南蒙古ニ對スル支那政府ノ施設ハ歩一步地方蒙民ノ動乱ト庫倫側勢力ノ展及ヲ誘致シ全ク支那政府ノ予期ト反セル局面糜乱ノ惨果ヲ導クニ至ルヘキノ虞頗ル少カラストス

之ヲ総フルニ内蒙古ニ對スル露国政府ノ方針ハ平和ト現状維持ヲ旨トスルニアルコト前ニ既ニ述ヘタル如クナルモ現場ニ於ケル事態ノ發展ヲ支配スヘキ動力トシテハ露国政府ノ方針以外前米列強セルカ如キ各種ノ事情ノ存スルアリ右等ノ事情ニ照シテ時局ノ前途ヲ推想スルニ庫倫側ノ勢力ハ此上共益々内蒙一帯ニ展及シ来ルヘキコト略ホ疑ナキノ趨勢ニ有之(呼倫貝爾現下ノ状態ハ已ニ其ノ我勢圍ニ属スル東南蒙古ノ地域モ早晚其渦中ニ捲込マルルノ虞頗ル少ナシトセス況ンヤ庫倫政府ノ元首タル活仏ハ蒙民一般帰依ノ中心トシテ其内蒙民族ニ對スル勢力ハ外蒙ニ於ケルト毫モ軒輊スル所ナキオヤ事茲ニ至ラハ帝国ノ利益ニ関スル所頗ル大ナルモノアルハ勿論第一日露兩國間紛糾ノ端タルヲ免レス(庫倫側ノ勢局發展ノ勢カハ終ニ露國ノ利益ニ關スル所ニ至ルヘキコトハ勿論第一日露兩國間紛糾ノ端タルヲ免レス(力展及ハ終ニ露國ノ利益ニ關スル所ニ至ルヘキコトハ勿論第一日露兩國間紛糾ノ端タルヲ免レス)

於テ此際深大ノ注意ト研究ヲ要スル重要問題ナリト確信ス客春本官ノ任ヲ此地ニ奉シ京地ヲ辞セントスルヤ當時ノ外相内田子爵ハ本官ニ内論スルニ滿蒙方面日露勢力接触点ニ於ケル事態ノ發展ト露国側ノ情偽ニ對シテハ特ニ不斷ノ注視ト研究ヲ努ムヘキ旨ヲ以テセラレタリ今ヤ露支協約ノ成立ヲ機トシ着任以來一年有半ニ於ケル潛心査究ノ結果ニ就キ其ノ梗概ヲ敘シ謹テ瀏覽ヲ邀フ幸ニ何等御参考ノ一端トナルヲ得ハ光榮之ニ過キス若夫本篇ニ引抄セル事実ノ重ナルモノニ関シテハ既往隨時ノ報告ニ就キ其ノ詳ヲ悉サレンコトヲ盼望ス 敬具

四四七 十二月十一日

在齊々哈爾吉原領事館事務代理ヨリ 牧野外務大臣宛

呼倫貝爾管内ニ於テ露国人ガ蒙古側ヨリ獲得

セル利権ノ効力ニ関スル件

機密第二九号

(十二月廿二日接受)

大正二年十二月十一日

在齊々哈爾

領事館事務代理

吉原 大 蔵(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

右為御参考及報告候 敬具

本信写送附先

左支公使、奉天總領事、哈爾濱總領事、関東都督

四四八 十二月十二日

在哈爾濱本多總領事ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

露都訪問中ノ庫倫政府使節ノ使命ニ関スル情

報報告ノ件

第七〇号

露国側官辺ノ消息ヲ綜合スルニ目下露都訪問中ナル庫倫政府使節ノ重ナル使命ハ露支協約ノ結果トシテ将来設定セラレヘキ蒙支關係ノ基礎ニ関シ露国政府ニ相談ノタメニシテ追テ該協商言明ノ所定會議ニ附セラルベキ蒙古自主国境域ニ関シ此ノ際庫倫側ノ希望ニ對シ露国ノ援助ヲ取附ケ置クノ一事ハ就中其ノ尤モ重ヲ措ク所ナルモノノ如ク而シテ庫倫側ノ希望ハ尠クモ東ニ於ケル呼倫貝爾西ニ於ケル科布多全部及烏梁海ヲ蒙古自主国ノ版図ニ包括スルニ在リ同時ニ東南蒙古ニ對スル關係ニ付テモ使節ヨリ露国政府ノ助言ヲ仰クベシトハ消息通ノ觀測ナリ右時節柄情報ノ一端トシテ報告ス

本月十日当地露国領事「アフアナシエフ」ト会見ノ際同領事ハ呼倫貝爾カ露支協約範圍内ニアラサルヲ以テ早晚支那側ノ管轄ニ歸スヘク然ル上ハ該地独立中ニ露国人カ蒙古側ヨリ獲得シタル金鉱採掘權、漁業權、森林採伐權等ハ支那側ニ於テ容易ニ承認セサルヘク尤モ昨年該地独立ノ際支那官憲ハ該地ニ於ケル支那ノ主權ニ關係シ又ハ公産ノ処分ニ関シ蒙古人ト外國人トノ間ニ訂結シタル契約ハ無効ト認ムル旨照会シ来リタルコトアルヲ以テ(明治四十五年四月二日附公信第三二二号参照)爾來該地ニ於ケル露蒙人間ノ契約ハ同領事ニ於テ公認ハ為シ居ラサリシガ最近在北京露国公使ヨリ該地ニ於ケル自国人ノ權利ハ保護スヘキ旨訓電ニ接シ如何ニ処置スヘキヤニ関シ甚タ難渋シ居レリ尤モ該地獨立中露蒙人間ノ契約ニ関シ縱令支那側ノ承認ヲ得ントスルモ該地ニ支那官憲ナカリシヲ如何セン結局支那側ニ該契約全部ヲ承認セシムルカ又ハ賠償セシムルノ外無カルベシト語レリ

同領事ハ本月十一日当地出發、海拉爾ニ赴ケリ多分右記談話事項ニ関シ該地露国副領事及海拉爾政庁總管勝福等ト商議ノ用向ナルヘシト察セラル

北京へ転電ス

四四九 十二月十五日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

露都滞在中ノ蒙古使節ヲ露国政府ニ提出セル

要望ニ関スル新聞報道報告ノ件

第三〇九号

目下当地滞在中ノ蒙古使節 三音諾顏汗 Sainnoinkhan ハ当国外国貿易  
商業會議所長 Denisoff 氏晚餐会ノ席上ニテ露国政府ノ勢  
力カ内蒙古ニモ及ハン事ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ尚ホ同使  
節カ露国政府ニ提出セル案トシテ Novoe Yermia ハ次ノ  
如ク報道セル処前記晚餐会ニ於テ右商業會議所会員ハ該提  
案カ速カニ実行セラレン事ヲ希望スル旨声明シタリ

提案要領

- 一 露国政府ハ蒙古カ募集ノ必要ニ迫リ居ル五百万留ノ新公債ヲ引受クルコト
- 二 蒙古ニ兵器ヲ供給スルコト
- 三 多数ノ露国士官ヲ傭聘スルコト
- 右ニ対スル露国政府ノ意向トシテ(一)ニ対シテハ担保ノ事ニ付キ考案中ナルコト(二)ハ陸軍大臣ト協議ヲ要スルコト(三)ハ

直チニ承諾セラルヘシト当地新聞ハ報道セリ

四五〇 十二月十五日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露都訪問ノ蒙古使節ノ露国官民トノ交渉及交

驩ニ付報告ノ件

公第二〇四号

(大正三年一月七日接受)

大正二年十二月十五日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

庫倫政府ノ総理大臣三音諾顏汗及司法大臣烏泰王ヲ主トスル蒙古使節ノ一行ニ拾九名ハ十一月十七日彼得堡ニ到着露国宮内省ノ指定旅館「グランド、ホテル」ニ滞留中ノ処首相相其他蒙古ノ政治上經濟上密接ナル關係ヲ有スル重ナル官憲ヲ訪問シ同月廿五日外務省極東課長カザコフ氏附添ヒ「リワヂヤ」ノ離宮ニ赴キ露皇ニ謁見蒙古ノ古器物等ヲ捧呈シ露皇ヨリハ三音汗以下ニ夫々敍勲ノ沙汰有之十二月二日再ヒ当地ニ帰着致候  
同使節ノ使命ニ就テハ外務当局者ト面会ノ序ヲ以テ夫レト

ナク問訊ミタル次第モ有之候処当局者ハ秘シテ多クヲ語ルヲ欲セズ然ルニ最近都下各新聞紙ニ現ハレタル其筋ヨリ漏レタルラシキ情報ニ拠レハ同使節ハ「リワヂヤ」ヘ向ケ出発前外相ザゾーノフ氏ニ一ノ覚書ヲ交附シタル趣ニテ其覚書ニハ(一)蒙古政府ニ必要ナル資金トシテ五百万留借款申込ノ件(二)蒙古軍隊ニ対シ兵器ノ供給並ニ軍隊教官増派ノ件(三)露蒙ノ貿易關係發展ノ為露国主務省ニ於テ相当幫助供与ノ件等記載シアルヤニ有之候而シテ之ニ対シ外務省側ニテハ前記三件ノ中借款締結ノコトハ之ヲ承諾シ目下其担保ニ就キ研究中ノ由ナルモ兵器ノ供給教官増派ノコトハ直接陸軍當局ニ關係ヲ有スル義ナレハ外務省ヨリ陸相ニ交渉スルコト、ナシ最後ノ案件タル露蒙貿易發展ノ事ハ露国商工省ノ所見トモ全然合致スルニ付本件ニ関シテハ同省ヨリ出来得ル丈ケ蒙古人ニ便宜ヲ供与スルコト、決定シアル旨回答シタル趣ニ有之候  
使節ノ当地滞在中実業界ノ視察等ニ関シ特ニ民間側ニテ斡旋ノ勞ヲ執リタルハ露国輸出貿易會議所ニシテ新聞ノ所報ニ拠レハ本月十四日同會議所長上院議員デニソフ氏ハ同會議所ニ於テ使節一行ノ名誉表彰ノ為ニ特ニ臨時大会並ニ宴

会ヲ開キ上院議員エルモーロフ氏(前農務大臣)、トボリスク及エニセイ両県選出下院議員、蒙古方面ノ探検ヲ以テ有名ナル「カズロフ」大佐、内務、交通、商工各省代表者其他之ニ参会シタル趣ニ有之候同會議ニ於テハデニソフ氏同會議所ノ名ヲ以テ使節驪迎ノ辞ヲ述ヘ露蒙通商關係ノ發展カ兩國ニ取り極メテ重要ナル意義ヲ有スルコトヲ指摘シ之ニ対シ三音汗及烏泰王ノ挨拶アリシガ其ノ内ニハ何レモ露国ノ勢力範圍カ内蒙古ニモ及ハンコトヲ希望スル旨ノ意味アリシ由ニ候尚同會議場ニ於テ露国ノ蒙古郵便電信事業經營ニ関シ郵電本部長ハ庫倫恰克圖間ニ郵便自動車運轉ニ関スル条約ノ締結セラレシコト同郵便車ハ一週三回往復スルコト、郵便物ノ料金ハ露国内地ノ規定ニ準スルコト又露国ノ電信線ハ「カシュ、アガチュ」ヨリ科布多マテ架設中ニ在ルコト同電信線ハ三拾年後蒙古政府ニ於テ買収シ得ルコト等ヲ述ヘ更ニ露国カ将来蒙古ニ於テ冒險的ニ郵便事務ヲ擴張スヘキカ或ハ同業務ニ蒙古人ヲモ参与セシムヘキカノ問題ニ就テハ目下ノトコロ其方針確定セストノ意味ヲ附加シ交通省代表者ハ外蒙古ノ水路ハ全部踏査ヲ了ヘ水路図ノ調製セラレタルコト「チユイスキー」街道ノ実測ニ従事ス

ヘキコト恰克図鉄道工事カ近キ将来ニ於テ着手セラルヘキコトヲ述ヘ獸医本部長ハ内務省カ蒙古畜産ノ露国輸入ヲ安全ナラシムル方法トシテ蒙古派遣ノ獸医団ヲ擴張スヘク且蒙古政府ニ対シ畜疫予防法ノ勵行ヲ勸告スルコトニ決シアリト述ヘ候処蒙古使節ハ露国当局ニ於テ庫倫、烏里雅蘇台、科布多及巴爾噶(海拉爾)ニ獸医駐在所ヲ設置シ同駐在員ヲシテ傍ラ蒙古人ニ獸医術ヲ伝習セシムルノ方法ヲ執ラレタキコト庫倫ニ於テ露国獸疫試験所ヲ設置シ防疫施設ニ從事セシメタキコト等ノ希望ヲ述ヘ更ニ内外蒙古統一ノ希望ヲ繰返ヘシ若シ目下ノ事情政治上ニ之ヲ望ムコト能ハストセハ少クトモ經濟上ニハ合同セラレザルヘカラスト述ヘ候依テ同會議所ハ蒙古代表者ノ希望ハ夫々實現セラルヘキ様尽力スヘントノ決議ヲナシ之ニテ會議ヲ了ハリ更ニ宴会ニ移リ露蒙親近ニ関スル數番ノ卓上演説アリテ散会シタル趣ニ有之候

尚使節一行ノ滞在ハ今後一週間ヲ出テサルヘク途次莫斯科ニ立寄り重ナル商工業家ト意見ヲ交換シ帰蒙ノ途ニ就ク予定ナリトノコトニ有之候

右ハ本日發拙電第三〇九号ノ説明旁々御參考迄及報告候

敬具

四五一 十二月十六日 福田関東都督府陸軍參謀長ヨリ

松井外務次官宛

露支間ノ蒙古協約成立方呼倫貝爾ニ及ボス影

響ニ関スル件

附屬書 呼倫貝爾問題調書

閣都參謀第二一五号 (十二月二十一日接受)

大正二年十二月十六日

関東都督府陸軍參謀長 福田雅太郎(印)

外務次官 松井慶四郎殿

別冊呼倫貝爾問題及進達候也

(附屬書)

秘

呼倫貝爾問題調書

露支協約ニ依リ滿蒙方面ニ於テ吾人ノ特ニ注意ヲ喚起スルヲ要スルモノハ呼倫貝爾問題ナリトス而シテ呼倫貝爾ハ未タ多ク世人ノ研鑽ヲ經サル地方ニ属スルヲ以テ先ツ之カ地理及經濟ノ一般ノ狀況ヲ敍スルコトハ本問題ノ研究上強チ無要ニ非サルヘシ

呼倫貝爾ハ又巴爾虎ト称ス黑龍江省ノ一部ニシテ興安嶺以西露領西伯利ニ接スル地域ヲ占ム露国「バラノフ」中佐ノ調査ニ拠レハ其面積約十五万平方露里(即チ我ニ一万一千二百餘方里)索倫、額魯特、「チプチン」、「ブリヤート」、「オロチオン」、「ダウール」等ノ諸種族ヨリ成リ其人口總數約三万二千五百名(内チプチン族半數)ニシテ一平方露里ノ人口密度ハ僅ニ〇、二二人ノ割合ニ過キス住民中「ブリヤート」及額魯特ノ兩族ハ喇嘛教ヲ奉シ索倫、「チプチン」族ハ「シヤマン」教ヲ奉ス生業ハ大半牧畜ニシテ唯「オロチオン」ノ全部及索倫族ノ一部ハ狩獵ヲ業トス

呼倫貝爾ノ全地域ハ殆ト耕作セラレスト云フモ大過ナシ然レトモ此地方カ黑龍江省ノ他地方ト地味ニ於テ大ナル遜色ナキハ疑ナキ所ニシテ其未タ開墾セラレサル所以ハ民度ノ低キト遊牧民カ耕作ヲ以テ牧畜ノ敵トナシ之ヲ嫌悪スルカ為メニ外ナラス而シテ本地方自然ノ富源トシテ挙クヘキモノハ魚族、水禽、野禽、野獸ノ豊富ナルコト並ニ森林及地下鉱産ノ少ナカラサル事ニシテ要スルニ呼倫貝爾ハ土地曠ク人少ク天産モ亦乏シカラス殖民地トシテ有望ノ一地方タルコトヲ疑ハス

抑モ現時ニ於ケル呼倫貝爾ノ独立カ原ト露国ノ使噉ニ依リテ企テラレ露国軍隊ノ直接間接ノ援助ニ依リテ成立シ而シテ露国ノ局外中立及東清鐵道保護ナル好名目ニ依リテ支那ノ討伐ヲ免レ現状ヲ維持シツ、アルノ事實ハ敢テ贅言ヲ要セサルヘシ然ルニ翻テ独立後ニ於ケル露国ノ呼倫貝爾ニ對スル政策ヲ見ルニ大体ニ於テ頗ル靜穩ニシテ札賚諾爾炭坑担保ノ借款、吉拉林金鉱ノ租借經營、呼倫及貝爾兩湖並ニ該地方ノ河川ニ於ケル漁業權ノ獲得、滿洲里ニ於ケル蒙古定期市場ノ設置、海拉爾領事館ノ新設等ノ事實アリシモ未タ積極的経略ノ歩武ヲ進メサルハ事實ノ証明スル所ニシテ其因テ然ル所以ノモノハ蓋シ巴爾幹及外蒙問題ニ依リテ露国外務省カ其力ヲ極東ニ用フルニ便ナラサル事情アリシト東蒙ニ於ケル露国ノ活動ハ動モスレハ隣強日本ノ東蒙經營ヲ活潑ナラシムル口実ヲ提供スルコトニ想倒セル結果ニ外ナラサルヘシ斯クテ呼倫貝爾独立以來將ニ二年ニ垂ントスルモ露国ノ經營ハ未タ大ニ見ルヘキモノナク而シテ此間蒙古自体ニ於テ何等刮目スヘキ變化ナカリシハ外部ノ刺激ヲ受クルコトナクシテ自発的ニ活動スルコトナキ未開人種ノ状態トシテハ毫モ怪ムヲ用ヒサルナリ唯本年ニ入り外蒙間

題露支兩國間ノ繫争ヲ紛糾セシムルアリ露國ノ教唆及援助アリト信スヘキ蒙古軍外蒙南境ニ出動スルヤ呼倫貝爾モ亦外蒙聯邦ノ一部トシテ活仏ノ命ニ從ヒ現ニ成徳ヲシテ一部ノ兵ヲ率ヒ外蒙軍ヲ援助セシメツ、アリ其他海拉爾ニ於テ一部軍隊ヲ募集ヲ行ヒツ、アル跡アルモ事態ハ未タ大局ニ影響スル所ナシ以上之ヲ既往ニ於ケル呼倫貝爾ノ状態トス然ルニ茲ニ看過スヘカラサル一大事實ノ發生セルアリ他ナシ露支協約ノ締結ニ由リ新ニ生セントスル事件之レナリ本協約ノ内容ハ未タ審ニセスト雖モ外間伝フル所ノ如クンバ喀爾喀四部並ニ科布多地方一帶ハ事實上露國ノ保護領ト化セルモノニシテ其結果現ニ交戰中ナル支蒙兩政府ノ間ハ或ハ露國ノ調停ニ依リテ早晚和解スヘキコト、ナル可キモノニ反シテ協約ノ範圍外ニ擴出セラレ而モ現ニ露國ノ事實上ノ保護ニ依リテ僅ニ獨立ノ名ヲ保テル呼倫貝爾ノ立場ハ今後第二ノ外蒙トシテ露支兩國間將來ノ繫争問題ヲ生セン然リ而シテ極東経略ニ對シテ寸時モ休止スルコトナキ露國カ事實上ノ保護領タル呼倫貝爾ヲ放棄スヘシトハ到底思料シ得サル所ニシテ活仏政府ハ別様ノ見地ヨリ其聯邦ノ一ヲ支那ニ委スルヲ喜ブ管ナク又呼倫貝爾蒙古人カ宗教及人種ノ

關係上活仏政府ノ羈絆ヲ脱シテ支那ニ復歸スルヲ喜ハサルコトハ想察ニ難カラストナス從テ今後ニ於ケル呼倫貝爾ノ問題ハ外蒙同様ノ紛糾ヲ重ヌヘク之カ解決ノ為メニハ現ニ外蒙南境ニ於テ行ハレツ、アルカ如キ手段ノ再演セラレザルヲ保シ難シ然ルニ呼倫貝爾ハ我勢圍ト一部相接スル相隣ノ地理的關係ニ在ルヲ以テ事態此ニ至ラハ我勢圍ハ勢ヒ支蒙兩軍ノ蹂躪スル所トナリ其結果支那軍ノ不利ニ歸センカ我勢圍中ノ蒙古地帯ハ活仏ノ勢力下ニ歸趨シ茲ニ日露兩國間再ヒ困難ナル外交問題ヲ惹起スルニ至ラン吾人カ呼倫貝爾ノ消長盛衰ニ深大ノ注意ヲ払フト共ニ之カ準備對抗ノ策ヲ研究スルノ必要ナルハ実ニ茲ニ存ス本月二日海拉爾發ノ報ニ依レハ總管勝福ハ現ニ海拉爾旧市街居住支那人ノ檢挙ヲ行ヒ浮浪不審ノ人物ヲ悉ク放逐スヘキコトヲ公告シ為メニ同地在留支那人間ニ一大恐慌ヲ來シ數百ノ浮浪者博徒等ハ行李勿々露國鐵道附屬地ニ避難シ旧市街ニハ蒙古人ノ外僅ニ支那商人ノ一部残留スルノミトナレリ而シテ事ノ茲ニ至レルハ十一月二十九日一支那人總管衙門ニ至リテ封書ヲ殘シ去レルカ書面内ニ「近ク支那兵數千海拉爾ヲ襲ヒ勝福ヲ縛シ呼倫貝爾ヲ回復スヘシ」トノ句アリ勝福ノ恐怖ト憤レミヤ」通信員カ最近本社ヨリ内報ヲ受ケタル露國外務省極東課長カザゴーフ氏ノ意見ナリトテ杉野書記生ニ漏告セル所ハ此際參考ニ資スヘキモノ有之様被存候即チ右「カ」氏ノ意見ハ呼倫貝爾ニ関シテハ露國ハ当分現在ノ状態ニ一任シ置クヲ可トス現在ノ儘ニテモ呼倫貝爾ハ事實上露國ノ権域ニ屬シ露國ノ地歩ハ益々鞏固ニ拡充サレツ、アリ外蒙ノ事態カ今猶解決ノ途中ニアルノ際呼倫貝爾ニ對シ形式上ノ解決ヲ取急クカ如キハ策ノ得タルモノニ非スト云フニ有之趣ニ候尚ホ呼倫貝爾地方目下ノ状態ニ関シ前記通信員ノ談話要領ハ左ノ通ニ有之

怒トヲ激成シタル結果ナリト云フ斯カル惡戯カ何人ノ使曠ニ依リテ企画セラレシヤハ暫ク措テ間ハサルモ露國カ此等浮浪支那人ヲ其附屬地内ニ止メ置クヘシトハ固ヨリ信セラレサル所ニシテ其結果ハ呼倫貝爾地境ヨリ多數支那人ヲ放逐スルコトトナリ其代リニ入り來ルヘキハ露國人ヲ措テ他ナカルヘキヲ以テ換言スレハ今回ノ浮浪支那人ノ放逐ハ露國勢力ノ扶植ヲ意味シ上述呼倫貝爾問題發生ノ晝ニ於ケル露國ノ主張ヲ益々鞏固ナラシムルノ結果ヲ生セン

四五二 十二月十七日 在哈爾濱本多總領事ヨリ 牧野外務大臣宛

呼倫貝爾(巴爾喀)ニ對スル露國ノ内意並露

人ノ經營ニ関スル件

機密第五七号 (十二月二十三日接受)

大正二年十二月十七日

在哈爾濱

總領事 本多熊太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

呼倫貝爾獨立ノ現状並ニ之ニ関スル露國ノ意向ニ付テハ既往累次ノ報告ニ依リ御明悉ノ通ニ有之候処「ノーヴォエウ

呼倫貝爾ハ引續キ庫倫政府ノ旨ヲ服膺シ專ラ露國ノ後援ヲ憑恃シテ獨立ヲ持續シツ、アリ從テ呼倫貝爾政府總監ハ一意露人ヲ欲待シ地方一帶ノ利権ノ如キ惜気モナク露人ニ附与シツ、アリ吉拉林金礦ハ夙ニ露人「クラーエフ」ニ貸与セラレ居ルカ右以外ニモ露人ノ採掘權ヲ獲タル金礦十一箇処アリ其他森林伐採、烏爾順河(呼倫湖ト貝爾湖)ノ撈ノ利権モ亦挙テ露人ノ經營ニ歸シ居レリ(與安嶺以西東清鉄ル札蘭諾爾炭坑カ從前ヨリ露國ノ手ニアルハ云フマテモナン)

万留内外ナリシカ独立以後纔カニ二箇年ナラサルニ其ノ額激増シテ今ヤ百万留以上ニ達シ居レリ、蒙古ノ南門タル張家口ハ蒙支間時局ノ為メ閉鎖セラレ該方面ヨリ蒙古ニ対スル外国及支那物産ノ輸入ハ杜絶シ居ルニ反シ蒙古ノ北門タル海拉爾ハ依然トシテ開放セラレ居リ東清鉄道ニ依ル内外貨物ハ海拉爾ヨリ北蒙ノ多倫諾爾ト称セラル、甘珠寺ヲ經テ普ク蒙古ノ内地ニ分布セラレツツアリ殊ニ露国製品ノ販路ハ著シク擴張セラレツツアリ

額爾古納河左岸(後貝加爾側)所在ノ胡索克兵村ハ從前ヨリ右対岸呼倫貝爾ノ地ニ侵入シテ牧草及新材ヲ採取スルヲ常トシ從テ呼倫貝爾独立以前ニ於テハ之カ為メ露支間ノ衝突絶間ナカリシカ同地方独立以來巴爾喀人ト胡索克兵トノ間至極円滑ニシテ兩國ノ境界ハ事実存在セサルト同様ノ現象トナレリ云々

呼倫貝爾現下ノ情勢ハ大要右ノ通ニ有之同地方ノ独立カ露国ニ与フルノ利益ハ經濟上ノ一点ノミヨリ云フモ随分多ナルコト斯ク事実ニ証明セラレ来ルト共ニ呼倫貝爾保持ニ関スル露人ノ意気込益々鞏固ヲ加ヘツ、アリ既ニ「デニソフ」上院議員ノ如キモ露国政府カ今猶呼倫貝爾自主ノ承認

ヲ消費シ尽シタルヲ以テ今後蒙古内部ノ組織ト改善トニ要スル丈ノ資金ハ之ヲ供給セサルヘカラス尤モ将来一切ノ借款ハ嚴重ノヲ戦闘ニ供用セシメサルヘシ蒙古兵ハ今ヤ露国ノ切ナル忠告ノ下ニ之ヲ総テ蒙古国境ニ引揚ケ内蒙古ニハ最早一兵モナキ筈ナリ若シ今後尚支那兵ト戦闘スルモノアリトスレハ土人ニ外ナラサルヘシ又第二第三ハ從來必要ニ応シ之ヲ供給スヘシト云ヘリ

四五四 十二月二十六日 在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛

在露蒙古使節ノ内外蒙古合併ノ熱望及之ニ対スル日露ノ態度ニ付露国外務当局者ノ談話ニ関スル件

機密往第三六号 (大正三年一月十三日接受)

在露

臨時代理大使 田 付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

目下当地ニ滞在中ナル蒙古使節ハ当国外務省ニ対シ頗ル不平ヲ抱キ居ル由ハ当地諸新聞ニ同使節一員ノ言トシテ現レ

ヲ与ヘサルコトヲ攻撃シツ、アル様ノ次第二有之(別信機密第 五六号参照)旁以テ露国カ黒竜江省ノ一部トシテ該地方ノ支那ニ復帰ヲ許容スルカ如キハ他ニ一層急切又ハ重大ノ關係アル政略上ノ必要ニ遭遇セサル限り先以テ想像シ得ラレサル所ニ有之現下同政府ノ採リツ、アル消極的態度ハ全ク「カザコフ」氏内話ノ通り政策上ノ打算ニ出テタル一時ノ権略ニ外ナラサルコト殆ト寸疑ノ余地ナシト思考致候最近ノ機密拙報ニ關聯シ右御参考ノ一端マテ茲ニ及報告候 敬具

本信亨送付先 山座駐支公使、落合奉天総領事、吉原齊々哈爾事務代理、福島関東都督

四五三 十二月十八日 在露国田付臨時代理大使ヨリ 牧野外務大臣宛(電報)

蒙古使節ノ對露要請ニ関スル措置ニ付露国外

務省極東課長談話ノ件

第三一五号

往電第三〇九号末段ニ関シ「コザコフ」ニ尋ヌル所アリタルニ同氏ハ第一蒙古借款ニ関シテハ其金額ト条件ハ明言セサルモ借款ハ之ヲ否定セサルノミナラス在来ノ借款ハ露国ノ累次警告ニ拘ラス蒙古カ支那トノ戦闘ニ於テ既ニ全ク之

タルノミナラス当地大阪毎日新聞通信員布施ニ対シテ同使節ノ親シク公言セル所ニ有之候処本件ニ関シ外務当局者ノ本官ニ語ル所ニ依レハ右ハ同使節カ内外蒙古ノ合併ヲ熱望シ之カ確認方ヲ露国政府ニ迫ルト雖同政府ハ日本ノ希望ニ顧ミ今日迄断然之ヲ拒絕シ来リタルニ基ク由ニ有之候然ル処児玉某(南滿鐵道会社員ナリト云フ)ナルモノ曩ニ庫倫ニ至リ蒙古当路者ト会谈シ其会谈要領ナルモノ内密ニ当国外務当局者ノ入手スル所ト為リ之ニ抛ルトキハ児玉某ハ日本ハ飽迄蒙古ト親密ノ關係ヲ結ヒ度希望ヲ有スルモノナルカ如キ事ヲ述ヘ鐵道ノ「コンセツション」ヲ得ンコトヲ力メタルヤニテ之カ為大ニ蒙古当路者ノ心ヲ動カシ露国ニシテ内外蒙古合併ニ関スル蒙古ノ希望ヲ容レサルニ於テハ日蒙直接ニ折衝シテ内蒙古処分ヲ決スルニ如カスト為シ遂ニ今回日本 皇帝陛下ニ宛テタル日本使節庫倫簡派請求ニ関スル活仏ノ親束ヲ日本政府ニ傳達方露国政府ニ依頼シ同政府ハ已ムヲ得ス右親束ト同時ニ前記児玉某ノ会谈要領ヲ本便ヲ以テ在東京露国大使ニ送付シ日本政府ニ傳達方ヲ訓令セル由ニ有之候

右ニ就キ露国当局者ハ尚附言シテ今日迄内外蒙古合併ノ提

議ニ對シ露國カ断然之ニ反對シ来リタルハ露國ノ為ヨリモ寧ロ日本政府ノ希望ニ副フ為ニ外ナラサリシ次第ナルカ前記児玉某ノ所言ハ(児玉某ノ位置資格等ニハ頓著ナク又精査スルコトモセス)深ク蒙古当路者ノ心ニ確信ヲ与ヘンヤ露國ハ板挾ミノ姿ト為リ反テ蒙古ノ反感ヲ買フニ至リタリ日本政府ハ無論蒙古ノ提議ニ応諾セラルルコトハナカルヘシト雖来ルヘキ蒙古境界劃定会議ニ於テハ蒙古ヨリハ劈頭第一ニ本問題ヲ提議スヘキハ明白ニシテ露國ハ之ニ對シ今ヨリ苦慮シ居ル次第ナリト述ヘ候ニ付本官ハ之ニ對シ支那モ素ヨリ内外蒙古合併ニ付テハ反對ナルヘキニ付露支相一致シテ蒙古ニ當ラハ可ナラスヤト申候処左スレハ支蒙ノ感情ハ益乖離シ蒙古ハ兵力ヲ以テ内蒙古併有ノ実ヲ挙ケントシ少クトモ内外蒙古境上永ク平和ヲ保ツコト能ハサルヘク是支那政府ノ最モ苦痛トスル処ナルヘシト云ヒ居候之ヲ要スルニ児玉某ノ行動ハ痛ク露國政府ノ不快ヲ招キタルカ如ク一方國境問題ニ關シ露國ハ日支兩國ニ對スル關係上頗ル苦心シツアル如クニ相見エ遂ニ前記書柬ノ取次スラ之ヲ余儀ナクセラルルニ至リタルモノノ如クニ被察候尚布施カ蒙古使節トノ累次会谈ヨリ得タル感想トシテ語ル

大正二年十二月二十六日

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

庫倫政府總理大臣三音諾顏汗ノ一行過般來当地滞在ノ件ニ關シテハ去ル十二月十五日附公第二〇四号拙信ヲ以テ及報告置候次第有之候処去ル十二月二十二日ニ至リ同大臣ノ隨員当館ヲ訪問シ書記官ニ面会ノ上日本大使ニ對スル同大臣ノ敬意ヲ伝達シ且ツ日本大使宛同大臣ノ書翰並ニ其仏訳文ヲ手交シタル後引取候右書翰原文及ビ其訳文別紙ヲ以テ及御送附候間委細ハ右ニ就キ御承知相成度猶ホ当地外國大使館ニ對シテモ同總理大臣ヨリ右ト同文ノ通告ヲ為シタル趣ニ有之候此段報告申進候 敬具

註 添附ノ蒙古語書翰ヲ省略ス

(附風書)

蒙古總理大臣ヨリ在露國日本大使宛書翰仏訳文

蒙古ノ独立及其ノ露支兩國トノ關係通告ノ件

Traduction.

A Son Excellence

一五 露蒙協約關係一件 四五五

所ニ依レハ蒙古ハ今ヤ露國ニ飽キテ日本ニ頼ラントスルカ如キ觀アルモ使節ノ言動頗ル稚氣ヲ帶ヒ居リテ余リ真面目ニ大事ヲ語ルニ足ラサルカ如クニ相見エ候由ニ有之尚使節中烏泰王ノ如キハ洮南府鐵道敷地中ニハ同人ノ私有地アリテ支那カ蒙古ニ計ルコトナク猥リニ右敷設權ヲ日本ニ与ヘタルハ不当ナリト憤慨シ居ル由ニ有之候尤モ鐵道敷設ノコトハ蒙古開發上最モ必要ナリトシテ之ヲ認メ日本ニシテ蒙古ヲ援ケ與ルレハ喜ヒテ日本ニ鐵道ノ「コンセッション」ヲ与ヘ之カ開發ニ任セシムヘキモ支那カ関与スルコトハ全然之ヲ許容スルヲ得スト云ヒ居ル由ニ有之候

右御參考迄申進候 敬具

註 欄外ニ外務省係官ニ依ル左ノ書入アリ

「児玉ノ件ニ付テハ露國大使ノ來話セルコトアリ」

四五五 十二月二十六日

在露國田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

蒙古ノ独立及其ノ露支兩國トノ關係ヲ通告セ

ル蒙古總理大臣ノ書翰転送ノ件

附風書 在露國日本大使宛蒙古總理大臣書翰仏訳文

公第二二二号

(大正三年一月十三日接受)

Monsieur l'Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire de Sa Majesté l'Empereur du Japon.

Par la volonté de mon MAÎTRE, le Souverain de Mongolie, et de SON Gouvernement, je suis chargé, Monsieur l'Ambassadeur, de Vous faire part, à titre de renseignement, de ce qui suit.

Au moment de la chute de la dynastie Mandchoue à laquelle elle était liée par un pacte spéciale, la Mongolie, à l'effet de sauvegarder son unité et son indépendance nationales et l'intégrité de son territoire, se déclara état indépendant et souverain. Comme tel, elle a été reconnue par l'Empire limitrophe de Russie, qui a conclu avec elle à Ourga le 21 Octobre v.s. 1912 une convention politique et un protocole de commerce et maintenant Russie a signé à Pékin le 23 Octobre (5 Novembre) 1913 une déclaration et un échange des notes concernant la Mongolie eut lieu entre les Gouvernements Russe et Chinois.

Après avoir examiné la déclaration et les notes susmentionnées, le Gouvernement Mongol fit part au Gouvernement Impérial de Russie et au Gouvernement de la République Chinoise de sa manière de voir par rapport de ces documents.

Le Gouvernement Mongol a pu constater avec la plus vive satisfaction que lesdits documents comportaient la sanction de la part de l'Empire de Russie et de la République Chinoise de l'indépendance de l'état Mongol, auquel était garantie pleine liberté dans toutes les affaires touchant à l'administration intérieure, au commerce, à l'industrie, aux lignes de chemin de fer et de télégraphe, et dans toutes les questions financières et économiques avec toutes les conséquences résultant de cet état de choses ainsi qu'une parfaite liberté de traiter amicalement avec d'autres états souverains. L'engagement formel pris par les Gouvernements de Russie et de Chine de ne point intervenir dans les affaires intérieures de la Mongolie, de ne point envoyer ni maintenir en Mongolie aucune force militaire, ni aucun agent administratif, de ne point recourir à la colonisation par leurs sujets du territoire de la Mongolie, constitue au point de vue du Gouvernement Mongol, une garantie sûre de l'indépendance de l'État Mongol.

Néanmoins le Gouvernement de Mongolie a cru de son devoir de rappeler aux Gouvernements de l'Empire de Russie et de la République Chinoise qu'il a toujours maintenu et maintient encore que la Mongolie a rompu l'invitation au Gouvernement Chinois d'avoir à retirer ses troupes qui ont envahi le territoire de la Mongolie Intérieure dont la population est intimement liée avec nous par affinités de race.

Vous voudrez bien, Monsieur l'Ambassadeur, faire part à Votre Gouvernement du contenu de ce mémoire et agréer l'assurance de ma haute considération.

Chargé de mission extraordinaire Président du Conseil des Ministres de Mongolie Sain-Noin-Khan Nannan-Souroun.

St. Pétersbourg, le jour du mois moyen d'hiver de la III-ème année de l'ère "Olana ergougdeksen" (Elu par tous).

四五六 十二月二十七日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
牧野外務大臣宛

露国政府蒙古ニ対スル第二次借款引受決定ノ  
件

機密第三七号

(大正三年一月十三日接受)

大正二年十二月二十七日

在露

臨時代理大使 田 付 七 太(印)

définitivement tous liens avec la Chine et qu'aucun droit de suzeraineté ne peut être reconnu à personne sur la Mongolie sans son approbation. En conséquence le Gouvernement Mongol se réserve une parfaite liberté d'appréciation touchant certains points de la déclaration et des notes diplomatiques ayant trait aux relations entre la Chine et la Mongolie. En particulier la Mongolie affirme son droit d'annexer les territoires qui ont toujours fait corps avec elle et à une telle délimitation de ses frontières qui comprendrait toutes les peuplades de race Mongol qui ont déjà adhéré à l'État Mongol. Sous ces réserves le Gouvernement de Mongolie se déclare prêt à prendre part aux pourparlers entre la Russie, la Chine et la Mongolie, prévus par la déclaration et les notes susindiquées.

De plus le Gouvernement de Mongolie, désireux de rétablir le plus tôt possible la bonne entente entre la Mongolie et les états limitrophes, a donné ordre à ses troupes de suspendre les opérations militaires contre les troupes chinoises et d'évacuer les positions avancées qu'elles occupaient et il a adressé en même temps, par l'intermédiaire du Ministre des Affaires Étrangères de Russie et du Ministre de Chine à St. Pétersbourg,

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

当地滞在中ノ蒙古使節ニ音諾顔汗ヨリ露国政府ニ申込シタル第一次借款ノ義ニ関シテハ是迄同使節ニ関スル報告中申進メ置タル次第モ有之候処其後当地諸新聞ノ記載スル処ニ拠レハ今次蒙古ノ起債額ハ二百万留ニシテ露国首相コフシヨフ氏ハ熱心ニ蒙古使節ノ希望ヲ支持シ居レハ近日借款締結ノ運ヲ可相成而シテ該金額ハ若干期間ニ於テ数回ニ分チテ之ヲ貸シ重要ナル政務ノ改革費ニ充テラルヘキモノニシテ其細目等ニ関シテハ在庫倫露国外交事務官シルレル氏ト蒙古政府トノ間ニ取極メラルヘシトノコトニ有之候尚本件ニ関シ本官カ外務当局ヨリ聴ク所ニ拠レハ該借款(当局ハ其金額ヲ明言セス)ハ露国ニ於テ弥々之ヲ引受クルコトノナリタルモ第一次借款ノ成行ニ鑑ミ露国政府ヨリハ之ニ対シ特ニ財政監督官ヲ庫倫ニ駐派シ其使途ニ就キ敵ニ監督ヲ加ヘ重要ナル政費支弁ノ外蒙支間ノ戦費ニハ決シテ之ヲ使用セシメス且一切浪費ノ取締ヲ為サシムヘキ筈ナリトノコトニ有之候

右御参考迄報告申進候 敬具



四五七 十二月二十八日

在露国田付臨時代理大使ヨリ  
小池政務局長宛

内外蒙古併合問題ニ対スル露国ノ態度ニ関ス

ル件

大正二年十二月廿八日 (大正三年一月十三日接受)

在露

臨時代理大使 田付 七 太(印)

政務局長 小池張造殿

拜啓時下益々御清祥之段奉賀候陳者先便機密往第三六号ヲ以テ目下当地滞在中ノ蒙古使節並ニ活仏親東ニ関スル件ニ付大臣宛報告致置候次第有之候処右機密信中内外蒙古併合ニ関スル当国外務当局者談話事項ニ就テハ報告ヲ取急キ候為多少意ヲ尽ササリシ所有之候様被存候間老兄御含迄聊説明相加へ度ト存候

露国カ内外蒙古併合ノ提議ニ関シ板挟ミノ姿ト相成リ居ルハ外務当局者ノ云フ如クナリト雖露国ハ将来ニ於テモ右ノ提議ヲ支持スヘシトハ信セラレス候但シ此際日本ガ断然内  
外蒙古併合ニ反対ノ態度ヲ明示セラルルハ露国亦之ニ依リ大ニ便宜ヲ得ヘシト云フ迄ノ事カト被存候乍併斯クシテハ

流用スルコトヲ許ササルヘシト明言致居候

若又内外蒙古併合行ハレムカ支那ハ極力之ヲ争フヘシ其ノ際露国ハ蒙古ヲ援ケムカ支那ノ驩心ヲ失フヘク支那ニ与ミセムカ蒙古ノ怨恨ヲ買フヘシ殊ニ蒙古人一般ニ兵器ヲ供給セムコトハ蒙古治安上ニモ露国ノ最危険視スル所ニ有之候右ノ事情ニ基キ露国ハ蒙古ニ於ケル現状維持ハ之ヲ力ムル所ナルヘク況シテ日露協約ノ精神ヲ無視シテ日本ノ反感ヲ買フ如キハ特ニ之ヲ避クヘシト被存候

右得貴意候 敬具

二伸 露国北清撤兵ト云ヒ又其ノ对蒙振ト云ヒ兎角支那ノ驩心ヲ得ムコトニ汲々タルカ如キハ大ニ注目ヲ要シ或ハ北滿ニ於ケル鉄道ノ「コンセツション」ニテモ目的トスルモノニアラスヤトモ疑ハレ且本年八月二十一日大臣来電第一三八号ノ次第モ有之候ニ付夫レトナク或序ヲ以テ「コザコフ」氏ニ対シ北滿ニ於ケル何等鉄道ノ「コンセツション」問題等ナカリシヤヲ尋ネタルニ同氏ハ愛璽鉄道ノ件ハ日露戦争前露支兩國間交渉アリタリト聞キシモ其ノ後其ノ儘ト為リ居レリ呼蘭綏化線ニ関シテハ本年八月頃「下、ホアイエー」氏婦露ノ際一寸聞キタル所ニ

却テ他ヲシテ内蒙古ニ対スル日本ノ真意ヲ明ニ疑ハシムルニ至ルヘキヤモ計ラレスシテ不得策トモ被存候尤モ来ルヘキ露蒙支三国代表者會議ニ於テ支那ハ断然右併合ニ反対スヘキハ明白ノコト、存候

内外蒙古併合成ラサレハ外務当局者ノ云ヘル如ク果シテ蒙支ノ間常ニ干戈絶エサルヘキカ甚疑ナキ能ハサル所ニ有之候支那カ久シク蒙古ト干戈ヲ交フルハ支那ノ苦痛トスル所ナリ現ニ外務当局者ノ話ニ依ルニ蒙古ニ関スル露支宣言ノ急速調印ヲ見ルニ至リタルハ内蒙古ニ於ケル蒙支兩軍ノ交戦ヲ速ニ終熄セシメムトスル支那ノ熱望ニ基キタルモノニシテ右宣言調印ノ結果露国ハ切ニ蒙古ニ説ク所アリ之カ為蒙古モ遂ニ其ノ軍ヲ国境内ニ引揚クルコトニ同意シタルモ不幸ニシテ其ノ際支那軍カ内蒙古ニ於テ再蒙人虐殺ヲ行ヒシカハ更ニ蒙古兵ノ激怒ヲ招キ今ニ至ルマテ引揚ヲ実行シ得スト云ヘリ一方ニ於テ露国ハ目下事毎ニ支那ノ驩心ヲ得ムト力メツツアル事態ニ鑑ミルトキハ露国カ兵器彈藥ヲ十分蒙古ニ供給シ支那ヲシテ益々窮地ニ陥ラシムルカ如キ策ニ出ツヘキヤ疑シキ次第ニ有之候現ニ新ニ成立シタル三百留借款ノ使途ニ関シ嚴重ノ監督ヲ附シ一錢タリトモ戦費ニ

依レハ同線路敷設權ヲ獲得シ居ル支那「シンヂケート」

ヨリ露重銀行ニ相談シタルコトアルモ成功セサリシ由ナルカ爾来何等聞ク所ナシ尤モ当事者間ニハ或ハ引續キ協議ヲ重ネツ、アルヤ否ヤハ之ヲ審ニセスト雖露国政府ハ毫モ関知スル所ナシ元来大藏大臣「ココフツォフ」氏ハ不急ノ鉄道ニ資本ヲ注入スルコトニハ絶対ニ反対ニシテ目下ノ処同大臣カ資金ノ供給ヲ認可セシハ南部西比利鉄道(大正二年三月露国月報第七卷第三号第一五頁参照)

ニシテ其ノ他西比利中央亞細亞開発上必要ノ鉄道工事費トシテ尠クトモ五億留ノ資金ヲ要シ之カ為糞ニ「ココフツォフ」氏カ自ラ巴里ニ赴キ交渉シタルモ僅ニ五億法ノミノ借款ヲ約スルコトヲ得タル事態ニ鑑ミ北滿鉄道ノ如キハ到底大藏大臣ノ承諾ヲ得ルコト難カルヘシト答へ候乍併夫ノ洮南府鉄道ノ如キハ我外交ノ成功トシテ大ニ当国外務当局者ニ刺激ヲ与ヘタル様ニ被存候間頗ル注意ヲ要スルコトト被存候

右大臣マテ報告スヘキ程ノコトニテモ無之様存シ単ニ老兄ノ御參考迄ニ申添候也